

# 下淵名塚越遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

（第二分冊）

遺物観察表編

1991

建設省  
群馬県教育委員会  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



資料	埋藏文化財 事業団保管	01-330
		17-2
No. 3-163	平成 3 年 6 月 14 日	(5)



SIMO HUTI NA TUKA GOSI  
下淵名塚越遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

（第二分冊）

遺物観察表編

1991

建設省  
群馬県教育委員会  
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 凡 例

1 出土遺物の個別の特徴については、この項において一括して記載する。遺物は出土した遺構ごとを原則に、本文と同じ番号で統一した。表にはスペースの都合で略語や慣用語を多く使用している。

2 器種は器形と土器種類を併せて記し、以下の略号を用いた。

(S) 須恵器 (H) 土師器 (K) 灰釉陶器 (R) 緑釉陶器 (Y) 弥生式土器

また金属製品や石製品についても、製品名を記した。

3 出土状態や遺跡での検出状態と整理作業での復元状況を記した。なお、復元状況での分数表示を行う場合は、分母を8までとし、1/8以下のものは小破片と記した。

4 計測値はセンチメートルを単位とし、ミリメートルまで実際に遺物を計測した値を記した。そのため、実測図とは必ずしも数値は一致していない。計測は外径を測り、垂みの大きな遺物は最大値と最小値を～を使って併記した。図上復元の数値には( )を付した。計測部位の表示に以下の記号を使用した。

「口」口縁部径 「頸」頸部径 「胴」胴部径 「脚上」および「脚下」脚部の上端と下端の径

「台」高台の下端径 「鈕」蓋の鈕部径 「鉤」羽釜の鉤部径 「高」器高 「径」土錘等の最大径

「長」土錘等の長さ 「不安」計測値等で疑わしいもの

5 成・整形技法と器形の特徴

ロクロ(回転台などの総称)使用の土器は、「回転の方向」→「切り離しの手法」→「切り離し後の調整」の順で製作技法を記した。切り離し後にロクロを使用して調整を加えたものは、本遺跡での検出例は総て成形段階と同じであるため、その回転方向は省略している。また、「回糸」は回転糸切り離し、「回ヘラ」は回転ヘラ切り離しの略語である。また、回転痕跡の表現に、指や工具により生じた段を「ロクロ痕」、回転により生じた擦痕を「横ナデ」として区別して使用した。

ヘラ削りについては、粘土をそぎ落とすようにしたものを「強い」、なま乾き状態で擦痕の目立つものを「弱い」と表現した。

6 備考は「①胎土②焼成③色調④その他」の順で記した。

①胎土は素地と混入鉱物に分けた。素地についてはその粗密を記した。混入鉱物は肉眼観察によるものである。そのため輝石としたものの中には角閃石等が含まれる。赤褐色鉱物・黒色鉱物としたものは、いずれも鉄を主成分にすると思われるものである。砂粒については農学会の表記を使用し、以下のとおりである。

細砂→0.2mm以下 粗砂→0.2~2mm 細礫→2mm以上

なお、石製品・金属製品の場合、材質の特徴についてここで扱った。

②焼成については、その種類と状態を記した。種類は酸化焰と還元焰の他に、平安時代末期以降に現れる中間的なものを中性焰とした。状態については硬調と軟調に分けた。

③色調については、『新版標準土色帖』(日本色研事業株式会社発行)を使用した。二次的火熱による変色や、付着物の影響のない部分のうち、特徴的な場所を選んだ。なお、『土色帖』の色名を使用した場合は必ず記号を併記し、「黄色味をおびている」というような傾向の記載とは区別している。

④その他については、土器は「二次的火熱」や「凍てハゼ」、「墨書」などの焼成以後に加わった特徴を記載した。ただし、陶磁器類や瓦などについては、類推される生産地と使門の痕跡をこの項に記した。

7 観察表の執筆は、主に飯田陽一があたり、大木紳一郎、大西雅広、新倉明彦、木津博明がこれを補佐した。





## 目 次 (第二分冊 遺物観察表編)

### 凡 例

1	竪穴住居跡出土遺物	1
2	掘立柱建物跡出土遺物	96
3	古墳出土遺物と埴輪	98
4	土器集積跡出土遺物	113
5	中世館跡出土遺物	118
6	道路跡出土遺物	138
7	溝出土遺物	139
8	方形竪穴遺構出土遺物	157
9	井戸跡出土遺物	158
10	土坑出土遺物	170
11	遺構外出土遺物	177
(1)	弥生式土器	177
(2)	外来系土器 (古墳時代初頭)	187
(3)	瓦	190
(4)	古墳時代～平安時代の遺物	192
(5)	中世～近世の遺物	193
(6)	古 銭	196



## 1 竪穴住居跡出土遺物

## I区 1号住居跡(第9図 PL.63)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①粘土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(S)	紐 2.9	埋土 紐はほぼ完存 天井部写	右回転ロクロー切離し不明→天井部回へう。紐は端部尖る。横ナゲ弱く内面平滑。	①素地やや緻密。砂粒・黒色鉱物粒含む。白色針状物やや目立つ。②還元焰、やや硬調。③青灰5BG6/1、一様。
2 杯(S)	口(13.2) 底(9.4) 高 3.4	埋土 図示部写	右回転ロクロー切離し・調整不明。横ナゲ弱い。	①砂粒やや多いが他の夾雑物まれ。②還元焰、硬調で旋廻り。③青灰5B6/1、外面暗青灰5B3/1基調。④外面の硬化著しく、室内で焼合使用の可能性。
3 杯(H)	口(13.4) 高 3.2	埋土 口縁写 底部写	外底の削りは強く、器面に凹凸ができ口縁下部は無調整。ナゲは丁寧だが、器面の凹凸残る。	①素地は緻密。砂粒・赤褐色鉱物物を若干含む。②還元焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3の中に、色調一様でない。内面灰黒色味が強い。

## I区 2号住居跡(第10図 PL.63)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①粘土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀(H)	口 11.5 高 6.3	北溝下10cm 体部写欠く	外底に強く鋭な削り。内面は板状の工具の強いナゲで、内底平滑さ欠く。	①粒子緻密、ダスト状。砂粒若干含む。②酸化焰、普通。③内面橙2.5YR6/6、外面暗く下半黒褐色。④やや緻密で二次火熱を受けた可能性。
2 椀(H)	口(12.0) 高 6.6	カマド内 体部写欠く	1とほぼ同巧。口縁部の屈曲はやや弱い。	①②1に同じ。③橙5YR6/6基調だが色相・彩度とも一様でない。④口縁の歪みやや大きい。
3 鉢(H)	口(14.0)	埋土 図示部写	輪積みか。外面削りきわめて弱く器面平滑。内面指頭状の横位ナゲで細かな凹凸残すが平滑。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物のまじる粗砂若干含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3、断面黒褐色。
4 高杯(H)	口 18.1~19.0 脚上 4.0	カマド内床直上 脚部写欠く	器面の荒れのため整形痕不切際。内底縁部に接合痕とへら状工具の強いナゲ痕が残っている。	①素地緻密、ややダスト状。砂粒・赤褐色鉱物散見。②硬調の酸化焰。③橙2.5YR6/6基調だが、色相・彩度とも一様でない。④二次火熱受ける。内底部若干摩滅。
5 壺(H)	口 16.7 頸 14.4 胴(21.6)	カマド東脇床直上 8cm 図示部写	内面に巻上げ状の接合痕あり。外面のハケ目は弱く不明瞭。内面のナゲは縦で器面の凹凸強い。	①ボソボソしてやや粗い。不揃いの粗砂含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3、黒色部分広く一様でない。④二次火熱受け外面刺落遺む。
6 壺(H)	口(23.0) 頸(19.6) 胴(24.6) 底(6.6) 高 21.6	カマド内床直上 8cm 図示部写	内面接合痕は輪積状に残る。内面は上半のみナゲで仕上げられるが、下半は器面凹凸。外面の削り不明瞭。器面凹凸。	①砂粒多く粗障も目立つ。粗い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3、外面大半黒褐色。④二次火熱受ける。胴最大径以下にスス付着。

## I区 3号住居跡(第11図 PL.63)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①粘土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 10.4 底 5.1 高 2.6	東壁直下床直上 6cm 写倒体	右回転ロクロー→回承。外面口縁下半は削りか。器面は型磨状で砂粒の巻き少ない。糸切痕も不規則。内面ナゲも不整な磨痕が残っている。	①素地やや粗く、パミス・輝石の目立つ砂粒の夾雑多い。②中性焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3でほぼ一様。

遺物観察表編

2 罫 (H)	口 21.2 頸 18.0~18.6	南東壁際 口縁外 肩部分	口縁の形状一定せず、外縁に部分的に沈様が通り、「く」の字に屈曲する。内面は平滑。外面脛りは強く細かい。	①砂粒多くゼラゼラする。②酸化焰、普通。③にぶい燈2.5YR6/4基調。外面に黒斑。内面やや灰色味をおびる。
3 罫 (H)	口 21.1 頸 18.3	南東壁際床直上 顯示部分	器面荒れてナデの痕は不明瞭。外面脛りは細かく、何度もくり返している。内面も平滑さ欠く。	①②2にほぼ同じ。③にぶい燈5YR6/4基調。外面に黄色味・黒色味のムラあり。
4 土罐	長 3.6 厚 1.0 重 3.0g	埋土 完形	外面に成形痕観察できず。外形に歪みがあるが、孔はほぼ直線だが一端で小さく曲がる。	①素地緻密で、輝石まじりの細砂を少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐色5YR4/3。明度の低いムラも広い。

I 区 4号住居跡 (第12図 PL.63)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	口(17.0)	埋土 顯示部分	右回転クロー。砂粒の動き少ない。	①素地は緻密だが、粗砂・3mm大のバミスなど、夾雑物多い。②還元焰、普通。③青灰5BG6/1で一様。
2 罫 (H)	口(20.0) 頸(17.8) 胴(20.4)	中央床直 顯示部分	口縁外周のみ接合痕残る。内面全体に指頭痕状の細かな凹凸多い。	①粗砂多くゼラゼラする。バミス・赤褐色鉱物散見。②酸化焰、やや軟調。③燈2.5YR6/6部分が多いが、灰色味・黄色味強い部分などまちまち。
3 罫 (H)	口(17.0) 頸(14.0)	埋土 顯示部分	外面斜位の脛りは部分的にハケ目状を呈している。内面のナデは縦で器面は不整。	①素地やや緻密だが、細砂の混入やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐色10YR6/4基調だが、黒色味おびる部分広い。内面は黒褐色。
4 土罐	長 3.1 厚 0.9 重1.6g	埋土 欠削体	断面に接合痕あり。外面に成形痕観察できず。内面平滑。	①素地やや緻密で、細砂以外の夾雑物まれ。②酸化焰、普通。③燈2.5YR6/6。ほぼ一様。

II 区 1号住居跡 (第15図 PL.63)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿 (S)	口 15.5 底 6.6 高 2.8	南壁直下床直上 完形	右回転クロー→回糸無調整。横ナデは弱いが、口縁内側以外の器面の平滑さ欠く。口縁に弱い波状の歪み。	①やや粗い。片岩質の細砂やチャート散見。②還元焰、やや硬調。③青灰5BG5/1。器部内外面に重焼き痕がセピア色を呈している。
2 椀	口 14.5 底 6.3 高 5.6	南壁下床直上 口縁部欠く	右回転クロー→回糸→ロク使用高台取付け。横ナデは開閉狭く、砂粒の移動少ない。高台には棒状の圧痕による凹凸著しい。	①やや粗く器面がゼラゼラしている。輝石・細砂等を散見。②不十分な還元焰。やや軟調。③灰白5Y7/2。大部分は吸灰たいていて黒褐色を呈している。④器部外面に墨書「支」あり。
3 杯	口 13.0 底 6.5 高 3.8	北東隅床直下 ほぼ完形	右回転クロー→回糸無調整。内面にロク痕なし。器面は細かな凹凸多く不整。	①素地やや粗く、細砂等の混入物多く器面がサガサガ。②中性焰、普通。③にぶい黄褐色10YR7/3。赤色味の強いムラあり。重焼き状の黒斑内外面にあり。④外面に不明瞭な墨書「土」あり。
4 杯 (S)	口 13.4 底 6.5 高 4.3	中央床直上 体部上半欠く	右回転クロー→回糸無調整。横ナデは細かく、内底は布で拭く。器面は不整の細かな凹凸あり。	①粗くゼラゼラしている。片岩質の細砂や目立つ。②やや不十分な還元焰。③灰白5Y7/1。内面と一部外面は吸灰し黒褐色。④外底に墨書「土」。
5 杯	口 12.6 底 5.6 高 4.4	北東隅床下 口縁上半欠く	右回転クロー→回糸無調整。外面接合痕状のヒビあり。内面は口縁で同心円状。底部一方の丁寧な磨き。	①素地普通。赤褐色鉱物目立つ砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい燈7.5YR7/3で、ムラ多い。内面黒色処理だが光沢欠く。④内面ターレット状の付着物あり。外面に墨書「星」あり。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

6 台付壺 (H)	口(10.8) 頸(10.2) 台上 4.1	カマド内5片 図示部写	外面は細かな削り。台部直上に取付時の強いナデ。内面はヘラ状工具のナデで平滑に仕上げる。	①素地緻密。輝石まじりの砂粒夾雑。②酸化焰、軟調。③にぶい橙5YR6/4。黒褐色部分広く、一様でない。④二次加熱を破損後に受けている。
7 甕 (H)	口(21.6) 頸(20.8)	北東側床直上 口縁写 頸部写	外面削り強く、砂粒の動き多い。内面ナデは一部ハケ目状。接合痕が深いヒビ状になって残っている。	①素地やや粗い。砂粒多く、土粒を散見する。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐色2.5YR4/4基調。全体に暗いが一様でない。

## II区 2号住居跡(第17図 PL.64)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 12.8 高 3.4	南壁下床直上3片 口縁写欠く	外底の削りやや強く、器面に小さな凹凸あり。内面同心円状・中央部分で一方のナデで平滑に仕上げる。	①素地やや緻密。輝石・バミスマじりの粗砂やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4でほぼ一様。
2 杯 (H)	口 15.4 高 3.1	南壁寄床直上 写個体	外面削り強く鋭い。内面ナデは器面を覆らして磨し、強い布状具の磨痕が残っている。底部に不規則な凹凸あり。	①素地普通だが、赤褐色鉱物や3mm大の土粒等夾雑物目立つ。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4基調。内面中心に黄色味、黒色味のムラ多い。
3 甕 (H)	口(25.0) 頸(23.0)	南壁下床直上8cm 5片 図示部写	外面削りは鋭く、砂粒の動き多い。内面ヘラ状工具のナデで平滑さ欠く。頸部外面に指頭痕状の小さな凹みあり。	①素地やや粗く、石英まじりの粗砂混入。②酸化焰、更煩としては硬調。③橙5YR7/6基調。内面黄色味、外面黒色味のムラあり。

## II区 3号住居跡(第18図 PL.64)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	口(17.6)	埋土 図示部写	右面転クロロー天井部回へう。内面は磨れた状態での横ナデ。	①やや緻密。粗砂多い。②還元焰、普通。③青灰5BG6/1でほぼ一様。内面更に明度高い。
2 杯 (H)	口 15.1 高 4.7	カマド右袖端床 上5cm 口縁部欠く 写	外面削りは強く息長く、器面に凹凸ができる。内面は丁寧なナデで平滑。口縁に小さな波状の歪みあり。	①輝石・バミスマじりの粗砂やや多い。普通。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/3。外面一部黒斑あり。赤色味をおびる部分もある。

## II区 4号住居跡(第19図 PL.64)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(15.4)	カマド周辺埋土 15片 図示部写	外面削りは乾燥の遅んだ状態で磨す。ナデは丁寧で平滑に仕上げる。口縁に小さな波状の歪みあり。	①素地は普通。輝石・バミスマじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐色5YR5/4。内面やや黄色味をおびる。
2 甕 (H)	口(15.0) 頸(13.2)	カマド付近埋土 2片 図示部写	口縁部は内外面とも丁寧な横位ナデ。内面は平滑に仕上げる。	①素地緻密で夾雑物も少ない。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。赤色味をおびる部分も広い。
3 甕 (H)	口(23.0) 頸(18.2)	カマド周辺7片 図示部写	磨減して不明瞭だが、強い削りの痕が頸部段差になって残る。	①ローム土。砂粒等多く、やや粗い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。黒色・灰色のムラ多く一様でない。
4 壺 (H)	口(12.8) 頸(9.8)	埋土 図示部写	外面粗いハケ目。内面は細かな削り。やや雑な造りで器面に平滑さ欠く。	①やや粗く、粗砂の混入多い。②酸化焰、普通。③灰白2.5Y7/2基調。赤色味のムラ多い。内面黒褐色。

遺物観察表編

5 台付礎 (H)	口(11.2) 台上 4.3 台下 8.2~8.6 高 15.6	床面縁辺 体部与欠く	台部を土台に体部を接合する。体部・台部とも内面は指頭状の弱く規則的なナダ、外面幅広の弱いへう磨きが部分的に観察できる。	①粗面。バミス状の夾雑物多く表面もボソボソしている。②酸化焰、軟調でしり欠く。③にふい桶7.5YR5/4~黒地5YR3/1。色相・明度とも一様でない。④二次火熱の影響で軟弱化。
-----------------	---	---------------	---	--

II区 6号住居跡(第21図 PL.64)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(14.0)	カマド内2片 口縁写 底面写	外底に粗い削りを施し、体部下半は無調整、内面丁寧なナダが大きく磨やかな重みあり。	①やや粗く気泡まじる。輝石散見。②酸化焰、やや軟調。③にふい桶7.5YR7/3。外面は不規則に黒色味をおびている。
2 杯(H)	口(13.6)	カマド内1片と 埋土2片 顯示部写	体部下半の屈曲と口縁端部に差があるが、1と似ている。	①やや粗く気泡まじる。輝石散見。②酸化焰、やや軟調。③にふい桶7.5YR6/3。外面は黒色味やや強く、一様でない。
3 杯(H)	口(13.6)	埋土2片 顯示部写	外底の削りは弱く丁寧で砂粒の動き少ない。内面も同心円状の丁寧なナダ。	①夾雑物少なく素地も緻密。②酸化焰、普通。③にふい桶5YR7/4、口縁付近は若干黒面あり。
4 (刀子)		埋土 蓋で先端欠く	材質、形状より刀子。断面部分が残存するようだが不明瞭。	①錆化によるふくれが著しいが、鉄地金は良い。

II区 7号住居跡(第22図 PL.64)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 台付礎 (H)	脚上 5.7 脚下 9.8	西隅中央寄床直上 顯示部ほぼ完存	脚下端は内側へ折り返し。内面指頭状の凹凸多い。ハク目は丁寧だが、ハク目以前に平滑に仕上げられている。	①灰白色の細粒多く夾雑。気泡含みやや粗い。②強い二次火熱を受ける。やや硬調。③にふい桶10YR7/3。赤色味のムラあり。内面灰白色。
2 用(H)	口(11.6) 高 5.4	埋土 上半与欠く	全体にへう磨きを施すが、内面やや粗で、体部に斜位の丁寧な削りの痕が見える。	①素地は緻密。石英・輝石等若干含む。②酸化焰、普通。③にふい桶5YR6/3で弱い光沢。外面に灰色味のムラと火ダスキ状の黒斑あり。

II区 8号住居跡(第24図 PL.64)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(12.8) 底 4.9 高 4.2	南壁下床下7cm 体部上半与欠く	右回転ロクロ一回糸無調整。横ナダは弱い。内面は比較的平滑。	①素地やや粗く、バミス・細線等夾雑。②中性焰、軟調。③灰黄褐10YR6/2。黄色味・黒色味のムラ多く一様でない。内面吸灰だが光沢欠く。
2 碗	口(13.6)	カマド内2片 顯示部写	右回転ロクロ。横ナダは体部下半で不明瞭。	①素地やや粗く、砂粒・土粒など夾雑。②酸化焰か、やや硬調。③にふい桶5YR6/4。明度の低い部分多く一様でない。
3 杯	口(15.0)	埋土2片 顯示部写	右回転ロクロ。横ナダは強く細かい。歪み著しく、口唇不安。	①砂粒多く気泡含むが素地緻密。②ほぼ還元焰、やや硬調。③灰黄2.5Y7/2~にふい桶2.5YR6/3で一様でない。
4 碗	台 6.2	カマド前床上6cm 顯示部写	右回転ロクロ一回糸一回転利用高台取り付け。高台體で形状一様でない。横ナダ弱く不明瞭。	①素地やや粗く粗砂の混入も多い。②中性焰、やや硬調。③灰黄2.5Y7/2。黄色味等、細かな差異あり。ダ弱く不明瞭。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

5 機	台(6.0)	南壁下床直上 図示部写	右回転ロクロ一回糸一高台は上から押 圧するような難な取付。内面に重焼さ 質。	①素地普通だが砂粒・バミス等の夾雑物多い。②中 性粘、硬調。③におい赤褐色5YR5/3、内底は黒色味強 い。
6 婁	口(28.0) 頸(27.0)	埋土 図示部小破片	輪轆みか。外面削りは壁で上半は無調 整部分広い。内面やや難なナデだが平 滑に仕上げる。	①素地はやや緻密だが、輝石・バミス・砂粒等夾雑 物多い。②二次火熱の影響強く脆弱。元来は硬調か。 ③明赤褐色2.5YR5/6。ムラ少ない。

## II区 9号住居跡(第26図 PL.64)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口13.4~13.8 底8.2~8.7 高3.7	南壁直下床直上 口縁写欠く	右回転ロクロ一切離し不明一底部全面 回へ。横ナデは内面で弱い。砂粒の 動き少ない。	①砂粒多く、チャート細碎散見。素地は緻密。②還 元粘、普通。③オリブ灰2.5GY6/1、外面青灰色味を おびるがほぼ一様。
2 杯(S)	口(12.0) 底(9.0) 高(2.6)	埋土 図示部写	右回転ロクロ一切離し不明一残存部全 面回へ。外底の凹凸からヘラ切りの 可能性。ロクロ痕弱い。	①素地普通。バミスマじりの細砂が多い。②還元粘、 やや硬調。③明オリブ灰2.5GY7/1、外面は彩度低 い。一様でない。
3 杯(H)	口13.3	南壁下床直上5 片 口縁写底部 写欠く	口縁内端やや肥厚。器面摩滅し不明瞭 だが、外底の削りやや難。ナデは同心 円状で丁寧。	①素地やや緻密。細砂の夾雑物多い。②還元粘、硬調。 ③におい橙5YR7/4でほぼ一様。
4 杯(H)	口(13.8)	南壁直下床直上 口縁写 底部写	口縁内端は折り返すようにして肥厚。 外底の削りやや難。内面同心円状のナ デで粗い磨度が残る。	①素地やや緻密。スコリア状の褐色夾雑物、砂粒や や多い。②還元粘、普通。③におい橙7.5YR7/4。外 面やや明度低い。④歪みあり口径不安。
5 杯(H)	口12.9 高3.5	南壁直下床直上 体部写欠く	外底の削りやや難く器面の平滑さやや 欠。体部下半は無調整で残る。内底 のナデやや難。	①素地やや緻密。外面に砂粒、内面に輝石まじりの 細砂目立つ。②還元粘、普通。③におい橙7.5YR7/ 4。黒帯10YR3/1。一様でない。
6 婁(H)	口(20.2) 頸(17.0) 胴(20.0)	カマド内床直上 図示部写	外面削りは弱く鋭い。口縁ナデは強く 布状具の粗い磨痕残る。また無調整部 分を残さない。内面やや平滑。	①素地やや緻密。砂粒や赤褐色夾雑物を含む。②酸 化粘、普通。③におい橙5YR7/4。外面下半彩度低い。 ④外面にカマド粘土の付着多い。
7 婁(H)	口(20.6) 頸(18.0) 胴(20.6)	南壁下床直上 口縁写 胴部写	口縁外面のナデやや難。外面削りはや や強く丁寧。内面薄く長い工具により 丁寧なナデで平滑に仕上げる。	①素地緻密。砂粒やや多く赤褐色鉱物の混入も目立 つ。②還元粘、やや硬調。③におい赤褐色2.5YR5/4。 内面灰色味をおびる。一様でない。④外面胴部中位 以下にスス付着。
8 婁(H)	口(20.2) 頸(9.6) 胴(21.4)	カマド内 口縁写 胴部写	外面削りやや鋭く不規則。内面ナデの 痕は不明瞭だが器面は平滑。	①②③④にほぼ同じ。
9 婁(H)	口(20.0) 頸(17.6)	南壁直下床直上 2片 図示部写	外面削りやや鋭く、丁寧。内面の工具 使用ナデも丁寧で平滑に仕上げる。薄 手で難な造りである。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒若干含む。② 酸化粘、やや軟調。③におい赤褐色2.5YR5/4基調だが 一様でない。④外面にカマド粘土付着。

## II区 10号住居跡(第27図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(S)	皿3.4	埋土 蓋完存 天井図示部写	右回転ロクロ一回天井部幅状で難な回へ ラ→ロクロ利用難取付。横ナデ弱い。	①素地普通。砂粒、細碎やや多い。②還元粘、やや 硬調。③灰白10Y7/1。ほぼ一様。
2 小婁	口16.3	口縁→体上位破 片	体部割めハケ→口縁ナデ。内面ナデ。	

遺物観察表編

II区 12号住居跡 (第29図 PL.64)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(13.8)	南東隅床下10cm 片個体 高台欠く	右回転クロー→回糸→ロクロ使用高台 取付。横ナゲ弱い。内面やや平滑。	①素地粗く砂粒の夾雑多い。②中性焰か。二次火熱 を受けている。軟調。③にぶい橙7.5YR7/3。暗いム ラ部分あり一様でない。④高台剥落面厚減。
2 椀	口(13.7) 台 6.4	埋土 4片 口縁写 底部完存	右回転クロー→回糸→ロクロ使用高台 取付。ロクロ痕は内面で強い。高台は 不安定で形状一定でない。	①粗くボソボソしている。砂粒やや多い。②中性焰。 やや軟調。③調7.5Y2/1。光沢なく、明度高く黄色味 おびる部分も広く一様でない。
3 椀	台(7.2)	埋土 図示部写	右回転クロー→回糸→ロクロ使用高台 取付。ロクロ痕は外面で強い。内底縁 に高台の重焼き痕。	①素地やや粗い。片着質の細礫石を含む。砂粒やや 多い。②還元焰、普通。③青灰10BG6/1で断面まで 一様。

II区 13号住居跡 (第30図 PL.64)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 ミニチュ ア	口(4.5) 胴上 3.0 胴下 3.8~4.2	中央床直上 体部上半欠く	手づくね。外面くびれ部に強い押圧。 胴内面と脚中位外面にヒビが多い。口 縁、脚とも断面は板状に歪む。	①素地は粒子細かく緻密。砂粒・バミスを若干含む。 ②還元焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。外面にやや薄 い黒膜あり。
2 磁石		埋土 一端欠く	一面は自然面。一方から穿孔し提碇と している。研き減った磁石の再利用。	①磁沢石。②断面赤褐色の4面使用だが、厚減は 2面に偏る。現状は表面に平滑欠く。

II区 14号住居跡 (第31図 PL.65)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(10.8)	埋土 4片 口縁写 底部写	外面削りやや強い。内面ナゲ丁寧だが 擦痕強く、器面の平滑さ欠く。	①細砂多く、ややしまり欠く。②還元焰、やや軟調。 ③にぶい橙5YR6/4。外底付近は広く黒膜。
2 杯 (H)	口(13.6)	西壁直下床直上 図示部写	外面削りは細かく丁寧。内面のナゲも 丁寧だが、断面に小さな凹凸残る。	①素地普通。輝石・バミスマじりの砂粒、やや多い。 ②還元焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4でほぼ一 様。
3 杯 (H)	口(12.6)	埋土 3片 図示部写	口縁部の形状一様でない。削りやや強 い。内面ナゲは丁寧で、平滑に仕上げ る。	①素地普通。輝石・バミスマじりの粗砂多い。②酸 化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/3でほぼ一様。
4 杯 (H)	口 14.0 高 4.2	南壁直下床直上10 cm	外底削りは強い。側面一部厚減して不 明瞭。厚手で重量感あり。内面器面や 丸れるが丁寧なナゲで平滑。	①素地は緻密。バミス・輝石まじりの粗砂多い。② 還元焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。内面明度高 く、外面広く黒膜あり。
5 杯 (H)	口(15.0)	西壁下床直上20cm 図示部写	器面厚減して不明瞭だが、外面削りや や強い。内面ナゲは布状具のみぐい痕。	①素地やや粗く、輝石・バミスマじりの粗砂、多い。 ②還元焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。内面に明 度の低いムラ広い。
6 杯 (H)	口 16.3 高 3.6	南壁直下床直上 ほぼ完形	外面削りはやや強い。内面ナゲは丁寧 で平滑に仕上げている。	①素地はやや緻密。バミス目立つ粗砂やや多い。② 還元焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。低彩度で 赤色味をおびる小さなムラが多い。
7 壺 (H)	口 22.8~22.1 頸 18.5~17.8 胴 21.7~21.4	カマド前床直上 胴下半写と底部 欠く	薄手だが均整とれる。外面削りは鋭く 細かく単位つかにくい。口縁端部に 強いナゲ。内面工具使用ナゲで平滑。	①やや緻密な素地だが粗砂の混入多く器面がラツ ク。②還元焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。赤色味 のムラや黒膜広く一様でない。④二次火熱受け、胴中 位以下で器面やや強靱化。



## 1 竪穴住居跡出土遺物

8 刀子	開幅 1.60 棟厚 0.64~0.55	埴土 身部・茎部の両端欠く	棟側へ反るような歪みあり。開部分は不明瞭。	①錆化進むが鉄地金の質は良い。④切先側は調査時の欠失。
9 土鏝	長 6.7 厚 1.3 重 9.8g	北壁下床土15cm 突形	外面平滑で成形痕見え。若干ねじれ端部が屈曲気味となる。	①素地普通。砂粒やや多い。②酸化層、やや硬調。③黒褐色10YR3/1、および黄褐色10YR7/2。

## II区 15号住居跡(第32回 PL.65)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (H)	脚下(13.2)	埴土 脚柱部下半片 裾部欠	円孔は残存一カ所で小さい。全体でも4カ所以下。外面研磨細で柱部では不明瞭。裾部は両面丁寧なナデ。	①素地普通。砂粒の夾雑多い。②酸化層、やや硬調。③淡黄2.5YR/3。一部暗く彩度も低いが、ムラは少ない。
2 杯 (H)	口(13.4)	埴土 片個体	外面削りは鋭く、擦痕が重なっている部分多い。内面丁寧なナデ。口縁部の形状は一定していない。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含むが、夾雑物は少ない。②酸化層、やや硬調。③にぶい橙7.5YR/3。内面は彩度低い。外面は赤色の味。ムラ。

## II区 16号住居跡(第34回 PL.65)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 12.4 高 3.1	カマド前床直上 8片 底部若干欠く	外面削りは幅広く鋭い。内面ナデやや丁寧だが器面に細かな凹凸多い。口縁に大きな波状の歪み。	①素地普通。輝石・バミスマじりの粗砂多く、ガラザラしている。②酸化層、やや硬調。③橙5YR6/6でほぼ一律。
2 杯 (H)	口(13.0) 高 3.7	カマド前床直上 片個体	外面削りやや鋭く細。内面ナデは布状具の擦痕が残っている。内外面とも器面に細かな凹凸が多い。	①素地やや粗い。輝石・細砂まじりの砂粒含む。②酸化層、普通。③にぶい橙5YR7/3。外面薄い黒底あり。
3 杯 (H)	口 12.7 高 3.2	カマド内西寄り 片個体	外面削りやや強く丁寧。体部下半無調整部分も平滑。内面ナデ丁寧で平滑に仕上げ、擦痕少ない。	①②③2に近い。夾雑物やや多い。
4 杯 (H)	口 12.5 高 3.1	カマド前床直上 片個体	外底削りやや粗いが無調整部分まれ。内面ナデは布状具の擦痕が残る。成形時の凹凸が残る。	①素地やや緻密。輝石・バミスマじりの砂粒やや多い。②酸化層、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。外面一部黒底。ムラは少ない。
5 杯 (H)	口 13.0 高 3.4	カマド前床直上 完形	削りはやや鋭い。体部下半の無調整部分広い。口縁内部肥厚するが形状様でない。内面ナデ丁寧。	①②③3に類似。細粒散見するが夾雑物少ない。④内面一部割落。
6 杯 (H)	口(13.0) 高 3.3	カマド前床直上 片個体	3にはほぼ同巧。内面の細かな凹凸が多い。	①②③3に類似する。夾雑物はやや少なく、内面彩度低い。
7 壺 (H)	口(20.2) 頸(18.2) 胴(21.4)	北壁下床直上 筒形部写	口縁部小さな歪みあり、外縁は不規則な波線走る。外面削りやや粗い。内面ナデは筒部付近でハケ目状。	①素地普通。バミス・長石等種多な夾雑物あり。②酸化層、やや軟調。二次火熱受け内面より新腐あり。③にぶい赤褐色2.5YR5/4。外面黒底広い。
8 壺 (H)	口 19.7 頸 16.6 胴 19.4 底 4.4 高 29.6	カマド前床直上 不規則に欠く	輪横みか。内面胴部下位に合わせ痕。外面削り丁寧。内面も丁寧な仕上げだが器面凹凸。器形に歪みあり。	①母土としては粗く、粗砂混入も多い。②酸化層、やや軟調。二次火熱を外面下半に受けている。③にぶい赤褐色2.5YR5/4、明度低いムラ多い。

遺物観察表編

II区 17号住居跡 (第36図 PL.65・66)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (H)	口(20.4) 胴上 3.8 脚下 11.1~11.4 高 13.2	中央北寄床直上 体部上半欠く	胴部に4孔を穿ち、外面やや粗な面取り。ハケの上に太く粗い研磨。胴内面のみ工具使用のナデ。	①素地やや粗く、細礫の混入により器面にヒビが多い。②酸化焰、やや硬質。③におい稀5YR7/4から外面中心に黒色。一様でない。
2 直 (H)	口 13.2 頸 8.6	中央床直上5片 胴示部口縁欠く	厚手で重量感あり。口縁部は強い研磨で器面に光沢。外面ハケは強く、磨きに近い効果。胴部内面は袖で接合痕が明瞭に残っている。	①素地やや粗く、灰白色の細礫を多く含む。②酸化焰、普通。③におい赤褐2.5YR5/4。低明度の色ムラ部分広く、一様でない。④凍てハゼあり。口縁部部の剥落多い。
3 壺 (H)	口(15.2) 頸(13.2) 胴(16.0)	中央床直上 胴示部写	外面全面やや強いハケ目で器面に凹凸多い。内面はへらの強いナデの上に棒状工具の粗く粗な磨き。	①素地粗く、石英・細礫など大粒夾雑物多い。②酸化焰、軟調。③におい稀7.5YR6/3。外面ほぼ黒色。一様でない。
4 小型壺 (H)	口(12.8) 頸(8.4)	埋土 胴示部写	輪積みか。ハケ目のように粗い磨痕の横位ナデ後、下半にハケ目、その上から粗く粗なナデ。	①素地やや粗い。バミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬質。③灰褐7.5YR4/2。明度・色相とも一様でない。
5 小型壺 (H)	頸(6.0)	東壁下床直上 胴示部写	外面強く研磨するが、やや袖で隙間が残る。内面肩部に接合痕と指頭圧痕顯著だが胴部は平滑。	①素地やや粗い。バミス等雑多に含む砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③におい赤褐5YR5/4。内面明度高く、外面一部に黒斑。
6 小型壺 (H)	口(9.7) 頸 7.8~8.2 胴 9.2 高 9.7	P 2 内床下20cm 口縁上半欠く	削り落し口縁、外面のみ横ナデ。ハケ目やや粗い。体部内面、器面瓦れて不明瞭。	①素地やや粗い。輝石・バミス・細礫まじりの細砂多量に夾雑。②酸化焰、硬調。③明褐色7.5YR7/2。黒斑広く、赤色味部分あり一様でない。
7 壺 (H)	口 16.9~16.3 頸 14.5 胴19.7 底 5.4 高20.9	南壁下床直上 胴部一部欠くがほぼ完形	輪積み。粗なハケ整形後、胴中位付近帯状に粘土を貼付し、その上に削りて再整形している。内面工具使用のナデでやや平滑。	①素地普通。バミス・細礫等混入する砂粒やや多い。②酸化焰、二次火熱の影響で不明瞭だがやや軟質か。③におい粗7.5YR6/4。内外面とも黒褐色部分広い。④外面胴中位以上にスス付着。
8 壺 (H)	口(20.0) 頸(17.8) 胴(26.4)	中央床下7cm 口縁若干 体部写	玉み強く口縁の形状は一定せず。胴中位の厚縁部分に接合痕顯著。ハケは細かく息強い。内面鋭い磨痕の調整、底部付近にハケ目残る。	①素地やや粗い。輝石・石英まじりの砂粒夾雑多量。②酸化焰、二次火熱受け器面脆削化。③黒褐7.5YR3/1。明度、彩度高い部分あり一様でない。④外面胴中位厚縁。

II区 19号住居跡 (第37・38図 PL.66)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小瓶 (K)	頸 2.3 胴 8.6 底 5.8~5.6	西壁下床下7cm 口縁端部欠く	右回転クロロー回糸無調整。胴部内径1.5cmだが、内面は平滑。内底のクロ口痕やや強い。胎はやや厚く、施胎方法不明。内面無胎。	①細砂の混入多く、灰胎としてはやや粗い。②還元焰、硬調。③灰白10Y7/1。胎は黄白色。④二次火熱を受け、胎は部分的に剥落する。また、外底中心に薄くスス付着。
2 小瓶 (K)	頸 2.6 胴 8.8 底 5.6	北壁下床下5cm 口縁端部欠く	右回転クロロー回糸無調整。胴部内径1.5cm。クロ口痕は全体にやや弱め。ハケ施りの胎がやや厚くかかる。内面無胎。	①ややボソボソした東瀛系の素地。夾雑物は少ない。②還元焰、硬調。③灰白5Y7/1。胎は黄白色で厚い部分は緑色味をおびる。④口縁部削れ口が吸炭したように黒色味をおびる。
3 碗 (K)	口 13.0 台 6.3 高 4.1	南壁下床直上 口縁若干欠く	右回転クロ口。内面平滑に仕上げ、外面もクロ口痕強い。施胎は濃揚げか。内底に重焼き痕あり。外面隆起胎は薄い。	①軟質。細礫散見するが夾雑物まれ。②還元焰、普通。③明青灰5P7/1。内面黄白色強い。胎は外面白色味、内面黄緑色味強く、厚い部分はコバルト色に黄白色。

## 1 堅穴住居跡出土遺物

4 椀 (K)	口(16.6) 台 8.2 高 5.4	カマド前面床直上 口縁瓦 底面瓦	右回転ロクロ。内面平滑。外面ロクロ痕弱い。軸は横掛け。外面の軸は特に薄い。内底僅かに重焼き痕あり。	①緻密。夾雑物少ない。②還元焰。普通。③灰白10Y8/1ほぼ一様。軸は白色味、口縁付近でオリブ色味をおびる。
5 椀	口 15.0 台 6.2 高 5.8	埋土 口縁瓦欠く	右回転ロクロ→回糸→雑な高台取付。高台は不整で凹凸多い。横ナデ強い。内底は平坦。口縁は直む。	①素地やや粗く、輝石・赤褐色色物を含む砂粒やや多い。②中性焰、軟調。③にぶい橙5YR6/4。灰色味の強い部分も広い。
6 椀	口 14.7 台 5.7~6.1 高 4.8	カマド前面床直上 ほぼ穹形	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用やや雑な高台取付。横ナデ弱い。内底広く平坦。厚手で重量感あり。	①②5に類似。③灰褐7.5YR6/2。灰色味・黄色味等まちまち。④内外面に薄く不均等にスス付着。
7 杯 (S)	口 12.8 底 5.6 高 3.5	中央束寄床直上7cm 口縁瓦欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。外面に巻上げ痕状のヒビあり。横ナデ弱い。口縁端部の屈曲強い。	①素地やや粗く、パミス・輝石まじりの砂粒やや多い。②還元焰やや不十分だが硬調。③灰白2.5GY8/1。外面に明度低いムラあり。
8 杯	口 12.1 底 6.1 高 3.8	南壁下床直上10cm ほぼ穹形	右回転ロクロ→回糸無調整。横ナデきわめて弱い。内面に接合痕若干観察できる。	①素地やや粗く、細碎や目立つ。②中性焰、やや硬調。③灰黄2.5Y7/2。口縁部は明度強く、底部両面広範囲に黒斑。④内面縁付近に著しい摩滅剥落、内底に広い割落。
9 壺 (H)	口(19.0) 頸(18.2)	埋土 図示部瓦	外面、削り・横位ナデとも粗く、頸部指頭圧痕下に接合痕顕著。内面ナデはやや丁寧だが、接合痕明瞭。	①やや粉っぽい。パミスまじりの砂粒若干夾雑。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。ほぼ一様。
10 羽釜	口 18.9~19.7 胴 23.7~24.2 脚 23.8~24.4	カマド北脇床直上 上半ほぼ穹形	輪横みか→右回転ロクロ整形。ロクロ痕やや強い。11に類似。	①素地粗く、細碎等夾雑物多い。②中性焰、やや硬調。③灰黄2.5Y7/2明度低い所、赤色味おびる所など一様でない。④外面口縁付近に薄いスス付着。
11 羽釜	口(19.0) 胴(23.0) 脚(24.2)	埋土5片 図示部瓦	右回転ロクロ。羽釜としては薄手だが下半中心に窪凹凸多し、ロクロ成形とは考えにくい。削り弱い。	①素地粗く、細碎・土まじりの夾雑物多い。②二次火熱の影響が全面に及んでいる。③橙5YR7/6~黒色でまちまち。
12 壺 (S)	底(13.8)	埋土 図示部瓦	巻上げか→右回転ロクロ整形か。横ナデきわめて弱い。	①素地普通。チャートや片岩質の細碎や多く器面に一部亀裂。②還元焰、やや軟調。③暗青灰5BG4/1。内面灰褐5YR5/2。④内底の剥落著しい。
13 壺 (S)	胴(41.0)	埋土 胴上半瓦と底面一部欠く	輪横みか。外面全体を研ぎ込むように調整し、成形痕残さない。内面は指頭状の細かなアケ具痕。	①細碎。土粒等含むが大用品としては緻密。②還元焰、やや軟調。③青灰5B6/1、明度高い所、黄色味をおびる所などまちまち。
14 砥石	幅 3.1~2.8 厚 3.5~0.8	埋土 一端を欠く	一面は自然面。小孔を穿ち提碇としていたが、摩滅面が不自然で、研ぎ疲れた砥石の再利用か。	①砥沢石。④断面赤巻き状の4面使用。摩滅は一面に傾いており、その両側の面は平滑さにやや欠けている。

## II区 20号住居跡(第41図 PL.66)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付皿 (K)	口(14.6) 台(7.0) 高 2.8	埋土 口縁瓦 白底瓦	右回転ロクロ。高台取付丁寧で、外底に切離し痕残らない。内底縁部に重焼き痕。軸はハケ塗り。	①緻密。灰輪としては砂粒やや多い。②還元焰、普通。③灰白10Y8/1。軸は剥落多いが、残存部では白色味が強い。
2 杯	口(10.8) 底 5.7 高 3.5	埋土 口縁瓦 底面瓦	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。内面平滑。横ナデ外面でやや不規則。	①素地粗く、輝石・石まじりの砂粒やや多い。②中性焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/2。赤色味や明度低いムラ多く、内面重焼き状のムラあり。

遺物観察表編

3 土釜	口(26.2) 胴(25.0)	南壁下床土8cm 図示部写	輪痕みか。外面削りは雑だが、乾雑状 態で行ない磨きに近い。内面は磨面の 剥落著しく、観察できない。小破片か らの復元で、口径不安。	①素地やや粗く、バミスまじりの細礫きわめて多い。 ②酸化焰、やや軟調。二次火熱受ける。③に よい赤褐色2.5YR5/4、一様でない。④外面下位にスス付着。
4 羽釜	口(24.0) 胴(27.2)	カマド袖上22cm 図示部写	輪痕みか→右回転ロクロ成形。鋳は工 具使用の取付で端部尖る。横ナゲやや 弱い。	①素地やや粗く、細礫まじりの砂粒多い。②中性焰、 やや軟調。③褐状2.5Y/1。断面明るい。明度の低い ムラ外面に広い。外面削部にスス付着。
5 羽口	径 8.4	カマド袖上21cm 基部若干と先端 部欠く	全体にナゲ。開口側の端部は強く折り 曲げる。	①素地は粗く、多量の植物繊維と大粒の長石・軽石 を含む。②酸化焰、やや軟調。③橙5YR6/6。④灰 込み部は溶融不純物が付着する。

II区 21号住居跡(第42図 PL.67)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①粘土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 炊(H)	口 14.7 胴 8.9~9.9	中央床直上 端部写欠く 図示部ほぼ完存	輪痕みか。横位ナゲはや雑で器面平 滑さやや欠く。外面端部は弱い削り 磨きに近い。平面形状は横円形に近み 口縁端部も一定していない。	①素地やや粗い。バミス・細礫まじりの砂粒・細砂 多い。②酸化焰、やや硬調。③に よい赤褐色5YR4/4。明度の低いム ラ多く一様でない。
2 鉢(H)	口(10.0) 底 4.1 高 5.7	北壁下床直上4 片 上半写欠く	外面のハケは雑。外面下端と底部に粗 い磨き。内底縁部に板状の強い圧痕が 残っている。口縁丁寧な横位ナゲ。	①素地やや粗いが、砂粒以外混入物少ない。②酸化 焰、やや軟調。③に よい赤褐色5YR4/4。明度の低いム ラ多く一様でない。
3 埴(H)	胴(5.6) 胴 8.0 底 2.2	埋土 口縁と胴部の写 欠く	外面丁寧な研磨で平滑に仕上げるが、 単位不明瞭。内面も丁寧な横位ナゲで やや平滑。	①素地やや緻密。輝石まじりの粗砂が小量品として は多量に夾雑。②酸化焰、普通。③に よい褐色7.5YR7/ 3系調。明度・彩度とも一様でない。
4 甕(Y)		埋土 体部	9本単位の器I種で表状文を重ねて施 文。上から順に反時計回りに施す。下 位は縦へら磨き、内面は粗い斜へら磨 き。	①赤色粒・軽石・細礫と細砂サイズの長石・石英等 多く含む。②やや軟質。一部に黒灰。③橙7.5YR6/ 6。

II区 22号住居跡(第43図)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①粘土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕(Y)		埋土 口縁	口縁に粘土帯を貼付して成形。内面は 横へら磨き。口縁に縄文。原体R.L。	①きめ粗く、粗砂サイズのチャート・長石等を含む。 ②良好。③に よい橙7.5YR7/3。
2 高杯	胴上 3.1	埋土 基部付近ほぼ完 存 孔付近写	4孔を外側より穿つ。図は1孔からの 復元。内底方向不定の研磨で平坦。外 面も丁寧なナゲだが単位不明瞭。	①素地やや粗く、輝石まじりの砂粒やや多い。②酸 化焰、やや硬調。③明褐色7.5YR7/2。研磨部分に弱 い光沢。明度低いムラ多く一様でない。
3 土釜	口(32.0) 胴(28.6)	埋土 図示部写	小破片からの復元で口径不安。ロクロ 使用整形と思われるが砂粒の動き少な い。口縁端部かき目状。	①素地普通。大粒バミス・細礫まじりの砂粒やや多 い。②酸化焰か、やや軟調。③明赤褐色2.5YR5/6。外 面暗く、内面明るいムラ広い。

## II区 25号住居跡 (第45図 PL. 67)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 磁石	幅 3.2~2.6 厚 1.8~1.1 重 44.6g	床直上 瓦筒体	断面糸巻き状の4面使用。小口側の一層は自然面を残す。	①磁石。④4面とも丁寧に使用されている。

## II区 26号住居跡 (第46図 PL. 67)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土釜	口(23.0)	カマド左地上 図示部写	輪横みか。外面弱く鋭な削り。内面粗状で強く不規則なナデで、粗い摩痕が残る。口縁小さな歪みで径不安。	①素地粗く、細糠・石英・輝石まじりの砂粒きわめて多い。②還元焰か、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4、赤色味をおびるムラあり。
2 小皿	口(8.8) 底 4.8~5.2	中央床土5cm 口縁写欠く	左回転クロロー同糸無調整。横ナデは弱い。内底にヘラ先状の工具による不整な円を描く比線あり。	①細糠多く、素地にしまりない。輝石・パミス散見。②中性焰、普通。③淡黄橙10YR8/3。外面一部明度低いムラ少ない。

## II区 28号住居跡 (第48図 PL. 67)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿(K)	口(14.0) 台(3.5) 高 3.7	カマド内 図示部写	右回転クロロー丁寧な高台取付。横ナデ弱い。軸横掛け。内底に重傷き痕。高台端部も割落多い。歪み大きい。	①素地緻密で砂粒以外雑物まれ。②還元焰、硬調。③灰白7.5Y8/1で、断面までほぼ一様。軸は薄く、やや緑色味をおびる。
2 椀	口(14.4)	カマド前床直上 図示部写	右回転クロロー。外面横ナデ細かく、矯正。内面同心円状の研磨の上に方向不定の磨きを加え、きわめて平滑。	①素地緻密。細砂やや多い。②中性焰か、きわめて硬調。③褐灰5YR5/1および橙2.5YR6/6。一様でない。
3 土釜	口(26.0) 頸(22.0) 胴(25.4)	カマド内床直上 図示部写	巻上げか。外面にきわめて強い削り。頸部直下でやや弱いため接合痕残る。内面体部割落著しく整形不明。	①素地やや粗く、細糠・赤褐色藍物等が少量に夾雑。②還元焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。硝い部分広く一様でない。
4 甕	幅(22.0)	埋土 図示部写	接合痕不明。外面削りはごく弱い。内面は指頭で押しきしたような、細かな凹凸あり。	①ザクザクした素地に、やや大粒の石英・輝石を含んだ多量の砂粒を含む。②中性焰、硬調。③灰白10YR8/2。外面一部黒褐色にすずける。
5 煎餅	間幅 0.68×0.66	埋土 煎餅と釜 両端欠く	煎餅と釜が間で区切られる。釜は細く煎餅に比べかなり短いものか。	①磨化著しいが、鉄地金の質は良いようだ。

## II区 29号住居跡 (第49図 PL. 67)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(S)	縦 4.3	埋土 銀光存 天井部 図示部写	右回転クロロー、外面回へら。内面横ナデ弱い。紐取付は丁寧。	①素地やや粗く、乳白色の微細夾雑物目立つ砂粒多い。②還元焰、やや軟調。③外面暗青灰5BG4/1、内面にぶい灰赤2.5YR4/2。
2 杯(H)	口(14.2) 高 3.9	南西隅床土15cm 口縁写 底部写	外面やや強い削りを施すが、断面摩減し不明瞭。内面丁寧にナデているが器面に細かな凹凸あり。	①ダスト状で指に付いてくる。パミスまじりの粗砂やや多い。②還元焰、普通。③橙5YR7/6。初度の低い細かなムラあり。

遺物観察表編

3 瓶(S)	口(10.2)	埋土 顯示部写	右回転ロクロ。ロクロ痕は特に内面で強いが、砂粒の動きはあまり目立たない。口縁外側に弱い沈線が通る。	①素地普通。砂粒やや多い。②還元焰、硬調。③硝黄灰5R3/1、内面やや明度高い。④内面に白色の降灰輪かかると。
4 土釜		埋土6片 口縁→胴部小片	外内面とも横位ナデ。	①素地粗く、細粒～細砂を含む。②還元焰、やや軟調。③明赤褐5YR5/6。④H22住-3と同一個体と思われる。
5 手づくね	口 4.3 底 3.1~3.5 高 2.2	中央南寄床直上 端部若干欠く	外面の接合痕から巻上げの可塑性、指痕状の弱い稜がある。内面指痕の強いナデで平番き欠く。	①素地普通。細粒等不揃いの混入物あり。②還元焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4、明度の低いムラ広い。
6 土罐	長 5.4 厚 2.7~2.9 重 30.7g	埋土 完形	外面平滑で正痕や磨痕見えない。内面に接合痕状の小さなヒビが僅かに見える。	①素地普通。輝石・バミスマじりの砂粒やや多い。②還元焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4でほぼ一様。

II区 32号住居跡(第52図 PL.67)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口 11.4~12.1 底 6.7~6.9 高 4.2	中央床直上 完形	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内底で強く平番き欠く。体部下端に赤切の糸を引きずった鋭い沈線あり。口縁部大きな波状の歪み。	①素地やや粗く、細粒の混入多く表面ゴツゴツしている。②還元焰か、硬調。③灰白7.5Y7/1。外面に赤色味の強い部分あり。還元焰としては均質さ欠く。
2 碗(S)	口 12.6	中央床直上4片 体部写と高台欠く	右回転ロクロ→回糸。高台欠くが取付時のナデの幅は狭い。ロクロ痕強く、内面下半はコテ状で鋭い。内面に磨痕き痕あり。	①素地やや粗く、片岩質の細粒まじりの砂粒を含む。②還元焰、やや軟調。③灰黄2.5Y7/2。細かなムラあるがほぼ一様。
3 杯	口(11.6) 底 6.7 高 4.5	北壁下床直上6片 体部写 底部写	外底全面砂底、型造りか。内面雑なナデで体部に指痕状の凹凸が残る。外面口縁部のみ横位ナデで、下端に不規則な沈線が通る。体部は指痕正痕。	①素地やや粗く、バミスマじりの細粒多い。②還元焰か、やや軟調。③黒褐5YR3/1。外面は黄色味の強い部分広い。
4 杯	口(12.0) 底(6.6) 高 3.9	埋土 口縁写 底部写	砂底。型造りと思われるが、外底端部が横へ突出気味。外面指痕の正痕と擦痕。内面強いナデだが、器面に弱い凹凸。内面強いナデだが、器面に弱い凹凸。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・輝石のまじる砂粒少量含む。②中性焰か、やや軟調。③にぶい橙10YR7/3。明度低い部分広い。④底部付着の砂には、バミスマが少量に含まれる。
5 杯	底 10.9	北壁下床直上2片 顯示部写	右回転ロクロ→回糸無調整。大型の底部片を割口を研磨して、再利用したもの。内面のロクロ痕強く風溜りか。	①素地やや粗く、片岩質細粒やや目立つ。②還元焰、やや軟調。③灰10Y4/1。ほぼ一様。④内底部分厚減している。
6 土釜	口(23.0) 頸(20.8) 胴(22.8)	カマド左袖上5片 顯示部写	接合痕不明瞭。外面幅広く鋭い削り。内面布状具の粗い磨痕の残る、やや雑なナデ。	①素地やや粗く、輝石まじりの砂粒やや多い。②還元焰か、硬調。二次火熱により不明。③にぶい橙5YR7/4。内面は彩度低い。④カマド胎土付着。

## II区 33号住居跡(第53圖)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (H)	脚上 3.0	埋土 図示部ほぼ完存	円孔は3カ所。内底は剥落著しい。外面も摩滅し調整不明瞭。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。ほぼ一様。
2 杯(S)	底(6.0)	埋土 図示部写	右回転クロー→回糸無調整。横ナデ強く砂粒の移動まれ。器面細かな凹凸があるが、やや平滑。	①素地やや粗く、砂粒の混入やや多い。②還元焰、普通。③青灰5BG5/1。一様。④縁刻は焼成前。断面は竹管状で勢いのある刻み。

## II区 34号住居跡(第55圖 PL.67)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(12.6) 底(6.8) 高 3.6	埋土4片 写倒体	右回転クロー→底部全面不規則な凹へラ。クロー底弱いが、内面下半はコチ状の工具痕。砂粒の動き少ない。	①素地粗くボンボン。パミス・土粒状夾雑物等豊富な混入物あり。②やや不充分的還元焰、普通。③褐灰7.5YR5/1。ほぼ一様。④焼成前縁刻あり。「大」とは筆順が異なる。
2 釘	頭部径 0.96×0.84	埋土 先端部欠く	平頭の大鋸釘か。	①鉄地金の質はやや悪く、線径の揃いほど多い。④頭部はやや傾いてつづれている。

## II区 35号住居跡(第56圖 PL.67)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(14.0) 底(6.0) 高 3.8	埋土 体部写 底部写	右回転クロー→回糸無調整。小片からの復元で、径不安。横ナデきわめて密い。器面全体に微細な凹凸。	①素地やや粗く、細塵・土粒まじりの砂粒多い。②中性焰か、硬調。③灰白2.5Y7/1。外面彩度の高い部分あり。
2 椀(K)	口 11.0 台 5.5 高 4.1	埋土 写倒体	右回転クロー。回転利用高台取付時に口縁外面下を、若干削る。クロー横弱い。軸は内面のみで厚く不明瞭。	①灰軸としてはやや粗く、黒色微細鉱物まじりの砂粒含む。②還元焰、普通。③灰白5Y7/1で一様。軸は透明でやや緑黄色味をおびる。

## II区 36号住居跡(第57圖 PL.67)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(12.2)	埋土2片 図示部写	外面削りは鋭い。内面ナデは同心円状で丁寧だが器面に細かな凹凸あり。体部下半無調整部分に弱い指痕圧痕。	①素地普通。輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。一部彩度低いがムラは少ない。
2 椀(K)	口(14.0)	南西隅床上20cm 図示部写	右回転クロー。外面無軸。内面残存部は全体降灰軸で、施軸方法不明。	①素地普通。黒色鉱物まじりの砂粒若干含む。②還元焰、普通。③灰白5Y8/1。一様。軸は乳濁した緑色味をおびる。
3 椀(S)	台 7.0	南壁下床直上 図示部ほぼ完存	右回転クロー→回糸(痕跡不明瞭)→クロー使用高台取付。横ナデ強い。高台歪む。内底に重焼き痕あり。	①素地やや粗い。チャートまじりの砂粒、やや多い。②還元焰、やや硬調。③青灰10BG5/1で濁った感じ。内面やや黄色味をおびる。

遺物観察表編

II区 37号住居跡(第58図 PL.67)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①粘土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕(H)	口(16.6) 胴(9.3)	床面下 図示部写	口縁折り返して、直下にハケ目が横位ナゲの下に残る。磨きは粗太でやや粗い。厚手で重量感あり。	①素地普通。輝石・バミスマじりの砂粒、やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。黄色味や明度の低い部分などまじりまら。
2 甕(H)	底 5.2	床面下 図示部ほぼ完存	底部孔は外方より、中心に向かって若干傾きながら穿つ。外面細かなハケ目が見られるが不明瞭。	①素地普通。輝石・細磨りまじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙10YR7/4。内面彩度低い。
3 器台(H)	胴上 2.4	床面下 4片 柱部はほぼ完存 写で端部欠	円孔3カ所ので外面のみ小さく面取り。研磨は粗太で急長丁寧。内面雑なナゲで不明瞭。	①素地普通。輝石・バミスマじりの砂粒多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。明度低いムラが内面を中心に広い。
4 蓋(S)	口(19.4)	中央床直上2片 天井縁部欠	右回転クロー切離し不明→天井部回へら→ロクロ使用、丁寧な削取付。横ナゲやや弱い。	①素地やや粗く、細磨り・白色鉱物粒まじりの砂粒多い。②還元焰、普通。③灰白10Y7/1。縁辺若干青色味をおびる。④天井部異調、若干厚縁。
5 蓋(S)	口(15.6) 紐 4.7 高 2.3	床面下 紐完存 天井部写	右回転クロー→同ロクロ上の回へらと削取付。継ぎ部にはヘク先状の鋭い凹みあり。	①素地やや粗く、バミスマじりの細磨りや、砂粒多い。②還元焰、やや硬調。内外面に重焼きの色ムラあり。③R7.5Y6/1。外側は明度低い。
6 杯(S)	口(12.8) 底(7.6) 高 3.7	中央床直上13cm 写個体	左回転クロー→回無調整。ロクロ直は内底縁辺と口縁内端でやや強い。	①素地やや粗くボソボソ。細磨りの混入、やや自立つ。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y8/1。明度の低いムラあり。
7 杯(S)	口(13.4) 紐 7.1~7.7 高 3.4	東壁下床直上 口縁写欠	右回転クロー→底部全面、幅広の回へら。内底のみクログ直や強い。外底に無成前の「大」の字の浅い線刻。	①素地普通。白色針状物とチャートに似た白色細磨りやや自立つ。②還元焰、やや硬調。③オリーブR2.5GY5/1。口縁外面セピア色の重焼き痕。
8 杯(H)	口(12.4) 高 3.2	埋土 写個体	外底削りやや弱い。口縁ナゲもやや弱く、下半無調整部分も不整。内面ナゲは丁寧で強い。蓋みあり口径不安。	①素地やや粗いが砂粒以外の夾雑物少なく良好。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。内面若干赤色味をおびる。
9 杯(H)	口(12.8)	埋土2片 図示部写	底部削りは、細かくやや縁。口縁内端は小さく肥厚するが形状一定せず。外面下半の無調整部分も平坦。	①素地普通。輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰、硬調。③にぶい橙5YR7/4。部分的に彩度高い。
10 杯(H)	口(13.4)	床面下2片 図示部写	底部削りは弱く、やや鋭い。体部下半無調整だが、やや平滑。内面ナゲやや縁で、粗い布状具の擦痕あり。	①素地普通。輝石・バミスマじりの砂粒、やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。赤色味をおびるムラあり、一様でない。
11 杯(H)	口(15.8) 底(8.0) 高 4.3~5.1	中央床直上 口縁写 底部写	口縁の歪み著しく形状一定せず。削りは体部で鋭く、底部やや弱い。内面平滑で蓋部広く平坦。	①素地普通。輝石まじりの砂粒若干含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/3。赤色味や明度の低いムラ多く一様でない。
12 鉢(H)	口(23.4)	中央床直上15cm 図示部写	内面に積積み痕状の凹凸残る。外面削落多く不明瞭だが削りは粗い。口縁縁内面は、内面平滑。	①素地普通。輝石まじりの砂粒きわめて多い。②酸化焰、やや軟調。③橙7.5YR7/6。ムラ少ない。④口縁内面にのみ、凍てハゼを見る。
13 土罐	長 5.5 径 2.4~2.1	中央床直上 完形	端部付近に鋭い指頭圧痕残る。断面は隅丸の四角に近い形状だが、孔は歪みない。	①土罐としては粗く、輝石等のまじり砂粒の混入や多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。黒色味強いムラあり。
14 土罐	長 3.1 上径 0.5 下径 0.9	床面下 完形	平面は円盤形状になり、孔も下側でやや広い。器面は平滑で整形痕観察できない。	①素地普通。砂粒を少量含む。②酸化焰、普通。③灰黄2.5Y7/2。ほぼ一様。④下側のみ使用痕である強い削落あり。



## 1 竪穴住居跡出土遺物

15 不明隕石 製品	長 6.8 幅 5.5 厚 3.2	埋土 完形	扁平円盤を加工せずに使用。	①隕石(ニッポン)。④其他方向をほぼ一方にやや扁平の断面半円形の溝が走る。棒状品の研削に使用か。
16 鉄鏝	根幅 3.38 厚 0.77 寛被幅 1.53 重被厚 0.69	床面下 寛被は基部のみ 根幅は完形か	根の両端欠け脇袂の形状不明だが水平に広いと思われる。度感と根中央は段差なく繋がる。	①地金の材質良い。④錆化の影響は少ない。

## II区 38号住居跡 (第59図 PL.68)

No.・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(10.2) 底 5.9 高 5.2	中央西側 口縁欠く	右回転クローロー回へつか。底部は雑で不規則なナデで切離し痕不鮮明。横ナデやや弱い。	①素地普通。チャート状の細礫まじりの砂粒若干含む。②還元焰、やや軟調。③青灰5B6/1。ほぼ一様。
2 杯 (S)	口(10.6) 底(8.8)	埋土 図示部欠	右回転クロー。横ナデ固く外面は平坦な感じ。	①素地やや粗く、細礫・輝石まじりの砂粒やや多い。②還元焰、硬調。③灰7.5Y6/1。外面に一部青色味をおびるムラあり。
3 砥石		埋土 半欠品	断面糸巻き状の半欠品で、小口を除く4面使用と思われる。割口は無使用。	①砥沢石。2mm大の鉄錆色をした鉱物が含まれていることが、割口から観察できる。
4 不明鉄製 品		埋土 完形か	3つの端は平直で割口になるかは不明。上方には強く引き上げた時にできるような反りがある。断面中央は空洞。	①錆化進むが鉄地金は良質で、ヒビ割れはない。

## II区 40号住居跡 (第61図 PL.68)

No.・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 13.0 底 6.1 高 3.8	中央床直上2片 口縁欠く	右回転クローロー回系・無調整。クローロー強いが内底は平坦。口縁は緩やかな波状の重み。	①素地やや粗い。細礫・輝石まじりの砂粒若干含む。②還元焰やや不充足。やや軟調。③灰黄2.5Y7/2。黒褐色や赤色味のムラあり一様でない。
2 瓶 (S)	底(13.6)	埋土 図示部欠	右回転クロー。クロー直は内面のみ。外底は雑な削りで、切離し痕跡なし。成形でのクローロー使用は考え難い。	①素地普通。チャートまじりの細礫・黒色鉱物目立つ。②還元焰、やや軟調。③灰N5/0。外面一部若干黄色味をおびる。
3 甕 (H)	口(20.0) 頸(18.6) 胴(22.8)	埋土4片 上半片 下半片	接合痕は輪痕み状で、体部下半に合わせ痕あり。外面丁家でやや鋭い削り。内面幅太工具の丁寧なナデ。	①普通。細礫やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。④先端部にわずかに摩滅痕がみられる。又器面に幅5mm大の先端の鋭い稜歯状のもので刺突した痕跡あり。
4 土鋸	長 4.0 厚 1.6 重 8.5g	埋土 完形	粗いナデ。	①素地普通。粗砂を含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。④先端部にわずかに摩滅痕がみられる。又器面に幅5mm大の先端の鋭い稜歯状のもので刺突した痕跡あり。

## 遺物観察表編

## II区 41号住居跡(第63図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀(R)	台 7.8	埋土 底面平写 体部写	右回転ロクロか、外底中央に糸切り痕の可能性のある摺痕あり。ロクロ使用高台取付。ロクロ痕は丁寧できわめて固く、器面平滑。全面に緑釉。	①素地緻密。細砂以外混入物少ない。気泡僅かにまじる。②いむゆる軟陶。③断面に白い橙7.5YR7/3。輪は淡い黄緑色。
2 杯(S)	口(13.0)	カマド内床直上 図示部写	右回転ロクロ。横ナゲ固く砂粒の移動少ない。内面やや平滑。	①素地やや粗い。細線やや目立つ。②還元焰、やや軟調。③灰7.5Y6/1。内面彩度高い。内外面に赤色味をおびた火ダスネ状の部分あり。
3 椀(S)	台(7.4)	中央床直上 図示部写	右回転ロクロ。高台丁寧な取付。内底縁辺に重獲きの高台痕か、沈線が廻りその外側に降灰輪。	①やや緻密。黒色鉱物散見。細砂含む。②還元焰。やや硬調。③灰白7.5Y7/1で一種。輪は緑黄色。
4 椀	台(9.4)	カマド内床直上 底面写 高台写	右回転ロクロか→回転利用丁寧な高台取付。器面互れて観察難しい。	①やや粗く。輝石・パミス・細線まじりの砂粒多い。②二次火熱の影響強く、不明。③灰オリーブ5Y6/2。一部で赤色味強い。④胎面滑化する。
5 壺(H)	口 24.1 頸 19.1	カマド内床直上 図示部写	接合痕より輪積みか。口縁外面、無調整。体部外面強い削り。内面横位ナゲで丁寧に仕上げる。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③に白い橙5YR7/4。明度の低いムラ広い。

## II区 42号住居跡(第64図 PL.68)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口 13.1 底 6.3 高 4.1	貯蔵穴内中位 ほぼ定形	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕やや弱く、内面では見えない。口縁に小さな波状の歪みあり。	①素地やや粗い。輝石まじりの砂粒やや多い。②還元焰、軟調。③灰5Y7/1。ほぼ一色。④外底縁部厚減すむ。
2 杯	口(13.2) 底 5.4 高 4.7	中央床±10cm 口縁上半写欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。口縁内端工具による小さな凹みあり。ロクロ痕きわめて弱い。底部をつかみにくく、傾き不安。	①素地普通。細線散見の細砂まじる。②中性焰、普通。③に白い黄橙10YR7/3。明度・彩度低い部分や赤色味強い部分などまらちる。④接地部分が著しく厚減。
3 椀(S)	台(5.8)	埋土 図示部写	右回転ロクロ→回糸→回転利用丁寧な高台取付。ロクロ痕弱い。	①素地やや緻密。チャートまじりの砂粒若干含む。②還元焰、やや硬調。③灰N5/0。一種。
4 杯(H)	口(16.6) 底(8.8)	貯蔵穴内中位3 片 図示部写	厚減すすみ観察難しい。厚手で軽量。外面幅広い鋭い削り。内面横位の丁寧な研削。	①素地緻密。輝石・細線散見の砂粒若干含む。②酸化焰、やや硬調。③に白い橙5YR7/4。明度・彩度ともまらちる。
5 壺(H)	口(18.0) 頸(16.2)	中央床直上2片 図示部写	輪積みか。厚手でガッシリしている。外面側部の屈曲部は工具により作り出す。外面削り、内面ナゲにも強い。	①素地普通。輝石・細線まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③に白い橙7.5YR7/4。内面やや赤色味をおびるが、ムラは少ない。

## II区 43号住居跡(第66図 PL.68)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(11.8)	埋土3片 口縁写 底縁部写	外底削りやや鋭い。内面横位ナゲは布状具の粗い摺痕。	①素地普通。砂粒、やや多い。②酸化焰、やや軟調。③黒褐色7.5YR3/2。断面明度高い。④口縁端部の剥落すむ。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

2 小型壺 (H)	口(10.0) 頸(9.4) 高(10.2)	北壁下床下10cm 写個体、底部完 存	口底だが内底は比較的平坦。外面削り は鋭いが表面摩滅し不明瞭。内部内面 きわめて平滑。	①緻密。少量の砂粒以外夾雑物まれ。②酸化焰、や や軟調。③焼7.5YR7/6、内面やや彩度低い。④内底 ガタガタしいスス状付着物あり。
3 壺(H)	口(16.4)	中央西寄床直上 と床土5cm 顯示部写	輪積みか。口縁歪み強く、口径・傾き 不安。外面の削り強い。内面は横位の ナデだが不明瞭。	①束地粗く、輝石まじりの粗砂きわめて多い。②二 次火熱の影響強い。③にぶい黄橙5YR6/4、内面彩度 低く、断面赤色味をおびる。
4 壺(H)	口(18.0) 頸(14.8)	中央床直上7片 顯示部写	外面削り粗い。口縁のナデ粗く器面に 凹凸。内面はナデ粗いが平滑に仕上る。 歪みあり口径不安。	①3に近似。夾雑物は更に大粒。②酸化焰、やや軟 調。③にぶい橙7.5YR7/4、内面やや赤色味をおび る。
5 壺(H)	口(22.4) 頸(19.4)	北壁下床下10cm 14片 顯示部写	外面削りやや強く、器面に細かな凹凸 多い。内面調整不明瞭だが平滑に仕上 げる。	①束地やや粗い。輝石・細粒状の砂粒若干含む。② 酸化焰、やや軟調。③暗赤褐5YR3/2、内面やや明 度高い。④外面割部に若干スス付着。
6 壺(H)	口(16.0) 頸(13.6)	中央床直上3片 顯示部写	輪積みか。外面削りやや強く、口縁ナ デは沈澱を作るほど強い。内部ナデは 上半のみ丁寧で、下半器面荒れる。	①束地粗く、バミスの目立つ粗砂多い。②酸化焰や 軟調。③にぶい黄橙10YR6/3。外面に赤色味や黒 灰のムラ多い。④二次火熱を受ける。
7 壺(H)	口(19.0) 頸(15.6)	中央床直上 顯示部写	外面削りは粗い。口縁のナデは横で強 い。内面に強い押圧。内面横位のナデ は粗く、器面平滑さ欠く。	①3、4に同じ。②二次火熱の影響強い。やや軟調 の酸化焰か。③にぶい赤褐2.5YR5/4、一部明度低 い。内面は黄色味強い。

## II区 44号住居跡(第67図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺(H)	口(14.2) 頸(20.4)	カマド内と埋土 顯示部写	輪積みか。外面削り鋭い。頸部付近に 無調整部分あり。内面削りナデで器面 に凹凸あり。口縁歪み、口径不安。	①束地やや緻密。輝石・バミスマじりの砂粒を若干 含む。②酸化焰、硬調。③にぶい黄橙10YR7/4、や や赤色味をおびるムラあり。

## II区 45号住居跡(第68図 PL.68)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺(H)	口(15.0)	東壁下床直上 顯示部写	外面丁寧なハケ目。内面ナデもハケ目 状の擦痕で、平滑さ欠く。口縁ナデ丁 寧。器形いびつで径・傾きとも不安。	①束地普通。赤褐色鉱物目立つ砂粒やや多い。②酸 化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4、外面黒色部分 広い。
2 杯(H)	口(13.2) 高5.7	埋土2片 写個体 底部ほぼ完存	輪積みか。外面削り強く細かい。外面 口縁下半無調整で型磨きだが平滑。内 面は榎木の鋭い斜位磨きで器面凹凸。	①束地やや粗い。赤褐色鉱物まじりの砂粒少量含む。 ②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4、内面やや 彩度低いが、ムラ少ない。
3 器台 (H)	脚上3.0	埋土 顯示部完存	脚部に杯部を接合。脚に4孔を穿つが 規則性欠く。内面器面凹凸多い。	①束地普通。チャートの多い細粒目立つ。②酸化焰、 普通。③にぶい橙7.5YR7/3、ほぼ一様。
4 碗	口(15.0) 台(7.4) 高5.8	埋土4片 写個体	右回転クロー回転利用丁寧な高台取 付。クロー底細かく、弱い。内面やや 雑な研磨で上端まで及ばない。	①束地やや粗く、砂粒やや多い。②中性焰か、やや軟 調。③内面黒色地層だが先鋭弱い。外面にぶい黄橙 10YR7/2、上半に明度の低いムラ広い。④内底の割 落がすずむ。
5 碗	台上6.8	埋土2片 口縁下半写 底部完存	手づくねか。内面に強い指痕直で器面 凹凸。高台と外底は同心円状にナデ。 外面削り削り。	①束地やや粗く、砂粒夾雑多い。②中性焰か、軟調。 ③にぶい黄橙10YR4/3、内面断面は、明度低い。

遺物観察表編

6 壁	口(14.8)	埋土2片 図示部写	輪積み。外面強く雑な削りで、器面に凹凸。内面丁寧なナデで平滑。口縁はいびつで口徑不安。	①素地普通。細礫・バミス・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焙、やや軟調。③外面黒褐色10YR3/1。内面浅黄褐色10YR8/2。
7 甕(H)	口 20.3~19.9 頸 16.2 底 6.0	東壁下床直上 口縁と底部完存 胴部写 体部下半写	輪積み。外面粗狭でナデに近い弱い削り。内面雑で、上半に接合痕顯著。下半で強い削りがある。底部は凹凸あり正置で安定欠く。	①素地やや粗く、チャート・バミスまじりの粗砂含む。②酸化焙、やや軟調。③にぶい褐色7.5YR6/3。明度・彩度とも低いムラ多い。内面やや黄色味をおびる。
8 甕(Y)		胴上部	胴部付近に薫状文。胴に櫛溝波状文を施す。施文は上→下。施文具は10本単位の櫛1種。内面はへく磨き。	①きめが粗く、粗～細砂を含む。②普通。③器面は褐色10YR5/1。器壁にはいぶい褐色7.5YR7/3。

II区 46号住居跡(第70図 PL.68)

No.・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付皿 (K)	台 8.2	北東壁下床土9 cm 図示部写	右回転ロクロ→回転利用高台取付。器面平滑でロクロ痕殆ど残らない。内底縁辺に重焼き高台痕あり、その外側に降灰輪。外面施釉方法不明。	①緻密。黒色軟物散見。②還元焙、硬調。③灰白5Y8/1で一種。灰輪は外面薄く透明で、若干白色味をおびている。内面降灰輪は灰褐色。
2 椀(K)	口(14.8)	埋土4片 図示部写	右回転ロクロ。口縁端部肥厚し、外壁は下方よりへく状工具で整形。輪は全面にあり、施釉方法不明。	①緻密。白色軟物散見。②還元焙、硬調。③灰白N8/1。輪は外面透明、内面灰緑色で降灰輪もまじるようだ。
3 杯	口 13.1 底 5.3 高 4.6	北西隅床土5cm 口縁写 底部写	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕大きい。内面細かくやや雑な磨きで、すき間が上半中心に多い。	①素地やや粗く、砂粒少量含む。②中性焙か、軟調。内面黒色処理。③にぶい褐色7.5YR6/3。明度の高低まちまち。内面黒色で光沢あり。
4 杯	口(15.0)	カマド内床下8 cm 図示部写	右回転ロクロ。ロクロ痕強い。外面下床の削りは高台取付時のものか。内面研磨は丁寧。	①素地粗く、輝石まじりの砂粒やや多い。②中性焙か、普通。③にぶい褐色7.5YR7/3。外面は上方ほど明度低い。内面黒色処理だが不十分で底部のみ黒色となる。
5 椀	口(10.9)	カマド内4片 口縁写 底部写	器面荒れてロクロ痕不明瞭。右回転ロクロか。高台取付丁寧。内面同心円状の丁寧な研磨。	①素地やや緻密。白色の尖鋭軟物やや目立つ砂粒含む。②中性焙か、軟調。③黒褐色5YR2/2。一樣でない。内面黒色処理だが光沢弱い。
6 椀	口(13.6~14.8) 台 8.6 高 7.2~6.3	南東隅床土5cm 3片 口縁写欠く	左回転ロクロ→回転の丁寧な高台取付。ロクロ痕は内底のみ強く、同心円状。口縁の歪み著しい。	①素地やや粗く、バミス・石英散見の砂粒やや多い。②中性焙か、やや硬調。③にぶい褐色7.5YR6/3。上半は明度低く、内面は黄色味をおびる。
7 椀	口(14.2)	北壁裏出部断面 直上2片 口縁写 底部写	外壁に煎り状のヒビあり。ロクロ使用の痕跡なし。外面上半のナデも、整った同心円状にはならない。中位に指痕。外面の削りは雑。	①素地普通。内面に赤褐色大粒夾雑物目立つ砂粒含む。②酸化焙か、やや硬調。③にぶい赤褐色2.5YR5/4。内面浅黄褐色7.5YR8/4。小さなムラあり。④口縁内端で摩滅剝落見られる。
8 土釜	口(24.2) 胴(25.4)	カマド内 図示部写	縦積み痕の凹凸より巻上げか。外面削り弱い。内面粗い布状具の強い磨痕。口縁に小さな歪みあり径不安。	①素地粗い。細礫のやや目立つバミスまじりの砂粒含む。②中性焙か、やや軟調。③にぶい黄褐色10YR7/3。外面下半は赤色味強い。
9 鉢	台(22.0)	カマド内 図示部写	器面の凹凸の流れより巻上げか。内外面ともへく磨き。外面は幅広く粗く、削りの痕が残っている。	①素地やや粗い。輝石・バミス・石英まじりの粗砂やや多い。②酸化焙か、やや軟調。③にぶい褐色7.5YR7/3。ムラ多い。内面黒褐色。光沢なし。
10 甕か	底(18.2)	埋土 図示部小片	輪積みか。外面ごく弱く、下床に強いナデ。内面丁寧なナデで平滑。下床に強い削り。厚手で重量感あり。	①素地粗く、輝石・バミスまじりの砂粒含む。②酸化焙か、やや硬調。③にぶい褐色5YR7/4。ムラ少ない。

## II区 47号住居跡 (第71図 PL.68)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(11.6)	東壁下床土5cm 図示部写	外底面かな削り。口縁下半無調整部分は型腐状。器面に歪みあり口径、傾きとも不安。	①素地やや粗く、輝石・石英まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。内面やや黄色味をおびるがムラ少ない。
2 杯 (H)	口(13.0)	南東隅床直上5片 写個体。	外面削りは弱く不規則。内面及び口縁外面のナデはやや鋭い同心円状の溝痕が残っている。	①素地やや粗く気泡が入る。輝石・バミスマじりの砂粒、やや多い。②酸化焰、硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。外底に黒色広い。
3 壺 (H)	口(25.0) 頸(19.2)	中央床直上5片 図示部写	輪積みか。外面の長い丁寧な削り。内面不明瞭なナデだが平滑。口縁のナデ弱く、接合痕明瞭に残る。	①素地普通。輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰。二次火熱の影響で、外面やや脆弱化。③にぶい橙5YR7/4。明度のやや低い細かなムラあり。

## II区 48号住居跡 (第72図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (H)	口(16.2) 頸(14.2)	埋土2片 図示部写	外面削りやや強く、口縁のナデも粗く器面がザガサ。内面は横位丁寧なナデで器面平滑。	①素地やや粗く、細塵・バミスマ・輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。内面やや赤色味をおびる。

## II区 49号住居跡 (第73図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付皿 (K)	口(13.6) 台(7.0) 高2.8	埋土2片 図示部小片	右回転クロー→回転利用高台取付で外面口縁下期に回転へ削り状の磨痕。内面平滑。軸は溝削りでやや厚い。小片からの復元で不安。	①きわめて緻密。細砂若干含む。②還元焰、硬調。③灰白N8/0。軸は乳白色で、内面の磨痕が緑色味をおびている。
2 椀 (S)	台(8.6)	埋土2片 底部写 高台若干	右回転クロー→回転→回転利用やや遅な高台取付。内底では口クロ痕や強い。	①素地やや粗い。乳白色の細塵目立つ砂粒含む。②還元焰、普通。③暗青灰5B4/1。ほぼ一様。

## II区 50号住居跡 (第75図 PL.68)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口15.6~15.0 台8.1 高6.7	東壁際床直上 口縁上半写欠く	右回転クローか。外底には高台取付時の工具痕が同心円状の鋭い沈線として残る。口クロ痕や強い。内面研磨や丁寧な黒色処理。	①普通。赤褐色鉱物・輝石など夾雑物多量な砂粒やや多い。②中性焰か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。赤色味おびる小さなムラあり。内面と口縁外縁、黒色で弱い光沢あり。
2 椀	口(15.8) 台7.7	カマド焚口付近 図示部写	右回転クローか。回転利用高台取付。口クロ痕弱く細い。内底二方向からの目の細かなナデで平滑。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・輝石のまじる砂粒含む。②中性焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。内面彩度低い。
3 土釜	口(18.8) 頸(18.0) 胴(21.0)	カマド焚口付近 図示部写	輪積みか。外面やや鋭い削り。内面ナデもコテ状の工具使用で、部分的に息長く、鋭い磨痕がある。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物・バミスマ・輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい赤黄5YR5/3。内面やや明度高い。
4 土釜	底(10.0)	カマド焚口付近 6片 図示部写	輪積みか。器面厚減し整形不明瞭。外面削りは粗太だが弱い。内面は指頭による、やや強いナデか。	①素地やや粗い。バミスマの多い砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。二次火熱受け器面脆弱化。③にぶい黄橙10YR7/4。外面明度低いムラ広い。

遺物観察表編

II区 51号住居跡 (第77図 PL. 69)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (K)	口(16.0) 台(7.8) 高 5.9	南壁下床土 6cm 写簡体	右回転ロクロか。外面中位近くまで同回転上のヘラ削り。ロクロ痕強い。内底縁部に重焼きの高台痕あり。軸は直掛けで内面は降灰軸もあり濃い。	①極めて緻密。白色鉱物散見。②還元焰、硬調。③灰白10Y8/1で一律。軸は透明で光沢あり、降灰軸はオリイオブルー味をおびる。
2 甕 (H)	口(20.4) 頸(18.2)	南壁下床土 7cm 図示部写	輪積みか。口縁外部外面不規則な比類通り、内面鋭い擦痕。外面頸部下半無調整で指摺凹痕あり。内面ナゲ丁寧。	①素地やや粗く、バミス・磁障等種多な夾雑物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい。④灰7.5YR7/4、内面彩度やや低い。
3 羽釜	口(23.4) 踵(26.4)	南壁下床土 7cm 図示部写	右回転ロクロ。ロクロ痕外面で強いが鋭く欠く。踵の取付丁寧でロクロ使用と思われる。	①素地やや粗く、細密・赤褐色鉱物の目立つ砂粒含む。②中性焰か、硬調。③灰白5Y8/1。内面灰10Y5/1。

II区 52号住居跡 (第79図 PL. 69)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(11.4) 底 12.2 高 4.5	埋土10片 口縁写欠く	口縁内端の凹みは小さく、内面ナゲは布状具の鋭い擦痕が残る。外底削りは粗いかい。	①素地やや緻密。粗砂を少量含む。②還元焰、やや硬調。③にぶい赤褐5YR5/4。明度低い部分広く色相もまちまち。
2 杯 (H)	口(12.6) 底(10.4)	埋土 口縁写 底写	口縁外側に比類1条通り、内端に小さな凹み。外底の削りやや弱く、丁寧。内面ナゲは布状具の鋭い擦痕が残る。	①②③1と同一。
3 甕 (H)	口(20.4) 頸(13.8)	埋土 図示部写	輪積みか。外面削り幅太できわめて強い。内面頸部もコナ状の工具による強いナゲ。口縁部のナゲは粗い。	①素地やや粗い。長石まじりの粗砂多い。②還元焰、硬調。④焼7.5YR7/6。ほぼ一律。断面灰色になる。
4 甕 (H)	口(14.0) 頸(11.0)	埋土4片 口縁写 肩部写	輪積みか。口縁ナゲは鋭く、布状具の擦痕残る。外面削りやや弱く、ナゲに近い。内面ナゲ粗いが表面やや平滑。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石等夾雑物種多な砂粒含む。②還元焰、やや軟調。③にぶい赤褐5YR4/3。明度低い部分広く、一律でない。
5 羽口		埋土 小破片	内面平滑で孔の向きと垂直方向に細かな縞状の凹凸あり。外面ガラス化して不明。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②著しい二次火熱のため不明。③浅黄褐7.5YR8/3。外面ガラス質は黒色及び灰白色。

II区 60号住居跡 (第82図 PL. 69)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	径 3.4	埋土 紐共存 天井部写	右回転ロクロ→天井部削り。丁寧な紐の取付。	①やや粗い素地に黒色鉱物・磁障等をやや多く含む。②還元焰、普通。③灰7.5Y6/1。ほぼ一律。
2 皿 (S)	口(13.2) 底 5.7 高 2.2	カマド左脇床上	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕外面でのみ強い。口縁に大きな波状の歪み。	①素地普通。片岩質粗砂・褐色鉱物粒を含み、白色砂粒目立つ。②還元焰、やや硬調。③暗青灰10BG3/1。ほぼ一律。
3 皿 (S)	底(6.8)	埋土 図示部写	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く粗いかい。内底は平滑である。	①素地やや粗い。磁障まじりの砂粒含む。②還元焰、普通。③暗青灰10BG4/1。外面に暗いムラ。

## 1 壁穴住居跡出土遺物

4 椀	口(14.8) 台 7.0 高 6.1	南西隅床直上8 片 口縁欠く	右回転ロクロ→回糸→回転利用雑な高 台取付。ロクロ痕細かく、内面ではほ とんど見られないが、器面は不整。	①素地やや粗い。赤褐色土物目立ち、片岩質組織ま じりの砂粒含む。②中性焰、普通。③にぶい黄緑10 YR7/2。断面は赤色味が強い。
5 椀	口(14.6) 台( 7.0) 高 5.9	埋土 図示部写	右回転ロクロ→回糸→雑な高台取付。 ロクロ痕・横ナデともに弱く不明瞭。 歪みあり径・傾き不安。	①やや粗い。輝石まじりの細砂多い。②中性焰、軟 調。③灰緑10YR2/2。内面に明度高い部分広がる。 いよしとは異なる。
6 椀(S)	口 14.4~13.9 台 5.9~5.6 高 5.6	中央床直上 口縁上半欠く	左回転ロクロ→回糸→回転非利用の傾 いた高台取付。ロクロ痕やや弱い。全 体が大きく歪む。	①素地普通。パミス・組織散見の細砂やや多い。② 還元焰、やや硬調。③明オリブ灰2.5GY7/1。明度 の低いムラあり。
7 椀(S)	胴(29.6) 底(18.0)	埋土 図示部写	輪轆みか。内面不規則な指頭圧痕。外 面は弱いなデだが器面平滑で整形痕残 らない。	①素地やや粗くザラザラ。砂粒の混入多い。②還元 焰、やや不十分。やや軟調。③暗青灰5BG4/1。内面 明度低い。④破損後に二次火熱受ける。
8 土壺	口(27.0) 胴(34.0)	南壁下床直上お よびカマド周辺 肩部写 胴部写	輪轆みか。外面細かく粒でやや強い削 り。内面ナデ雑で、器面平滑さ欠く。 平面はだ円形に歪み、径不安。	①素地やや粗い。赤褐色土物・パミス・輝石等。雑 多な夾雑物含む砂粒やや多い。②還元焰、やや軟調。 二次火熱受ける。③にぶい橙7.5YR7/4。ムラ多く一 様でない。④口縁端部に細かな刺葉集申する。
9 土壺	長 3.9 厚 1.2 重 4.5g	床面 完形	外面の成形痕は見えないが、隅部に 細かなヒビ多い。端部の欠けがない。	①やや緻密。輝石まじりの砂粒少量含む。②還元焰 、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。一様。
10 土壺	長 3.2 厚 1.2 重 3.4g	埋土 完形	外面成形痕は見えない。内面平滑。	①素地普通。粗砂の混入多い。②還元焰、やや軟調。 ③にぶい赤褐2.5YR5/4。一様。
11 土壺	長 3.7 厚 1.0 重 3.6g	床面 完形	成形痕は見えない。一帯がややつぶれ 孔が歪んで、因では拡がっている。	①素地やや緻密。輝石まじりの細砂やや多い。②酸 化焰、普通。③にぶい他5YR6/4。ほぼ一様。
12 土壺	厚 0.9 重 4.4g	埋土 写個体	成形痕は見えない。孔は全体を通じて いびつ。	①素地やや粗く、組織まじりの砂粒を含む。②還元 焰、普通。③にぶい赤褐5YR5/3。明度の低いムラあ り。④割口にも使用痕状の凹みあり。
13 土壺	長 3.9 厚 1.2 重 2.1g	床面 完形	外面に成形痕見えない。端部の欠けは 少ない。	①素地普通。組織まじりの砂粒を少量含む。②還元 焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。一様。
14 土壺	長 4.2 厚 1.1 重 4.2g	床面 完形	外面僅かに指頭痕が残るが、全体に平 滑。端部は一方だけ割口が広い。	①素地緻密。組織散見以外に夾雑物まれ。②還元 焰、普通。③灰褐7.5YR4/2。ほぼ一様。
15 土壺	長 3.5 厚 1.1 重 3.7g	埋土 完形	外面成形痕は殆ど見えず、平滑。	①素地緻密。細砂以外の夾雑物まれ。②還元焰、普 通。③残黄緑10YR8/4。一部赤色味おびる。
16 土壺	長 3.5 厚 0.8 重 2.1g	中央床直上20cm 完形	指頭痕が僅かに観察できる。全体が、 小さくおぼれている。	①素地普通。輝石・チャートまじりの砂粒やや多い。 ②還元焰、普通。③にぶい赤褐5YR4/3。明度やや低 いムラあり、一様でない。
17 土壺	長 3.7 厚 1.1 重 4.0g	カマド前面床直 上10cm 完形	僅かに指頭痕が観察できる。	①②③④9・10・13などと同一。

遺物観察表編

II区 61号住居跡 (第83図 PL. 69)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 罌 (H)	口22.0 頸19.4	カマド内6片 図示部欠	均等に薄手。外面磨りはやや鋭く丁寧だが、器面に細かな凹凸多い。	①素地普通だが、粗砂の混入多く器面ザラザラ。赤褐色鉱物・細塵まじる。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。
2 土鏡	長 4.6 厚 1.8 重 13.5g	埋土 完形	孔は中心をそれて貫通しているが形状に歪みない。両端は鋭く削られる。外面に細かな磨痕あり器面やや不整。	①素地やや緻密。混入物も砂粒以外はまれ。②酸化焰、普通。③表面のみにぶい赤褐5YR5/4。他は浅黄橙10YR8/3。

II区 63号住居跡 (第87図 PL. 69)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 埴 (H)	口 9.0～8.8 頸 7.9～7.7 底 3.0 高 7.6	焼土上 ほぼ完形	輪横み。内面頸部直下に強い接合痕が残る。外面弱く細かなハケ目で口縁部のみ弱くナデ消す。	①素地普通。混入物少なく良好。②酸化焰、やや硬調。③浅黄橙2.5Y8/3。外面に黒斑あり。
2 器台 (H)	口 9.7 脚上 3.3 脚下13.3 高 8.4	埋土 口縁端部欠し頸部欠く	脚部に3孔を穿つが高さは不揃い。外面は細かな縦磨きを施すが不明瞭。脚内面は工具使用の弱いナデだが器面の凹凸は少ない。	①素地普通。細塵・赤褐色鉱物等の少量まじる砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③浅黄2.5Y7/3。赤色味おびるムラあり。脚内面筋度低い。④内底中央と脚下部の剥落が著む。
3 高杯 (H)	脚下(17.0)	P4内床面下7cm 図示部欠	脚上位に3孔を穿つと思われる。外面磨位の弱い磨き。内面はやや強いナデでハケ目状の磨痕が残る。	①素地普通。細塵・赤褐色鉱物・石英等混入物や多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。内面やや赤色味をおびる。
4 高杯 (H)	脚上 2.8 脚下 8.6～8.3	北壁下床直上 図示部ほぼ完存	外面細かく削り削り。脚内面に幅広いハケ目状擦痕広がる。内底ナデはハケ目状擦痕残るが平滑に仕上げ、高杯か。	①素地普通だが、土灰や赤褐色鉱物含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。赤色味・黒色味のムラ多く一様でない。
5 小型甕 (H)	口 15.2～14.9 頸 6.7～6.4 割 12.9～12.5 底 2.4 高 12.6	焼土盛床直上 口縁欠く	輪横みか。内面は接合痕明瞭で、外面も粘土紐状の凹凸残る。外面と口縁部のへら磨きは強く、頸部付近で息短かい。底部不安定で重り悪い。	①素地やや緻密。細砂含む。混入物少なく良好。②酸化焰、普通。③灰黄2.5Y7/2。及び黒色。弱い光沢あり。断面も黒色味強い。
6 鉢 (H)	口(12.2) 高 4.4～4.0 底 5.1	埋土 口縁欠 底部完存	手づくねか。平面形はだ円形に近む。内面ナデはハケ目状のやや鋭い磨痕を残す。外面方向不定のナデ。	①素地やや粗く、白色砂粒等混入している。②酸化焰、普通。③灰白2.5Y8/2。黒斑内外面に広い。断面黒色味強い。
7 小型甕 (H)	口(15.2) 頸(11.2)	P4内底面 図示部欠	胴部外面粗い磨きで、頸部にハケ目が残っている。内面ナデもやや丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物・石英まじりの砂粒を含む。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。断面は黄色味強い。
8 甕 (H)	底 5.6	北壁下床直上 図示部中、胴中位欠く	輪横みか。底部は高台状に中央凹む。内面やや粗いハケ目。外面細かなハケ目状に不明瞭なナデ。	①素地普通。ダスト状。細塵少量含むが混入物少ない。②酸化焰、やや軟調。③浅黄橙10YR8/3。黒斑あり。内面黒黄10YR3/1。
9 台付罌 (H)	口 19.8 頸 17.2 割 26.0	西壁下床直上9cm 口縁欠 胴部欠	外面ハケ目は幅広く丁寧。内面不明瞭だが器面の凹凸多い。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物・パミスまじりの粗砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。下平は黒褐色。④二次火熱の影響強い。
10 台付罌 (H)	台上 5.8 台下10.0	中央床直上10cm 図示部中胴部欠く	外面胴部はハケ目不明瞭。脚部は丁寧な縦位のナデ削し。脚内面には指痕の強い強い磨痕残る。内底中央砂粒多い。	①素地やや緻密で、赤褐色鉱物等の混入物も少ない。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。内面黒色味強い。④内底中央鈍する。



## 1 竪穴住居跡出土遺物

11 台付礎 (H)	口(17.0) 類(15.0) 胴 22.8	中央床直上 図示部瓦	外面ハケ目やや細かく紐で一部に無調 整部分残す。内部斜位のナデでやや平 滑に仕上げられる。	①素地普通。赤褐色鉱物・バミスまじりの粗砂含む。 ②酸化焙、やや軟調。③にぶい黄緑10YR7/3。口縁 付近で赤色味、下半で黒色味をおびる。
12 台付礎 (H)	口 14.1~13.6 胴 22.2~21.7 脛上 6.1 脛下 9.6	北壁下床直上 図示部中心縁瓦 割部瓦欠く	口縁部やや直立気味となる。外面ハケ 目は細かく紐。内面は指頭による強い ナデで器面に凹凸できる。	①②11に同じ。③にぶい橙7.5YR7/3。中位以下は黒 褐色。④二次火熱の影響著しく器面脆化。内外面 下半に薄くスス付着。
13 台付礎 (H)	口 13.9~13.4 類 11.7 胴 22.0 脛上 6.0 脛下 9.5 高 25.8	北壁下床直上 ほぼ定形	外面ハケ目は細かく強く、台部下半で は横位ナデで滑している。台部内面は 指頭の強いナデが残る。内面ナゲやや 丁寧で器面の凹凸少ない。	①素地普通。細碎・黄白色粗砂等夾雑物多い。②酸 化焙、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。黄・赤色味のム ラ広く一様でない。④内面中位以下にスス状の薄い 付着物。外面下半も二次火熱ですける。
14 礎(H)	口(12.2) 類(10.2) 胴(14.4) 底 5.2	北壁下床土7cm 底部完存 他は 瓦	輪痕みか。割部は器面摩滅著しく整形 痕不明瞭だが、細かなハケ目が見られ る。	①素地普通だが、バミス・輝石等の夾雑物多い。② 酸化焙、二次火熱の影響著しく、不明。③にぶい赤 褐5YR4/3~黒褐5YR2/1。一様でない。④内面下半 に著しい剥落見られる。
15 小形礎		埋土 口縁一体 部約瓦	口縁は横位ナデ。体部外面ナゲ、内面 は板状具によるナゲ。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物・石英・輝石等を含む。 ②酸化焙。③にぶい橙5YR7/4。
16 (Y)		割部	横位縄文。内面ナゲか。原形はRL。	①きめ粗く、白色・無色・赤褐色粒の粗砂多い。 ②やや軟調。③橙2.5YR6/6。
17 礎(Y)		埋土 類部	横位縄文。内面ナゲ。原形は附加未第 1種LR+2R。	①長石・輝石の粗粒が多い。②やや還元ざみ。③明 褐色~灰褐色。

## II区 64号住居跡(第90図 PL.70)

№・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(11.4) 底( 5.4) 高 3.7	カマド右脇床直 上	右回転ロクロ一回糸無調整。ロクロ痕 細かく、やや強い。内底やや不整。	①素地やや粗くザラザラ。金罍母、赤褐色鉱物等の 夾雑物多い。②還元焙か、やや硬調。③灰白10YR8/ 2。
2 杯	口 11.5 底 5.2~5.6 高 3.8	埋土 口縁瓦欠く	右回転ロクロ一回糸無調整。ロクロ痕 弱い。厚手。口縁に小さな歪み。	①素地やや粗くザラザラ。バミス・輝石まじりの砂 粒多い。②還元焙か、やや硬調。③灰白5Y7/1。外底 付近黄色味をおびる。
3 杯	口(13.6) 底( 6.1) 高 4.8	埋土 図示部瓦	2に同巧。内面はロクロ痕弱い。	①②は2に同じ。③浅黄橙10YR8/3。彩度の低いム ラあり。
4 杯	口(13.8) 底( 5.0) 高 3.8	埋土 口縁瓦 底部ほ ぼ完存	右回転ロクロ一回糸無調整。ロクロ痕 弱い。口縁の外反強い。	①素地普通。バミス・長石多く、細砂も混入。②中 性焙か、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。内面黒色味 強い。
5 椀	口(14.0)	西壁直下床直上 図示部瓦	右回転ロクロ切離し不明→ロクロ使 用高台取付。ロクロ痕細かく、内面特 に平滑。	①素地普通。細碎やや目立つて夾雑物少ない。②還 元焙やや不十分、普通。③黄緑2.5Y8/3。④高台割落 後も使用し、削口摩滅する。
6 椀	台( 8.4)	埋土 図示部瓦	右回転ロクロ切離し不明→回転再用 高台取付。ロクロ痕強い。高台端部外 方へやや肥厚。	①素地やや粗い。細砂まじりの砂粒含む。②還元焙、 やや軟調。③灰白5Y8/1。外底は暗い。
7 羹(H)	口(20.0) 類(19.0)	カマド右脇床直 上 図示部瓦	輪痕みか。外面に水平な接合痕残る。 外面割り強く、器面凹凸。内面ナゲは やや細。口縁の歪み強い。	①素地普通。細碎・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。 ②酸化焙、やや軟調。③浅黄橙10YR8/3。外面明度 低いムラあり。

遺物観察表編

8 甕 (H)	口(16.4)	埋土 図示部写	接合痕より輪秩みか。口縁部外部面に比隣通り、外面の削り、内面のナデとともに強い。	①赤地普通。赤褐色鉱物まじりの細砂多い。②酸化焰、やや硬い。③にぶい橙5YR7/4。内面黒色味をおびるムラあり。
9 甕 (H)	口 18.9~18.4 頸 17.1 胴 21.3	カマド内床直上 図示部写	輪秩み。口縁に強い歪み。外面削り強い。体部内面ナデ丁寧で接合痕顕著。	①赤地やや粗く、粗砂多く混入する。②酸化焰、普通。③灰黄2.5Y8/3。
10 砥石	長 4.7 幅 2.5 厚 3.0~2.6	埋土 ほぼ定形	四角柱状の6面使用だが、1面だけ不明瞭。研ぎ廻りは長軸に平行と垂直方向の両者あり。	①砥沢石。②灰白2.5GY8/1。表面の大半は鉄分の酸化により錆色を呈す。③磨痕はごく弱い。
11 土罐	長 4.6 厚 1.0 重 4.18	埋土 完形	指頭痕が僅かに観察できる。中央部に陥没があるが、内外面とも全体に平滑。	①赤地は緻密。②酸化焰、やや軟調。③灰黄2.5Y7/2。

II区 65号住居跡 (第91図 PL.70)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	口 16.5 頸 13.8 胴 23.0~22.3 底 6.2 高 24.9	南壁下P2内床 下10cm 胴部写欠く	輪秩み。外面摩滅し不明瞭だが、一部でハケ目状の弱い削りを施すようだ。口縁に放状の歪み。外底不整。	①赤地普通。3mm程度の細粒灰雑し、やや削い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。外面下半磨褐色。④二次火熱受け下半中心に脆弱化。
2 小型壺 (H)	口(15.4) 頸(12.0)	南東隅中央寄床 直上 図示部写	輪秩み。口縁ナデは粗い布状具の磨痕が残る。外面削りは細かく丁寧。内面ナデは強いが雑で接合痕顕著に残る。	①赤地普通。黒色鉱物・輝石まじりの細砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に広い黒斑あり。
3 管玉	長 2.2 径 0.53	埋土 完形	筒小口側は平行になっていない。両方向から穿孔するが、中心を外れる。	①硬玉か。④表面に細かなヒビが多い。

II区 66号住居跡 (第93図 PL.70)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	口 16.3~16.1 頸 13.4 胴 21.0	中央北寄床上13 cm 図示部写	輪秩み。接合痕は内面で顕著に残る。外面削りは下半のみ強い。内面ナデは幅広工具使用で上面のみ丁寧。	①赤地普通。細粒・パミス等の混入物やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/2。口縁および断面の赤色味強い。④二次火熱受ける。外面胴中位の細かな割傷多く、下半はすぼい。
2 小型壺 (H)	口 6.3~6.0 胴 8.1 底 4.6 高 6.3	中央北寄床下15 cm ほぼ定形	外面口縁に粘土粒の強い接合痕顕著。外面と口縁内面に細かいハケ目残る。外底中央やや凹み輪高台状。	①赤地普通。パミス・輝石まじりの細砂やや多く含む。②酸化焰、やや硬調。③灰黄褐7.5YR8/3。外面に薄い黒斑あり。内面やや暗い。
3 甕 (H)	口(15.8) 頸(13.0)	中央西寄床直上 図示部写	削り、ナデとも強いが、器面の凹凸少ない。口縁に強い歪みあり、径・瓶高不安。	①赤地普通。赤褐色鉱物・細粒・輝石等種多変種物を含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3でほぼ一様。
4 高杯 (H)	口(17.4)	焼土内床直上 口縁写と脚部欠く	厚手で重量。器面の摩滅進み整形痕不明瞭。外面に陥没の磨きか。内面はやや平滑に仕上げる。	①赤地普通。ダスト状。赤褐色鉱物・輝石・パミス等の混入物多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙2.5YR6/4。④強い二次火熱を受ける。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

## II区 67号住居跡(第94図)

No.・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗	口(14.4)	カマド竪口床直上 図示部写	右回転ロクロ。ロクロ板外面のみやや強く、口縁内面粗い布状目の磨痕が残る。高台が付くと思われる。	①赤地粗くザラザラ。輝石・黒色鉱物多く混入する。 ②中性焰か、普通。③にぶい黄橙10YR7/4でほぼ一様。

## II区 68号住居跡(第96図 PL.70)

No.・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀(K)	台(7.6)	カマド内床直上 図示部写	右回転ロクロ→回糸→回転利用丁寧な高台取付で、切離し痕はナゲ消す。ロクロ痕細かく弱い。軸は漢掛け。	①緻密。細砂以外の夾雑物は少ない。②還元焰、普通。③灰白7.5YR/1。軸は灰緑色で外面は白色味をおび、きわめて薄い。
2 椀(K)	台(6.8)	埋土 図示部写	右回転ロクロ→回転利用の丁寧な高台取付で切離し痕ナゲ消す。外面体部下端に回へう状の磨痕。軸は不明瞭。	①赤地緻密。夾雑物少ない。気包含みクプを生じる。②還元焰、硬調。③灰白N7/0。軸は降伏状で内面のみ灰緑色。
3 碗	口 12.7 台 6.8 高 5.0	中央床直上6cm 口縁欠く	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用やや雑な高台取付。ロクロ板弱く、器面平滑。高台端部に細かな凹凸あり。	①やや緻密。細砂を含む。他の混入物まれ。②中性焰か、やや軟調。③灰白2.5YR/2。赤味をおびるムラあり。外面に薄い黒斑状のムラあり。
4 杯	口 11.9~11.6 底 5.2 高 4.3	埋土 完形	右回転ロクロ→回糸か。ロクロ痕は弱く薄。口縁外端のナゲ強く沈凹状の凹み通る。厚手。	①赤地粗く、器面ザラザラ。バミス・細砂等の混入多い。②還元焰か、やや軟調。③灰白10YR8/1赤色味をおびるムラあり。内外面に魚鱗状の黒褐色のムラあり。
5 土皿	口(20.4) 頸(18.6) 胴(21.8)	カマド内床直上 2片 図示部写	輪轆のみ。外面やや粗く雑な削りで、器面に凹凸あり。口縁ナゲやや雑。内面ナゲは工具による忌長い磨痕残る。	①赤地粗くザラザラ。バミス・金雲母・黒色鉱物等の混入多い。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。外面に細いムラ広い。
6 土罐	厚 1.2 重 2.0g	埋土 中央部分写	成形痕不明瞭。内面は平滑。	①赤地普通。バミスじりの砂粒少量混入。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。内面は橙褐色味強い。

## II区 69号・70号住居跡(第97図)

No.・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 罍(Y)		埋土 口縁	口縁下に直線文、頸部に連続山形文を施す。内面は整形不明。施文具は磨I種。	①白色・無色の細粒～粗砂が多い。②やや軟調。③橙7.5YR6/4。
2 罍(Y)		埋土 頸部	直線文と波状文とを上下に交互施文。別部は調文。施文具は7本単位の磨I種。施文順は上から下。内面ナゲ。	①きめ粗く、長石・輝石の粗～細粒が多い。②やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。
3 罍(Y)		頸部	胴との境に直線文の後、頸部に波状文を重ねる。施文具は9～10本単位の磨I種と思われる。施文順は下から上。内面ナゲ。	①きめ粗く、長石と石英の粗粒多い。②普通。やや還元焰。③黒褐7.5YR3/1。
4 罍(Y)		埋土 頸部	波長の短い波状文を重ねる。内面は粗い磨き。施文具は9本単位の磨I種と思われる。施文順は上から下。	①きめ粗く、石英の粗粒が多い。②普通。③黒褐7.5YR3/1。

## 遺物観察表編

5 壘 (Y)		口縁	口唇と口縁全体に横位縄文。原体は結束1種で附加条第1種のL R + 2 RとR L + 2 L。	①長石・チャートの細礫～粗粒を含む。②やや硬調。③黒色、器面は赤変。
6 壘 (Y)		胴部	横位の羽状縄文。内面はヘラ状具によるナデ。原体は附加条第1種L R + 2 RとR L + 2 Lの結節1種。結節は2段みられる。	①白色鉱物の粗砂を多く含む。②やや硬調。③黒色。
7 壘 (Y)		埋土 胴部	横位の縄文帯を造らす。原体はL R。内面はナデ。	①ややきめ粗く、チャート・長石・輝石・肉閃石等を含む。②黒褐7.5YR3/1。
8 壘 (Y)		埋土 胴部	羽状構成の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種L R + 2 R、R L + 2 L。	①長石と石英の細礫～粗粒が多い。②還元。③黒色。
9 壘 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面はナデか。原体は復節L R L。	①長石の細礫、粗砂が目立つ。②普通。③橙10YR7/6。
10 壘 (Y)		埋土	横位縄文。原体はR L Rと思われる。	①きめやや粗く、石英・輝石等の粗砂多く含む。②普通。③にぶい橙7.5YR5/3。
11 壘 (Y)		埋土 胴部	頸部との境に帯指直線文、胴部横位縄文。原体は附加条第1種L R + 2 R。	①石英の粗粒が多い。②還元で硬調。③黒色。
12 用	口(17.0)	埋土 顯示部片	細かなハケ目の上に外面斜位、内面横位の弱い磨きを施す。外面口縁下端にヘラ状工具による沈線走る。	①赤地緻密。輝石を含む細砂混入。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。内外面とも暗いムラ広い。④外面一部にスス付着。

## II区 71号住居跡 (第99図 PL.70)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	縦 2.9 天 6.2	中央床土5cm 顯示部はは完存	右回転クロー→回糸→天井中央部に向へた。紐部はクロー使用の取付と思われるが、中心からややずれている。	①赤地やや粗く、片岩質細礫・黒色鉱物等まじる砂粒やや多い。②還元焰、硬調。③灰7.5Y6/1。一様。
2 蓋 (S)	口(18.6)	東壁直下床土16cm 天井部片	右回転クロー→天井部回へた。クロー直外周でやや粗く、内周で細かい。カエリの外面に凸みあり。	①赤地やや緻密。細礫まじりの砂粒多い。②還元焰、やや軟調。③灰白5YR/1。一様だが、断面中央赤色味強い。
3 FF (S)	口(13.4) 底( 6.6) 高( 4.0)	中央床土10cm 口縁片 底部片	右回転クロー→回糸無調整。クロー直細かく弱い。外底に焼成前のヘラ磨きか。	①赤地普通。白色鉱物・粗砂少量含む。②還元焰や硬調。③灰白N7/0で断面までほぼ一様。
4 杯 (S)	口(11.4) 底( 6.4) 高( 3.3)	中央床土5cm 口縁片 底部片	右回転クロー→回糸無調整。横ナデは内周でやや強い。内底やや凹凸。口縁端部わずかに外反。	①赤地やや緻密。黒色鉱物・細礫やや多く含む。②還元焰、硬調。③灰N6/0。一様。断面中央一部セピア色。
5 (長頸瓶) (S)	台( 8.8)	中央床土5cm 顯示部片	右回転クロー→切離し不明→回転利用丁寧な高台取付。内面クロー痕は工具使用か。外面に弱い沈線走る。	①赤地やや粗い。白色鉱物・片岩質細礫等混入物多い。②還元焰、普通。③灰7.5Y7/1。外面にムラあり。二次火熱を受けるか。
6 壘 (H)	口(22.0) 胴(19.2)	中央東側床土10cm 顯示部片	全体に薄手。外面磨りはやや強い。頸部に指環状の弱い凹凸が残る。内面ナデ丁寧。	①赤地普通。輝石・粗砂等を含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。内面やや赤色味をおびる。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

## II区 72号住居跡 (第101図 PL.70)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口 15.2 台 7.6 高 5.6	中央南側床直上 ほぼ完形	右回転ロクロ→回糸か→回転利用丁寧な高台取付。ロクロ底は弱い。内面平滑。口縁端部外側に弱い沈線通る。	①素地緻密。輝石・赤褐色鉱物・細砂等含む。②酸化焙か、やや軟調。③橙7.5YR7/6。影度の低いムラあり。
2 椀	台( 8.4)	中央床直上11cm 図示部写	右回転ロクロ→回転利用丁寧な高台取付→体部下端に弱い削り筋す可能性。内面は弧状の縞かい磨き。	①素地やや粗くザラザラ。黒色鉱物・バミス等混入。②酸化焙か、普通。③にぶい橙5YR7/4。内面黒色処理だが光沢欠く。
3 平瓶 (K)	口(29.0)	埋土 図示部細片	右回転ロクロ。ロクロ底は外面弱く、内面は強い。輪は肩部外面と頸部外面に丁寧に懸し、ハケ塗りか。細片からの復元で怪不安。	①素地緻密。細砂以外夾雑物少ない。②還元焰。普通。③灰白10Y8/1。輪は灰緑色。
4 土釜	口(26.0) 頸(25.6) 胴(28.6)	中央床直上 図示部写	外面は幅広い指頭正歯状の凹凸の上を線で弱い削りで無調整部分も多い。口縁と内面は強いナゲだが器面不整。	①やや粗い素地に細砂の混入さきめて多く、器面ザラザラ。②中性焙か、やや軟調。③にぶい黄橙10YR6/3。黒色味のムラ広い。④二次火熱の影響強い。外面肩部付近にス付着多い。
5 土釜	口(23.0)	埋土 図示部写	口縁は大きく歪み、ナゲも難。体部の削りは細かく雑。内面やや平滑。	①素地やや粗い。バミス・黒色鉱物を含む砂較多い。②中性焙か、硬調。③にぶい黄橙10YR6/3。全体に黒色のムラあり。
6 土鍋	長 4.4 厚 1.1 重 4.2g	中央南側床直上 完形	成形痕は弱い。指頭痕跡が不明瞭。全体に平滑。孔はやいびつ。	①素地緻密。混入物は少ない。②酸化焙、普通。③黒N2/0。断面まで一様。

## II区 73号住居跡 (第103図 PL.70)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(13.4) 底 6.6 高 4.3	北壁直下床上17cm 口縁欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ底弱い。内面平滑。外底に乾燥時のヒビあり。歪みを生じる。	①素地やや緻密。夾雑物少なく、良好。②中性焙か、普通。③明褐色5YR7/2。全体に黒斑状のムラあり。
2 椀	口(14.6) 台( 7.8) 高 5.5	カマド内中央床直上 口縁・高台欠く	右回転ロクロ→回転利用高台取付で、切離し痕ナゲ消す。外面のロクロ痕弱いが、内底中央のみ大きく凹む。	①素地粗くザラザラ。黒色鉱物まじりの砂較、多い。②中性焙か、普通。③淡黄2.5YR8/3。内面は赤色味をおびる。④口縁端部厚減する。
3 椀	口(14.0)	北東隅床直上 図示部写	右回転ロクロ。ロクロ底弱い。内面の磨きは口縁部で弧状。底部は一方方向でやや粗い。	①素地やや粗い。バミスマじりの細砂含む。②酸化焙か、やや軟調。③橙5YR7/6。外面中央赤色味をおびる。内面黒色処理だが、やや光沢弱い。
4 椀	台 6.5	東壁下床直上 口縁下半片 高台写	左回転ロクロか→やや難な回転利用高台取付で切離し痕ナゲ消す。内底磨きは口縁で横位、底部で一方方向。	①素地やや粗い。細砂の混入多い。②酸化焙、普通。③淡黄橙10YR8/3。外底に黒色のムラあり。内面黒色処理だが、光沢弱い。
5 椀	口(16.4)	カマド内床直上10cm 図示部写	左回転ロクロか。ロクロ底やや強く、丁寧な横ナゲ。内面は平滑で横位の細かい磨き。	①素地緻密。バミス・黒色鉱物まじりの細砂を混入。②酸化焙か、やや軟調。③淡黄橙7.5YR8/4。口縁と内面は赤色味をおびる。

遺物観察表編

II区 74号住居跡(第105・106図 PL. 71)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (Y)		埋土 剥部	横位縄文。無文部ハケ目→ナデ。内面へう磨き。胴体は前々段反摺R L。	①きめやや細かく、石長・長石・軽石の粗～細粒を含む。②普通。③にぶい黄7.5YR5/3。
2 壺 (Y)		埋土 剥部下位	底部付近と思われる、下端まで縦位縄文を施す。胴体は附加条第1種R L + 2 L。	①きめやや粗く、粗砂を含む。②普通。③にぶい黄10YR7/2。
3 壺 (Y)		埋土 剥部	縄文原体の押捺を境には波状文、下は縄文を施す。内面ナデ。原体は附加条第1種R L + 2 L。	①きめ粗く、長石の細粒・細粒が多い。②普通。③にぶい黄7.5YR7/3。
4 壺 (Y)		埋土 頸部	波状文を重ね、上位に縄文原体の押捺を返らす。内面粗いへう磨き。施文具は9本単位の櫛1種。施文順は下から上。	①きめ粗く、長石と石長の粗粒が多い。②やや還元ざみ。③黒褐7.5YR3/1。
5 小壺 (H)	□(15.0) 頸(11.8)	埋土4片 図示部写	口縁は内外面とも丁寧なナデで、一部ハケ目あり。端部外方へ小さく肥厚する。肩部に細かく縦いハケ目残る。	①黄地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄褐色10YR7/4。外面中心に黒色の強いムラ広い。
6 小壺 (H)	□(15.0) 頸(12.0)	周溝内 図示部写	口縁の歪みやややく、頸部の接合痕も波状。外面頸部のハケ目細かい。内面のナデ丁寧で一部ハケ目状。	①黄地普通。パミス目立つ砂粒多い。②酸化焰、普通。③灰白10YR7/2。赤褐色・黒色のムラ多く一様でない。④強い二次火熱を受ける。
7 台付壺 (H)	□ 13.1 頸 11.4 胴 17.9～17.6	貯蔵穴内底面上 図示部ほぼ完存	口縁ナデやや細でS字の形状一定でない。外側のハケ目丁寧。ハケ目の単位は17mmで12本。内面頸部にやや強い接合痕残る。	①黄地やや粗い。黒粒と赤褐色鉱物をやや多く含む。②酸化焰、やや硬調。③淡黄2.5YR3/3。④二次火熱を受ける。胴部下半割落。
8 台付壺 (H)	□ 12.9～12.4 頸 12.0～11.5 胴 18.0	北壁中央側床直上 胴中位以下と 台部欠く	口縁端部やや直立気味。口縁のナデやや細。外側のハケ目細かく縦い。内面やや鋭い指頭部のナデ痕残る。	①黄地やや粗い。赤褐色鉱物・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③淡黄2.5YR3/3。外面暗い。④被損後にも二次火熱を受ける。
9 台付壺 (H)	□(18.0) 頸(15.6) 胴 21.7～21.3 台上(4.8)	北壁下床直上 口縁→肩部写と 台部欠く	口縁ナデは外面に沈線状の擦痕残す。外面のハケ目粗く、無調整部分広い。内面上半に指頭の強いナデあり。	①黄地普通。粗砂多く含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄褐色10YR7/3。外面は暗い部分広い。④二次火熱を受け、外面下半に割落あり。
10 台付壺 (H)	台上 5.2 台下 9.3	中央西側床直上 5片 図示部ほぼ完存	ハケ目弱く不明瞭。台部は縦位にナデ消す。台部内面に指頭の強いナデの痕残る。	①黄地やや粗い。パミス・黒色鉱物等のまじる砂粒多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄褐色10YR7/3、黒色のムラあり。④内底と脚端部の割落進む。
11 鉢 (H)	□(19.0)	貯蔵穴内底面上 図示部写	外面に指頭痕あり。内面のナデ粗く、工具痕が残る。歪み強く、径・傾きとも不安。	①黄地やや硬密。赤褐色鉱物含む粗砂多い。②酸化焰、普通。③淡黄褐色10YR8/3。口縁部は赤褐色をおび、塗彩の可能性。内面黒色味をおびる。
12 高杯 (H)	脚上 2.2 脚下 13.0	南東隅床直上 図示部ほぼ完存	脚に3孔を穿ち、外面弱い面取りを加える。外面の磨き丁寧。内面は粗い布状具の擦痕残る。	①黄地やや硬密。パミス・黒色鉱物まじりの細砂含む。②酸化焰、やや軟調。③橙5YR6/8。内面は彩度低い。
13 高杯 (H)	脚上 2.7	中央西側床直上 底部写と脚端部 欠く	脚部に4孔を穿つが、配置は均等でない。外面の磨きやや丁寧。内面のナデはハケ目状の擦痕が残る。	①黄地やや硬密。黒色鉱物含む粗砂多い。②酸化焰、やや軟調。③淡黄褐色10YR8/3。ほぼ一様。
14 高杯 (H)	脚上 3.0 脚下 13.0	貯蔵穴内底面上 4cm 図示部ほぼ完存	脚に3孔を穿つが、配置は大きくズレる。外面のナデ、磨きとも丁寧。内面は縦なナデを施しやや平滑。	①黄地普通。輝石・黒色鉱物・パミスまじりの粗砂多い。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。一様。断面は白色味強い。

1 竪穴住居跡出土遺物

15 竊台 (H)	竊上 3.7~3.5	埋土 2片 身部下半片 脚柱部片	脚部は3孔か。外面へう磨きは雑。身 部内面のへう磨きは雑で表面平滑さ欠 く。中央孔は上方のみ丁寧な磨りで整 形する。	①素地やや粗い。パミス・赤褐色鉱物等、やや大粒 の混入物まじりの砂粒含む。②酸化焙。普通。③に よび赤褐色5YR5/4。弱い光沢あり。一部に黒斑あり。
16 手づくね	口(4.2) 底(4.0) 高 2.2	埋土 片個体	口縁端部尖る。外面は幅広い指頭による 押圧。底部中央薄い。内面平滑さ欠 く。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。 ②酸化焙、やや軟調。③明赤褐2.5YR5/6。外面に黒 色のムラあり。
17 蓋 (Y)		埋土 肩部	横ハケ目の後、2~4本の帯目様で波 長の短い波状文を施す。施文方向は反 時計回り。波状文の下に斜削な工具で 剥突を返らす。肩部は縦へう磨き。	①石英・輝石・黒色鉱物(輝石・角閃石類)・赤色鉱 物を含む。②二次火熱を受けたと思われる。外面の一 部が赤褐色に変化している。③黄褐色7.5YR8/4。
18 蓋 (Y)		埋土 肩部	外面ナダの後、円形浮文を貼付し、平 竹管かへう状具で円形文を刻む。内面 は横ハケ目。	①石英・長石・チャート・その他有色鉱物の小へう 磨きを含む。②硬質。外面一部黒斑。③灰白2.5YR8/ 1~暗灰色。

II区 75号住居跡(第107図 PL.71)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口 15.1 台 7.7 高 5.6	P3内底面より 12cm 口縁上半 片欠く	右回転クロコカ。外面の粗い擦痕は不 整で横ナダとやや異なる。内面の磨き 雑。厚手で重量。	①素地粗い。パミスまじりの砂粒の混入多い。②酸 化焙か、普通。③によび暗7.5YR7/4。内面黒色処理。 光沢欠く。④内外面とも剥落多い。
2 長頸瓶 (K)	胴(20.0) 底(13.2)	北壁直下床底上 肩部片 胴へ底部片	二段成形。右回転クロコ→回赤か。体 部下端は高合状に削り出す。内面はロ クロ痕下半で強い。軸はハケ塗り。外 底にも軸が見られる。	①素地緻密。夾雑物は少なく良好。②還元焙、普通。 ③灰白10Y7/1で一種。軸は灰緑色。外底の軸は白色 味強い。④肩部に剥落あり。二次火熱を受ける。
3 壺	口(20.0)	埋土 図示部片	右回転クロコカ。外面には布状具の粗 い擦痕が残る。クロコ痕弱。内面の 磨き丁寧。全体に丁寧な造りである。	①素地緻密。粗砂を若干含むが夾雑物少ない。②酸 化焙、やや硬調。③黄褐色10YR8/4。内面黒色処理 で光沢。④口縁内端摩滅する。
4 羽釜	口(25.0) 脚(38.0)	P3内底面直上 図示部片	右回転クロコ。脚の取付丁寧だが部分 的に歪む。横ナダはやや粗い擦痕残る。	①素地やや粗い。中酸・赤褐色鉱物を含んだ砂粒多 く混入。②酸化焙か、硬調。③明赤褐2.5YR5/6でほ ぼ一種。

II区 76号住居跡(第108図)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(13.4)	埋土 図示部片	右回転クロコ痕弱く、内面は不明瞭。 口縁端部弱く外反する。	①素地やや粗くボソボソ。砂粒の混入やや多い。② 還元焙か、普通。③灰白2.5Y8/2。ほぼ一種。

II区 77号住居跡(第109図)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	底 4.7~4.3	埋土 底部完存	右回転クロコ→回赤無調整。クロコ痕 弱。	①素地やや粗い。パミスまじりの砂粒含む。②酸化 焙か、やや硬調。③暗7.5YR6/6でほぼ一種。

遺物観察表編

II区 79号住居跡 (第110図 PL.71)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 10.1 底 5.5 高 2.0	埋土3片 口縁写 底部写	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 外面でやや強い。	①素地やや粗い。金雲母等を含む細砂やや多い。② 酸化焰か、普通。③橙5YR6/6。外面口縁に黒斑状の ムラあり。
2 椀 (S)	台(7.0)	埋土 図示部写	右回転ロクロ→回糸→回転利用の丁寧 な高台取付で外端は弱く尖る。ロクロ 痕細かく強い。底部薄い。	①素地やや緻密。少量の粗砂以外に混入物少なく良好。 ②還元焰。やや軟調。③灰N6/0。底部付近はや や黄色味をおびる。

II区 80号住居跡 (第112図 PL.71)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 8.0 底 4.4 高 2.4	埋土 口縁写欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕 やや弱い。全体に厚手。内底は平坦。	①素地普通。金雲母・黒色鉱物・バミスマじりの細 砂含む。②中性焰か、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/ 3で断面まで一様。
2 土釜	口(24.0) 頸(22.8) 胴(25.0)	埋土2片 図示部写	輪轆みか。口縁に強い歪みあり、ナデ も均一ではない。径不安。内面のナデ は幅広いの工具使用。外面の削りは弱く 細かい。	①素地粗い。赤褐色鉱物・バミス等の目立つ粗砂多 く混入。②酸化焰か、厚手の土器としてはやや硬調。 ③橙5YR6/6。黒色味をおびるムラあり。
3 土釜	口(26.4) 頸(23.6) 胴(28.0)	埋土 口縁写 胴部写	口縁のナデ丁寧で、上端は外方を平坦 に仕上げる。小さな歪みの歪みあり。 削りは外面下半でやや強い。内面ナデ 丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物の目立つ粗砂多い。②酸化 焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。口縁、胴部に暗 いムラあり。④二次火熱を受ける。

II区 81号住居跡 (第113図 PL.71)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(12.0) 底(7.8) 高 3.4	カマド内床直上 図示部写	右回転ロクロ→回へつか。無調整。ロ クロ痕強い。口縁内面にやや粗い糸状 具の擦痕が残る。	①素地やや粗い。バミスマじりの細砂多い。②還元 焰、やや硬調。③灰N6/0。断面まで一様。
2 杯 (H)	口(12.6)	7号獨立内床直 上 写個体	外面の削りやや粗く無調整部分広い。 内面のナデ丁寧で布状具の擦痕残り、 底部には強い凹凸あり。	①砂粒以外の夾雑物少ない。素地緻密。気泡まじり。 ②酸化焰、やや軟調。③明赤褐5YR5/6。ほぼ一様。
3 瓶 (S)	台上(15.0)	埋土 図示部写	右回転ロクロ。内面ロクロ痕細かく強い。 外面ロクロ痕不明瞭で、瘤目状の 擦痕が走る。高台剥落か。	①素地やや粗い。バミスマじりの細砂多く含む。② 還元焰、硬調。③灰N6/0。明度高いムラあり。
4 砥石	長 7.7 短 4.5 厚 1.8~0.5	埋土 半欠品か	割口、小口を除く4面使用、断面糸巻 き状の半欠品と思われる。主な使用面 は弱い凹面になる。	①砥石石。混入鉱物の散りかたが小孔を作る。③明 オリープ灰3GY7/1。鉱物含む表面は広く錆色を呈 す。④研ぎ減り著しいが強い擦痕はない。



## 1 竪穴住居跡出土遺物

II区 82号住居跡 (第115図 PL.71)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 16.0 高 5.3	北東壁下床直上 完形	口縁のナデ、外底の削りともやや粗。 内面平滑だが、底部に一方方向の強いナ デの痕が残る。厚手でやや重量。	①素地やや粗い。バミスマじりの砂粒を含む。②酸 化焰、普通。③橙5YR6/6。黒色味をおびるムラあり。 ④口縁内面の剥落進む。
2 杯 (H)	口 13.3~12.8 高 4.7	北東壁下床直上 ほぼ完形	外底の削り細かいが確。内面丁寧なナ デ。平面だ円形に歪む。	①素地やや粗くザラザラ。断面ダスト状で化粧粘土 使用か。バミスマじりの細砂多い。②酸化焰、普通。 ③橙5YR6/6。断面は白色味強い。
3 杯 (H)	口 11.8~11.3 高 4.0	北東壁下床直上 ほぼ完形	外面摩滅し整形痕不明瞭。口縁外面に 不規則で弱い比較線通る。	①素地緻密。ダスト状。長石等少量含むが夾雑物は 少ない。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6で一律。
4 杯 (H)	口(11.6)~11.0 高 4.2	南東壁下床直上 口縁欠く	口縁大きく歪み平面だ円形。外底の削 り強く、器面に凹凸ができる。内面の ナデ強くやや粗い。	①素地緻密。砂粒以外の夾雑物少ない。②酸化焰、 やや硬調。③橙5YR6/6。口縁部赤色味をおびる。
5 杯 (H)	口(11.2)	中央東側床上8 cm 図示部残	口縁の外反やや強い。外底の削りは強 く、器面に凹凸ができる。内部にも不 規則な凹凸あり。	①素地緻密。黒色鉱物含む細砂混入。②酸化焰、普 通。③にぶい橙5YR7/4。断面までほぼ一律。
6 鉢 (H)	口(18.4)	北東壁下床直上 図示部残	口縁外端小さく肥厚するが、形状一様 でない。口縁外面のナデ強いが強で接 合痕残る。外面削り鋭い。内面平滑。	①素地緻密でダスト状。夾雑物少なく良好。②酸化 焰、やや軟調。③橙5YR7/6。一律。
7 壺 (H)	口(23.0) 頸(18.4)	かマド前床上 7cm 小破片	器面摩滅著しく整形痕不明瞭。外面に 接合痕残る。	①素地極めて粗くザラザラ。バミス・輝石・黒色鉱 物等多く混入。②酸化焰、硬調。③にぶい橙7.5YR7/ 4。ほぼ一律。
8 土器	長 2.7 厚 0.9 重 1.8g	埋土 ほぼ完形	外面平滑で整形痕見えず。孔はだ円で 植物の茎状の圧痕がわずかに残る。	①素地やや緻密。バミスを含み、粗砂散見。②酸化 焰、やや軟調。③にぶい赤褐5YR4/3。暗いムラあり。

II区 83号住居跡 (第117図 PL.71)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 埴 (H)	口 6.8~6.5 頸 5.2 胴 6.9 底 4.1 高 6.1	埋土 ほぼ完形	口縁に歪みあり。体部の削り弱くナデ に近い。内面のナデ丁家だが指頭圧痕 残る。	①素地やや粗い。バミス・輝石・石英等のまじる砂 粒含む。②酸化焰、硬調。③橙5YR6/6。内面は白色 味強い。
2 埴 (H)	口(8.4) 頸(8.2) 胴(9.8)	埋土 図示部残	外面はハケ目の上を口縁から肩にかけ て粗い磨痕残るナデを施す。内面下半 には工具使用の鋭いナデが見られる。	①素地普通。砂粒以外の夾雑物まれ。②酸化焰、普 通。③明赤褐5YR5/6。黒味あり。断面は白色味強い。
3 器台 (H)	口(9.0) 台上2.5	埋土2片 口縁写 台部上半完存	脚部に4孔を穿つ。口縁外端は平短。 外底の磨きはやや弱く、脚内面は削り に近いナデ。	①素地緻密。バミス・輝石まじりの細砂含む。石英 散見。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。外面に 黒色のムラあり。
4 器台 (H)	台上(3.0)	埋土 図示部残	脚柱部に4、脚指部に4の孔を穿つと 思われる。外面丁寧な磨き。内面のナ デ平滑。	①素地緻密。細砂・輝石・白色砂粒等含む。②酸化 焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。暗いムラあり。
5 罍 (Y)		埋土 胴部	横位編文。胴体はLR+2R。内面は ナデで割割激しい。	①白色・無色鉱物の細粒が多い。②普通。③灰黄褐 10YR5/2。

遺物観察表編

II区 84号住居跡 (第118図 PL.71)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	口(12.8)	埋土 図示部写	右回転ロクロ→天井部回転へう削り。 口縁の歪み大きく不安。厚手。	①素地普通。バミスの目立つ細砂を含む。②還元焰、硬調。③暗青灰10BG4/1。断面明度高い。④天井部に降灰粘かかる。
2 甕 (H)	口(22.0) 頸(16.4)	埋土4片 図示部写	口縁のナデ粗く接合痕を残し、肩部と内面上端に比線巡る。体部に接合痕残る。外面削りやや粗い。	①素地粗い。輝石・バミスまじりの細砂多い。②酸化焰、要項としてはきわめて硬調。③にぶい焼7.5YR6/3。内面は暗い。
3 土器	厚 1.4 重 7.1g	埋土 写簡体	外面にやや歪みあり。内面は縦位に植物の茎と思われる軸の圧痕が残る。厚手。	①素地緻密。夾雑物少ない。②酸化焰が、硬調。③灰7.5Y4/1。一様。

II区 85号住居跡 (第119図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (H)	台下(14.0)	埋土2片 図示部1/3	脚部に3孔を穿つと思われる。外面の磨き摩滅して不明瞭。内面ナデは幅広い工具痕が残る。	①素地やや粗い。灰白色鉱物まじりの細砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい焼7.5YR7/4。赤色味のムラあり。

II区 86号住居跡 (第121図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	口(21.0) 頸(18.8)	西壁直下床直上 図示部写	口縁ナデ鋭いが、接合痕を内外面ともに残す。外面の削りは強く細かい。口縁に波状の小さな歪みあり。	①素地普通。赤褐色鉱物・金雲母を含む細砂が混入。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。内面暗褐色のムラ広い。

II区 88号住居跡 (第123図 PL.71)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 埴 (H)	口(15.8) 頸(13.6)	埋土 図示部写	口縁のナデやや粗い。肩部外面には鋭い比線が巡る。外面下半に弱い削り。全体に薄手。	①素地やや緻密。バミス・黒色鉱物・粗砂等やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR6/4で、内面彩度低い。
2 小甕 甕 (H)	頸(5.2) 胴(19.0)	埋土 図示部写	外面の磨きは細で、摩滅し不明瞭。内面のナデは強い工具の圧痕残る。外面肩部縦なナデだが無調整部分あり。	①素地やや緻密。バミス・赤褐色鉱物まじりの細砂やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐5YR5/4。内面明度高い。
3 台付蓋 (H)	口(16.8) 頸(15.0)	中央床上下12cm 口縁写 肩部写	S字状の屈曲はやや弱い。肩部内面に板状工具による強いナデで、上方に小さな段ができる。	①素地普通。細砂等の夾雑物を含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。外面に黒炭あり。
4 台付蓋 (H)	台上(4.6) 台下(10.4)	埋土 図示部写	外面の削り摩滅し不明瞭。内面のナデは上半に強い工具の圧痕残る。	①素地やや粗い。バミス・黒色鉱物やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。内面赤色味強い。
5 甕 (Y)		埋土 頸部	14本単位器I種で波状文と縞状文を施す。施文方向は反時計回り。胴部に斜ハケ目を残す。内面は胴部にハケ目、頸部上位をへう磨き。	①素地粗く、石英・長石・輝石等の小砂を多く含む。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

6 壺 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面は整形不明。原体は前 前段5条L R。不明だが復元の可能 性あり。	①きめ粗く、白色・無色の細塵と粗砂を含む。②普 通。③橙5YR6/6。
7 壺 (Y)		埋土 胴部	胴部に横位縄文。内外面ナデ。原体は 復元筋L R L R。	①きめやや粗く、白色・無色・黒色の粗砂多い。② 普通。③明赤帯2.5YR3/3。
8~11 葉 (Y)		埋土 頸~胴部	胴部は2段の波状文。胴部横位縄文。 埴に直線文と縄文原体末端の押捺。蓋 文具は8本単位の壺1種、附加糸第1 種R L + 2 L。	①長石の細角塵を多く含む。②普通。③明赤帯5 YR5/6。

## II区 91号住居跡 (第126図 PL. 71)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	台 7.8	カマド上 口縁下半若干 蓋台部ほぼ完存	右回転ロクロ→ロクロ使用丁寧な高台 取付で切離し痕ナデ削し、体部にヘラ 削り。内面は体部に弧状、底部で一方 向の磨きあり。黒色処理を施す。	①素地粗い。輝石・バミス・石英まじりの粗砂多い。 ②中性焰、普通。③帯7.5YR4/4。外面はほぼ一様。内 面は光沢弱い。
2 小皿 (S)	底 4.6	埋土 図示部欠	右回転ロクロ一切離し不明。外面僅か にロクロ痕残るが摩滅し不明瞭。内面 のロクロ痕細かく強い。	①素地緻密。細かい黒色鉱物含むが夾雑物は少ない。 ②還元焰、やや軟調。③灰5Y5/1。内面明るい。④外 底の割落広い。
3 羽釜	口(27.0) 踵(29.2)	埋土2片 図示部欠	口縁の歪み大きく厚さも一様でなく、 踵の取付は踵で歪み、接合面を残す。 口縁のナデも雑で無調整部分あり。	①素地やや粗い。長石・細塵まじりの粗砂多い。② 還元焰か、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。脚に赤色味 のムラあり。
4 土釜	長 4.5 厚 1.8 重 13.4g	埋土 完形	全体にいびつ。外面に僅かに指頭痕が 観察できる。	①素地普通。黒色鉱物まじりの粗砂を含む。②還元 焰か、普通。③にぶい黄橙10YR7/3で一様。

## II区 92号住居跡 (第127図 PL. 71)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	台 8.1	カマド内 図示部欠	91住-1に同巧。黒色処理か。厚手。	①素地粗い。バミスまじりの粗砂多い。②還元焰、 普通。③にぶい黄橙10YR6/4。内面赤色のムラあり。 ④内面光沢弱く黒色部分は少ない。
2 小皿	口(9.0) 底(4.4) 高 2.1	埋土 図示部欠	右回転ロクロ→回糸無調整。横ナデ丁 厚で外面に比較をつくる。	①素地緻密。黒色鉱物含むが夾雑物少ない。②中性 焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。外面に黒色のム ラあり。
3 小皿	底 4.1	西壁寄床直上 図示部完存	右回転ロクロ→回糸無調整。切離し時 の糸が体部に鋭い傷をつける。ロクロ 痕弱く内面平滑。	①素地緻密。赤褐色鉱物の目立つ粗砂を含む。②還元 焰か、普通。③にぶい橙7.5YR7/4で断面まで一 様。
4 羽釜	口(23.4) 踵(26.0)	埋土 図示部欠	91住-3にほぼ同巧。同一個体の可能 性あり。	①素地粗い。バミスの目立つ粗砂多い。②還元焰、 やや硬調。③にぶい橙7.5YR5/4。内外面に黒色のム ラあり。

遺物観察表編

5 壺	口(24.0) 頸(22.8) 胴(27.0)	北東壁床直上 顯示部写	輪痕みか。口縁に小さな窪みあり、ナ ズ難で外面不整。体部はナズ弱く、粘 土紐状の凹凸や指面圧痕が残る。内面 のナズ息長く丁寧。	①素地普通。黒色鉱物多く、細粒散見。②酸化焰か、 やや硬調。③明赤褐5YR5/6。外面に暗いムラあり。
6 土瓶	長 6.0 厚 1.0~0.8 重 3.0g	西壁寄床直上 完形	外面に整形痕は見えないが、中央に凹 みあり。湾曲するが孔は直線的に通っ ている。	①素地緻密。細砂以外の夾雑物少ない。②酸化焰、 やや硬調。③灰10Y4/1。一様。

II区 94号住居跡(第130図 PL.72)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小型壺 (H)	口(15.2) 頸(12.2) 胴(19.6) 底 4.9 高 19.8	南壁下床直上 写個体 底部完存	口縁のナズ丁寧で、外端小さく肥厚す る。外面ハケ目は細かく丁寧。内面ナ ズは工具痕が残り中に接合痕明瞭。 外底は蛇の目高台状。	①素地普通。バミス・赤褐色鉱物混入の砂粒を含む。 ②酸化焰、普通。③におい褐7.5YR5/3。外面黒色部 分広く、断面は黄色味強い。④強い二次火熱を受け る。
2 小型壺 (H)	頸(11.8) 底 4.3	南壁寄床直上 写個体 底部完存	外面のハケ目細かく丁寧。内面は頸部 に強い接合痕残し、底部付近は粗いハ ケ目状のナズ痕あり。	①素地普通。赤褐色物を含む砂粒多い。②酸化焰、 やや軟調。③におい褐7.5YR5/4。外面黒色部分広 い。④二次火熱を受ける。内面下半厚減。
3 高杯 (H)	脚上 3.0	埋土 顯示部ほぼ完存	外面脚柱部上下両端にハケ目が残る。 器面厚減し不明瞭。内面のナズ粗く、 接合痕、無調整部分を残す。	①素地やや粗くザラザラ。赤褐色鉱物・粗砂等多い。 ②酸化焰、やや硬調。③灰5YR6/6。一様。
4 鉢 (H)	口(20.6)	南壁下床直上 口縁写 体部写	内外面ともハケ目の上に丁寧な磨きで 器面平滑。口縁折り返し。	①素地緻密。黒色鉱物含む。②酸化焰、やや軟調③ 明赤褐5YR5/6。外面黒色のムラ多い。④二次火熱を 受けるか、内面に塗ってハゼあり。
5 手づくね	口( 4.6) 高 2.1	中央床直上 口縁写 底部完存	口縁外面に強い指面痕あり。内面は不 明瞭なナズだが平滑。全体に薄手。	①素地普通。バミスまじりの細砂多い。②酸化焰普 通。③におい黄緑10YR6/4。外底黒色。
6 壺 (Y)		埋土 口縁	口縁は幅広い粘土帯を貼付し、口唇か ら横位縄文。内面は粗いヘラ磨き。原 体は複節R L R。	①きめ粗く、石英・輝石・緑石の粗粒が多い。②普 通。③赤褐5YR4/6。
7 壺 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面ナズ。原体は複節R L Rと見られる。	①石英・長石・輝石等の粗〜細粒を多く含む。②普 通。③におい橙7.5YR7/3。
8 壺 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面はナズ。原体は複節R L R。	①石英・長石・輝石等の粗〜細粒含む。②普通。③ におい黄緑10YR6/4。

II区 95号住居跡(第131図)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	底 3.9	南壁直下床土5 cm 口縁下半写 底部完存	右回転クロロ→回糸調整。クロロ痕 弱く不明瞭。内面平滑。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂含む。② 中柱焰か、やや硬調。③におい橙2.5YR6/4。黄色味 おびるムラあり。④口縁端部割れ口厚減している。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

## II区 96号住居跡 (第132図 PL. 72)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (S)	口(14.4) 台(6.2) 高 4.7	北壁下床直上 列側体	右回転クロー→回糸→回転利用のやや 緩な高台取付。口縁端部大きく外反す る。器面の平滑さ欠く。	①素地やや粗い。5mm大の距離が目立つ。粗砂多い。 ②還元焰、やや硬調。③暗青灰5B61/3で断面までほ ぼ一様。
2 杯	口(13.0) 底(7.2) 高 4.6	中央北寄床直上 図示部残	右回転クロー→回糸無調整。クロー口 やや強く鋭さ欠く。厚手。	①素地やや粗い。輝石まじりの砂粒含む。②還元焰、 やや硬調。③灰白5Y8/1。内面炭灰し、外面一部と ともに黒色。
3 土罐	長 2.8 厚 1.0 重 2.5g	西壁寄床直上 完形	全体に指頭状の細かい凹凸あり。小さ くねじれるが孔は通っている。	①素地緻密。夾雑物少ない。②酸化焰、軟調。③に よび黄褐色10YR7/4で一様。

## II区 97号住居跡 (第133図 PL. 72)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口 10.3 台 6.1 高 4.9	カマド内床直上 4片 口縁片 底台部ほぼ完存	右回転クロー→回転利用の高台取付で 切離し痕ナダ消す。クロー板弱い。横 ナダは内底で鋭い稜痕残す。全体に厚 手。口縁は波状に小さな歪み。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・細砂を含む。②酸化 焰、やや軟調。③明黄褐色10YR7/6。外面明度の低い ムラあり。
2 土罐	長 4.9 径 2.5 重28.6g	西壁下床直上 完形	底部は平坦でへら削り等の調整を行っ ているか。外面は細かい凹凸あり。	①素地普通。砂粒若干含む。②酸化焰、普通。③に よび黄褐色10YR7/3、および黒褐色10YR3/1で一様でない。

## II区 98号住居跡 (第134図 PL. 72)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(15.0)	埋土 図示部残	ナダは口縁で強く全体に丁寧。外底に 弱い削りで縁部は不明瞭。	①素地緻密。輝石・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。 ②酸化焰、やや硬調。③によ赤褐色5YR5/4。断面灰 色味をおびる。④内面に塗ってハゼ多い。
2 高杯 (H)	脚下(12.8)	南東貯蔵穴内 底面上28cm 図示部残	脚部のナダ粗く、波状に重み、指痕旺 痕状の凹凸あり。脚柱部下端に沈線高 る。内面のナダは粗く強い。	①素地やや粗い。細砂含むが夾雑物少ない。②酸化 焰、やや硬調。③焼5YR6/6でほぼ一様。
3 小型甕 (H)	口(11.2) 頸(8.4) 胴(11.0) 高 12.2	埋土18片 上平列 下半ほぼ完存	口縁上半に軽い布状具の痕痕残る。体 部の削りは細かいが雑で、器面はあは れている。内面のナダ強く粗い。	①素地普通。輝石まじりの砂粒以外の夾雑物少ない。 ②酸化焰、やや硬調。③によ赤褐色2.5YR5/4。外面 に黒斑多い。④二次火熱を受ける。
4 甕 (H)	口 16.0~15.5 頸 11.6 胴 22.5 底 6.1 高 28.0	南東貯蔵穴内 底面上21cm ほぼ完形	口縁はナダ粗くやや雑。体部は全体に 指頭状の凹凸が多く、弱いハケ目があ る。内面は丁寧なナダで平滑だが接合 の段残る。外底は粗い削り。	①素地普通。赤褐色鉱物・チャート・細礫等やや多 い。②酸化焰、普通。③によ赤褐色10YR7/4。外面 体部に黒色のムラが広い。④二次火熱を受ける。外 面の一方に片寄ってスス付着。
5 甕 (H)	口 19.6~18.3 頸 13.6 胴 24.5 底 4.8 高 25.2	南東貯蔵穴内 底面上28cm 胴部片欠く	口縁のナダは丁寧だが弱く、外面上半 に指頭状の凹凸残る。外面の削り雑 で強く、胴部は重む。内面は強く丁寧 なハケ目状痕痕残るナダ。	①素地普通。バミス・赤褐色鉱物等を含む砂粒多い。 ②酸化焰、やや軟調。③明赤褐色2.5YR5/6。外面と も黒色のムラ広い。④二次火熱を受ける。内面下半 に小さな割落多い。

遺物観察表編

II区 99号住居跡(第136図 PL.72)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 羽口	径 8.7~8.4	中央床土8cm 図示部完存	内面に縦位の筋状の細かな圧痕残る。 外面に削りの跡が残るが不明瞭。	①素地軽量で粗い、中継目立つ。スサは見られない。 ②により黄褐色10YR7/2。④上層はガラス化。鉄錆付着。断面は中央まで赤褐色。
2 土甌	径 0.9 重 1.6g	埋土 列個体	外面に弱い指痕あり。全体に小さく じれるが孔は直線的に通っている。	①素地緻密で夾雑物は少ない。②酸化焰、やや軟調。 ③により橙7.5YR6/4。端部に黒斑あり。
3 土甌	長 3.4 径 0.9 重 2.9g	埋土 ほぼ完形	内面に竹管状の縦位の筋状圧痕、外面 にやや粗い指痕が見られる。	①素地やや緻密。バミスマじりの細砂含む。②酸化 焰、普通。③黒褐色10YR3/2で一律。

II区 100号住居跡(第137図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小型甕 (H)	口(14.0) 頸(12.8)	埋土 口縁列 肩部片	外面のハケ目は鋭く縦横に施すが、口 縁上端のみナゲ消す。頸部に鋭い工具 痕が残る。内面は口縁に鋭いハケ目 があり、体部ナゲは平滑だが接合痕が残 る。	①素地普通。細砂以外の夾雑物少なく良好。②酸化 焰、やや軟調。③明赤褐色5YR5/6。外面は黒色味をお びる。
2 甕(Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面ヘラナゲ。厚体LR。	①きめやや粗く、粗砂を含む。②やや軟調。③に より黄褐色10YR6/4。
3 甕(Y)		埋土 頸部	口縁との境付近に縄文原体の押捺。頸 部に山形文を施す。内面ナゲ。施文具 は9本単位の櫛1種。施文方向は反時 計回り。	①長石・石英・チャート等の粗～細粒を含む。②外 面は還元さみ。③灰褐色～赤褐色。

II区 101号住居跡(第139図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	台(6.2)	北壁下床直上 図示部片	右回転クロー→回転利用の丁寧な高台 取付で切離し痕ナゲ消す。内面体部は 弧状、内底で一方の丁寧な磨きの後 に黒色処理。	①素地やや緻密。バミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒 やや多い。②酸化焰か、やや軟調。③により黄褐色10 YR7/2。内面黒色で光沢あり。
2 杯	底 5.8	カマド前面北側 床直上 図示部片	右回転クロー→回転無調整。クロー直 接く不明瞭。	①素地普通。細砂以外の夾雑物少ない。②酸化焰、 普通。③により黄褐色10YR7/3。④内外面ともやや摩 滅する。
3 高杯 (H)	脚上 3.8	埋土 図示部ほぼ完存	脚部中央に強い指痕圧痕があり屈曲す る。外面磨きは幅広く強く粗い。内面 のナゲは強く粗く削りに近い。	①素地普通。細砂・赤褐色鉱物まじりの砂粒目立つ。 ②酸化焰、やや軟調。③により橙7.5YR6/4。赤色味 の強いムラあり。④混入品。

## II区 102号住居跡 (第142圖 PL. 72)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 台付壺 (H)	口 16.9~16.7 胴 14.5 胴 24.1 脚上 5.5 脚上 9.9 高 27.8	中央北西寄床直上 胴部写欠く	粗いハケ目を強く縦に施す。内面工具使用のナゲも強い。胴部外面に不規則な化粧が巡る。胴部の歪み、やや大きい。	①素地普通。赤褐色紅土・細砂等やや大粒夾雑物を少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄緑10YR7/4。赤色味・灰色味等ムラ多く一様でない。④二次火熱受け外面下半部割化している。
2 台付壺 (H)	口 15.8 胴 13.4~13.0 胴 24.7 脚上 4.7	中央北西寄床直上 胴示部写欠く	輪積み。胴部下側と中位以上で外歪ハケの工具異なり。ここで接合したことが判る。ハケ目は密で、粗さも不明瞭な箇所が多い。砂粒の動き少ない。	①素地普通。チャート質の細砂混入目立つ。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄緑10YR7/4。内面は彩度低い。④二次火熱受ける。外面斜中位付近に薄いスス付着。
3 台付壺 (H)	台上 5.7 台下 9.7	埋土 胴示部写	外面はハケ目をナゲ消す。右部内面は上半に強い筋面のナゲ残る。内面に鋭いヘラの印残る。	①素地普通。輝石・赤褐色紅土まじりの砂粒を含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄緑10YR7/3。赤色味の強いムラあり。
4 小型壺 (H)	口( 8.0) 頸( 7.4) 胴( 8.4)	埋土2片 胴示部写	外面の割り密く、華感不明瞭。内面ナゲは上半は指頭で密く、下半はヘラ状工具使用で強くて粗い。	①素地やや緻密。バミス・輝石まじりの砂粒が混入。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄7.5YR6/4。口縁に黒線あり。
5 高杯 (H)	口 15.7 杯上 4.1 脚上(19.4) 高12.0	中央床直上 口縁と脚部部の写欠く	胴部に4孔を穿つ。外面はやや幅広い丁寧な磨き。内面磨きも丁寧で平磨。脚部内面のナゲは筋面ハケ目状。	①素地やや緻密。夾雑物は少ない。②酸化焰、普通。③にぶい黄7.5YR7/4。一様でない。④二次火熱受ける。赤色化粧の痕跡が胴部に残る。
6 高杯	脚上 4.1	南壁下床土8cm 胴示部の下縁写欠く	外面の磨きはやや強い。脚内面丁寧なナゲ。杯底部のナゲは細い工具痕が残る。	①素地やや粗い。バミス・輝石・石英まじりの砂粒や多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄褐10YR5/4。胴上端赤色味おびる。④細部の華感進む。
7 壺(Y)		埋土 胴上位	胴部に帯線波状文、胴部に横位縄文、腹に原形未端の押捺を巡らす。原形は附加条第1種L R + 2 R。内面ナゲ。	①石灰・長石の粗砂・細砂が多い。②普通。③黒褐10YR3/1。
8 土罐	長 3.1 径 0.9 重 2.4g	埋土 完形	外面指頭痕観察できる。丁寧なナゲで器面平滑。全体に小さく歪むが、孔は通っている。	①素地緻密。赤褐色紅土・細砂を少量含む。②酸化焰、普通。③褐7.5YR4/6。一部黒色味おびる。
9 土罐	厚 2.5~2.2 重 23.0g	埋土 一端を欠く	器面に不明瞭なナゲの痕があり、部分的に指頭痕状に凹む。端部は平端。	①ややザラザラしているが素地普通。輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄緑10YR7/4。断面は彩度低い。

## II区 103号住居跡 (第144圖 PL. 72)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 羽釜	口(25.0) 脚(28.0)	カマド前面床直上 胴示部写	ロクロ不使用。口縁の横位ナゲ強く小さく波状に歪み、上側やや凹む。脚の取付は密。外面の割り粗く強い。内面ナゲは粗い筋面が残る。	①軽量でやや粗い素地。バミス目立ち、細砂まじりの砂粒が多い。②酸化焰の、やや硬調。③にぶい赤褐5YR5/4。外面暗い。④二次火熱受け外面やや割面化。
2 甕(S)	底 14.8	P2内床直上 胴示部ほぼ完形	接合痕より輪積みか。右回転ロクロ整形。内面のロクロ痕強い。外底に成形時の台の跡と思われる凹凸残る。	①素地やや緻密。バミスまじりの細砂を含む。②還元焰、硬調。③にぶい黄緑10YR6/3。暗いムラ広く一様でない。④二次火熱を受けるか。
3 釘	頂 1.13×1.10	埋土 先端部を欠く	折頭式のやや大型品である。頂部はやや薄い。	①鉄地金はやや薄い。錆化すずむ。おねじを生じており、使用の痕跡あり。

遺物観察表編

II区 106号住居跡 (第146図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (H)	□(19.8)	埋土 口縁上半写 下半写	口縁上半は丁寧なナデで端部は強く外反する。外面下半鋭い削りあり。内面やや雑で強い磨き。	①素地緻密。バミスマじりの細砂以外に夾雑物少ない。②酸化焰、やや軟調。③淡黄2.5YR/3。断面一部黒色。
2 壺 (Y)		埋土 胴部	上下2段に横位織文。内面は粗いヘラ磨きとナデ。原形は復々第LRLR。	①きめ粗く、粗粒サイズの石英・輝石・稜石が多い。②普通。③赤褐5YR/4。

II区 107号住居跡 (第147図 PL.72)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小型壺 (H)	□ 11.6 胴 14.9 底 5.2~4.8 高 7.9	床直上 ほぼ完形	口縁ナデはやや雑。外面の削り粗く鋭い。内面上半のナデ強く鋭く、削りに近いが接合痕を明瞭に残す。	①素地普通。バミス・赤褐色鉱物含む細砂やや多い。②酸化焰、やや硬調。③淡黄2.5YR/3。外面に黒斑多い。④二次火熱を受けるか。
2 器台 (H)	□ 8.2 脚上 2.8	埋土 指示部ほぼ完存	脚部に4孔を穿ち外面は削り取り。器受部・穿孔は中心よりやや片寄る。内面ナデは丁寧で平滑。外面磨きは鋭い。	①素地普通。輝石まじりの細砂含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR/7。黒色味・赤色味をおびるムラあり様でない。
3 (Y)		埋土 底部	横位織文。底面は布目圧痕。原形は附加条と思われるが、不明瞭。	①きめやや粗く、粗砂が多い。②普通。③にぶい褐7.5YR/4。

II区 108号住居跡 (第148図 PL.73)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (H)	脚上 3.1	埋土 脚柱部完存 裾部写	脚柱部に4孔あり。脚部に1孔が観察でき8孔となるものと思われる。外面磨き不明瞭だが平滑。内面は丁寧なナデでハケ目状の磨痕が残る。	①素地普通。赤褐色鉱物・石英・輝石等強入るの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR/7/4。黒色味の強いムラあり。
2 高杯 (H)	脚上 3.1	埋土 脚柱部完存 裾部若干	脚部に不規則な配置の3孔を穿つ。器面摩滅し凹凸多いが、強い磨きの跡あり。内面に幅広工具使用の強いナデ。	①素地普通。赤褐色鉱物の目立つ細砂を含む。②酸化焰、普通。③橙5YR/6。形度の低い部分広く様でない。
3 土鍋	長 4.6 径 1.8~1.6 重 12.3g	埋土 ほぼ完形	器面荒れ、凹凸多く成形痕不明瞭。ねじれたような指痕圧痕が残る。孔は直線的に通っている。	①素地やや粗い。輝石まじりの細砂を含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR/7/3。ほぼ一様。④顎口含め器面摩滅する。

II区 109号住居跡 (第150図 PL.73)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	□ (9.8) 高 5.0	埋土3片 写個体	口縁はナデ粗く、小さく波状に歪む。口縁外面下半は無調整で、下部に鋭い指痕状の圧痕が見られる。外底は鋭い削り。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・黒色砂粒を含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR/7/3。一様。④全体に摩滅進む。
2 甕 (H)	□(23.4) 胴(21.0)	埋土 小破片	口縁ナデやや粗い。外面幅広く粗い削り。内面ナデ強く丁寧で工具痕残る。薄手。	①素地やや緻密。少量の細砂以外の夾雑物まれ。②酸化焰、硬調としては硬調。③にぶい褐7.5YR/4。一様。



## II区 111号住居跡(第152図 PL.73)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 台付釜 (H)	口 18.4~17.8 胴 24.5 脚上 6.0 脚下 9.9 高 29.8	貯蔵穴埋土 完形	ハケ目は1.6cm幅に日本。胴部付近は下に倒りの跡が残る。脚部は縦位にナゲ消す。内面は胴部に息長い指頭の高位ナゲ。下半は工具痕が残る。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・バミスマじりの砂粒がやや多い。②酸化焰、やや軟調。③におい黄橙10YR7/4。④外面は胴部付近まで火熱による黒色味強い変色あり。
2 台付釜 (H)	口 15.6~15.2 胴 23.3 脚上 5.5 脚下 9.9 高 28.4	貯蔵穴埋土 胴部欠く	口縁上端やや広く、中央小さく凹む。ハケ目は細かく丁寧で脚部ではナゲ消す。内面に強い指頭のナゲあり。	①素地やや緻密。輝石・砂粒等を少量含む。②酸化焰、やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。明度の低いムラあり。内面赤色味をおびる。
3 台付釜 (H)	口 14.3 胴 18.1 脚上 4.5 脚下 9.0 高 23.6	貯蔵穴内底面上 ほぼ完形	口縁は内外面ともやや粗いナゲ。外面は細かく丁寧なハケ目。内面はやや粗いハケ目状で、指頭圧痕・橙合痕残る。脚内面は丁寧で鋭いハケ目。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石まじりの砂粒がやや多い。②酸化焰、やや軟調。③におい橙7.5YR7/3。④外面は脚から胴部付近まで火熱による黒色味おびる変色あり。
4 台付釜 (H)	口 14.4~14.0 胴 16.1 脚上 4.3 脚下 8.1 高 20.3	貯蔵穴内 完形	ハケ目は細かいがやや雑で弱く、胴部付近で一部ナゲ消す。体部は内外面とも小さな凹凸多い。内面のハケ目は外面より幅広い。	①素地普通。黒色細砂・赤褐色鉱物・バミス等夾雑物多い。②酸化焰、やや軟調。③淡黄2.5Y8/3。④火熱による黒色のムラ広い。
5 釜 (H)	口 14.1 胴 11.2	埋土 口縁完存 胴部欠	折り返し口縁。胴部は強い接合の段をそのまま残す。体部はハケ目の上に雑な磨き。内面はハケ目状の粗いナゲで接合痕が残る。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・黒色細砂・輝石等夾雑物多い。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。内面は白色味強い。④口縁内側の剥落著しい。
6 杯 (H)	口( 9.0) 底 3.6 高 4.4	東壁下床土20cm 口縁上半欠く	口縁はナゲやや粗く小さく波打つ。外面は割いナゲか。底部付近は小さな圧痕残る。内面はナゲ鋭く工具痕残す。口縁部は丁寧なナゲ。	①素地普通。石英・長石等の混入する砂粒含む。②酸化焰、軟調。③淡黄橙10YR8/3。内底は黒色味をおびる。

## II区 113号住居跡(第154図)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿 (S)	口(13.6) 底( 6.2) 高 3.0	埋土 図示部欠	右回転クロー→回糸無調整。クロー痕は外面で細かく、内面で見えない。	①素地普通。バミスを含む砂粒やや多い。②還元焰、硬調。③灰N4/0。一様。内面と口縁外縁は明度が低い。
2 杯 (S)	台( 9.2)	埋土 底部 台部欠 口縁下半欠	右回転クロー→回糸→クロー使用丁寧な高台取付。クロー痕弱い。	①素地やや粗く、細線の混入もやや多い。②還元焰、やや硬調。③灰N6/0。ほぼ一様。
3 杯 (H)	底( 5.4)	埋土 図示部小破片	右回転クロー→回糸無調整。外面に強い段ができる。内面丁寧な磨きと黒色処理。	①素地普通。赤褐色物まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③におい黄橙10YR7/4。内面黒色で光沢弱い。④外面体部に黒痕薄い曇りあり。判読できず。
4 広口甕 (S)	口(45.0)	埋土 図示部小破片	右回転クロー。クロー痕は外面で細かく、内面では弱い。	①素地普通。バミス・実質岩組織を含む。②還元焰、硬調。③暗青灰5BG/1。降灰物で内面白色味強い。

遺物観察表編

Ⅱ区 114号住居跡 (第155図 PL. 73)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口 12.0 底 (5.6) 高 4.3	北壁直下床直上 写像体	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不規則で鋭き欠。外底に指頭状の擦痕あり、切離し痕不明瞭。	①素地やや粗い。長石・バミス等の多い砂粒を含む。 ②中性焰か、軟調でしまり欠く。③にぶい黄7.5 YR6/3。内面黒色味強い。

Ⅱ区 115号住居跡 (第157図 PL. 73)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口 11.2～10.9 底 6.6～6.4 高 4.5	東壁直下床直上 ほぼ完成	外底全面砂粒付着で型遣りか。口縁ナデは外端に鋭い擦痕が残る。体部外面は強い指頭痕あり。内面ナデもやや強く、口縁下端に鋭い傷を残す。	①素地やや緻密。夾雑物は少ないがザックリしている。 ②中性焰か、やや軟調。③にぶい黄褐色10YR7/3～黒褐10YR3/1。一様でない。
2 杯	口 10.9～10.5 底 5.8 高 3.7	北壁下床直上 6cm 口縁欠く	外底全面砂粒付着で型遣りか。口縁は布状具の擦痕の残る強いナデ。体部外面は強い指頭圧痕あり。内面は丁寧なナデで平滑。	①素地緻密。夾雑物少ない。②中性焰か、やや軟調。 ③にぶい黄褐色10YR7/3。外面に黒色のムラあり。
3 椀	台(11.8)	カマド前部床直上 図示部欠	ロクロ不使用。内面のナデが雑なことで、割落・摩滅が端部に集中していること等より、足高台の高台部分と推定した。	①素地普通。細砂含むが夾雑物は少ない。②酸化焰、普通。③にぶい黄褐色10YR5/4。前面一部赤色味をおびる。④端部の割落すむ。
4 杯	口(11.2) 底(5.6)	埋土 図示部欠	ロクロ不使用か。口縁ナデやや粗い。口縁外面下平に指頭圧痕があり、外底に一方の削りあり。内面は粗い布状具の幅広いナデ。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物を含む砂粒やや多い。 ③にぶい黄褐色10YR7/2。外面黒色味と赤色味のムラあり一様でない。
5 杯	口 12.6～12.4 底 6.0 高 4.0	東壁下床直上 完成	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面で弱く、内面では細かく強い。口縁のナデは丁寧だが歪みあり。内面底部は凹凸多い。	①素地普通。バミス・黒色細砂多い。②酸化焰、やや軟調。③淡黄2.5Y8/3。内面黒色味強く、外面にも黒色のムラあり一様ではない。
6 椀	口(13.4) 台 6.9～6.2 高 5.1	北東隅床直上 口縁上半若干 下半～底部欠存	外底に砂粒の付着多い。型遣りか。高台取付も回転非使用で確。口縁は布状具のナデ。内外面とも凹凸多く、台部に粗い布状具のナデあり歪む。	①素地やや緻密。バミス・黒色細砂含むが夾雑物少ない。②酸化焰、軟調。③にぶい黄褐色10YR6/4。外底は黒色味強く、内面にも黒色のムラあり。④二次火熱を受けるか。
7 杯	口 11.7～11.4 底 6.0 高 3.3	埋土 ほぼ完成	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面で強く細かい。内面は底部中心に丁寧なナデ。	①素地やや粗い。バミス・輝石まじる黒色砂粒多い。 ②還元焰、やや軟調。③灰白10Y8/1。内外面とも黒色・褐色のムラあり一様でない。
8 杯(S)	底(7.8)	埋土 底部欠	右回転ロクロ→回転へ削りか。底部全面回転へ削り。外底部に意味不詳の割痕あり。	①素地普通。バミス・黒色細砂含む。②還元焰、普通。③灰10Y6/1。内面明度高い。
9 羽釜	口(21.0) 脚(25.0)	カマド内床直上 図示部欠	右回転ロクロ。ロクロ痕内外面とも強い。脚はロクロ使用の丁寧な取付。口縁端部内外面に突出し。上端は平坦。	①素地普通。砂粒がやや多く細礫も散見。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄褐色10YR7/3。内外面とも黒色のムラあり。

## I 整穴住居跡出土遺物

## II区 116号住居跡 (第158図 PL.73)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(9.0) 底 6.7~6.2 高 2.1	埋土 口縁上半欠く	右回転ロクロ→回糸→外底縁部に回転ヘラ削りの可能性。ロクロ痕弱い。全体に大きく歪む。内面のナデは丁寧。厚手。	①素地粗い。赤褐色鉱物・パミス等の目立つ砂粒多い。②酸化焙。普通。③にぶい赤褐色2.5YR/4。内外面とも黒色味強いムラあり。
2 杯(H)	口(11.8) 底(9.0)	埋土 回示部欠	口縁丁寧なナデ。外面の削り幅広だが丁寧で無調整部分を残さない。内面のナデは平滑に仕上げられる。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒がやや多い。②酸化焙。普通。③にぶい橙5YR/4。断面まで一様。
3 釘	頭部径 1.33~1.13 長 8.15	埋土 ほぼ完成	頭部は若干つぶれているが、身体は直線的で、使用の痕跡を感じさせない。	①錆化進むがヒビは少なく、釘としては地味は良いようだ。④先端の欠失は調査中のもの。
4 土鏡	長 3.0 径 0.9 重 2.6g	カマド内床直上 完成	整形痕は観察できない。内面幅の狭い糸痕僅かに残る。	①素地普通。パミス含む砂粒やや多い。②酸化焙。普通。③橙5YR/6。ほぼ一様。

## II区 117号住居跡 (第159図 PL.73)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 有蓋高杯(S)	口 13.1 受 15.7 脚上 5.5 脚下15.2~14.7	西壁障床直上 回示部完存	右回転ロクロ。長脚二段透かしの高杯で、脚部上半を欠く。透かしは刀子状の金属器で穿っている。ロクロ痕は弱い。厚手で重量。	①素地やや粗い。パミス・白色の砂粒多く、器面ザラザラ。②還元焙。硬質に焼結する。③灰白10YR/1。一様。
2 杯(H)	口(13.0)	埋土 回示部欠	内外面とも強く丁寧なナデだが、口縁部に指面圧痕状の歪み残る。内面口縁上端に弱い沈線ある。	①素地やや緻密。輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焙。普通。③にぶい黄橙10YR/2。内面黒色味強く、外面口縁も黒色のムラあり。④二次火熱を受けるか。
3 飯か	口(24.4)	北壁障床直上 回示部欠	口縁丁寧なナデ。外面頸部に弱い沈線が巡る。体部の削り粗く、強い工具痕を残す。内面丁寧なナデ。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・長石含む砂粒が多い。②酸化焙。普通。③にぶい黄橙10YR/4。内面赤色味強い。断面黒色味をおびる。
4 壺(H)	口(22.0) 頸(16.4)	南側床直上 口縁欠 肩部欠	口縁は大きく外反する。外面の削り強く、頸部には鋭い工具痕残る。口縁上端に強い段ができる。	①素地普通。パミス・輝石を含む粗砂多くザラザラ。②酸化焙。やや硬質。③橙7.5YR/6。内面赤色味強い。
5 甕(H)	口(14.4)	中央西障床直上 回示部欠	口縁は内外面とも丁寧なナデ。内外面のナデ・削りとも丁寧。口縁端部外方へ肥厚。	①素地やや緻密。パミス・赤褐色鉱物等のまじる砂粒やや多い。②酸化焙。普通。③にぶい黄橙10YR/4。一部黒色のムラあり。④二次火熱を受けるか。
6 壺(H)	口(21.4) 頸(16.0) 底 4.9	カマド右袖床直上 口縁欠 肩部欠く	輪積みか。口縁ナデやや粗。外面削りは強く、厚減すむが器面に凹凸を残す。内面は強いナデで幅広い工具痕あり。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミス・輝石等夾雑物多い。②酸化焙。普通。③にぶい橙5YR/4。内面黄色味強い。④二次火熱を受ける。外面にカマド粘土付着多い。

## II区 118号住居跡 (第160図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿	台 6.7	西壁障床上13cm 口縁下半片 底上部完存	回転ロクロ→回糸→回転利用の丁寧な高台取付。高台基部凹む。ロクロ痕やや強く細かい。	①素地普通。白色粗砂目立つ砂粒を含む。②還元焙。不充分。③灰N4/0。基部内外面は明度高く一様でない。

遺物観察表編

2 壺(S)	口(23.0)	埋土 図示部写	口縁は大きく外反し、外折れの端部は平坦になる。ロクロ痕強くやや粗い。	①素地普通。白色細礫・黒色鉱物含む砂粒多い。②還元焰、硬調。③灰N5/0。ほぼ一様。
-----------	---------	------------	------------------------------------	--

II区 119号住居跡(第162回 PL.74)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付皿(K)	口 12.0 台 6.0 高 2.9	カマド前面床直上 図示部写	右回転ロクロ→切離し不明→ロクロ使用高台取付。潰掛け。ロクロ痕は外面でやや強く、内面は丁寧にナゲ消す。内底に煎焼きの高台痕あり。	①素地緻密。白濁色の小粒夾雑物散見。②還元焰、硬調。③灰白N8/0で一様。軸は乳濁した緑黄色で薄い部分は乳白色を呈している。
2 杯	口 10.7 底 6.3 高 3.2	北西側床直上 口縁写欠く	右回転ロクロ→静糸無調整。ロクロ痕弱い。全体に小さな波状の歪みあり。	①普通。赤褐色夾雑物まじりの砂粒、やや多い。②中性焰か、硬調。③にぶい橙5YR7/4。内面中心に灰白色味の強い部分あり。
3 杯	口 10.3~10.1 底 5.8~5.5 高 3.6	北西側床直上 完形	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。内底中央は鋭い工具痕が渦巻き状に延びている。	①素地普通。赤褐色夾雑物まじりの細砂、やや多い。②中性焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。不明瞭な黒斑状の色ムラあり。④内面下半に赤色顔料付着。朱色に発色している。
4 壺(H)	口(22.0) 頸(20.6)	南壁下床直上 図示部写	輪積みか。外面削りは強い。内面ナゲは丁寧に、工具痕若干残るが平滑に仕上げる。	①素地普通。粗砂の混入やや多い。②酸化焰、やや硬調。③浅黄橙10YR8/3。外面はススけたような暗褐色のムラ広い。
5 壺(H)	口(20.0) 頸(18.6)	南壁下床直上 図示部写	輪積みか。外面削りは弱く粗い。内面ナゲは木口状の工具痕やや鋭く残る。口縁横位ナゲは、強い布状具の擦痕あり。	①素地やや粗い。パミス・石英等散見する砂粒やや多い。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい橙2.5YR6/4。内面やや赤色味強い。
6 土釜	口(18.0)	埋土5片 図示部写	輪積み。内外面に平行な接合痕残る。口縁外縁に不規則な沈線残る。外面削りやや鋭い。内面ナゲは工具使用。	①素地やや粗い。パミス・粗砂等の混入物やや多い。②中性焰か、普通。③にぶい黄橙10YR7/2。内面黒色味強い。
7 土鉢	長 4.2 径 1.2 重 5.3g	埋土 完形	外面にナゲつけるような、弱い指頭痕あり。孔は歪む。	①素地普通。輝石等の混入物やや多い。②酸化焰、普通。③灰白7.5YR8/2で、ほぼ一様。
8 土鉢	長 2.4 径 0.9 重 1.9g	埋土 完形	表面はナゲにより、平滑に仕上げる。内面に縦位の弱い擦痕あり。	①素地やや緻密。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4で一様。
9 土鉢	径 1.2	埋土 片側端部と一側面の大半欠く	孔が2~1.5mmと細い。器面は平滑。	①素地普通。夾雑物少ない。②酸化焰、普通。③浅黄橙7.5YR8/3で一様。

II区 120号住居跡(第164回 PL.74)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕(S)	台 9.0	西壁床直上10cm 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→静糸か→ロクロ使用高台取付。外底にへつ記号あり。内面ロクロ痕強いが、ブクを生じて不整。内底中央、外面全面に陥凹痕かかる。	①素地やや緻密だが、気泡が多い。酸化鉄らしい黒色鉱物やや目立つ。②還元焰、やや硬調。③灰白N8/0。断面は黒色味、黄色味の強い縞状。軸は緑色味が濃い。
2 磁石	中厚 3.3×1.7 厚薄 4.0×2.6	北壁下床直上 半欠品か	現状長断面三角形で4面使用だが、平坦なのは一側面のみ。裏面が一部凹面となるが、他は凸面。	①磁石石。やや鉄分強い。②縦横は方向不定で強さも一様でない。平坦な側面のみ長軸に平行な擦痕が見られる。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

## II区 122号住居跡 (第166図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口 11.7 台 6.7 高 5.1	埋土 口縁欠く	左回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台取付。外面のみロクロ痕やや強い。高台取付やや難で接合痕が残る。	①素地やや粗く、石英・パミスじりの砂粒や多い。②中性焰か、やや軟調。③灰白2.5Y8/2。赤色味・黒色味の強いムラ多く一様でない。
2 杯	口(11.4) 底 5.4 高 3.6	埋土 片断体	ロクロ不使用。内面ナデは強く、鋭い擦痕が残る。口縁外面下半は指頭の高いナデで、平滑に仕上げられる。底部はきわめて薄い。	①素地やや緻密。赤褐色夾雑物・パミス等のまじる砂粒やや多い。②酸化焰か、きわめて硬調。③にぶい橙5YR7/3。内面黄色味をおびる。
3 杯	口(12.8) 底(5.6) 高 3.7	埋土 図示部欠	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は外面のみやや強い。	①素地普通。片岩質細碎等、大粒夾雑物を含む。②還元焰、やや硬調。③青灰5BG5/2。口縁部のみ黒色味をおびる。

## II区 123号住居跡 (第168図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	台 7.1~6.9	埋土 口縁下半片 底部完存	右回転ロクロ→回糸→高台取付。内面ロクロ痕弱く平滑。高台は難な取付で口縁部に接合痕顯著。	①素地緻密。細砂含むが夾雑物は少ない。②中性焰か、普通。③にぶい黄緑10YR7/2。底部周囲で赤色味をおびる。

## II区 124号住居跡 (第170図 PL.74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (K)	口(16.8) 台(6.0) 高 4.8	南東隅床直上 図示部欠	右回転ロクロ→ロクロ使用丁寧な高台取付で永切り痕をナゲ直す。外面ロクロ痕やや強い。軸は置掛けか。	①緻密な素地だが、白色粗砂の混入多く、反輪としては粗い。②還元焰、やや硬調。③灰白10Y8/1。軸も灰白色で厚い部分は緑色味をおびる。
2 台付罍	台上 5.3	南壁下床直上 図示部中上半片 欠く	台の取付丁寧で外面に同心円状のナデが通る。外面の削りも弱く丁寧。内面指頭圧痕状の弱い凹凸あり。厚手。	①素地としては緻密で赤褐色鉱物以外の混入物少ない。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。外面やや粗いムラあり。
3 罍 (H)	口(17.0) 頸(16.2)	南東隅床直上 図示部欠	コの字口縁で上側は外面に強い沈線通るが下部は不明瞭。内面は工具使用の鋭いナデで平滑。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・輝石等少量含む。②還元焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。外面の大半は黒底。

## II区 125号住居跡 (第172図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(16.0) 台(7.8) 高 5.6	カマド内床直上 図示部欠	右回転ロクロか。ロクロ使用高台取付で切跡は不明。横ナデ丁寧でやや粗い擦痕残る。	①素地やや緻密。細砂まじりの砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③洗黄緑10YR8/4でほぼ一様。
2 椀	口(16.0)	カマド内 図示部欠	1に同巧。ロクロ痕やや強い。	①②③1に同じ。
3 椀	口(15.6)	カマド前面床直上 図示部欠	右回転ロクロ。横ナデ丁寧で内面は平滑。1にはほぼ同巧。	①素地緻密。砂粒やや多い。②中性焰か、普通。③洗黄緑10YR8/4。内面やや灰色味をおびる。

遺物観察表編

II区 126号住居跡 (第173図 PL. 74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	台( 8.2)	埋土 右回転内高台瓦 欠く	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台 取付。内底に一方の丁寧な研磨。	①素地やや粗く、ボソボソ。砂粒含む。②酸化焰か、 普通。③にぶい橙7.5YR7/3。明度・彩度ともまら まら。内面黒色感強だが、光沢欠く。
2 椀(S)	台( 7.6)	西壁直下床上5 cm 回糸部瓦	右回転ロクロ→ロクロ使用高台取付。 切離し不明。器面やや平滑だが、内底 縁辺に重焼きの高台痕顕著。	①素地普通。ややザラザラしている。黒色鉱物粒や や多い。②還元焰、硬調。③青灰10BG6/1。外面上 半、明度低い。
3 羽釜	口(19.0)	カマド右袖床直 上 回糸部瓦	筒の取付は面一的で強い磨痕が残る。 ロクロ使用の可能性。外面削り弱い。 内面丁寧なナデで、木口状工具痕があ る。厚手で重量。	①素地普通。砂粒やや多い。②中性焰か、やや硬調。 ③にぶい橙7.5YR7/4。赤色味や明度低いムラ多く、 一様でない。④内外面にカマド粘土状の付着物あり。

II区 128号住居跡 (第174図 PL. 74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕(Y)		埋土 口縁	口縁は幅広いの粘土帯を貼付し、口唇か ら横位織文。内面は粗いへら磨き。原 体は複々節L R L R。	①きめ粗く、石英・輝石・斜石の粗粒が多い。②普 通。③赤褐5YR4/6。
2 甕(Y)		埋土 肩部	最大幅をもつ屈曲部に横位織文。以下 の無文部は板状具ナデ。内面は粗いへ ら磨き。原体は複々節L R L R。	①きめ粗く、石英・輝石・斜石の粗粒が多い。②普 通。③赤褐5YR4/6。
3 甕(Y)		埋土 頸部	膨脹織文を上下2段に施す。反時計 回り。内面は粗いナデ。施文具は8本 単位型1種。	①きめやや粗く、長石・石英・赤褐色粒・金銀母 の粗～細砂を多く含む。②やや硬調。③黒褐10YR3/2。
4 甕(Y)		埋土 肩部	横位羽状織文。内面工具によるナデ。 原体はR L Rと附加条第1種L R + 2 Rと思われる2種使用。原体束は赤。	①きめ粗く、粗砂を多く含む。②やや軟調。③にぶ い褐7.5YR5/4。
5 甕(Y)		埋土 肩部	横位織文。内面は粗いへら磨き。原体 は複々節L R L R。	①石英・斜石・輝石・長石等の粗～細粒を含む。② 普通。③暗赤褐5YR3/6。
6 皿	口 10.7 底 5.7~5.3 口縁径	中央北側床上10 cm 口縁瓦	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ扱 きわめて弱い。	①素地やや粗く、粗砂の混入も多い。②中性焰か、 軟調。③にぶい黄褐10YR7/3。色調・明度とも一様 でない。④器面一部すける。二次火熱を受けた可 能性あり。
7 刀(子)	柄 0.24~0.21	埋土	刃部を有するものと考え刀子としたが、 棟部が直線的でなく、不自然な点も多 い。	①重量で良質鉄である。断面内にも空洞はでき ない。②切先側の欠失は調査時のもの。錆化進みが 地金のふくらみや、歪みは少ない。

II区 129号住居跡 (第175図 PL. 74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(12.0) 高 4.1	埋土3片 写像体	外面の削りやや粗。内面丁寧なナデだ が、器面に小さな凹凸あり。	①素地普通。細粒・輝石等混入物やや多い。②酸化 焰、硬調。③橙7.5YR7/6ではぼ一種。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

2 杯 (H)	口(14.4) 高 4.2	埋土 瓦個体	外底の削りは幅広く丁寧。口縁外面の横位ナゲ下に、接合痕が明確に残る。内面は平滑。	①素地やや緻密。赤褐色夾雑物まじりの砂粒やや多い。②酸化焙、普通。③にぶい橙7.5YR7/4でほぼ一様。
3 杯 (H)	口(16.0) 高 4.1	埋土 瓦個体	器面割高して不明瞭だが、外面は丁寧な削り、内面横位ナゲも、平滑に仕上げている。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒、やや多い。②酸化焙、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。外面一部明度の低いムラあり。
4 高杯 (H)	口 16.6~16.1	カマド内床直上 図示部写	内面中心に器面の割落すずみ、整形痕不明瞭。外面底部付近に幅広い削り。	①素地普通。パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焙、やや硬調。③改良橙7.5YR8/3。赤色味の強いムラ広い。④二次火熱を受けた可能性あり。
5 壺 (H)	口(20.0) 頸(17.4)	埋土 図示部写	口縁端部は内側面とも広く凹む。外面は弱く丁寧な削り。内面も丁寧な横位ナゲで細かな擦痕が残っている。	①素地普通。輝石まじりの砂粒多い。②酸化焙、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。内面やや暗いがムラ少ない。
6 壺 (H)	口(22.2) 頸(17.6) 胴(19.6)	東壁下床直上 図示部写	外面削りは丁寧で息長い。内面は幅広いの木口状工具による丁寧なナゲで、差額としては平滑に仕上げている。	①素地やや粗く、輝石・パミスまじりの砂粒の混入多い。②酸化焙、普通。③にぶい橙5YR6/4。明度の低いムラ多い。④破損後に火熱を受けているようである。

## II区 131号住居跡 (第177図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付杯	口(15.6) 台(11.6) 高 7.0	東壁直下床下6cm 図示部写	右回転ログロム。横ナゲ割い。内面にやや粗い布状具の擦痕あり。口縁端部突る。	①素地普通。細顆まじりの砂粒含む。②還元焙、きわめて硬調。③明青灰5B7/1。内面やや黄色味をおびる。

## II区 132号住居跡 (第179図 PL. 74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(14.4)	南西壁下床下10cm 図示部写	厚手。外面削りは細かく丁寧。内面に雑でまばらな暗文状の磨きあり。	①素地やや粗く、パミス・赤褐色夾雑物等の混入多い。②酸化焙、普通。③にぶい橙5YR7/4。暗褐色部分広い。断面は彩度強い。
2 埴 (H)	口 12.9 頸 12.0 底 5.3~4.9 高 6.4	南西壁下床下10cm 瓦個体	輪横みか。内底は、強い指頭圧痕で凹凸。外面下半に強い削り。	①素地やや緻密。赤褐色夾雑物まじりの砂粒含む。②酸化焙、普通。③にぶい橙5YR7/4。色相・明度もまばらである。
3 高杯 (H)	口(17.0) 脚上 3.3 脚下13.1 高 15.2	南西壁下床下10cm 口縁瓦 脚部部写欠く	脚柱部は巻上げか。外面磨きは細く、強く長い擦痕が残る。杯部内面は粗い横位ナゲ後、雑で粗い磨き。	①素地やや粗い。赤褐色夾雑物・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焙、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。口縁部に広い黒斑あり。
4 高杯 (H)	脚上 3.9	南西壁下床下10cm 図示部ほぼ写存	外面削りに近い強い磨き。内面は幅広い雑で強いナゲで、成形痕を消している。器形より129住一4と同一個体の可能性あり。	①素地やや緻密。赤褐色夾雑物まじりの砂粒を混入。②酸化焙、硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。黒褐色のムラあり。内面は彩度低い。

遺物観察表編

II区 134号住居跡 (第180回 PL. 74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(13.4) 底 5.1 高 4.0	西壁下床直上 片断体	右回転ロクロ一回糸無調整。ロクロ痕弱く細かい。口縁部大きく、波状に歪む。	①素地やや粗い。赤褐色夾雑物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい黄橙2.5YR7/3。明度の低いムラ広い。④破損後に、二次火熱を受ける。
2 椀	口(14.6) 台 6.1 高 5.5	西壁下床直上 口縁片 底部充存	右回転ロクロ。切離し不明。高台はロクロ使用取付。横ナデやや弱く、内面特に平滑。	①素地やや粗く、細砂の混入多い。②還元焰か、やや軟調でしまり欠く。③明オリープ灰2.5GY7/L。暗褐色のムラあり。
3 甕(H)	口(19.4) 頸(18.0)	北壁下床上14cm 指示部片	口縁端部は形状一定でない。頸部外面に指頭圧痕。削りはやや鋭い。内面は丁寧なナデ。	①素地普通。輝石まじりの砂粒若干含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。明度の低いムラ多い。断面も黒色味強い。

II区 135号住居跡 (第181回 PL. 74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土罐	厚 2.6 重 11.2g	埋土 指示部片	内面に竹のような縦位のスジ状の圧痕あり。また内面端部に鋭い面取り。外面は弱く細かい指頭状の圧痕残る。	①緻密でやや軽質な素地。混入物少ない。②還元焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。断面は白色味が強い。

II区 138号住居跡 (第185回 PL. 74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 11.6~11.3 高 3.6	南壁廊床直上 完形	外底削り丁寧で鋭い。内面のナデも丁寧で、同心円状のやや粗い糸状具の磨痕が顕著。内面に焼成後線刻あり。	①素地普通。粗砂の混入やや多い。②還元焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。外面に灰色味の強いムラ広い。
2 盤(H)	口(16.0) 高 3.3	南壁廊床下6cm 口縁片 底部充	外底削りやや弱。内面ナデもやや弱。底部に細かな凹凸あり。形状は一律でない。	①素地やや粗く、輝石まじりの粗石やや多い。②還元焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4基調。内面に暗褐色のムラあり。
3 杯(H)	口(12.2)	埋土 指示部片	外面削りやや鋭い。内面價位ナデは丁寧で平滑に仕上げられる。	①素地やや粗く、ガサガサ。砂粒若干含む。②還元焰、やや硬調。③橙5YR6/6。ほぼ一律。
4 高杯(H)	脚上 4.0	埋土 脚柱部充存 頸部若干	器面荒れていて観察難しい。外面下部にハケ目状のやや粗い凹みあり。内面に深く鋭い工具痕残る。	①素地やや粗い。粗砂の混入やや多い。②還元焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。暗褐色のムラが多い。④破損後に二次火熱を受ける。

II区 139号住居跡 (第186回 PL. 74)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(15.2) 高 4.1	カマド前面落込 内底面直上 口縁片 底部片	外底削りは丁寧でやや鋭い。内面も丁寧なナデで平滑。口縁部外面のナデやや平滑。	①素地やや緻密。粗砂等散見するが、混入物少ない。②還元焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4で、ほぼ一律。④口縁内面にみに細かな割基あり。



## 1 竪穴住居跡出土遺物

2 杯 (H)	□(14.0)	中央床上15cm 図示部写	外底の削りやや粗く弱い。口縁下半に 無調整部分あり。内面は丁寧にナデで 平滑。	①赤地やや粗くガラガラ。パミス・細礫まじりの砂 粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③に よい糖5YR7/4。外面に赤色味・灰色味のムラあり。
3 壺 (H)	□(21.0) 頸(15.6) 胴(19.4)	カマド内床直上 口縁写 胴部写	口縁外面に明瞭な接合痕あり。外面削 りやや鋭く丁寧。内面ナデも丁寧に、 平滑に仕上げている。	①赤地やや粗く、礫石・パミスまじりの砂粒 やや多い。②酸化焰、やや軟調。③に よい赤褐10R6/4。外面下半黒褐色。

## II区 141号住居跡 (第188回)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (S)	台 7.7	中央北側床直上 図示部写	右回転クロコ回糸。高台はいびつで 取付はクロコ不適用か。クロコ板は内 面やや強い。	①赤地やや粗く、土粒・細礫等混入物や 多い。②還元焰、やや軟調。③灰白10Y8/1 で統一。④内底は靨のように平滑になっ ている。

## II区 142号住居跡 (第190回)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	□(12.2)	埋土 瓦個体	外底削りは幅状で細かい。内面は丁寧 なナデ。内外面赤色地彩か。	①濃地粗い。パミス・細礫まじりの砂粒 がやや多い。②還元焰、普通。③赤褐 10R4/4。外底に黒褐色広い。断面は 灰黄褐色。

## II区 143号住居跡 (第191回)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土釜	□(18.2) 胴(21.2)	カマド内床直上 口縁写 胴部写 胴中位写	輪轆のみ。外面削り強く息長い。内面 割中位付近に、指環状の長いナデの痕 あり。	①赤地粗く、土粒・礫石まじりの砂粒 多い。②還元焰、普通。③赤褐7.5YR5/4。 外面に黒褐色の 色ムラ広い。④外面カマド粘土付着。

## II区 144号住居跡 (第192回 PL.74)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	□(12.6)	埋土 口縁写 底部写	外底一方のやや鋭い削り。内面丁寧 なナデで平滑。口縁下半外面に指環状 痕状の凹みがある。	①赤地やや粗密。赤褐色礫物まじりの砂 粒を若干含む。②還元焰、普通。③に よい糖5YR7/4。内底は黄色味強い。
2 壺 (H)	□(17.6)	カマド前面南側 床上6cm 図示部写	外面削りは幅状で鋭い。内面はやや 丁寧なナデだが、唇面に凹凸あり。	①赤地やや粗い。細礫まじりのパミス やや多い。②還元焰、やや硬調。③に よい糖5YR7/4。内面は灰色味を おびる部分広い。

## II区 145号住居跡 (第194回 PL.74)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付杯 (S)	□(18.6)	野藏穴内床直上 図示部写	左回転クロコか。内面のみクロコ板 や強い。外面二条の比線高が、各條 の重複部分長く、クロコ回転の速さが 感じられる。外面下端、弱い凹へず。	①赤地やや粗くボソボソ。白色砂粒・ 黒色礫物等含む。②還元焰、普通。③ 灰白7.5Y7/1。黄色味をおびるムラ 若干あり。

遺物観察表編

2 杯(S)	口(18.0)	埋土 口縁部破片	右回転ロクロ。内外面ともロクロ痕強い。高台が付く様か。外面に意味不明の焼成後線刻あり。	①素地やや粗くボソボソ。砂粒の混入やや多い。②還元焰、やや硬質。③外周明青灰SPB7/1。内面・断面灰白10YR/1。
3 杯(H)	口(14.2)	埋土2片 口縁片 底面残	外底の削りやや強いが丁寧。内面ナゲも丁寧で、平滑に仕上げられる。	①素地普通。砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4でほぼ一様。
4 杯(H)	口 15.0	貯蔵穴内床直上 図示部残	外底削りは弱く丁寧。内面斜落込み、不明瞭だが、丁寧なナゲの平滑な仕上げと思われる。	①素地普通。気泡混入。土粒・砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬質。③にぶい橙5YR7/4、暗褐色のムラ広く、一様でない。
5 甕(S)	頸( 8.0) 胴(10.2)	埋土 胴中位片 頸部若干	右回転ロクロか。ロクロ痕弱いが、内面に布状具の擦痕やや強い。肩部や、内面胴下半に、隆起軸多い。	①素地普通。黒色鉱物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、硬調で焼締る。③暗灰N3/0。灰7.5Y6/1。軸は黄色味が強い。
6 鉢(H)	口(19.0)	埋土 図示部残	輪轆のみか。口縁部部のナゲ鋭く、布状具の擦痕顯著。外面削り弱い。内面やや幅広い様な磨き。	①素地やや粗く、モグザ質。砂粒若干含む。②酸化焰か、普通。③外面黒褐7.5YR2/1。内面・断面灰白10YR8/7でほぼ一様。
7 甕(H)	口(19.2) 頸(16.2)	埋土 図示部残	外面削りは幅広くやや弱い。口縁部ナゲは外面でやや粗。内面肩部にも細かな凹凸が残る。	①素地普通。パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。内面赤色味が強い。
8 甕(H)	胴 22.4~21.1 底 6.1	カマド前床直上 図示部のうち 胴上半欠久く	胴中位下の合わせ痕が、内面で明瞭。外面削りは幅広く鋭い。内面はやや丁寧なナゲで平滑。	①素地普通。チャート・赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③外面にぶい橙5YR7/4。内面にぶい赤褐5YR5/3。
9 甕(H)	口(24.0) 頸(18.8) 胴(20.0)	埋土 口縁片 胴上半片	薄手で口縁に歪みあり口径不安。外面削りやや細かく強い。内面やや丁寧なナゲだが器面に凹凸あり。	①素地やや粗く、粗砂の混入やや多い。②酸化焰やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4~黒褐5YR2/1。一様でない。
10 甕(S)	胴(45.0)	貯蔵穴南側床直上 50cm 胴上半片 下半片	外面全面強い平行たきの上に、部分的な粗い横位のナゲ。内面はアテ具痕を縦にナゲ消し、一部で背割線状の痕が残る。	①大断面としてはやや緻密な素地で、砂粒の充填多い。②還元焰、普通。③灰N5/0で内外面はほぼ一様。
11 紡錘車	上 4.1 下 2.7~2.5 厚 2.0	北壁側床直上6cm 完形	軸穴は中心をわずかにせれる。軸穴内には細かな工具の調整痕が、縦位に残る。全体に細かな凹凸多い。	①蛇紋岩。③黒色で表面に光沢あり。④上面と側面に線刻状の傷が多数残る。
12 紡錘車	上 3.3 下 4.3 厚 2.4	P5北側床直上 完形	土製。側面の凹凸やや強い。側面と下面は右等による磨きを施し、同心円状にはならない弱い擦痕あり。	①素地緻密。輝石まじりの細砂やや多い。②酸化焰、硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。黒色味強いムラ広い。④下面軸穴縁辺の外側斜落多い。

II区 146号住居跡(第195図 PL.74)

No・遺物	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と面形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕(H)	口(15.0) 頸(10.0)	埋土 図示部残	外面は頸部を除いて細かなハケ目。内面肩部は接合痕上に指頭状の圧痕で、器面不整。	①素地普通。粗砂の混入やや多い。②酸化焰、普通。③外面・断面黒褐5YR2/1。内面にぶい黄褐10YR7/2。
2 台付甕(H)	口 14.4~14.1 頸 12.4	中央北側床直上 図示部ほぼ完存	外面ハケ目はやや鋭く、肩部のハケ下には丁寧な横位削り痕あり。内面弱く丁寧なナゲでやや平滑。	①素地普通。赤褐色鉱物・粗砂まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄褐10YR7/3。内外面に広く黒斑あり。

## I 竪穴住居跡出土遺物

3 壺 (H)	口(20.0) 類(17.8)	埋土2片 口縁写 胴部写	やや歪みのある土器を小破片から復元したもので、口縁不安、頸部は帯状付後、断面の細かな押圧。口縁端部は棒状の細かな圧痕が不規則に見られる。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物・細砂等の混入も、やや多い。②酸化焙。硬調。③にぶい黄褐色10YR7/4。外面は黒褐色の不規則なムラ広い。
4 壺 (Y)		埋土 口縁	外反して開く単口縁で外面と口唇部に縄文を施す。原体はLR直前段4条。原体端部で2列の押痕を巡らす。内面は横ナデ。	①長石・石英等の粗粒を含む。②硬調。還元。③黒色。
5 壺 (Y)		埋土 口縁	横位縄文。中に縄文原体末端による押痕。内面はナデ。原体はLR直前段4条。	①長石・石英等の粗粒を含む。②硬調。還元。③黒色。
6 壺 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体はRLと思われる。	①きめ粗く、チャート・長石・石英等の粗粒が多い。②普通。内面は還元。③にぶい橙7.5YR6/4。
7 壺 (Y)		体上位	胴部に横位縄文。胴上半以上に縦幅の大きい網縞波状文。縄文原体は附加条第1種LR+2R。標識施文具不明。	①無色鉱物の細角礫含む。②やや硬調。③黒色。
8 壺 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体はLRと不明瞭だが附加条らしき痕跡が一部みられる。	①長石の細粒～粗粒が多い。②やや硬調で還元。③黒10YR2/1。
9 壺 (Y)		埋土 胴部	波状文を重ねる。内面ヘラ磨き。施文具は9本単位の標1種。	①きめ粗く、長石・石英等の粗～細粒を含む。②普通。③黒7.5YR2/1。
10 (Y)		埋土	縄文施文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2Rと思われるが不明瞭。	①5mm大の白色岩石片、石英の粗砂を含む。②やや硬調。③黒色。

## II区 147号住居跡 (第196図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (H)	口(22.0) 類(17.8)	東壁寄床直上 図示部写	輪積みか。外面は粗く幅広く、足の短い筒形。口縁と内面の横位ナデはやや丁寧で、布状具の弱い押痕が残る。	①素地やや粗く、細粒・パミス等混入物もやや多い。②酸化焙。やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。内面・断面はやや黄色味強い。

## II区 148号住居跡 (第197図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 台付壺 (H)	口(15.0) 類(12.8)	埋土2片 図示部写	輪積みか。外面のハケ目は弱い。内面はヘラ状工具の粗いナデで、頸部付近にハケ目(外面とは異なる)が残る。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物・細砂等の混入多い。②酸化焙。普通。③赤黄褐色10YR5/2。内面明度高く、断面は黒色。

## II区 149号住居跡 (第198図 PL.75)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(11.2)～10.5 高 4.1	埋土14片 瓦個体	内面口縁下縁の屈曲鋭い。外底の削り鋭い。内面ナデやや丁寧だが、底面やや不整。平面、だ円形に至む。	①素地普通。砂粒の混入やや多い。②酸化焙。やや軟調。③黒褐色5YR2/1。断面赤褐色。黒色処理の土器とは考えられない。

遺物観察表編

II区 150号住居跡 (第200図 PL.75)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (R)	口(14.0) 台 7.0 高 4.6	中央北側床直上 口縁写 高台部分	右回転ロクロ→静糸か(外縁中央に僅かな低部)→ロクロ使用高台取付と外面口縁下半のごく弱い回転へう削り。外面下半にまばらだが強いへう磨き状の押圧。軸は全面に届すが濃淡あり。	①緻密だがゼクリした素地で、混入物少ない。②酸化焰、普通。③断面浅黄褐色7.5YR8/3。縁軸は薄い黄緑色で光沢あり。④いわゆる軟陶系。
2 杯 (S)	口(14.2) 底 7.8 高 3.6	カマド前面南側 床直上 口縁写 底部分	右回転ロクロ→湿糸無調整。厚手で重量。底部へ口縁下半の断面形状一定でなく、図示部はやや厚め。	①素地やや粗く、細粒まじりの砂粒やや多い。②やや不十分な還元焰、普通。③灰白5Y7/1と灰5Y4/1で一律でない。④外面に縦刻み。
3 椀	台(6.2)	中央床直上 図示部分	右回転ロクロか、切離し不明。ロクロ痕弱く不明瞭。高台取付やや難。底部のみ厚手である。	①素地やや粗い。パミス・細粒まじりの砂粒を含む。②中性焰か、普通。③にぶい椀5YR7/4～灰白10YR7/1。一律でない。
4 杯 (H)	口(13.4)	埋土 図示部分	外面削りやや細かく鋭い。内面ナデは丁寧で平滑。口縁にやや粗い布状具の擦痕が残る。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含む。気泡散見。②酸化焰、やや硬調。③にぶい椀7.5YR7/4。外面不規則に明度低く、断面明度高い。
5 小型甕 (H)	口(14.4) 頸(12.4)	埋土 図示部分	輪積みか。器面荒れて整形不明瞭。外面削りはやや粗い。	①素地やや粗く、砂粒の混入多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい椀2.5YR6/4。内面、やや明度低い。④二次火熱を受け、外面強酸化。

II区 151号住居跡 (第202図 PL.75)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (K)	口(16.2) 台(8.8) 高 6.5	埋土 図示部分	右回転ロクロ→ロクロ使用丁寧な高台取付。灰輪としては、ロクロ直やや強い。軸は横掛けだが、弱く不明瞭。	①緻密で黒色鉱物等の混入物も少ない。②還元焰やや硬調。③灰白7.5Y8/1で断面まで一律。軸は透明で厚い部分のみ黄緑色に発色。
2 椀	口(14.0) 台 6.8~6.5 高 5.0	中央東側床直上 口縁写欠く	右回転ロクロ→湿糸。高台取付やや難で、外面は接合痕顯著でロクロ不使用の可能性。内面平滑。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石まじりの砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい黄褐色10YR7/4。赤色味や明度低いムラあり一律でない。
3 杯	口 10.3~9.8 底 5.3 高 3.8	カマド前面床直上 5 cm 口縁端部写欠く	外面は付着砂粒と剥れた砂粒の痕であった。口縁外面に接合痕顯著。ナデは不整でロクロ不使用。外面下端は指痕状・内面工具痕の不明瞭な凹み。	①素地普通。輝石・土粒まじりの粗砂やや多い。②中性焰か、普通。③浅黄褐色10YR8/3。赤色味をおびるムラあり。
4 小型甕 (H)	口(11.0) 頸(10.8)	北壁下床直上 図示部分	外面削りは強く細かい。口縁部ナデは粗い布状具の擦痕が残る。体部内面のナデには輪積の工具痕が残る。	①素地普通。細砂の混入やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい椀7.5YR7/3～黒色。一律ではない。
5 小型甕 (H)	口 12.0 頸 19.0	中央東側床直上 図示部分	右回転ロクロか。横ナデの擦痕はやや鋭い。	①素地やや粗く、細粒等混入物も多い。②酸化焰か、やや軟調。③灰白2.5Y7/2。一律でない。④二次火熱を受ける。
6 甕 (H)	口(20.6) 頸(19.2)	カマド前面床直上 5 cm 図示部分	輪積み。外面の削りやや強い。内面工具使用の強いナデで、粗いハケ目状の凹凸あり。	①素地普通。輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄褐色10YR7/3。外面灰色味、内面赤色味のムラあり。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

## II区 152号住居跡 (第205図 PL.75)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 12.2~10.4 高 4.4	カマド西壁下床直上7cm 底面欠	歪み著しく平面だ円形を呈すが、器壁は薄く均質。外底削りはやや強い。内面ナデはやや細かい布状具の擦痕残る。	①ダスト質。赤褐色鉱物やや目立つ。緻密。②酸化相、やや微調。③にぶい橙5YR7/4。高彩度、低明度部分等まちまち。
2 杯 (H)	口(13.6) 高 3.6	中央北側床直上10cm3片 口縁片底面欠	高部の歪み強い。内底に目の粗い布状の圧痕あり。外底削りはやや強めで、鋭い。	①ややダスト質。赤褐色鉱物・長石・チャート等の粗〜細砂を含む。②酸化相、やや微調。③橙5YR6/6。
3 杯 (H)	口 11.9~11.6 高 4.1	カマド前面床直上 ほぼ完形	外底の削り不明瞭だが、器面に凹凸残り、やや強いものか。口縁に小さな波状の歪み。内底も不整。	①ダスト質。やや大粒の赤褐色鉱物目立つ。②酸化相、普通。③橙5YR6/6。黄色味のあるムラあり。④器面の厚減すむ。
4 短頸瓶 (S)	口 9.1 胴 13.6 高 10.0	P2北床直上 口縁部底面欠	右回転コクワ。胴部は上半と下半で厚さ著しく異なり、合わせたものであろう。外面削り鋭い。	①素地普通。白色砂粒等の混入物やや多い。②酸化相、微調。③青灰5B6/1でほぼ一様。
5 鉢 (H)	口 20.4	東壁脚床直上 図示部写	口縁のナデ強く、外面に3条の弱い沈線ができる。外端肥厚し内端は凹むが形状一定でない。外面削り強い。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化相、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に黒炭広く、内面赤色味をおびる。
6 甕 (H)	口 21.2 頸 16.1~15.4	中央床直上 口縁片 胴上角中写	輪積みか。外面削りは幅広い工具で、ごく強い。内面も幅広い工具の丁寧なナデ。外面頸部は差なナデでやや不整。	①素地やや粗い。パミスのやや目立つ粗砂多い。②酸化相、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。ムラ多く一様でない。外面に黒炭あり。
7 甕 (H)	口 21.4 頸 17.5 底 3.8~3.5 高 43.0	カマド前面 口縁片欠	輪積みか。胴中位下の合わせ痕も凹凸少なく丁寧な成形。外面削りは息長くやや鋭い。内面ナデも工具使用ナデで楽物としては丁寧に仕上げられる。	①素地やや粗く、パミス・細砂等の混入物やや多い。②酸化相、普通。③橙2.5YR6/6。外面下平に広く黒炭。内面上平は黒褐色。下平は黄色味が強い。④二次火熱受けるが、器面の黒炭弱く少ない。
8 甕 (H)	口 20.8 頸 16.7 底 3.8 高 43.5	カマド前面 ほぼ完形	7と同巧。内面のナデやや鋭く、擦痕が残る。	①⑦と同じ。③⑦に近い。内面の黒褐色部分少ない。

## II区 153号住居跡 (第206図 PL.75)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 13.9 高 3.3	南壁下床直上 写個体	外底削りやや粗い。内面ナデは目の粗かな布使用。口縁に小さな歪みあり。底部はややいびつ。	①素地普通。細砂・輝石・パミス等種多量混入物やや多い。②酸化相、普通。③にぶい橙7.5YR7/3でほぼ一様。
2 小型甕 (H)	口(13.2) 頸(11.4)	埋土2片 図示部写	輪積みか。外面粗く息の短いハケ目。内面は口縁部ハケ目、胴部は指頭のような圧痕と雑なナデ。重量。	①素地やや粗く、パミスまじりの粗砂含む。②酸化相、普通。③にぶい赤橙2.5YR5/4。黄色味をおびる部分若干あり。

## II区 154号住居跡 (第208図 PL.75)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 埴 (H)	口 11.7 頸 7.2 胴 13.1 底 5.1~4.7 高 14.6	P3床直上 口縁片欠	輪積みか。やや幅太の強い滑き流す。胴中位に横位へラ削りの痕跡あり。底面いびつで片側半分に粘土貼付して上げ底状に修正している。	①素地やや粗密。細砂・赤褐色鉱物等の混入物やや多い。②酸化相、やや微調。③にぶい黄橙10YR7/4。外面に褐色のムラや黒炭あり。

遺物観察表編

2 壘 (H)	口 14.8 頸 12.7 胴(19.0)	中央寄実直上15cm 胴中位与と底部欠く	外面削り履でやや強い。内面の工具使用ナデは鋭く、やや丁寧に仕上げる。口縁部ナデには細かい擦痕が残る。	①素地普通。細粒の目立つ砂粒含む。②酸化焙、普通。③にぶい橙2.5YR5/4。外面黒斑広く、内面灰色味強い。
3 台付壘 (H)	口 15.3 頸 12.6 胴(18.7)	中央寄実直上上半与 下半与	外面細かく短い丁寧なハケ目で、胴部付近までナデ消す。内面鋭い工具使用の丁寧なナデで、平滑に仕上げる。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焙、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。赤色味・黒色味の強いムラあり一様でない。④二次火熱受け外面下半部硬化。
4 磨台 (H)	口 9.0 脚上 2.7 脚下 12.3 高 9.5	中央寄実直上 完形	磨きやや弱く最も少なく、胴部にハケ目がのぞく。3孔は、規則的に穿たれる。杯部は丁寧な磨き。	①素地やや緻密。チャート・バミス等混入の砂粒含む。②酸化焙、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。黒斑点在。④口縁内側縁辺にだけ擦痕多い。
5 高杯 (H)	口 12.3 脚上 2.6 脚下 19.1 高 11.1	中央寄実直上 脚輪部与欠く	孔は頸部と柱部下端に各3ヵ所。外面丁寧な磨きで、頸及び口縁上半でハケ目が残る。杯内部不明瞭だが丁寧な磨きと思われる。脚内部も丁寧で平滑。	①素地普通。細粒・赤褐色鉱物等、混入物やや多い。②酸化焙、普通。③浅黄橙10YR8/3。口縁部はやや赤色味をおびる。黒斑散見。④口縁部中心に凍てハゼ状の剥落著しい。
6 甗 (H)	口(18.6)	東壁下床直上 口縁与 体部上半与	輪轆み。口縁外面は折り返し。外面ハケ目の上に幅広くやや粗い磨き。内面ナデは工具使用で息長く鋭い。	①素地普通。赤褐色鉱物・バミス・石英まじりの砂粒含む。②酸化焙、やや軟調。③明赤橙2.5YR5/6。内面やや彩度低い。
7 壘 (Y)		埋土 口縁	横位縄文。内面へら磨き。原体LR。0段多糸の可能性あり。	①ややきめの細かい、石英・輝石等の細砂を含む。②普通。③灰緑7.5YR4/2。
8 壘 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体RL。	①長石・石英・バミスの粗砂多く含む。②普通。③橙7.5YR6/6。
9 壘 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。原体は不明瞭だが、0段多糸Rと思われる。	①長石・石英の粗砂が目立つ。②普通。③橙7.5YR6/6。
10 壘 (Y)		埋土 胴部	横位縄文。無文部へら磨き。内面はナデ。原体はRL。	①きめ粗く、輝石・石英の粗砂が多い。②やや硬調。③明橙7.5YR5/6。

II区 155号住居跡 (第210図 PL.76)

No.・遺物	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小煎釜 (H)	口(10.2) 頸(6.2)	埋土 図示部与	内面胴部に二段成形の接合痕と、指頭圧痕顯著。ハケ目は細かい。口縁端部は尖り、シャープな作り。	①素地やや粗い。石英・細粒散見の砂粒含む。②酸化焙、普通。③にぶい橙5YR7/4。内面灰白色。断面黒褐色。
2 甗 (H)	胴 15.8~15.4 底 4.9	胴部与と口縁欠く	外面息長く、細かな磨き。内面工具使用の丁寧なナデでやや平滑。	①素地普通。赤褐色鉱物等若干まじる砂粒含む。②酸化焙、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/4。内面下半は黒褐色。断面中央も黒色味強い。
3 鉢 (H)	口(19.2)	埋土6片 口縁一体上半与	外面へら削り→新めハケ目→粗いへら磨き。内面は口縁にハケ目を残し、体部ナデ→粗い斜めへら磨き。	①素地はやや緻密。赤褐色鉱物・長石・チャート等の粗砂多く含む。②酸化焙、硬調。③にぶい橙5YR7/4。④体部外面の一部に黒斑。
4 高杯 (H)	口(22.0)	埋土 図示部与	器面荒れて整形痕不明瞭。外面上半にやや粗い磨きの痕跡がわずかに残る。	①素地やや粗く、砂粒の混入多い。②酸化焙、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。明度の低いムラ。内面中心に広い。④内面の剥落著しい。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

5 罎(H)	□ 24.0~22.4 頸 19.7~16.9 胴 21.7 底 6.0 高 21.1	灰面 ほぼ光形	輪積みか。胴部下に強い接合痕の役あり。外面細かなハケ目で丁寧。内面工具使用の強いナデで、一部でハケ目状。平面が円形に大きく歪む。	①素地やや粗く、パミス・赤褐色鉱物・輝石等種多な混入物を含む砂粒やが多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。外面黒褐色の強いムラ多い。④強い二次火熱受ける。
6 罎(Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面へう磨き。扉体R.L.	①長石・石英の粗砂目立つ。②普通。③濁7.5YR4/4。

## II区 158号住居跡(第212図 PL.76)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	底(8.4)	図示部写	右回転ロクロ→底部残存部全面回転へう磨り。内底平坦。	①素地普通。組織を僅かに含む砂粒やが多い。②還元焰、普通。③灰白5Y7/1。外面に明度の低いムラあり。

## II区 159号住居跡(第213図 PL.76)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 台付罎(H)	□ 14.2 頸(12.2)	口縁写 肩部写	外面ハケ目は細くやや粗い。ハケ目は8本1単位か。内面肩部は指状の圧痕により不整。	①素地普通。赤褐色鉱物やや目立つ砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。赤色味や黒色のムラ多い。④硬質後に二次火熱受ける。
2 小型罎(H)	□ 15.2~14.9 胴 13.7 胴 14.5 底 3.6 高 11.7	南壁跡直上 口縁写胴部写欠く	輪積みか。外面磨りは粗く強いが、単位は不明瞭。口縁端部は丁寧に仕上げ。夾雑物のため内面ヒビ割れ多い。	①素地粗く、組織の混入多い。②還元焰、やや軟調。③灰濁5YR4/2。外面には赤褐色部分も広く、一様でない。
3 器台(H)	□(7.8) 胴上 3.0 胴下(12.2) 高 8.6	口縁写胴部写欠く	脚部に3孔を穿つ。脚外面の磨きは、細かく強い。杯部のハケ目も細かく鋭く丁寧。	①素地やや粗く、組織まじりの粗砂やが多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤濁5YR5/4。外面黒褐色のムラ多く、内面黄色味をおびる。
4 壺(Y)		埋土 胴部	波長の長い磨擦準弧文を、上下に重ねる。上下の弧で単位を構成し、半時計回りに旋文。下位は横位縄文。内面は粗いナデ。旋文工具は7本単位器1種。	①きめ細かく、石英・輝石目立つ。②やや硬調。③器面にはにぶい濁10YR6/3。器壁は黒色。
5 罎(Y)		埋土 胴上部	磨擦波状文を施す。旋文順は下→上。旋文工具は種1種。	①きめやや粗く、細砂含む。②普通。③にぶい黄橙10YR6/3。

## II区 160号住居跡(第216図 PL.76)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	□ 14.7~14.4 台 8.5~8.3 高 6.6	南壁直下床土上6cm	左回転ロクロ→回転→ロクロ使用高台取付。厚手で重量。ロクロ風、やや強い。高台取付片寄るため器形歪む。	①素地普通。組織・輝石まじりの砂粒やが多い。②中性焰か、硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。馬蹄状や赤色味のあるムラあり、一様でない。
2 杯	□ 11.6 底 6.9~6.4 高 4.0	南壁直下床土上 口縁写底部写欠く	ロクロ不使用。内面工具使用のナデ。外面少し引きずるような指頭圧痕で口縁部のみ横位ナデ。砂底で口縁下端にも砂付着。	①素地普通。パミス等散見の細砂多い。気泡を含む。②中性焰、やや軟調。③にぶい濁7.5YR6/3。内面中心に黒褐色部分広い。④外面に付着の砂には、金雲母・輝石等を含む。

遺物観察表編

3 土釜	口(24.6) 頸(23.2)	カマド前面床直上 図示部1/5	輪積みか、外面やや鋭いが方向不定の削り。内面は丁寧なナデで、平滑に仕上げている。	①赤地やや粗く、輝石・バミスマじりの砂粒含む。②中性焰、普通。③におい黄褐色10YR7/3、やや明度の低いムラ広い。
4 羽釜	口(17.8) 胴(21.0)	中央南側床直上 図示部写	右回転クロコ使用だが、外面横ナデはきわめて鋭い。口縁部は丁寧な作りで整っている。	①赤地やや粗く、バミス・細粒まじりの砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③におい橙5YR7/4、上半黒褐色。内面は彩度低い。
5 羽釜	口(17.6) 胴(21.6)	南壁下床直上 口縁写 胴上半写	4に同巧。内面に平行なクロコ痕が通る。同一箇体の可能性あり。	①4に同じ。②やや軟調。③橙2.5YR6/6、部分的に黄色味強いがムク少ない。④二次火熱を破損後に受けている。
6 甗	底(18.6)	カマド前面床直上。 図示部写	輪積みか。クロコ不使用で、ナデの磨痕は不整。端部のナデ強く内外面ともやや凹む。	①やや粗くボソボソの赤地。赤褐色鉱物・バミスマじりの砂粒多い。②中性焰か。厚手としては硬調で締まる。③黄灰2.5Y6/1。断面明るい。

Ⅱ区 161住号住居跡 (第217図 PL.76)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口 12.0~11.8 底 5.5~5.1 高 4.5	南壁下床直上口 縁写欠く	右回転クロコ→回糸無調整。クロコ痕は外面で弱く鋭い。口縁の平面形状に歪みがあり不整。	①赤地やや粗く、輝石・細粒まじりの砂粒含む。②中性焰、硬調。③灰黄褐10YR6/2。外面に赤色味・黄色味の強いムラあり様でない。

Ⅱ区 162号住居跡 (第219図 PL.76)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(11.4) 底 4.8 高 3.9	埋土 口縁写欠く	右回転クロコ→回糸無調整。クロコ痕は外面のみやや強い。全体に均等に厚手となる。	①赤地普通。バミスマじりの砂粒含む。②酸化焰か、やや硬調。③橙2.5YR6/6。ほぼ一様。
2 小皿	口(11.8) 底(6.2) 高 3.2	埋土2片 図示部写	右回転クロコ→回糸。クロコ痕弱い。	①赤地やや粗く、細粒・輝石等まじる砂粒多い。②中性焰、やや軟調。③浅黄橙10YR8/3。内面明度低いが、ほぼ一様。
3 椀	口(11.8) 底 6.0 高 4.9	中央西側床12cm 口縁写 高台 写欠く	右回転クロコ→回糸。高台は歪み大きく、取付時のクロコ使用は不明。クロコ痕細かく強く、口縁内面のみ平滑。	①赤地やや粗い。チャートやや目立つ粗砂含む。②中性焰か、やや硬調。③外面におい赤褐5YR5/4、内面断面は浅黄2.5Y7/3。
4 椀	口(12.4) 台 5.4 高 4.6	中央床18cm 口縁写欠く	右回転クロコか。口縁外面と高台取付痕以外の横ナデ不明瞭。	①赤地粗くザラザラしている。白色鉱物の混入目立つ。②中性焰か、やや軟調。③におい赤褐5YR5/3。色相も彩度も一様でない。
5 杯	口 11.4 底 5.6 高 4.4	埋土 写欠く	クロコ使用の痕跡なし。外底全面に砂粒付着。内面は工具使用ナデで一部にハケ目状の磨痕。口縁外面は指摺による雑な押し痕。	①赤地やや粗い。輝石・バミスマじりの砂粒含む。②中性焰か、普通。③灰黄褐10YR6/2。下半は黒褐色。④外底付着砂は粗砂で、胎土夾雑物とは異なる。
6 椀	口(12.0) 台(6.4)	中央床15cm 口縁写 高台写	口縁外面にクロコ使用の痕跡なし。内面は布で拭う。高台取付は丁寧で横ナデ様の粗い磨痕あり。	①赤地やや粗く、砂粒の混入多い。②中性焰か、普通。③におい黄褐色10YR6/3。赤色味・灰色味をおびるムラあり様でない。



## 1 竪穴住居跡出土遺物

7 椀	口(19.0) 台(8.6) 高 7.8	南壁下床土7cm 顯示部写	右回転クロロ→切離し不明→クロロ使用高台取付。クロロ底は外面のみやや強い。	①素地やや粗い。粗砂の混入多い。②中性焰か、やや硬調。③灰白2.5YR/2。外面赤色味をおびる。④内底のみ厚減すずむ。
8 椀	台11.2	中央床土10cm 顯示部完存	足高高台で台部のみ。右回転クロロ。クロロ底は外面のみ強く、内面の粗い層は同心円状には並ばない。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③に白い橙5YR/7。細かなムラ多く一様でない。
9 砥石	中厚 6.6×4.0	中央床直上 平欠品	短軸断面三角形の3面使用。正面は大きく割落し不明瞭だが、主な使用面は側面のみ。小口・割口は無使用。正面裏面には調整工具痕あり。	①砥石。きめ細かさにやや欠ける。鉄少量含む表面褐色味をおびる。④正面のみ平滑。表面には不規則で深い彫痕がない。
10 刀子	横厚 0.52~0.43	埋土 両端欠く身部	著しい研ぎ減りは認められないが刃部に対し横が厚い。大型品となろう。	①鉄地金の質は良い。④錆化進む。

## II区 163号住居跡(第220図 PL.76)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 13.6 高 3.5	カマド前面南側 床直上 瓦個体	外底の削り粗く強いが縁辺は無調整部分あり。口縁外面のナゲ特に強い。内面は細かな凹凸ありやや平滑さ欠く。	①やや粗くザラザラしている。パミス・輝石まじりの粗砂含む。②酸化焰、やや硬調。③に白い橙7.5 YR/4でほぼ一様。
2 杯(H)	口 13.8 高 3.3	カマド前面南側 床直上 口縁写 底部写	外底削りはやや強いが弱い。口縁外面ナゲだが下半は無調整部分残る。内面丁寧なナゲ。口縁端部に小さな玉み。	①素地普通。輝石・パミスまじりの粗砂若干含む。②酸化焰、やや軟調。③に白い橙5YR/4。外面一部明度強いが、ムラは少ない。
3 杯(H)	口(13.8)	南壁直下床直上 底部写	外底削り丁寧でやや強い。内面丁寧な同心円状のナゲで平滑に仕上げる。	①素地やや硬密。粗砂若干含む以外混入物まれ。②酸化焰、普通。③橙5YR/6でほぼ一様。

## II区 164号住居跡(第221図 PL.76)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(18.0) 台(9.4) 高 8.0	埋土 口縁写 底部写	クロロ不使用。外面は口縁のみ強いナゲ。体部粗い削りで、上半は無調整部分あり。高台のナゲ弱い。内面丁寧な削りで黒色地埋。厚手で重量。	①素地やや粗い。細砂のやや多い砂粒含む。②酸化焰か、普通。③褐灰7.5YR/4/L。外面口縁端部と内面は黒色で光沢。④口縁端部の割落多い。

## II区 168号住居跡(第224図 PL.76)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口 10.8~10.3 底 5.2 高 3.6	埋土 宛形	右回転クロロ→回糸無調整。クロロ痕弱く、内底以外では殆ど判らない。	①粗くザラザラしている。細砂の混入はやや少ない。②中性焰か、やや硬調。③灰白7.5YR/1。外面は重焼き状に中位以下で灰色を呈す。
2 杯(S)	口 12.9 底 6.0 高 4.2	南壁下床直上 口縁写欠く	右回転クロロ→回糸無調整。クロロ痕きわめて弱い。口縁内端に接合痕状のヒビあり。均等に薄手で軽量。	①素地普通。片岩質細砂少量含む。②還元焰、やや硬調。③灰5Y6/1。一部黄色味をおびる。

遺物観察表編

3 杯	口(13.2) 底 6.8 高 3.7	北壁直下床直上 口縁写 底部写	左回転クロロー回糸無調整。クロロ底 きわめて弱いが、均等に薄く器形は 整っている。	①黄地やや粗い。細礫・赤褐色磁物まじりの砂粒含 む。②中性焰か、やや硬調。③明赤焼2.5YR5/6~褐 灰5YR5/1。一樣でない。
--------	---------------------------	-----------------------	---	--

Ⅲ区 1号住居跡(第229図 PL.77)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (H)	口(8.2) 脚上 3.0 脚下 10.4 高 9.6	北壁際床直上 口縁写欠く	全体に丁寧に平滑に仕上げる。脚やや 上方に3孔を穿つが、配置不整。	①黄地やや緻密。赤褐色磁物・細礫まじりの砂粒含 む。②酸化焰、きわめて硬調。③浅黄焼10YR8/3。 内面中心に一部灰色味をおびる。
2 器台 (H)	口 9.0 脚上 3.1	北壁際床直上 顯示部ほぼ完存	全体に丁寧に平滑。脚中に4孔を穿 つ。身部外面のみ縦いハケ目状の磨痕 あり。内面の磨きは斜位で不明瞭。	①黄地やや緻密。石英・細礫まじりの砂粒含む。② 酸化焰、やや硬調。③浅黄焼10YR8/3。わずかに赤 色味をおび、明度の低くなるムラあり。
3 器台 (H)	脚上 3.7 脚下(12.0)	北壁際床下14cm 顯示部内側部 写欠く	上側に3孔を穿つ。外面磨きは丁寧に 整う。内面台部は整形難。身部は強い ナデ。	①黄地普通。細礫以外の混入物まれ。②酸化焰、や や硬調。③におい焼7.5YR6/4。赤色味や明度強いム ラあり。

Ⅲ区 2号住居跡(第231図 PL.77)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口 12.4~11.7 底 7.0~6.7 高 3.6	北壁下周辺16片 口縁写干底部写 欠く	右回転クロロー回糸無調整。クロロ底 は全体で強く渦巻状を呈す。平面形 はだ円形に歪む。	①黄地普通。細礫若干含むが夾雑物少ない。②還元 焰、やや硬調。③灰10Y4/1。ほぼ一様。
2 杯(H)	口 10.8 高 3.6	P1底部上12cm 写個体	外底やや鋭い削り。口縁下手は無調整 で磨面不整。内面と口縁外面上半のナ デ強い。端部は内面に肥厚。	①やや緻密で砂粒以外の混入物少ない。②酸化焰、 やや硬調。③他5YR6/6基調。やや黄色味をおびるム ラあり。
3 杯(H)	口 12.2~11.8 高 3.7	P1底部上4cm 完形	外底の削りは息長く鋭い。口縁下手は 無調整だが、指頭状のごく弱い圧痕が 通っている。	①黄地普通。粗砂やや多い砂粒含む。②酸化焰、や や硬調。③におい焼7.5YR7/4。ほぼ一様。
4 台付壺 (H)	口 11.3~10.8 頸 10.4~9.5 胴 12.5 台下 8.2 高 14.5	北壁際床直上28cm 口縁・台部下半 写欠く	外面削りは上半で息長く幅太。下半は 細かく丁寧。内面不明瞭だが底部付近 に、板状の工具痕あり。内底は凹凸多 い。平面は、だ円形状に歪む。	①黄地普通。砂粒の混入多い。②酸化焰、やや軟調。 ③におい赤焼5YR5/4。削り部分広い。④二次火熱を 受ける。内面下半に細かな割傷多し。

Ⅲ区 3号住居跡(第232図 PL.77)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(12.0) 高 3.1	埋土2片 口縁写 底部写	外底やや鋭く丁寧な削りで、削り残し 部分なし。内面丁寧にナデで、平滑に 仕上げる。	①黄地普通。バミスマじりの砂粒を含む。②酸化焰、 やや硬調。③におい焼5YR7/4で前面までほぼ一様。
2 杯(H)	口(10.4) 高 3.3	中央南寄床直上19 cm 写個体	外面強い削りで磨面に凹凸あり。内面 同心円状の丁寧なナデで平滑。	①黄地やや粗い。チャート質の細礫まじりの砂粒含 む。②酸化焰、やや硬調。③におい焼5YR6/4。内面 赤色味をおびる。
3 杯(H)	口 12.8 高 3.7	北壁際床直上 口縁写欠く	外面は広範囲で細かく丁寧な削り。内 面は布状具の状うような磨痕が残り平 滑に仕上げてある。	①黄地普通。白色粗砂・麻石まじりの砂粒含む。② 酸化焰、硬調。③他7.5YR7/6。外底に弱い黒斑あり。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

4 杯 (H)	口(9.4) 高 2.8	埋土 口縁部か 底部写	外面やや強く細かな削りて、器面に小さな凹凸あり。内面丁寧なナデで平滑に仕上げる。	①素地普通。細粒まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR/4。内面やや赤色味をおびる。
5 杯 (H)	口(14.0)	埋土 図示部写	外底削りは強く細かい。また縁辺に無調整部分広い。内面ナデは布状具のやや粗い磨痕残る。口縁に細かな炭状の芯みあり。口径不安。	①素地やや緻密。細砂・輝石・赤褐色鉱物等の混入物やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR/4。断面彩度低い。
6 杯 (H)	口(18.2) 高 5.2	P6内床直上 写個体	外面削りやや強く、器面に小さな凹凸できる。内面ナデは口縁中心にやや粗い布状具の磨痕あり。	①素地やや粗い。パミス・細砂等夾雑物多量な砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR/4～黒黒5YR3/1。一様でない。
7 壺 (H)	口(21.6) 頸(17.2)	床下2片 図示部写	輪襷みか。外面削りはやや鋭い。頸部のみ内厚で多量の粘土を削り落としていることが判る。内面のナデ丁寧。	①素地やや粗くボソソク。輝石・細粒まじりの砂粒含む。②酸化焰、変質としては硬調。③にぶい橙5YR/4。ほぼ一様。
8 手づくね	口(5.2) 底 3.6 高 3.8	中央床上23cm 口縁写欠く	輪襷みか。内底にナデの工具痕と指頭 の強い擦痕で平滑さ欠くが、他は丁寧なナデで平滑に仕上げる。外底に布状具の圧痕あり。	①素地普通。少量の砂粒以外混入物まれ。②酸化焰、硬調。③にぶい黄緑10YR/4。内面彩度低い。
9 手づくね	口 5.7~5.5 底 3.6~3.3 高 4.0	埋土 完形	手づくね。外面指頭の強いナデで器面に凹凸。口縁は小さく波状に歪む。薄手で軽量。	①素地やや緻密。少量の砂粒以外混入物まれ。②酸化焰、硬調。③淡黄2.5YR/3。外面下半に黒斑広い。④内底に鋭い亀裂走る。
10 手づくね	底 3.5~3.3	床下 図示部ほぼ完形	外面に不明瞭な指頭状の磨痕残る。内面は工具によるやや鋭いナデ。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③淡黄2.5Y/3。内面に黒斑あり。断面も黒色味強い。
11 土罐	径 1.4 重 10.1g	中央床上31cm 両端若干欠く	一端に強い指頭痕あり。器面平滑で、整形痕残さない。	①素地普通で赤褐色鉱物・輝石等の粗～細砂を含む。②酸化焰、普通。③明褐色。
12 土罐	長 5.3 径 1.5 重 10.7g	中央床上28cm ほぼ完形	一方へ片寄って肥厚している。器面平滑だが、わずかに指頭圧痕残る。	①素地普通。白色砂粒等の混入物含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄7.5YR/3。黒斑も広い。
13 土罐	長 5.1 径 2.2 重 17.8g	西壁厚床上6cm 両端部欠く	内面に直線的に織目目通っている。外面には整形痕は見えない。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの粗砂やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR/7/3。広い黒斑あり。

## Ⅲ区 4号住居跡(第235図 PL.77)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(11.8)	埋土 口縁写 底部写	須恵器蓋杯の模倣杯。口縁端部は弱く外反し。口縁内端の凹みは広い。口縁外面に丁寧に2条の沈線を通らす。外底削りやや鋭い。	①素地普通。輝石・パミス・赤褐色鉱物等の混入物やや多い。②酸化焰、普通か。③外面にぶい赤黒5YR5/4。黒斑あり。内面赤色味強い。④二次火焼を受ける。内外面とも剥落進む。
2 杯 (H)	口(10.6)	埋土5片 口縁写 底部写	口縁外面に幅広い整った沈線が通る。外底の削りやや強く丁寧。	①素地やや粗いが混入物少なく良好。②酸化焰、軟調。③黒褐7.5YR/3。断面明るく彩度も高い。④内底の割れと口縁内端の厚減進む。
3 手づくね	底 3.0	埋土 図示部完形	外面にやや粗い磨き。外底整形痕不明だがきわめて平滑。内面やや雑な工具痕が残る。	①素地普通。石英・輝石等散見の砂粒若干含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR/4。外面に薄い黒斑あり。

遺物観察表編

Ⅲ区 5号住居跡(第236図 PL.77)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(14.6)	埋土 図示部残	ロクロ不使用か。内外面とも丁寧な横位の磨きで平滑。高台の付く器形と思われるが不明瞭。	①素地粗くボソボソ。石英・赤褐色鉱物等、混入物種多量相砂含む。②酸化焰、軟調。③におい楕2.5YR6/4、内面黄色味をおび、断面は明度高い。小規模な黒斑あり。
2 罐(H)	口(25.4) 頸(20.4)	P1南側床直上 図示部残	輪積みか。外面前りやや幅広く強く、頸部にL字状の切先痕が残る。外面のナデやや粗いが、内面は平滑。	①素地普通。輝石等種多量夾雑物含む粗砂やや多い。②酸化焰、やや硬調。③におい楕7.5YR7/4、内面明度・彩度低い。
3 甕(H)	口(15.4) 頸(13.4)	埋土3片 口縁残 肩部残	輪積みか。外面前りやや狭く薄。内面ナデもやや硬。口縁内側に強い沈線が走る。	①素地粗く、粗砂・輝石等混入物もやや多い。②酸化焰、普通。③におい黄楕10YR7/3～黒褐10YR3/L、一樣でない。
4 不明鉄器	厚 0.62～0.53 0.43～0.35	埋土 断面欠く	錆化のため不明瞭だが材質より釘か。両端とも尖る可能性。	①錆化によるふくれ多く、ヒビも走る。鉄地金はあまり良くない。
5 土玉	径 1.15 厚 1.02	床面 凹形	棒の巻付けか。全体に平滑で器面を弱く磨いている可能性。両端を平坦に仕上げるが、角は圓やか。	①磁導で軽量の素地。輝石少量まじる。②酸化焰か、やや硬調。③淡黄2.5Y8/3、赤色味・黒色味をおびるムラあり。

Ⅲ区 6号住居跡(第240・241図 PL.77・78)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(S)	口 8.4	埋土 3住埋土 の小片と接合 図示部残	右回転ロクロ。天井部同回転のヘケ削り。ロクロ度は同心円状で、内面では弱い。	①素地普通。白色粗砂若干含むが、夾雑物は少ない。②還元焰、やや硬調。③暗青灰5B3/L。内面明度高い。
2 杯(S)	口 13.3 底 8.4～8.0 高 3.4	埋土 口縁上半列欠く	右回転ロクロ→切離し不明→底部全面細粒の回ヘケ。ロクロ痕弱く内底も凹凸少ない。底部厚く重量。	①ザクザクしたやや粗い素地。長石まじりの砂粒含む。②還元焰、やや硬調。③明オリブ灰2.5GY7/L。口縁外面はすすけたように黒褐色。④外底に墨書「子」。墨痕弱やかである。
3 杯(H)	底(7.6)	埋土 底面破片	右回転ロクロ→切離し不明→外底全面と体部下端に回転ヘケ削り。内底は平坦。	①素地普通。バミス・細粒等、混入物少量含む。②還元焰、普通。③灰白10Y8/L。外面黒色味の強いムラあり。④外底に墨書あり。
4 杯(H)	口(11.0) 高 2.8	埋土4片 口縁残 底面残	外底削り種で弱く、縁辺に無調整部分残る。内面ナデは丁寧でやや平滑。	①素地普通。5mm大の細粒散見する砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③におい楕5YR7/4。明度・彩度低いムラ強い。
5 杯(H)	口(12.0) 高 3.0	埋土 口縁残 底面残	外底の削り鋭い。内面と口縁のナデは同心円状で、外面の磨耗が強い。口縁外面下の稜は鋭く、整っている。	①素地やや粗い。石英等のまじる粗砂含む。②酸化焰、普通。③におい楕5YR6/4。内面やや赤色味をおびる。
6 杯(H)	口(10.8) 高 3.1	中央床土16cm 底面残	外底削りやや強い。口縁端部は内屈するが形状は一定でない。底部中央のみ肥厚する。	①素地普通。バミスまじりの砂粒多い。②酸化焰、普通。③外面におい楕5YR6/3、内面は灰褐7.5YR5/2。
7 鉢(H)	口(17.4)	中央東寄床土 14cm 図示部残	外面削りやや鋭い。ナデは丁寧。口縁部に小さな歪みあり、傾き不安。	①素地普通。バミス・輝石等の夾雑物含む砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③におい楕7.5YR7/4。外面に黒斑広い。
8 鉢(H)	口(19.6)	埋土6片 35住 埋土と接合 残断体	外面幅広くやや面い丁寧な削りだが、上端無調整で残る。内面は丁寧な同心円状のナデでやや粗い磨耗残る。	①素地普通。粗砂含むが夾雑物少ない。②酸化焰、普通。③におい楕2.5YR6/4、内面やや黄色味をおびる。ムラ少ない。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

9 高杯 (H)	脚上 6.0~5.6	図示部ほぼ完存	脚部は巻上げ。外面強い削りで表面を弧状に削り取る。内面接合痕の上に指摺の粗い磨痕。	①素地やや粗く、砂粒の混入やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶれ5YR7/4。明度の低いムラ広い。断面黒褐色。④内面の剥落著しい。
10 小型壺 (H)	口 11.3~10.8 胴 14.0~13.4 高 13.2	中央床直上11片 体部写欠	外面削りは幅広い工具使用で、上半で強く底部付近で鋭い。内面丁寧なナデで全面平滑。平面が円形状に歪む。	①素地やや緻密。パミス・細礫まじりの砂粒少量含む。②酸化焰、普通。③にぶれ5YR7/4。外底中心に黒色味をおびる。
11 壺 (S)	胴(18.8)	埋土4片 図示部中脚部写欠	内面下半は粗い背割状のアテ具板が顕著で、上半では強くナデ消す。外面に印きの痕跡観察できない。脚部付近は布状具の細かな磨痕のナデ。	①素地やや粗い。パミス・細礫・長石等の混入物多く、須恵器としては粗悪。②還元焰、普通。③灰7.5 Y5/1。外面に赤色味・黄色味をおびるムラ広い。
12 壺 (H)	口(14.0) 頸(7.0)	西壁床直上33cm 口縁写 頸部写	胴部内外面のハケ目は弱い。内面下端に接合の段が明確に残る。口縁部ナデやや粗い。	①素地普通。チャート・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、きわめて硬調。③にぶれ10YR7/4。断面灰色味をおびる。
13 壺 (H)	口(15.6) 頸(12.4)	埋土2片 口縁写 肩部写	輪積み。外面ハケ目強いが頸部下端で不明瞭。口縁上半ナデ消す。内面口縁のみ強い擦痕の残るナデ。	①素地普通。赤褐色鉱物・粗砂等夾雑物がやや多い。②酸化焰、普通。③浅黄褐色10YR8/3。黒斑が内外面ともに広い。
14 壺 (H)	口(23.0)	埋土 図示部写	口縁内端沈線流る。外面削りは丁寧だが強い。頸部に帯状のナデ残り部分を生じる。内面ナデは丁寧。	①素地普通。輝石・パミス等のまじる砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶれ10YR7/3。黒色味をおびるムラあり。
15 壺 (H)	口 20.5~20.3 頸 16.2~15.8	埋土 口縁写 胴上平写	口縁内端沈線流るが形状一様でない。口縁のナデはやや粗。外面削りは幅広く強い。内面は粗いハケ目状の擦痕残るやや強いナデ。	①素地普通。パミス・輝石等の混入物やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶれ10YR7/4。赤色味・黒色味おびるムラあり。断面灰色味強い。④口縁端部に一部薄イス付着。
16 壺 (H)	口 21.5~21.0 頸 17.0~16.1	埋土 図示部ほぼ完存	口縁部は外面で強いナデ。外面削りは雑で強い。内面ナデはやや丁寧で、平滑に仕上げる。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物等のまじる砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶれ10YR7/4。赤色味・黒色味をおびるムラあり一様でない。

## III区 7号住居跡(第242図 PL.78)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と磨削の特徴	備考 ①土質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小型壺 (H)	口(12.2) 頸(10.0) 胴(12.6)	中央西寄床直上7cm 図示部写	外面幅広く粗い(1単位10本以上)ハケ目。内面は木口状の工具で鋭い擦痕の残るナデ。	①素地やや粗い。輝石・細礫等まじる砂粒含む。②酸化焰、普通。③外面黒色。内面灰黄褐色10YR6/2で一部黒色味強いムラあり。
2 台付壺 (H)	台上 6.0 台下(10.4)	埋土 台上半写 台下半写	外面不明瞭なナデで、ハケ目の痕跡ない。内面鋭く粗いナデで、切先の圧痕が残っている。	①素地普通。赤褐色鉱物・石英等細多夾雑物の多い砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶれ10YR7/4。赤色味や明度の低いムラあり。
3 器台 (H)	脚上 3.7	埋土2片 柱部完存 胴部写	胴部上位に3孔を穿っている。外面磨きはやや丁寧。内面は端部のみ弱い横位ナデで他は磨削不整。	①素地やや粗い。細礫や目立つ。②酸化焰、普通。③にぶれ7.5YR7/4。内面彩度低い。
4 壺 (Y)		埋土 胴部	横位縄文後、山形文と思われる沈線。下位にへら状具による刺突を巡らす。原形は無脚R。	①きめやや粗く、粗〜細砂を含む。②普通。③にぶれ赤褐色5YR4/4。

遺物観察表編

Ⅲ区 8号住居跡(第245図 PL.78)

No.・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(S)	口16.0 紐2.7 高3.6	西壁際床直上 口縁写欠く	右回転クロー→切離し不明→天井部回転へラ削り→細取付。クロー痕弱い。	①素地普通。チャート・黒色鉱物まじりの砂粒やや多い。②還元焰、やや硬調。③灰白10Y7/1。外面に青灰色の不規則なムラあり。
2 杯(S)	口15.8 底9.1 高5.9	カマド前面床直上 口縁写欠く	右回転クロー→回糸→底部縁辺幅広いの回転へラ削り。クロー痕やや強く、口縁内面では不明瞭。口縁内端は幅広く肥厚し直下に鋭い沈線が通る。	①素地普通。白色針状鉱物顕著。黒色鉱物・細粒まじりの砂粒含む。②還元焰、普通。③灰白10Y7/1。口縁外一部暗灰色。④外底に磨きのある可能性ある薄く細いシミがあるが不明瞭。
3 杯(H)	口(14.0)	中央床直上 口縁写 底部写	外底息長く丁寧な削り。口縁外面のナデ強く、布状具の擦痕残る。内面ナデも丁寧。口縁に小さな波状の歪み。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石含む。細砂やや多い。②還元焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。一部赤色味をおびる。④外底に深い磨きあり。
4 杯(H)	口(10.6)	埋土 図示部写	外底は鋭くやや雑な削りで、縁部は削り残すのが平素。内面は磨面の荒れが不明瞭。	①素地普通。細粒・輝石まじりの砂粒やや多い。②還元焰、やや硬調。④橙5YR6/6で断面までほぼ一様。
5 杯(H)	口(12.8)	カマド前面床直上 図示部写	外底やや強い削り。口縁下端に無調整部分あり。内面鋭い布状具の擦痕の残る横位ナデ。歪みあり口径・傾き不安。	①素地普通。赤褐色鉱物・バミス等散見の砂粒含む。②還元焰、普通。③にぶい橙5YR7/4で断面までほぼ一様。
6 盤(H)	口(16.0)	埋土 図示部写	外底やや強く丁寧な削り。内面も丁寧なナデだが磨面やや不整。口縁に歪みあり口径不安。	①素地やや緻密。細粒散見する砂粒含む。②還元焰、硬調。④橙5YR6/6。内面にぶい橙5YR7/4。断面は灰色味強い。
7 蓋(H)	口(22.2)	カマド内3片 図示部写	横位ナデは外面口縁下半で弱い。外面に鋭い削りが僅かに観察できる。歪みあり口径不安。	①素地普通。バミスマじり細砂の混入やや多い。②還元焰、普通。③明赤褐2.5YR5/6。内面やや明度高い。

Ⅲ区 9号住居跡(第247図 PL.78)

No.・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(12.2)	南壁際床土25cm 片個体	外面は息長くやや削り削りだが磨面の凹凸少ない。縁辺に無調整部分あり。内面は同心円状の強いナデ。	①素地普通。バミス散見の砂粒やや多い。②還元焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。外面中心に黒斑広い。
2 盤(H)	口(16.5)	南壁壁床土18cm 図示部写	外底やや鋭く丁寧な削り。内面ナデも丁寧で平滑に仕上げる。	①素地やや緻密。細粒・赤褐色鉱物・輝石等を含む砂粒やや多い。②還元焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4で断面まで一様。
3 盤(H)	口(15.6) 高4.3	カマド前面床土 29cm 図示部写	外底方向不定で細かなやや鋭い削り。内面丁寧なナデだが磨面に弱い凹凸あり。底部縁辺の肥厚する。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石・石英等含む砂粒含む。②還元焰、やや硬調。④にぶい橙7.5YR7/4。断面中央で灰色味強い。
4 杯(H)	口(12.6) 高3.8	中央床土25cm 図示部写	外面息長く鋭い削りで磨面に波打つように凹凸できる。縁辺に無調整部分あり。内面目の粗い布状具の擦痕のある丁寧な同心円状ナデ。	①素地普通。細粒散見の砂粒やや多い。②還元焰、やや硬調。③明赤褐2.5YR5/6でほぼ一様。断面は黄色味強い。
5 鉢(H)	口20.5~20.3	南東隅床土19cm と29cm 図示部ほぼ完存	外面にやや強い削りで口縁下半は無調整。内面のナデは上半でやや粗い布状具の擦痕が残る。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・細粒等散見の砂粒含む。②還元焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。外面下半は黄色味をおびる。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

6 壘 (H)	口(17.4) 頸(14.5)	南東隅床上23cm 口縁写 底部写	外面削りやや強い。内面ナデは雑でやや強い。口縁部外面にやや強く、内面に弱い痕あり。	①素地普通。雑多な混入物含む粗砂多い。②酸化焙、普通。③にぶい橙5YR6/4。内面、やや彩度高い。
7 壘 (H)	口(21.0) 頸(16.8)	カマド内床土29cm 図示部写	外面強い削りで頸部に凹凸できる。内面丁寧なナデで平滑に仕上げる。口縁部は外方へ肥厚意味である。	①素地普通。粗砂・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②酸化焙、普通。③橙5YR7/6。口縁付近黄色味をおびる。
8 壘 (H)	口(22.0)	中央床土29cm 図示部写	外面削りやや雑で粗く。頸部付近は工具を引いた痕が多数残る。内面ナデやや粗く、頸部付近は鋭い擦痕残る。	①素地やや粗い。パミス・赤褐色鉱物等混入する砂粒やや多い。②酸化焙、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。内面下半黒褐色。④二次火熱受ける。

## III区 10号住居跡 (第249図 PL.78)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・覆元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(13.8) 高 3.5	中央床上4cm 口縁写 底部写	外底削りは鋭く息長い。口縁外面ナデもやや鋭く、下半無調整で残る。内面ナデやや丁寧。	①やや粗い素地に、パミス・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焙、普通。③にぶい橙5YR6/4。外底に薄い黒痕あり。
2 杯 (H)	口 13.7~13.4 高 3.1	中央床直上 写個体	外底削りは粗く息長い。口縁外面下半無調整。内面ナデ丁寧。口縁内縁小さく肥厚するが全面には及んでいない。	①②1にほぼ同じ。③橙7.5YR6/6。黄色味の強い小さなムラあり。
3 杯 (H)	口 14.0	北壁下床土14cm 口縁写欠く	外底は鋭く丁寧な削り。外面口縁下半無調整だが凹凸少ない。内面丁寧なナデだが底部に凹凸多い。	①素地普通だが、パミス・輝石・長石等の混入で器面粗い。②酸化焙、普通。③にぶい橙2.5YR6/4。外底に小さな黒痕あり。
4 杯 (H)	口(11.8)	中央床直上 口縁写 底部写	外底削りやや細かく丁寧。口縁外面下半無調整。内面ナデ丁寧で平滑に仕上げる。	①素地普通。パミス・輝石等散見する砂粒含む。②酸化焙、普通。③にぶい橙5YR7/4でほぼ一様。断面黄色味強い。
5 杯 (H)	口(12.8)	カマド内床土7cm 図示部写	器面やや厚減し不明瞭だが、外底の削り弱く、内面ナデは丁寧。口縁外面下半無調整部分は歪潰状に不整となる。	①素地普通で、細砂含む。②酸化焙、やや硬調。③橙5YR6/6。
6 杯 (H)	口(13.2)	貯蔵穴内 図示部写	外底削りは息長く鋭い。外面口縁下半から底部縁辺まで広範囲に無調整。内面ナデやや丁寧。	①素地普通。黒色微細鉱物粒やや多い。細礫・石英まじりの砂粒含む。②酸化焙、やや硬調。③にぶい橙7.5YR6/4。赤色味をおびるムラあり。
7 甔 (H)	口(23.6) 頸(19.4) 底 4.7 高 11.9	中央床直上 口縁若干上半写 下半実存	外面幅広い丁寧な削り。口縁やや強いナデで内面に鋭い擦痕。外底は黄白色の砂粒付着。穿孔部分は鋭い切口である。	①素地普通だが、赤褐色鉱物まじりの粗砂多く、ザラザラ。②酸化焙、やや軟調。③橙2.5YR6/6。内面やや暗い。
8 壘 (H)	口(23.0) 頸(20.8)	西壁際床直上 口縁写 別部写	外面やや弱く丁寧な削り。内面ナデの痕跡弱いが平滑。口縁上半に強いナデで外縁やや肥厚。内側弱く凹む。	①素地普通。赤褐色鉱物・粗砂まじりの砂粒を含む。②酸化焙、壁類としては硬調。③明赤褐2.5YR5/6。内面やや粗く、外周黒色味をおびるムラあり。
9 手づくね	底 2.8	風倒木根 口縁欠く	外面下半に指痕状の弱い圧痕あり。内外面とも底部は平滑。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物等少量まじる砂粒含む。②酸化焙、普通。③外面灰褐5YR4/2。内面にぶい橙7.5YR7/3。

遺物観察表編

Ⅲ区 11号住居跡 (第250図 PL. 78)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(12.4) 底(6.4) 高 3.4	埋土 図示部写	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕やや強い。外面は室内で強い火熱を受けており焼台として使用した可能性。	①細砂多くややザラザラするが素地は緻密。②還元焰。きわめて灰調。③灰10Y6/1。内面黄色味をおびる。外面に灰緑色・濃緑色の自然釉。
2 杯 (H)	口(13.6)	埋土2片 図示部写	外面削り弱く脆で、断面は不整。口縁のナダは強い。内面丁寧なナダの上に細かく弱い斜放射状の暗文あり。	①素地普通。砂粒の混入やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。内面は形度低い。
3 小型壺 (H)	口(12.0) 胴(10.8) 胴(15.0)	カマド袖内床直上 口縁写 胴部上半写	外面細かくやや鋭い削り。内面平滑に仕上げず。ナダの単位不明。口縁部強いナダ。	①素地普通。輝石まじりの粗砂やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4。外面は一律でない。④外面小範囲に薄いスス付着。
4 壺 (S)	胴(12.0)	埋土 図示部写	輪轆みか。外面平行印き上を棒状工具による横位ナダ。内面青黄波状の深いアテ具痕。	①素地やや粗い。黒色鉱物・チャートのまじる砂粒含む。②還元焰、硬調。③灰白7.5Y7/1でほぼ一様。④外面小範囲に薄いスス付着。

Ⅲ区 12号住居跡 (第251図 PL. 78)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(13.4)	埋土 図示部写	外底削り粗くやや弱い。口縁外面ナダは下届まで及び無調整部分残さない。内面丁寧なナダだが唇面凹凸。	①素地普通。少量の砂粒以外、夾雑物まれ。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3でほぼ一様。
2 台付壺 (H)	口 14.7~14.4 胴 13.0~12.8 胴 16.4 脚上 4.5	カマド内床直上9 cm 図示部中胴部写 欠く	外面は乾燥状態で強く鋭く削り、頸部無調整で残る。内面はヘラ状工具の丁寧なナダでやや平滑。口縁部は強いナダで粗い擦痕残る。	①砂粒やや多いが頸部としては緻密。②酸化焰、やや軟調。③外面黒褐色YR2/2基調だが、一律でない。内面にぶい橙5YR6/3。④二次火熱受け断面やや縮弱。外面頸部に薄くスス付着。
3 台付壺 (H)	台上 3.6 台下 8.1	カマド内床直上11 cm 図示部写	内底部分以外には強い横位ナダを施し内面は特に平滑。	①素地普通。黄白色砂粒含む砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。黒色味・赤色味のムラ多い。④二次火熱受けが影響少ない。

Ⅲ区 13号・23号住居跡 (第266図 PL. 79)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (Y)		胴部	頸部に凸部を巡らし、ヘラ状工具による刻み目を施す。幅19cm大の樽口縁による直線文と波状文の交互地文。上から順に時計回りに鹿文。編織ぎあり。内面は斜ナダ。	①チャート・長石等の細碎を含む。素地はやや粗い。②均一だが、やや軟質。③にぶい橙10YR7/3。
2 壺 (H)	口 17.4~16.9 胴 15.1~14.8	埋土 図示部ほぼ完存	輪轆みか。外面粗かなハケ目。内面接合頂上に幾な指環状直が巡る。口縁の横位ナダもやや強。	①素地普通だが、細碎・赤褐色鉱物等の夾雑物多く粗い。②酸化焰、やや軟調。
3 壺 (H)	口(14.0)	床直上	口唇はつまみ上げナダで内傾する。外面は残い斜ハケ目。内面ヘラ状工具によるナダ。	①粗粒を含む。②普通。③にぶい橙色。
4 甕	樽 0.45~0.23	埋土	刃部中央の研ぎ減り著しいが、鋒は直線的であり、原形は直刃の鎌か。	④錆化著しく不明瞭だが、基部部折返しの下半割指環ほどに欠失。半欠品を手懸状に使用した可能性。



## Ⅲ区 15号住居跡 (第253図 PL. 79)

No.・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 14.0~13.8 底 8.5 高 3.9	中央南寄床左上 7cm 口縁上半欠く	左回転クロー→回糸→底部縁辺ごく弱い回転ヘタ削り。横ナデ割いが内底には渦巻き状のクロー痕残る。	①素地やや粗く、バミス・細織まじりの砂粒を含む。②還元焰、やや硬調。③灰白10Y7/1。内面黄色味をおびる。④外底に焦痕様の薄く不明瞭な付着物あり。
2 杯 (S)	口 14.3 底 7.0~6.8 高 4.4	南東隅床直上 完形	右回転クロー→回糸→体部下端に手持ちヘタ削り。内面は底部のみ渦巻き状クロー痕あり。	①軽量でやや粗い素地。黒色鉱物・白色粗砂等。夾雑物やや多い。②還元不充分で内面は酸化鉄が赤色味をおびる亮色。③灰白5Y7/2。重巻き状の黒色味をおびるムラあり。
3 杯 (H)	口 12.6~12.4 高 3.3	南東隅床上5cm 口縁欠く	外底はやや鋭く丁寧な削り。内面ナデも丁寧で平滑に仕上げ、口縁部には布状具のやや粗い擦痕が残る。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの砂粒若干含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4でほぼ一様。
4 杯 (H)	口(12.6) 高 3.2	埋土2片 瓦筒体	外底削りやや強く粗い。口縁外面横位ナデもやや雑。内面ナデは丁寧で平滑に仕上げる。	①素地普通。細織まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙2.5YR6/4で外底に薄い黒底あり。
5 磁石	厚 4.8	中央床直上	大型磁石の小破片。使用面は平坦。蓋磁と思われるが下面すわり悪い。	①磁状石。④残存3面のうち2面使用。

## Ⅲ区 16号住居跡 (第255図 PL. 79)

No.・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(13.2) 底(6.5) 高 3.9	カマド内床直上 4片 瓦筒体	右回転クロー→回糸無調整。クロー痕弱い。内底も平坦である。	①素地やや粗くボソボソ。長石粒の混入がやや多い。②還元焰、普通。③灰白5Y7/1で断面までほぼ一様。
2 壺 (H)	口(22.8) 頸(20.0)	中央床上8cm 口縁瓦 肩部瓦	外面削り強い。口縁は内面中心に丁寧なナデで布状具の擦痕残る。内面肩部に幅広工具使用の粗いナデ。	①素地普通。砂粒の混入多いが大粒夾雑物は見えなし。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐2.5YR5/4でほぼ一様。
3 壺 (H)	口(21.6) 頸(17.6)	西壁跡床上8cm 図示部瓦	外面削りはごく弱く、磨きに近いが雑である。口縁ナデは強く布状具の擦痕が表面に残る。	①素地やや粗いうえ、輝石・バミスまじりの粗砂多く、ガサガサ。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。内面彩度低い。
4 壺 (H)	口(19.8) 頸(15.4)	中央床上35cm 図示部瓦	外面削りは幅広くやや雑。内面は丁寧なナデで頸部付近に幅狭の工具痕が残る。歪みあり傾き不安。	①やや粗い素地に粗砂の混入多くザラザラ。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。明度の低いムラ多い。
5 長頸瓶 (S)	肩(22.6)	埋土 肩→胴上小片	右回転クロー。横ナデは肩部外上で弱いカキ目状。他では粗い布状具の擦痕を残す。	①素地普通。砂粒多いが、他の混入物まれ。②還元焰、普通。③灰白10Y8/1で断面まで一様。

## Ⅲ区 17号住居跡 (第257図 PL. 79)

No.・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(13.0) 底(7.8) 高 4.0	北壁直下床直上 口縁瓦 底部瓦	右回転クロー→回糸。底部縁辺に左回転クロー上のヘタ削りか。クロー痕や強いが砂粒の移動少ない。	①素地やや粗くボソボソ。細織まじりの細砂やや多い。②還元焰、普通。③灰白17.5Y7/2。ほぼ一様。

遺物観察表編

2 杯	口(12.6) 底(6.2) 高 4.3	カマド内 口縁片 底部片	右回転ロクロー切離し不明→外底丁家な手持ちへく削り。ロクロー内面不明瞭。外面も上半は強い。口径不安。	①素地普通。長石・細礫少量含む。②酸化焰か、やや硬調で須恵的である。③にぶい赤褐色2.5YR5/4。一部暗褐色。
3 杯(H)	口(14.0)	埋土3片 図示部片	外底削りやや弱い。口縁外面のナゲやや硬で下平の無調整部分も不整。内面のナゲは丁家で強い。	①素地普通。細礫・輝石等散見の砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。外底にやや黒色味もつムラあり。
4 杯(S)	口 11.6 底 6.3 高 3.5	北壁跡床直上 口縁欠く	右回転ロクロー回糸無調整。口縁端部外反するが直下で内側に凹む部分あり形状一定でない。内底平坦。	①素地普通。長石中心の細礫やや目立つ。黒色鉱物粒散見。②還元焰、普通。③灰10Y6/1。内面やや暗い。
5 杯(H)		埋土 底部破片	残存部分では外底削りほぼ一方的で、丁家。内底ナゲも丁家だが器面に細かな凹凸あり。	①素地普通。長石まじりの砂粒含む。②還元焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。④内底中央寄りに、「佐」と思われる墨書あり。
6 壺(H)	口(21.6) 頸(20.0) 胴(24.2)	南東隅床直上 口縁片 胴部片	口縁外端に小さな凹みあり。外面削り丁家。内面ナゲも丁家で平滑に仕上げている。均等に薄手で丁家な作り。	①素地普通。粗砂やや多い。②還元焰、やや軟調だが二次火熱の影響か。③にぶい赤褐色2.5YR5/4。一様でない。④外面にカマド粘土若干付着。

Ⅲ区 18号住居跡(第259図 PL.79)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(15.8) 高 3.7	カマド前面床直上 6cm 口縁片 底部片	外底はやや鋭い丁家な削り。内面は強いナゲでお伏しの擦痕が同心円状に近々。歪み強く口縁の形状一定でない。	①素地普通。パミス・粗砂等含む。②還元焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。赤褐色や黒色味をおびるムラあり。
2 小型壺 (H)	口(11.4) 頸(10.0)	カマド前面床直上 14cm 図示部片	外面強くやや鋭な削り。内面ナゲもやや硬で細かなハケ目状の擦痕残る。	①やや緻密で混入物も砂粒以外は少なく良好。②還元焰、普通。③にぶい橙5YR6/4ではF一様。
3 手づくね	口 9.4~8.5 高 3.5	東壁寄床直上 口縁欠く	手づくねで口縁に波状の歪みがあるが、素地一様で丁家な作り。内面方向不定の強いナゲ下に指頭圧痕残る。	①素地緻密で赤褐色鉱物等、少量の混入物あり。②還元焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。黒褐色5YR2/1。一様でない。④破損後に二次火熱受ける。
4 羽蓋	口(27.6) 径(30.0)	カマド前面床直上 図示部小片	径・傾きとも不安。鈔の形状一定でない。外面弱く鋭な削り。内面ナゲ丁家だが器面に凹凸あり。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物まじりの砂粒少量含む。②中性焰か、やや硬調。③橙5YR6/6~にぶい黄緑10YR7/4。
5 羽蓋	底(10.6)	埋土 図示部片	輪轆み。外面弱く鋭な削りで縦位の微傾斜。内面丁家なナゲだが器面不整。4に類似し、同一個体の可能性。	①②③4に類似するが、細礫等混入物やや多く、焼成はやや軟調か。④破損後に二次火熱を受けている。

Ⅲ区 19号住居跡(第261図 PL.79)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(13.8)	埋土2片 図示部片	均質に薄手で丁家な作り。内外面磨きも丁家である。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物やや多い砂粒含む。②還元焰、普通。③明赤褐色2.5YR5/6。断面黄色味強い。外面に弱い光沢あり。
2 杯(H)	口(15.4)	カマド右端隅床直上 片割体	外面削りやや強く、息長く丁家。ナゲも丁家で内面の平滑き著しい。	①素地普通。輝石・細礫等やや大粒夾雑物まじりの砂粒含む。②還元焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。外面形状、内面点状の黒斑あり。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

3 鉢 (H)	口(9.8) 胴(10.0)	埋土 図示部写	外面下半に強い削り。ナデはやや弱いが器面の凹凸少ない。口縁外縁に弱い沈線が高る。	①やや粗く軽量の素地。細砂やや多い。土粒含む粗く見える。②酸化焰、普通。③にぶい黄褐色10YR7/3。外面に黒斑広い。
4 甕 (H)		埋土4片 図示部写	口縁ナデー体部横へら削り。体部内面は幅広工具による横位ナデ。	①素地普通。靑石・輝石等の細砂を含む。②酸化焰、やや硬調。③黒褐色10YR7/3〜にぶい褐色。
5 甕 (H)	口 24.2~24.0 頸 20.4~19.6 胴 29.3~28.9	カマド右袖 図示部ほぼ完存	輪積みか。胴下半内面に合わせ痕が残る。外面削りやや粗かく弱い。内面口縁に布状具の強いナデ。胴部に工具痕あり。平滑に仕上げらる。	①素地普通。麻石まじりの粗砂やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。赤色味・黒色味をおびるムラあり一様でない。④二次火熱を受ける。

## III区 20号住居跡 (第262図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小型甕 (H)	口(13.8) 頸(11.6) 胴(13.2)	北西壁寄床上9 cm 2片 図示部写	胴部は内外面とも粗いハケ目。口縁のナデは外面で雑で器面やや不整。	①素地普通。混入物少なく、砂粒・赤褐色載物等を散見。②酸化焰、硬調。③灰白2.5Y8/2。断面中央黒色。

## III区 21号住居跡 (第263図 PL.79)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	口(13.6) 頸(9.2)	埋土 図示部中口縁端 部欠く	細かなハケ目の上に不規則な磨きを施すが、内外面ではヘラの太さがかなり異なる。口縁端部にごく弱いナデ。	①やや粗い素地でボソボソ。チャートの混入やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙10YR7/3。外面に弱い黒斑。④内面胴部の刺差進む。

## III区 24号住居跡 (第267図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 台付甕か	舞上 4.9	P1底面より8 cm上 図示部ほぼ完存	天地不明だが、内底とした部分の方が丁寧。内外面とも幅状のへら工具で整形。	①素地普通。土粒の混入で粗形に見える。細砂少量含む。②酸化焰、軟調。③にぶい黄褐色10YR7/3。外面に黒斑。内面赤色味をおびる。

## III区 25号住居跡 (第268図 PL.79)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 13.8~13.5	カマド内床土14 cm 8片 図示部写	外面削り弱く雑。口縁外面上端のナデも弱く、下半の無調整部分広い。内面ナデは強く口縁に粗い布状具の擦痕。	①素地やや粗くボソボソ。石英・細麻まじりの砂粒含む。②酸化焰、軟調。③にぶい黄褐色10YR7/3〜にぶい橙5YR7/4。
2 杯 (H)	口(12.8)	カマド内 図示部写	口縁上半のナデ強く、端部僅かに肥厚する。外面削り弱く、内面ナデ丁寧。	①1に類似するが混入物少ない。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4ではほぼ一様。
3 甕 (H)	口(20.4) 頸(18.0) 胴 21.4	中央東寄床土30 ~38cm 口縁写 胴部写	胴部内面に2段の接合時粘土帯あり。外面鋭く丁寧な削りだが、削りの方向より左利きの手によるものか。内面幅広工具のナデ。	①素地普通。粗砂の混入やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐色2.5YR5/4。黄色味・黒色味のムラあり一様でない。④二次火熱を受け、下半軟弱化。

遺物観察表編

Ⅲ区 27号住居跡 (第272図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(14.8)	埋土 図示部写	右回転ロクロ。ロクロ底外面で強く細かい。内面平滑でロクロ底は殆ど残らない。	①素地やや粗く、細砂の混入多く器面ゼララ。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y7/1。口縁端部は明度低い。
2 壺 (H)	口(18.8) 頸(17.0)	埋土 口縁写 肩部写	外面に明確な屈曲のあるコの字状口縁である。外面削りやや弱く、頸部に指痕あり。内面丁寧なナデで平滑。	①素地普通。黄白色の粗砂含む。②酸化焰、硬調としては硬調。③にぶい赤褐5YR5/3。内面頸部は明度高い。
3 刀子	横0.40~0.14 基幅0.90 基厚0.31	埋土 基端部欠く	身は研ぎ減って先端部を欠いているが現状完存。柄に木質が若干残存している。	①良質の鉄地金で錆化によるふくれ少ない。③基端部まで若干研ぎ込まれている。

Ⅲ区 28号住居跡 (第273図 PL.79)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 14.2~13.9 高 4.4	貯蔵穴内床下10 cm ほぼ完形	外底削り削りで、同心円状に丁寧に高らせた後、中央に弱い削りを追加する。内面には細かな凹凸多い。	①素地やや粗く、細砂・輝石等混入物多く、器面ゼララ。②酸化焰、きわめて硬調で焼締る。③橙5YR6/6でほぼ一様。
2 椀	口(15.2) 台(7.0)	貯蔵穴内床土上10 cm 口縁写 底 部写	右回転ロクロ→切離し不明→ロクロ使用高台取付。口縁外面中位付近のみロクロ風やや強い。内面平滑。	①素地やや粗い。細砂少量含む。混入物少ない。②中性焰か、普通。③にぶい橙2.5YR6/4~にぶい黄橙10YR7/3。内面一部黒斑状。
3 壺 (H)	口(23.0) 頸(20.4) 胴(22.6)	貯蔵穴内床直上 図示部写	外面に強い屈曲のあるコの字状口縁。外面削り強く丁寧。内面に指痕状の凹痕で器面凹凸。歪み強く傾き不安。	①素地やや粗密。赤褐色紅土まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。④二次火熱の影響あり。外面下半に薄くスス付着。

Ⅲ区 29号住居跡 (第275図 PL.79・80)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(12.2) 高 2.7	中央北寄床直上 口縁写 底部写	外底削りは細太で丁寧。口縁外面のナデは端部のみ。内面ナデは鋭い。口縁内端凹む。	①素地普通。細砂・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4でほぼ一様。④外底に墨書「古」か。
2 杯 (S)	口(12.8) 底(7.4) 高 3.1	南東隅床土上18cm 口縁写 底部写	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ風やや弱い。底部中央が薄く、焼成時に歪みを生じている。	①素地やや粗い。チャート含む。細砂やや多い。②還元焰、普通。③灰白7.5Y7/1でほぼ一様。
3 杯 (S)	口 12.3~12.0 底 5.7 高 4.0	南東隅床直上 口縁写欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ風やや弱く不規則だが、内底のみ同心円状の強い凹凸あり。	①素地やや粗い。細砂少量含むが混入物少ない。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y7/1。黄色味をおびるムラあり。口縁一部吸炭したように黒褐色。
4 高台付杯 (H)	台(9.4)	南西隅床土上13cm 図示部ほぼ完存	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台取付。ロクロ底弱く、口縁内面以外は不明瞭。	①素地普通。細砂・白色砂粒等含む。②還元焰、硬調。③灰白7.5Y7/1で一様。④外底に「左」と思われる墨書あり。
5 杯 (H)	口(12.8) 高 3.3	埋土 口縁写 底部写	外底削りやや弱く、平坦に仕上げる。口縁外面のナデ幅広い。内面ナデは丁寧。口縁は小さな波状の歪み。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4でほぼ一様。④内底中央に墨書あるが、判読できず。

## I 竪穴住居跡出土遺物

6 杯(S)	口(12.4) 底(5.8) 高 3.6	カマド前面南寄 床土26cm 図示部写	右回転クロー→回糸無調整。ロクロ直 きわめて弱く不明瞭。器面は全体に平 滑。	①素地普通だが、長石や5mm大の片岩質細砂等含み 粗く見える。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y7/1。内 面やや暗い。
7 碗(S)	口 13.5 台 8.3	南東隅床直上 口縁上半円欠く	右回転クロー→回糸→ロクロ使用高台 取付で外面に棒状のアナ貝痕が走る。 ロクロ痕弱い。	①素地やや粗く、細砂まじりの砂粒やや多い。②還 元焰、普通。③灰黄5Y6/1～青灰5B5/1。
8 碗(S)	口(15.0) 台 7.0 高 7.2	中央床直上 口縁上半円欠く	右回転クロー→回糸→ロクロ使用高台 取付。ロクロ痕弱い。口縁外端小さく 肥厚する。	①素地やや粗く、片岩質細砂・土粒等含む。②還元 焰やや不十分。普通。③灰黄2.5Y7/2。口縁付近は黒 色味をおびる。
9 長頸甕 (S)	口 4.6	中央南寄床下4 cm。 図示部中心口縁端 部写欠く	右回転クロー、やや弱い横位ナゲだが、 ロクロ痕ほとんど残らない。火裏に雷 降状の降灰痕がかかる。	①素地普通だが細砂まじりの砂粒含む小製品として は粗い。②還元焰、硬調。③青灰10B6.5/1。火裏で は明度低い。軸は黄白色。
10 長頸甕 (S)	肩(18.4)	埋土 図示部写	肩部外面に4条の沈線の上に、輻状の 木口状工具による刺突を2段(各々は 逆方向になる)加える。	①素地やや緻密。黒色鉱物の目立つ砂粒を含む。② 還元焰、硬調。③灰白N7/0。外面やや暗く、白色の 降灰痕が雷降状にかかる。
11 紡錘車	径 4.5~4.4 厚 1.2 孔 0.75	西壁際床直上 ほぼ完形	下面に不規則な放射形の擦痕、側面に はごく細かな同心円状擦痕あり。	①砥石。

## III区 30号住居跡(第277図・278図 PL.80)

No.・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(13.0)	埋土 図示部写	外底の削りはやや弱く鋭い。外面口縁 のナゲは離。内面ナゲは丁家で平滑に 仕上げる。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。 ③にぶい黄緑10YR7/3。外面一部黒色味をおび る。④外底に墨書あり。判読できず。
2 杯(S)	口(12.8) 底 5.6~5.3 高 3.9	埋土 口縁写欠く	右回転クロー→回糸無調整。ロクロ直 は全体にきわめて弱い。	①素地やや粗く、砂粒多量ザクザク。輝石含む。② 還元焰、強い二次火熱を受ける。③灰白5Y7/1~ぶい 橙5YR7/3。外面幅広く炭灰し黒褐色。
3 杯(S)	口 12.1 底 5.8~5.5 高 3.7	埋土 完形	右回転クロー→回糸無調整。全体にや や厚手で小製品としては重量。外面に 撥合痕状のわずかなヒビ走る。	①素地やや緻密。白色砂粒の混入やや多い。②還元 焰、硬調。③灰N6/0。口縁端のみやや黒色味をお びるが、ムラ少ない。
4 碗(S)	口 14.3~14.1 台 6.1~5.9 高 5.6	埋土 口縁上半円欠く	右回転クロー→回糸→高台取付はロク ロ使用だが器口大きい。ロクロ痕全体 に弱い。	①素地やや粗い。混入物少なく良好。②還元焰、や や軟調。③灰白10Y7/1様。④外底に僅り焼成 後剥離の可能性。
5 碗	口 14.8~14.3 台 6.9 高 6.1	埋土 完形	右回転クロー→回糸→ロクロ使用高台 取付。内面のロクロ痕弱い。高台内端 に工具痕状の沈線走る。	①素地やや粗く、砂粒の混入多量ザクザク。② 還元焰、普通。③灰白10Y7/1。内面のほとんどと外 面の半分は炭灰して黒褐色。
6 碗	口 15.2~15.0 台(6.8) 高 5.4	埋土 口縁写底部写欠 く	右回転クロー→回糸→高台取付はロク ロ不使。外面下半のロクロは工具 状のやや鋭いものである。	①素地やや粗くボンボン。細砂まじりの砂粒を含む。 ②還元焰か、軟調。③灰白10Y7/1。内底炭灰して黒 褐色。④内面に墨書と思われる部分あり。
7 碗	口(14.0)	カマド内 図示部写	右回転クロー。外面下半でロクロ直や 強い。内面平滑。	①素地普通。細砂多い。②中性焰か。軟調。③灰黄 褐10YR4/2。口縁中心に内外面とも黒褐色。
8 碗(S)	口(14.0) 台(6.0) 高 5.1	図示部写	右回転クロー→回糸→ロクロ使用高台 取付。ロクロ痕弱い。高台は均整のと れた丁寧な取付である。	①素地普通。細砂・土粒等の混入で粗く見える。② 還元焰、普通。③灰白5Y7/2。外縁で口縁周辺など黒 色味をおびる。

## 遺物観察表編

9 小型罐 (H)	□(12.0) 頸 11.0~10.5 胴 14.5	カマド内 図示部中口縁及 胴部欠く	輪轆みか。頸部内面に顯著な接合痕あり。外面幅広くやや鋭い削り。外面幅広くやや鋭い削り。	①赤地やや粗く、赤褐色鉱物目立つ砂粒含む。②酸化焙。二次火焼の影響で脆弱化。③にぶい黄緑10YR7/4。赤色味強いムラあり。④外面削半分中に中位へ上位のスス付着。
10 罐(H)	□(19.8) 頸(18.2) 胴(22.6)	カマド内 口縁及 胴部欠	輪轆み痕が内面中位以下に残る。外面削り鋭いが、口縁部ナデは雑で無調整部分を残す。	①赤地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焙。普通。③にぶい赤褐5YR4/3。赤色味・黒色味のムラ多く一様でない。
11 壺(S)	□(20.0) 頸(17.4)	埋土 口縁及 胴部欠	右回転ロクロか。横ナデ弱く不明瞭。内面はロクロ不使用の粗いナデ。口縁の歪み強く、傾き不安。	①やや密着な赤地だが、黒色鉱物・白色細粒等の混入多く粗い。②還元焙。硬調。③灰N6/0。口縁付近明度低い。胴部に黄白色の降灰痕。
12 台付罐	台上 4.9 台下 9.7	埋土 図示部中胴部欠 欠く	全体に厚手で重畳。外面削り丁寧で鋭い。台部は強いナデで平滑。内面も平滑でヘラ状工具痕残る。	①赤地普通。砂粒以外の混入物まれ。②酸化焙。やや硬調。③橙2.5YR6/6。外面に黒色味の強いムラあり。
13 罐(H)	□(20.0) 頸(19.0)	埋土 口縁及 胴部欠	頸部外面には巻上げ状の接合痕あり。外面やや淡く丁寧な削り。ナデも丁寧で内面平滑。	①赤地やや粗い。赤褐色鉱物・パミス等含む。②酸化焙。妻頭としてはやや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。黒色味をおびるムラあり。
14 土製品		埋土 平半品	直径6cmほどの円盤状土製品と見られる。端部に指頭の強い押圧があり、平滑さが欠く。	①赤地普通。チャート細粒・輝石・パミス等混入物やや多い。②酸化焙。普通。③にぶい橙7.5YR6/3。赤色味・黒色味をおびるムラあり。
15 罐(H)	□ 19.7~18.9 頸 18.4~18.1 胴 22.0 底( 3.8)	カマド内 上半欠 下半及	輪轆みか。削り、ナデともに強く。頸部に凹凸多く、歪み強い。やや厚手で重畳あり。底部は接合できない同一個体片である。	①赤地普通。細粒少量含む砂粒やや多い。②酸化焙。普通。③暗赤褐2.5YR3/2。内面にぶい橙5YR6/3。④外面胴中位以下に薄くスス付着。
16 罐(H)	□(21.2) 頸(19.4) 胴(22.0) 底 4.9~4.6	口縁及 胴部以下欠	接合できなかった口縁と胴以下とを復元。外面削りやや粗く鋭い。内面工具使用ナデは一部ハケ目状。	①赤地普通。赤褐色鉱物・輝石・石英等含む。②酸化焙。やや軟調。③橙2.5YR6/6。外底付近に黒底。内面にぶい黄褐10YR5/3。

## Ⅲ区 31号住居跡(第279図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (H)	脚上 3.3	埋土	外面縦へら磨き。内面は指頭によるナデ。脚部内孔は3カ所。外面に赤色塗彩。	①粗〜細砂を含む。②普通。③橙色。
2 甕(Y)		埋土 胴部	横位縄文。無文部と内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①輝石の粗砂が多い。②普通。③にぶい橙7.5YR7/4。
3 甕(Y)		埋土 胴部	羽状構成の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2Lと思われる。	①長石・輝石・輝石等の粗粒を含む。②普通。③橙5YR6/6。
4 甕(Y)		埋土 胴部	羽状構成の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2L。	①長石・赤褐色粒・安山岩片等粗粒を多く含む。②普通。③橙5YR6/6。
5 甕(Y)		埋土 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R。	①輝石・長石・石英・輝石等の粗〜細粒を含む。②普通。器壁は還元ざみ。③にぶい橙5YR6/4。

## I 竪穴住居跡出土遺物

6 壺(Y)	埋土 胴部	羽状構成の縄文。内面ナデ。胴体は附加糸第1種LR+2RとRL+2L。	①長石・石英・チャート・輝石等の粗粒を含む。②普通。③焼7.5YR7/6。
7 壺(Y)	埋土 胴部	横位縄文。内面ナデ。胴体は附加糸第2種RL+R、LR+Lと思われる。	①輝石安山岩・角閃石等の粗砂が目立つ。②やや硬調。③焼灰10YR6/1。

## III区 33号住居跡 (第282図 PL.80)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 16.9~16.4 高 4.7	北壁跡床直上 口縁端部欠く	底部に歪みあり。外底削りは丁寧で細く、無調整部分も凹凸ない。ナデも丁寧で平滑に仕上げられる。	①素地普通。バミス・石英まじりの砂粒やや多い。②酸化焙、やや硬調。③焼7.5YR7/6。赤色味をおびるムラ広い。
2 杯(H)	口 13.5 高 3.7	西壁直下床直上 片側体	外底削りは粗くやや強い。内面ナデ丁寧で、ぬれた状態で拭いている。口縁内側に無調整部分もあり。	①素地やや緻密。砂粒等少量含む以外、混入物少ない。②酸化焙、普通。③にぶい焼5YR7/4でほぼ一様。
3 杯(H)	口(13.2) 高 3.0	北西隅床直上 口縁欠 底面欠	外底削りは細かくやや強で無調整部分広い。口縁ナデは外面で榎下まで及び内側では弱い。	①素地やや粗いが砂粒以外の混入物少ない。気泡まじる。②酸化焙、普通。③にぶい赤焼2.5YR5/4。外面に黒色味の強い部分あり。
4 壺(H)	口(22.2) 頸(18.8)	埋土4片 口縁欠 胴部欠	外面削りは弱く粗い。ナデはやや丁寧だが、頸部外面で弱い。	①素地普通。砂粒やや多いが他の混入物まれ。②酸化焙、やや軟調。③にぶい焼5YR6/4。広いムラ多く一様でない。④外面不均等にスス付着。
5 甌(S)	台上 8.9~8.5	北西隅 図示部ほぼ完存	右回転クロコロー底部付近手持ヘカローロク使用高台取付。内面のクロコロー裏返し。	①素地やや粗く、黒色鉱物や砂粒含む。厚手だが大粒夾雑物含まない。②還元焙、普通。③灰白5Y7/1。外面一部黒色味をおびる。

## III区 34号住居跡 (第283図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 不明 鉄製品	幅 1.59~1.53 厚 0.20~0.09	埋土	板状品で片側やや尖るが刃ではないようである。母手が歪みは少ない。一端は完存か。	①錆化によるふくれ多く、あまり良くない鉄地金と思われる。

## III区 35号住居跡 (第284図 PL.81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(12.8) 底(6.8) 高 3.8	埋土 口縁欠 底面欠	右回転クロコロー回ヘラ無調整か。クロコロー裏きわめて弱い。	①素地普通。片岩質硬磁まじる砂粒やや多い。②還元焙、やや硬調。③青灰10BG6/1。内面やや明るい。
2 杯(S)	口 12.2 底 6.7 高 3.5	西壁跡床直上 完形	右回転クロコロー切離し不明。外底は弱い手持ちヘカ削り、またはナデで平滑。クロコロー裏やや弱い。	①素地普通。細織・チャート・赤褐色鉱物等混入物多。②酸化焙か、硬調。③にぶい赤焼2.5YR5/4。内面重焼き状に黄色味強く内底は灰白色。④外底中央に黒書「甲」。
3 杯(H)	口 12.1~11.8 高 3.5	北東隅端込底面 より3cm上 ほぼ完形	外底削り息長く鋭い。無調整部分も凹凸少ない。内面強いナデだが成形時の凹凸残る。	①素地普通。細織・バミスまじりの砂粒含む。②酸化焙、普通。③にぶい焼7.5YR7/4。黒色味・黄色味をおびるムラあり。

遺物観察表編

Ⅲ区 36号住居跡 (第285図 PL. 81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(13.0) 底( 7.4) 高 3.6	中央床土33cm 瓦筒体	右回転ロクロ一回ヘラー底部縁辺回転ヘタ削りで鋭い擦痕残る。ロクロ痕や削り。	①素地やや粗くボンボン。黒色鉱物まじりの砂粒含む。②還元焰。硬調。③灰白10Y8/1。内面やや黄色味をおびるが全体にムラない。
2 杯(H)	口(14.2)	中央床土14cm 口縁3/4 底部1/4	外面は体部中位で屈曲し、その下側まで鋭い削り。内面丁寧なナデで平滑。口縁外面のナデやや粗。	①素地普通。パミス・細礫まじりの砂粒多量な面やヤガラザラ。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。外面に赤色味をおびる部分あり。
3 杯(H)	口(16.0)	北西隅床土26cm 図示部1/4	外底削り弱い。無調整部分広く凹凸残る。内面丁寧なナデで布状員の擦痕残る。口徑不安。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・輝石等含むが、いずれも微細である。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR7/4でほぼ一様。
4 瓶(S)	底 7.1~6.8	中央床土33cm 図示部中体部1/4 欠く	右回転ロクロ。外底ナデで切離し痕消すが、回転ヘタ切りか。体部下端に回転ヘタ削りを加える。瓶としては内底平滑。	①素地やや粗くボンボン。黒色鉱物目立つ砂粒多い。②還元焰、やや硬調。③灰白10Y7/1。外面に緑黄色の降伏輪。④内面厚くケール状の付着物あり。
5 壺(H)	口(21.4) 頸(18.6)	カマド内 図示部1/4	外面削りやや強い。ナデはやや強く、鋭い擦痕残る。	①素地やや粗い。輝石・赤褐色鉱物等相多量な付着物含む。②酸化焰。壺類としては硬調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。内面黄色味をおびる。

Ⅲ区 37号住居跡 (第286・287図 PL. 81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕	口 23.1~22.5 頸 19.0~18.5 胴 20.2 底( 4.4)	カマド北側床直上	輪轆みか。接合痕はほとんど観察できない。外面やや鋭く丁寧な削り。内面幅広いの工具使用の強いナデ。	①素地普通。大粒の赤褐色鉱物・輝石・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。黒斑や黄色味をおびるムラあり。④外面の一部に片寄って薄いスス付着。
2 甕(H)	口(21.8) 頸(18.6) 胴(22.0)	カマド前面床直上 図示部1/4	輪轆みか。外面幅広い丁寧な削り。口縁と内面のナデ丁寧で工具痕不明瞭。口縁端部僅かに肥厚。	①素地普通。白色砂粒等細かな混入物多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。赤色味・黒色味のムラあり。④二次火熱でやや膨脹。
3 甕(H)	口(23.6) 頸(18.0) 胴(20.4)	カマド前面床直上 図示部1/4	外面削り強く鋭い。ナデは丁寧だが、頸部にはのみ顕著な接合痕残る。	①②に類似する。②酸化焰。壺類としてはやや硬調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。内面明るく黄色味もやや強い。④外面縦位に片寄ってスス付着。
4 杯(H)	口 12.4~12.2	埋土 図示部1/4	外底削り強く、鋭い擦痕が沈線状に器面を傷つけている。無調整部分は少ない。内面ナデ丁寧。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒、やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。赤色味をおびるムラあり。
5 杯(H)	口(13.8)	埋土3片 図示部1/4	外底削りやや強く粗く、器面不整。無調整部分も多い。内面ナデ丁寧。	①素地普通。パミス・石英まじりの粗砂含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に黒黒広い。
6 杯(H)	口 12.7 高 3.4	カマド内床直上 完形	外底削り強く粗く、器面不整。口縁部内傾し、端部内側へ僅かに肥厚。内面ナデ丁寧で、布状員の擦痕残る。	①素地普通。細砂やや多い。石英・細礫等少量含む。②酸化焰、硬調。③にぶい橙5YR6/4でほぼ一様。④外底に薄いススが環状に付着。



## Ⅲ区 38号住居跡 (第289図 PL.81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 13.4~13.0 高 4.7	西壁際床直上 口縁欠く	外底削りやや強く雑。無調整部分は少ない。内面丁寧なナデだが、底部付近に成形時の凹凸明瞭に残る。	①赤地ややや雑。輝石・バミスマジリの砂粒を少量含む。②酸化焰、やや硬調。③橙7.5YR7/6。外面一部赤色味をおびる。
2 杯(H)	口(13.6)	北西隅床直上 図示部欠	外面息長く強い削りで無調整部分を残さない。内面ナデも丁寧で布状具のやや粗い磨痕が同心円状に走る。	①赤地普通。砂粒を含むが他の混入物少ない。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外底に黒斑広い。④内面に凍てハゼあり。
3 羽口	先端孔 2.1 先端径 3.6	埋土 3片 先端部欠	外面大半がガラス化し不明だが、ヘラ削り状の磨痕の残る所あり。内面には斜位のヘラ状工具の磨痕あり。	①白色粗砂等含むがスガ状の夾雑物なし。羽口としては雑さ。③にぶい橙5YR6/4。④形状から銅精練羽口だが緑青は見られない。

## Ⅲ区 39号住居跡 (第290図 PL.81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(13.6) 高 3.0	埋土 2片 互個体	外底削りはやや強く鋭い。無調整部分を残さない。内面ナデはやや丁寧だが磨痕は不整。	①赤地普通。粗砂・輝石等の混入やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。内面黄色味をおび、外面やや暗いムラあり。
2 杯(H)	口 13.1~12.7 高 3.1	埋土 12片 口縁欠く	器面の剥落著しく、観察難しい。外面削りは弱い。口縁に波状の歪み。厚手でドンシリしている。	①赤地普通。粗砂の混入やや多い。②酸化焰、普通か。③にぶい橙7.5YR5/4ではほぼ一様。④内面を中心に全面に剥落すむ。二次火焼の影響か。

## Ⅲ区 40号住居跡 (第293図 PL.81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(13.2) 高 3.6	埋土 互個体	外面やや粗い削り。無調整部分も整っている。内面ナデやや雑。口縁に歪みあり口径不安。	①赤地やや粗い。バミス・輝石・石英等種多な夾雑物やや多い。②酸化焰、やや硬調。③橙2.5YR6/6。黄色味の強いムラあり。
2 杯(S)	口(13.0) 底(6.0) 高 3.7	埋土 3片 口縁欠 底部欠	右回転クロー→回糸無調整。ロクロ痕やや強く器面不整。底部中央のみ薄くなっている。	①赤地やや粗く、3mm大の細鉄や大粒夾雑物の混入多い。②還元焰、普通。③灰10Y6/1。口縁は暗く、内底赤色味をおびる。褐色の火ダズキ状のムラあり。
3 壺(H)	口(20.0) 底(18.4) 胴(21.4)	カマド内 8片 図示部欠	外面やや鋭い削り。ナデはやや丁寧で平滑に仕上げているが、脚部外面のみ凹凸残る。	①赤地普通。輝石・バミス等細かな混入物やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。内面やや明るい。④外面に不均等にスス付着。
4 壺(H)	口(21.4) 頸(19.4)	カマド内 図示部欠	口縁外端にごく弱い沈線が走る。胴内面がきわめて平滑で幅広い工具痕が残る以外、3と同巧である。	①赤地普通。バミス・砂粒等を少量含む。②酸化焰、整類としてはやや硬調。③にぶい橙5YR7/4。内面やや暗く、外面も一様でない。
5 土甕	長 3.5 厚 0.8	埋土 完形	平滑で、弱い指痕以外の整形痕を残さない。	①赤地普通。石英等やや大粒夾雑物あり。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐5YR5/4。黒斑あり。

遺物観察表編

Ⅲ区 41号住居跡 (第294図 PL.81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口10.2	埋土 瓦筒体	外底の削りはやや鋭い。口縁と内面は丁寧なナゲで平滑に仕上げられる。口縁に歪みあり口徑不安。	①赤地やや粗い。チャート・輝石等まじる砂粒含む。②酸化焰、普通。③におい焼7.5YR7/4。断面明度高い。
2 碗	台 7.1	埋土 顯示部中高台瓦欠	右回転ロクロ→回赤→ロクロ使用と思われる雑な高台取付。ロクロ痕削りが器面の平滑さにやや欠ける。	①赤地やや粗く、細磨まじりの砂粒多い。②酸化焰か、やや硬調。③におい赤褐色2.5YR5/4～黒褐色5YR3/1。一様でない。
3 土師	長 6.7 厚 2.7 重 21.2g	床下 腐割れの瓦	外面平滑だが削り指頭圧痕と、かすかな擦痕が見える。内面に竹の表面のようなスジ状圧痕あり。端部削る。	①赤地普通。粗砂・輝石・バミス等の混入物やや多い。②酸化焰、やや硬調。③におい黄褐色10YR7/3。黒色味をおびる器かなムラあり。
4 土師か	重 9.4g	埋土	歪み著しい。孔も端部付近以外は凹凸多い。土師なら全長6.5cm、径3cm程となるか。	①やや粗く軽質。輝石・赤褐色鉱物まじる。②酸化焰、普通。③におい焼7.5YR5/3。一様でない。器口が厚減している。

Ⅲ区 42号住居跡 (第295図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿 (H)	径( 6.6)	埋土 顯示部瓦	外面削りの上を雑な磨き。内面細かなナゲだが器面不整。	①赤地やや粗く、バミス・細磨まじりの砂粒もやや多い。②酸化焰、普通。③におい焼5YR7/4。外面赤色味をおびる。
2 不明	平皿部径 3.7	埋土 上半瓦欠	外面は器面を平滑にするが、指頭痕がみられ、ナゲではない。内面はハケ目後、指で粗雑なナゲ。	①赤地やや粗密で、チャート・輝石・長石等の粗・細砂を含む。②酸化焰、やや軟調。③におい黄褐色10YR5/3。④器形や整形の特徴から、「台」として使用したもののか。

Ⅲ区 43号住居跡 (第297図 PL.81)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 19.0 高 4.2	埋土 口縁写 底部瓦	外底やや強い削り。内面形状具のやや粗い擦痕の残るナゲ。底部は内外面とも歪みあり。	①赤地普通。細磨・赤褐色鉱物等混入物の雑多な砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③焼5YR6/6。外面一部黒色味強い。④内面に薄いスス状付着物。
2 杯(H)	口 12.6～12.3 高 3.8	カマド右袖前床 下6cm 瓦筒体	外底やや粗い削りで、器面は平滑さ欠く。ナゲは丁寧。口縁に小さな波状の歪みあり。	①赤地普通。バミス・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③におい焼7.5YR6/3。外底は大平が用紙。
3 甕(H)	口(24.6) 頸(20.2) 胴(22.0)	カマド右袖前床 直上 顯示部瓦	外面やや鋭い削りで高位置まで蹴位。口縁ナゲやや粗で外面側部に鋭い擦痕残る。内面ナゲは幅広い工具痕残る。	①赤地やや粗く、輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰、普通。③におい焼7.5YR6/4。赤色味・黒色味のムラ多い。④外面下半カマド粘土付着。
4 甕(H)	口(24.0) 頸(19.4)	カマド左袖前床 上10cm 顯示部瓦	外面やや鋭く丁寧な削り。口縁外面ナゲやや雑で器面不整だが無調整部分は残さない。内面ナゲは丁寧。	①赤地普通。赤褐色鉱物・輝石の少量まじる粗砂含む。②酸化焰、やや軟調。③におい焼7.5YR7/4。赤色味をおびるムラあり。④二次火熱受ける。
5 手づくね	底 2.1～1.8	カマド内 顯示部瓦存	手づくね。体部下端に指頭圧痕残る。歪み大きく、形状不明。	①やや粗い赤地で赤褐色鉱物等含む。②酸化焰、軟調。③におい黄褐色10YR4/3。内面明るい。

## Ⅲ区 44号住居跡 (第299図 PL.81)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 10.1 高 3.1	南壁下床直上 完形	外高削りは幅広く強い。無調整部分も 平滑。内面ナゲやヤドリが跡面平滑。	①赤地普通。バミス・輝石等種多な夾雑物まじる砂 粒含む。②酸化焙。やや軟調。③にぶい橙SYR6/4。 外底に黒斑広い。
2 壺(H)	口 21.2~20.8 頸 15.9 胴 20.6 底 5.4~5.1 高 32.9	カマド内 胴上半片欠く	外面削り、内面ナゲとも丁寧で均整の とれた造りである。口縁端部の凹みは 内側のみやや強い。内面ナゲは板状の 工具痕が顕著。	①赤地普通。バミス・輝石まじりの砂粒多い。②酸 化焙。普通。③にぶい黄橙10YR7/4。外面に赤色味・ 黒色味をおびるムラあり。④外面は口縁以外に広く カマド粘土付着。
3 壺(H)	口 23.8 頸 17.4 胴 20.6~19.8 底 4.3 高 35.7	カマド左袖床直上 胴一部欠く	口縁は外方へ大きく開き、上端にのみ 凹み返る。外面削りやや粗い。内面や 平滑。	①赤地普通。バミス・輝石まじりの砂粒多い。②酸 化焙。普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面黒色味をお びるムラあり。④外面に刺落やが多い。
4 壺(H)	口(20.8) 頸(16.0)	P3断面上48cm 口縁写 胴上部写	口縁から頸部へかけ著しく肥厚する。 口縁端部は強く外反。外面削りやや粗 い。ナゲは短い布状具の擦痕残す。	①赤地普通。輝石・バミス・チャート等種多な混入 物多い。②酸化焙。普通。③にぶい黄橙10YR7/3で 内面赤色味をおびる。外面も一樣でない。
5 壺(H)	口(22.0) 頸(17.2)	カマド内床直上 胴部写	外面の刺落著しく、不明瞭。口縁肥厚 し頸部は外反、内面は強い凹み返る。 内面ナゲは幅広い工具痕残る。	①赤地普通。赤褐色鉱物・バミスまじりの粗砂多い。 ②酸化焙。普通。③にぶい橙7.5YR7/4。内面やや赤 色味をおびる。④二次火熱の影響強い。
6 壺(H)	口 21.4~21.1 頸 16.4~16.2	カマド前面床直上 胴部写	外面幅広く長い削り。口縁内側に強い 凹み返る。内面ナゲは平滑で鋭い工 具痕残る。	①赤地普通。赤褐色鉱物・バミスまじりの粗砂や 多い。②酸化焙。普通。③にぶい橙7.5YR7/4。赤色 味・黒色味のムラあり。
7 壺(H)	口(21.6) 頸(16.8) 胴 18.3~17.6	カマド内 口縁写 胴部写	外面削り幅広く意長く丁寧。口縁は両 側から強い押しさえて凹みが返る。内面 ナゲやや丁寧。	①赤地やや粗い。輝石・赤褐色鉱物まじりの粗砂や 多い。②酸化焙。普通。③にぶい橙7.5YR7/4で外 面暗褐色部分広い。④胴中位付近にカマド粘土の付 着多い。
8 磁石	幅 2.6~1.1 厚 2.5~1.3	埋土 一端を欠く	一面は自然面だが凹凸少ない。	①磁石。②断面赤褐色の4面使用で全面とも研 ぎ減り著しい。
9 ミニチュ ア(H)		P2断面より21 cm上 胴部写	巻上げか。外面に部分的に不規則な衝 突の痕り。内面板状工具と指痕の強い ナゲだが器面不整。厚手で重量。	①赤地やや粗く。バミス・赤褐色鉱物等種多な混入 物や多い。②酸化焙。普通。③にぶい橙SYR6/4。 外面に黒斑広い。

## Ⅲ区 45号住居跡 (第301図 PL.82)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗(K)	口 15.6~15.1 台 7.0 高 5.6	北東壁直下床下 10cm 口縁片欠く	右回転クローロ切離し不明→ロクロ使 用丁寧な高台取付。クローロ痕弱く、内 底きわめて平滑。輪は渡削り。口縁の 歪み著しい。	①濃緑を含む。赤地磁器だが灰輪陶器としては悪い。 ②還元焙。硬調。③灰白7.5Y7/1。輪は灰黄色で内面 厚い部分では緑褐色。
2 碗	台 6.1	南東隅床下5cm 胴部写は完存	右回転クローロ→回転→ロクロ使用高台 取付。クローロ板は全体に弱い。	①赤地やや粗い。バミスまじりの砂粒少量含む。② 中性焙か。硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。一部赤色 味をおびる。小さな黒斑あり。
3 瓶(K)	胴(16.6)	中央南寄床下10 cm 胴部写	右回転クローロ。内面でロクロ痕細かく 強い。外面はクローロ上倒置のヘラ削 りか。輪はヘケ塗り。	①赤地磁器。黒色鉱物僅かに含む。②還元焙。硬調。 ③灰白10Y7/1。輪は灰黄色で厚い部分は黄色味強い。

遺物観察表編

Ⅲ区 46号住居跡 (第302図 PL. 82)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺(H)	口(17.2) 頸(14.4)	中央西寄床上10cm 図示部写	外面やや粗なハケ目の上に口縁上半のみ強いナデ。内面もやや粗なナデで、口縁下半のみハケ目状の痕跡。	①素地やや粗く、長石・細礫等絶多量混入物が多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい燈7.5YR7/4。明度の低いムラあり。
2 器台(H)	口 7.0 脚上 2.7	南西隅床上直上 図示部完存	脚上位に3孔を穿つ。肩部内面と脚部外面に強く磨き。他は器部不整。口縁の歪み大きい。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石等大粒混入物含むが、他はまれ。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄燈10 YR7/2。赤色味・黒色味強いムラあり。
3 高杯(H)	脚上 3.6	中央西寄床上直上 図示部中口縁写 欠く。	脚部に杯部を接合。外側より4孔を穿つ。磨きはやや粗いため器面平滑さにやや欠ける。脚内面は不整。	①素地やや粗い。細礫・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい燈5YR7/4。
4 ミニチュア	底( 3.4)	埋土 図示部写	手づくね。外面に弱い指頭圧痕あり。外底平滑。内面もミニチュア土器としては平滑である。	①やや粗い素地に、砂礫・長石・赤褐色鉱物等の混入多い。②酸化焰、やや軟調。③灰褐色5YR4/2。内面やや暗い。
5 紡錘車	上 4.5 下 2.6 厚 3.1 孔 0.8~0.7	埋土 ほぼ完形	紡錘車としてはいびつ。孔もやや歪み斜めに穿たれている。	①軽石(ニツ岳)。②二次火熱を受け一部で赤色味をおびる。細かな剝落が多い。

Ⅲ区 48号住居跡 (第305図 PL. 82)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(13.2) 底 6.4 高 3.7	カマド内床直上 口縁写 底部完存	右回転クロー→回糸無調整。クロ口直やや強く、内底では湾曲さ状。	①素地普通。白色砂粒・細礫まじりの細砂含む。②還元焰、普通。③暗青灰5BG3/1。内面やや明度高い。
2 杯(S)	口(12.6) 底( 6.2) 高 3.9	西壁直下床直上 口縁写 底部写	右回転クロー→回糸無調整。クロ口直やや強いが内底平滑。底部いびつで怪不安。	①②1にほぼ同じ。③暗青灰5BG3/1。口縁上半は明度低く、内面やや黄色味をおびる。
3 椀	口 14.2~13.6 台 6.3 高 6.0	カマド前面南側 床直上	右回転クロー→回糸→クロ口使用の確な高台取付。クロー底は細かくやや弱い。口縁歪み平面が円形状となる。	①素地やや粗い。細礫・黄白色砂粒等の混入物やや多い。②還元焰、やや不充分で軟調。③灰白7.5Y7/1。ほぼ一様。
4 鉢(S)	口 19.1 底 11.2~10.9 高 10.7	P7内床面より 8cm下 口縁写欠く	右回転クロー→回糸無調整。クロ口直整美。内面上半はクロ口直弱い。口縁端部の整形は工具使用か。	①素地粗く、細礫の夾雑多い。②還元焰、やや軟調。③灰白10Y7/1。外面に暗いムラあり。

Ⅲ区 49号住居跡 (第307図 PL. 82)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 13.8~13.5 底 6.8~ 6.2 高 3.9	北壁直下床直上 9片 口縁上半 写欠く	輪積み状の接合痕が残る。外面磨りは幅広く強いが、指頭直状の凹みの上では無調整となる部分あり。内面と口縁外面は同心円状の強いナデ。	①素地緻密。輝石・赤褐色鉱物・パミス等やや大粒夾雑物あり。②還元焰、やや軟調。③燈5YR6/6。外面色相の異なる広いムラ多い。④口縁外面に磨きあり。「形井」か。
2 紡錘車	上 4.3~4.1 下 2.9~2.7 厚 2.4 孔 0.8	北壁直下床直上 完形	紡錘車としては形がいびつである。上面が最も平滑。孔は径が一定だが中心から僅かにズレている。	①砥石石。②側面に小さな剝落あり。火熱を受けて鋭角化している。

## Ⅲ区 52号住居跡 (第310図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(13.2)	埋土 図示部写	右回転ロクロか。内面磨き、外面摩滅で成形痕残らない。外面下半に棒状の圧痕のような凹みあり。	①やや粗くボソボソ。繊維・赤褐色鉱物含む。②酸化焰か。軟調。③にぶい赤褐色2.5YR5/4で黒色味強いムラあり。内面黒色処理で弱い光沢。
2 甕(H)	口(18.4) 頸(16.0)	埋土 図示部写	外面肩部は幅広いやや鋭い削り。頸部ナデはやや細で中位に無調整部分が残る。内面丁寧なナデ。	①素地普通。輝石まじりの砂粒少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい褐色7.5YR5/4。暗いムラ広い。

## Ⅲ区 53号住居跡 (第312図 PL. 82)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	台(6.2)	埋土 図示部写	右回転ロクロ→切離し不明→ロクロ使用丁寧な高台取付。ロクロ痕は外面のみで、内面は平滑。	①素地普通。黄白色砂粒・石英少量含む。②酸化焰か。硬調。③にぶい褐色7.5YR5/4。明度のやや低いムラあり。
2 紡錘車か	上 4.8~4.3 下 4.3~4.0 厚 2.1 孔 1.0	埋土 ほぼ完形	両側面が平坦になり、磁石に転用した可能性があるが、不明瞭。全体に平滑さ欠く。	①磁石石。④細かな磨痕が多いが、方向より紡錘車の整形痕と思われる。

## Ⅲ区 54号住居跡 (第313図 PL. 82)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(13.0) 底 5.3 高 4.6	埋土7片 口縁上半分欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱いが器面は平滑さ欠く。口縁内端に鋭い縁が規則的に通る。	①素地やや粗い。砂粒やや多い。②還元焰。やや軟調。③灰5Y6/1。やや暗いムラあり。④外底摩滅進む。
2 杯	口(14.0) 底(8.0) 高 3.4	埋土 図示部写	外面粗く強い削りで中位の指頭痕状の凹み残る。外底中央寄りに砂粒の付着多い。口縁は強いナデ。内面同心円状のナデだがロクロ不使用。	①素地やや粗く。繊維・石英・輝石まじりの砂粒やや多い。②還元焰。やや軟調。③灰5Y6/1でほぼ一様。
3 椀(H)	口(14.0) 台(6.8) 高 5.8	埋土 上半写 下半写	ロクロ不使用。端部のみナデ強い。高台取付丁寧。外面は幅広い鋭い削り。内面は口縁で瓢状。底部は一方の難な磨き。口縁の重み著しい。	①素地粗い。チャート・赤褐色鉱物等やや大粒夾雑物多い。②還元焰。やや軟調。③にぶい褐色5YR6/4。口縁端部黒色。内面黒色処理で弱い光沢。④口縁外面に磨き痕があるが判読できない。
4 土釜	口(25.0) 頸(24.2)	埋土3片 図示部写	小破片からの復元で怪不安。外面削りやや強い。口縁と内面のナデは布状具の細かい磨痕が広く残っている。	①素地やや粗い。繊維・輝石・赤褐色鉱物等種多量混入物含む。②還元焰。やや軟調。③にぶい赤褐色2.5YR5/4。やや明度の低いムラあり。
5 釘	頭部幅 0.95×0.70 中央幅 0.65×0.55	埋土 先端部わずかに欠く	折頭式の釘と思われる。断面は基部で長方形。中央からは正方形となる。	①錆化のため不明瞭だが、釘としては悪くない鉄地金である。④中央から先端にかけて緩やかにねじれている。頭部わずかにつぶれる。
6 土罐		埋土 一端の写	端部に強い指頭状の磨痕あり。表面の平滑さやや欠く。	①素地普通。輝石まじりの砂粒少量含む。②還元焰、普通。③にぶい褐色5YR6/4でほぼ一様。

遺物観察表編

Ⅲ区 55号住居跡 (第315団 PL. 82)

No.・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(S)	口(10.0)	埋土 図示部写	右回転ロクロ。天井部端部を除きロクロ使用へラ削り。内面カエリの形状は一定でない。紐の付くもの。	①赤地やや粗い。細粒・バミス等種多な夾雑物含む。②還元焰か、やや軟調。③にぶい赤褐5YR4/3。断面彩低い。
2 杯(S)	口(10.0) 底 6.0 高 4.7	中央南寄床直上 口縁局部底面写	右回転ロクロ一回へらから底部細な回転へら削り。ロクロ板弱い。内面にブクを生じている。	①赤地磁質。黒色鉱物まじりの砂粒少量含む以外夾雑物まれ。気泡がまじる。②還元焰。硬調。③灰白10Y7/1で断面までほぼ一様。
3 杯(S)	口(13.6)	埋土 図示部写	右回転ロクロ→切離し不明→外底ロクロ使用の鋭い削り。内面ロクロ痕跡が器面平滑さ欠く。	①赤地やや粗く、白色砂粒等の夾雑物やや多い。②還元焰。硬調。③灰白N7/0で断面まで一様。
4 杯(H)	口(10.8) 高 3.0	埋土 口縁写 底部完存	外面削りは幅広くやや鋭い。内面のナデやや粗い。口縁に小さな歪みあり。	①赤地普通。バミスまじりの砂粒少量含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。外面で赤色味、内面で彩度の低いムラ広い。
5 杯(H)	口( 9.4) 高 3.7	埋土 図示部写	外面削りは細かく鋭く、無調整部分を残さない。ナデは丁寧だが擦痕をほとんど残さない。	①赤地普通。輝石・バミス散見の砂粒含む、ややザラザラ。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6で断面までほぼ一様。
6 杯(H)	口(10.2)	埋土 写個体	外面削りやや速く、無調整部分を残さない。内面平滑。歪みのない丁寧な造りである。	①赤地やや粗い。赤褐色鉱物・バミス・輝石等種多な夾雑物含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。外面に黒斑あり。
7 杯(H)	口(12.0)	西壁跡床直上 図示部写	口縁中位が肥厚する。外面削りやや強く鋭い。	①粗砂やや多く器面ザラザラだが赤地は普通。輝石・赤褐色鉱物含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。外底で彩度低い。
8 杯(H)	口(12.2)	埋土3片 図示部写	器面の摩滅すすみ不明瞭。外底削りはやや強い。底部の凹凸大きい。	①赤地磁質。赤褐色鉱物やや多い。②酸化焰、普通。③橙7.5YR7/6。断面中央灰色。
9 杯(H)	口(12.8)	西壁跡床上21cm 図示部写	口縁端部内傾し小さく凹む。口縁外面下縁は不規則な沈線巡る。外面削りやや強く、底部薄い。	①赤地やや粗い。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③灰褐7.5YR4/2。黒色味強いムラあり。断面明度高い。
10 壺(H)	口(20.0) 頸(16.2)	埋土2片 図示部写	口縁外面のナデ強く、沈線状の凹み巡る。外面削りやや速。内面ナデは丁寧で平滑に仕上げる。	①赤地やや粗い。赤褐色鉱物・細粒まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。断面は褐色色。
11 壺(H)	口(20.6) 頸(16.0) 胴(18.4)	埋土 図示部写	器面荒れて整形痕不明瞭。口縁内縁は強い凹みが巡る。外面は頸部まで丁寧なナデの後、やや丁寧な削り。	①赤地やや粗い。砂粒の混入も多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。外外面とも黒褐色のムラが大半。④二次火熱受け面脆弱化。
12 壺(H)	口(18.4)	西壁跡床上6cm 図示部写	輪轆みか。外面削りやや細かく強い。内面ナデやや速で、接合痕が明瞭に残る。	①赤地粗く、バミスまじりの粗粒砂多量入。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。内面灰褐7.5YR4/2。
13 壺(H)	口(22.8) 頸(21.8)	埋土 図示部写	口縁ナデは粗い布状具の擦痕巡る。外面削りは幅広くやや強いが無調整部分を広く残す。	①赤地やや粗く、輝石・バミス・赤褐色鉱物等種多な夾雑物含む。②酸化焰、硬調。③灰褐5YR4/2。赤色味・黒色味のムラあり。④二次火熱受ける。
14 壺(H)	口(19.6)	埋土 図示部写	外面削り幅広く鋭い。口縁と内面のナデはやや丁寧だが、器面に凹凸多い。	①赤地やや粗く、細粒・赤褐色鉱物・輝石等種多な夾雑物多い。②酸化焰、軟調。③灰褐5YR4/2。赤色味・黒色味のムラあり。④二次火熱受ける。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

## Ⅲ区 56号住居跡 (第316図 PL.82・83)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 11.7 高 4.3	北壁際床直上 完形	外面削り幅広くやや鋭い。内面と口縁のナデやや雑で布状具の磨痕が同心円状に巡る。口縁基部小さく外反。口縁は小さく波状に重む。	①ダスト状の素地。赤褐色鉱物少量含むが混入物少ない。②酸化焰、硬調。③橙7.5YR7/6。彩度の低い小さなムラあるがほぼ一様。
2 杯(H)	口 11.8 高 3.9	北壁際床直上 ほぼ完形	口縁端部小さく外反しやや肥厚。底部の丸み少ない。ナデ強いが器面不整。外面強い削りの後、鋭く削り直す。	①②1に同じ。③橙7.5YR7/6。内面赤色の強いムラあり。外底には黒斑あり。
3 杯(H)	口 12.1~11.9 高 4.2	埋土 ほぼ完形	口縁外反し、端部は弱く尖る。外面削りはやや強く雑。ナデやや雑で口縁外面下平に強い布状具の磨痕残る。	①1に同じ。②酸化焰、普通。③橙7.5YR7/6。外底は黒斑広い。④外面は器面の摩滅重む。
4 杯(H)	口 12.3 高 4.5	北壁際床下7cm 口縁写欠く	3に近いが薄手。器面摩滅し整形痕は不明瞭となる。外底削りはやや強い。	①②1に同じ。③橙7.5YR7/6でムラ少ない。外底に薄い黒斑あり。
5 杯(H)	口 11.7 高 4.1	北壁際床下7cm 完形	1に近い。口縁下端の硬弱い。口縁の歪みややや大きく、器面は不整。	①②1に同じ。③橙7.5YR7/6。外面に赤色の強いムラあり。
6 杯(H)	口(20.2)	北壁際床直上 口縁写欠く	全体に摩滅し、整形痕はほとんど判らない。口縁外面に接合痕残る。内面のナデは弧状か。	①1に同じ。②酸化焰、普通。③橙7.5YR7/6で断面までほぼ一様。④外底と縁内面の剥落重む。器面脆弱で二次火熱受けた可能性。
7 甕(H)	口 24.3~23.7 底 11.3~11.0 高 30.2	北壁際床直上 写欠体	口縁外面のみ輪積み状の接合痕残る。口縁端部やや平直。外面削りは幅広く丁寧。内面は雑な削りの上に指面による息長く粗いナデ。	①素地普通。輝石まじりの粗砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR6/4。黒色・赤色味のムラあり一様でない。

## Ⅲ区 57号住居跡 (第318図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(12.8)	中央東寄り床直上 24cm 図示部写	外面やや鋭く丁寧だが無調整部分を残す。口縁と内面のナデは丁寧で粗い布状具の磨痕が同心円状に巡る。薄手。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・輝石まじりの粗砂含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。内面やや彩度低い。
2 杯(H)	口(12.4)	中央東寄り床直上 13cm 写欠体	1にほぼ同寸。ナデの磨痕やや弱く、内面平滑に仕上げる。	①②1にほぼ同じ。③にぶい橙5YR6/4。外面口縁を中心に黒斑広い。
3 高台付杯	台(10.6)	中央東寄り床直上 11cm 図示部写	右回転クローカー切離し不明一底部全面回転ヘタ削り後、クローカー使用高台取付か。クローカー弱く、内底は平滑。	①素地普通。5mm大の粗砂含む。白色砂粒の混入多い。②還元焰、やや軟調。③緑灰10GY6/1。外面に暗いムラあり。

## Ⅲ区 60号住居跡 (第321図 PL.83)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 埴	口(10.3) 頸(7.6) 高 9.9	東壁際床直上 口縁写 他は写	輪積みか。整形痕不明瞭だが、外面のハケ目は細かい。歪み著しく、形状は一定でない。	①素地普通。赤褐色鉱物・バミス・土粒等の大粒夾雑物多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR5/4。外面に黒斑あり。④内面の剥落重む。
2 鉢(H)	口( 9.6)	北壁直下床直上 図示部写	輪積みか。外面削り・口縁ナデは弱く雑で器面不整。内面は幅状で、削りに近い強いナデ。	①素地やや粗く、バミス・輝石・細砂等、雑多な夾雑物多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。黒色のムラ多い。④破損後に二次火熱受ける。

遺物観察表編

3 壺 (H)	口(24.0) 頸(21.0)	東壁床直上 図示部写	外面細かなハケ目上、口縁部やや強い横位ナデ。頸部粘土紐貼付後に指痕の強い押圧。内面丁寧なナデ。	①素地普通。石まじりの細砂を含む。②酸化焰、やや硬調。③内面橙7.5YR6/6。外面全面黒褐色はススの付着によるもの。
4 台付壺 (H)	口(14.4) 頸(13.2) 胴(20.0)	東壁床直上 口縁写 胴部写	外面やや粗いハケ目は強く深い。内面不明瞭だが平滑な仕上げ。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物まじりの粗砂多い。②酸化焰、軟調。③にぶい橙2.5YR4/3～黒褐5YR2/1。内面特に黒い。④内面下半の剥落進む。
5 器台 (H)	胴上 3.3 脚F11.1	北壁床直上 図示部中継端部 写欠く	柱部に3孔を穿ち、外方は固く面取りする。外面磨きは丁寧で強い。内面ハケ目状の弱い指痕が残る。	①素地緻密。赤褐色鉱物・輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR6/4。明度・彩度ともまらちる。外面に黒斑あり。
6 高杯 (H)	胴上 2.7 脚F(11.6)	周辺 柱部写 裾部写	柱部に3孔を穿ち、外面面取り、内面も凸部を削り取る。外面は強いが丁寧な磨きで平滑。内面も凹凸少ない。	①素地普通。赤褐色鉱物やや目立つ。粗砂まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。赤色味をおびるムラあり。

III区 61号住居跡 (第322・324図 PL.83)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (Y)		胴部	頸部に弱い凸部を巡らし、部分的に弱い凹み目を施す。幅20mmの帯口縁で直線文と波状文を施す。施文方向は時計回り。内面は粗いナデ。	①赤色の細砂・軽石・輝石・角閃石等の細砂を含む。②良好で堅緻。③にぶい橙7.5YR7/4。
2 壺 (Y)		胴部	帯口縁で波状文を重ねて施文する。内面はナデ。指痕を残す。	①赤色細砂・軽石・輝石・角閃石等の細砂含む。②良好堅緻。③にぶい橙7.5YR7/4。
3 壺 (Y)		胴部	帯口縁で直線文と波状文の交互施文。施文具は目の粗い板状のもの口縁用いる。内面はナデ。	①赤色粒・角閃石等の細砂を含む。②堅緻。③にぶい橙7.5YR7/4。
4 壺 (Y)		胴部	帯口縁で波状文と直線文。内面はへう状具による横ナデ。	①赤色細砂・石英・軽石等の小へう砂を含む。②良好堅緻。③にぶい橙7.5YR7/4。
5 壺 (Y)		胴部	帯口縁で直線文。胴部は横へう磨き。内面はへうナデ。	①赤色細砂・軽石・輝石・角閃石等の細砂含む。②良好堅緻。③にぶい橙7.5YR7/4。
6 壺 (Y)		胴部	帯口縁で波状文と直線文。胴部は横へう磨き。内面ナデ。施文方向は時計回り。	①赤色細砂・軽石・石英・チャート・輝石・角閃石等の細砂を含む。③にぶい橙7.5YR7/4。
7 壺 (H)	口 25.3 底 9.5～9.0 高 34.6～33.9	中央床30cm 口部部写と胴中 位写欠く	輪轆み。外面口縁下端粘土部には突ったへうの押圧による刻みあり。外面上半不明瞭。下半磨きの下にハケ目観察できる。内面ナデは弱い指痕が残る。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・細砂・石英等夾雑物多い。②酸化焰、やや軟調。③外面橙5YR6/6。黒斑や黄色味をおびるムラ多い。④外面肩部から胴中位にかけての摩滅進む。
8 壺 (H)	頸 6.9 胴 16.5～16.2 底 4.5	南東隅床直上 図示部中上平写 欠く	輪轆み。外面ハケ目残る上に縦位の幅太の磨き。胴部下端にツメの跡が残る押圧。外底蛇の目高台状。内面弱いナデ。	①素地普通。パミス・石英等のまじる砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。赤褐色・黒色味の強いムラが多く一様でない。内面暗い。④強い二次火熱受け、器面脆弱。外面の剥落多い。
9 小型壺 (H)	口 15.7～15.3 頸 13.9 底 4.7 高 14.1	中央床25cm 写個体 底部写存	輪轆みか。胴中に強い接合の段が残る。外面ハケ目は摩滅して不明瞭。内面はハケ目の上に胴中で幅広く工具使用の強いナデ。口縁の歪み強い。	①素地普通。パミス・細砂・赤褐色鉱物等夾雑物多。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。赤褐色・黒色味の強いムラが多く一様でない。内面暗い。④強い二次火熱受け、器面脆弱。外面の剥落多い。



## 1 竪穴住居跡出土遺物

10 礎 (H)	口(17.6) 頸(15.0)	埋土 図示部写	外面ハケ目は息短く単位の細かなもので、やや乱雑に築かれる。口縁ナダは強く丁寧。内面に幅広いの工具痕。	①素地普通。細砂・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4、赤色味・黒色味の強いムラあり。④二次火熱受ける。
11 礎 (H)	口(15.6) 頸(13.8)	中央床上35cm 図示部写	ハケ目の単位粗く16mmで8本。内外面とも同一工具使用か。内面割部は丁寧ナダで平滑に仕上げられる。	①素地やや緻密で粗砂を含む。②酸化焰、硬調。③明黄緑10YR6/6。内面は黒ずむ。
12 台付礎 (H)	脚上 5.4 脚下10.4	埋土 割部写 台部写	ハケ目はやや強く、下一上で台部付近のみ。内面は整形痕不明瞭だが平滑に仕上げられる。	①素地普通。チャート・赤褐色鉱物・粗砂等の混入多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄緑10YR7/4。外面割部と内面下半はスス付着で黒褐色。④内底割高直む。
13 器台 (H)	口( 8.6) 脚上 3.5 脚下10.2	南西臥床上6cm 身部写欠く 柱部写 割部写	脚部に3孔を穿つ。中央の孔きわめて大きく、柱部内面はしほり目状、外面磨きは強いが粗く、磨き残しも多い。全体に厚手。	①素地普通。赤褐色鉱物・細砂等を含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐5YR5/4。外面にムラ多く黒直も広い。
14 高杯 (H)	脚下12.8	中央床上22cm 柱部写 割部写	脚部に3孔を穿つ。割部は面取りして平坦に整える。外面磨きやや鋭い。内面上半に幅広いの工具使用ナダ痕。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石・石英等混入。②酸化焰、普通。③橙7.5YR6/6、赤色味・黒色味の強いムラ多い。④破損後に二次火熱受ける。
15 手づくね	口 2.6 高 2.1	中央北寄り床上 26cm ほぼ完形	手づくね。指頭痕が外面に弱い圧痕。内外に磨痕として残るが、器面の凹凸少ない。	①素地やや粗いが混入物少ない。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄緑10YR7/2。外面に黒直広い。

## IV区 1号住居跡 (第327回)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗	口(13.0) 台 7.4~7.2 高 5.4	埋土 口縁写欠く	右回転クローロク使用高台付で切離し痕ナダ消す。内面クローロクは沈線上の鋭い凹みあり工具使用か。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒少量含む。②中性焰か。硬調で焼締まる。③にぶい橙7.5YR7/4、赤色味・灰色味をおびるムラ多い。

## IV区 2号住居跡 (第329回 PL. 84)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 台付礎 (H)	台上 5.7 台下 10.1	北壁直下床上8cm 図示部中割部写欠く。	外面不規則なナダでハケ目を消す。割内面に細かく強いハケ目残る。内面不整。底部著しく薄い。	①素地やや粗く、細砂・パミス等の混入物もやや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。割部付近は内外面とも黒色味強い。
2 器台 (H)	受 10.1 脚上 3.0	中央床上14cm 図示部完存	身部は口縁外面に横位ナダ。他はやや粗い磨きを施す。外面口縁下端には接合痕が明瞭に残る。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄緑10YR7/4。外面に薄い黒直あり。
3 器台 (H)	口( 15.8) 受( 15.4) 脚上 3.4 脚下14.5 高 14.8	埋土 口縁の大半上、 身部・器部の写 欠く	脚中に3孔を穿つが配置はややズレる。口縁下端で明瞭な接合痕を残す。外面整形不明瞭だが、ハケ目をナダ消しているようだ。割下端は鋭く尖る。外面に弱の圧痕あり。	①素地普通。細砂・赤褐色鉱物等まじる砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③浅黄緑10YR8/3。赤色味・黒色味をおびるムラあり。
4 高杯 (H)	口( 15.0) 脚上 2.9	北東臥床上9cm 脚柱部完存 口縁と割部写	脚柱部下端と割部に各々3個の孔を穿ち、外面はすべて面取り。内面は下面の孔だけ縁を用る。外面磨きやや粗。割内面にハケ目の明瞭に残る。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物・細砂等やや大粒の混入物多い。②酸化焰、やや軟調。③橙7.5YR7/6。外面に黒直あり。断面黒褐色。

遺物観察表編

5 皿(Y)		肩へ割上部	幅1mmの櫛状施文具による、直線文と波状文の交互施文。施文方向は時計回り。割部は横へう磨き。内面はナデ。	①チャート・長石の2～7mm大の細粒を含む。②やや軟質。③断面が灰黄褐10YR6/2。磨面は浅黄褐10YR8/3。
-----------	--	-------	--	---

IV区 3号住居跡 (第332図 PL.84)

No・種類	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀(K)	台(6.7)	北壁際遺乱内床下10cm 顯示部写	右回転ロクロ・ロクロ使用丁寧な高台取付で切離し底ナデ消す。外面口縁下半に弱い回転へう磨り。内面平滑。軸は横掛けか。重燒き痕が残る。	①精緻な素地で、白色砂粒少量含む。②還元焰、硬調。③灰白10Y8/1で一種。軸は透明で濃い部分では灰緑色を呈す。
2 椀	口(12.0) 底 6.0 高 4.6	北カマド前床直上 口縁写 底部写欠く	右回転ロクロ・回糸無調整。ロクロ痕弱く、外面下半では不明瞭。底部内縁の押さえ強いが、ロクロ成形の鋭さは感じられない。	①素地やや粗く羽釜に近い。輝石まじりの砂粒を少量含む。②中性焰か、やや硬調。③におい橙10YR7/4。外面にムラ多い。④二次火熱受けるか、外面にターレット状の付着物あり。
3 椀	口(14.0)	南カマド袖床直上 顯示部中 口縁写欠く	右回転ロクロ・ロクロ使用高台取付で切離し底はナデ消す。内底はコナ状の工具痕が渦巻き状に残る。	①素地やや粗い。輝石まじりの砂粒含む。②還元焰か、硬調。③橙7.5YR7/0。黒色味の強いムラあり。③高台新落部厚減している。
4 椀	台 7.6	北カマド前床上 5cm 顯示部写	左回転ロクロ・回糸・ロクロ使用高台取付。ロクロ痕やや強い。	①素地やや粗い。パミス・石英等のまじる砂粒含む。②中性焰か、普通。③におい橙2.5YR6/4。灰色味をおびるムラあり。④高台端部厚減すむ。
5 土釜	口(21.6) 頸(21.2)	北カマド内床直上 顯示部写	口縁部丁寧なナデの後、外面幅広い弱い磨り。内面指頭の強く雑なナデ。	①素地やや粗くボソソフ。粗砂の混入多い。②還元焰か、やや硬調。③におい黄褐10YR7/2-4。破片毎に色調異なる。④二次火熱受ける。
6 土釜	口(19.0) 胸(20.0)	南カマド内3片 顯示部写	輪轆みか。外面にきわめて雑な磨きが見られる。口縁ナデは工具痕残る。内面は不明瞭。	①素地やや粗く、パミス・輝石まじりの粗砂やや多い。②還元焰か、普通。③灰黄褐10YR6/2。外面黒色味強い。④内面の新落すむ。
7 羽釜	口(24.0) 胸(27.6)	北カマド前床直上 顯示部写	右回転ロクロ。脚取付けも回転利用で丁寧。口縁上端は平肌。	①素地やや粗く、パミス・粗砂等の混入物やや多い。②中性焰か、普通。③改黄褐10YR8/4。赤色味をおびるムラあり。④二次火熱受ける。
8 羽釜	口(19.6) 胸(22.8)	カマド前 顯示部写	輪轆み。ロクロの使用は不明。脚取付けもロクロ不使用で凹凸多い。外面幅広く息長い磨り。内面幅広い工具使用の弱いナデ。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含むが大型品としては軟質。②中性焰か、普通。③におい橙7.5YR6/4。黒色味の強いムラ多く一種でない。④二次火熱受ける。
9 羽釜	口(28.0) 胸(30.6)	北カマド内床直上 顯示部写	輪轆み。ロクロ不使用か。外面幅広い磨り。内面指頭のナデの後、脚を取付け、口縁のみ強い横位ナデを施す。傾き・径とも不安。	①やや粗いが重量のある素地。輝石・パミス等の混入物やや多い。②還元焰か、普通。③におい赤褐5YR4/4。黒色味をおびるムラ多い。④破損後も二次火熱受ける。
10 刀子か		埋土 顯示部写	切先側は割口ではない。棟と刃の区別できず、形態は不明。	①鉄地金はやや良好で、刀子と判断した。
11 土鍋	厚 0.8	埋土 一端を欠く	内面に竹管状の縦位筋状の圧痕あり。器面平滑で僅かに表面指頭による弱い磨痕残る。	①少量の輝石以外混入物のまれな微密な胎土。②還元焰、普通。③におい橙5YR7/4。断面は影度低い。

1 竪穴住居跡出土遺物

IV区 4号住居跡(第337図 PL.84)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(13.6) 底 5.3 高 3.8	カマド前床直上 口縁上半欠く	右回転クロー→回糸無調整。外面に巻 上げ痕状のヒビあり。クロー痕内面で 弱く、平滑。	①赤地やや粗く砂粒の混入多い。②還元焰、やや硬 調。③灰白10Y8/1。内外面の底部に重焼きの底部の 痕のように黒斑状のムラあり。
2 杯(S)	口(13.2) 底(6.2) 高 4.1	南壁直下床直上 上半片 下半片	右回転クロー→回糸無調整。クロー痕 弱く全体に平滑。	①赤地やや粗いが、少量の砂粒以外に混入物少ない。 ②還元焰か、普通。③浅黄2.5Y7/3。断面の一部で灰 色味をおびる。
3 椀(S)	台(8.8)	埋土 顯示部写	右回転クロー→クロー使用高台取付で 切離し痕ナゲ消す。クロー痕細かい。	①やや粗く、輝石・バミスマじりの砂粒多い。②還 元焰不十分で軟調。③灰10Y4/1。内面やや明度高い。
4 椀	台 6.5	カマド内 顯示部ほぼ完存	右回転クロー→回糸→クロー使用高台 取付でナゲの範囲狭い。クロー痕は内 面でやや細かい。	①赤地やや粗い。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。② 中性焰か、やや硬調。③にょい濁7.5YR5/4。明度の 異なるムラあり。④外底に墨書「山」。
5 壺(H)	口 19.4 頸 17.3 胴(20.2)	カマド前床上13 cm 顯示部写	輪轆みか。口縁のナゲ外周で粗い。外 面の削りはやや鋭く丁寧。内面ナゲは 肩部付近にハケ目状の工具痕残る。	①赤地普通。粗砂の混入やや多い。②酸化焰、普通。 ③焼5YR6/6。内面やや彩度低い。④外面にカマド粘 土少量付着。
6 羽釜	口(21.6) 脚(25.2)	カマド前床上10 cm 顯示部写	右回転クロー。脚取付もクロー使用だ が口縁とはねじれた状態で、別工程の 取付の可能性。クロー痕内面で強い。	①赤地やや粗い。バミスマじりの粗砂含む。②還元 焰か、やや軟調。③灰白10Y7/1。黒色のムラが広い。 ④二次火焼受ける。外面にカマド粘土付着。
7 砥石	長 4.4 中厚2.0×1.6 端厚2.1×1.4 重 28.0g	埋土 ほぼ完形	四角柱状の小型品。使用面は長軸方向 の4面で各面はおおむね平坦。割口は 無使用。小口も無使用と思われる。	①砥石。鉄分少ない。②正面以外では横位の擦痕 がやや目立つ。
8 土鍋	厚 1.3 重 3.1g	埋土 半欠品	表面平滑で整形痕不明。	①赤地普通。赤褐色色物・砂粒含む。②酸化焰、普 通。③にょい赤褐5YR4/3。断面明度高い。

IV区 5号住居跡(第339図 PL.84)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	底 5.1~4.9	胎体内 顯示部ほぼ完存	右回転クロー→回糸無調整。クロー痕 やや細かく、ほぼ同心円状に巡る。	①赤地普通。細砂が混かにまじる粗砂含む。②還元 焰、普通。③灰10Y6/1で断面まではほぼ一様。
2 小型壺 (H)	口(12.6) 頸(12.2) 胴(14.0)	東壁直下床直上 顯示部写	口縁ナゲ、外面の削りともやや強く丁 寧。内面も平滑で一部に工具痕残る。	①赤地普通。赤褐色色物・細砂等少量含む。②酸化 焰、やや軟調。③にょい濁7.5YR5/4。内面赤色味強 い。④口縁内面にスス付着。
3 鉄鉢	幅 1.03~0.94 厚 0.58~0.40	東壁下 顯示部写	断面方形で下方ほど細る。厚みのある ことより鉢の蓋と類推した。	①鉄地金はあまり良くないが、釘痕ほど悪くない。
4 刀子	横 0.53~0.43	東壁下床直上 顯示部写	基部側の破片と思われる、研ぎ減りがす ずんでいるようだ。	①鉄地金はやや良好。錆化するす。
5 刀子	刀渡 9.41 棟 0.55~0.24 開長 0.78	埋土 刃部ほぼ完存 茎大平欠く	均等に研ぎ減りした整った器形。基部 まで研ぎ込んでいる可能性。	④研ぎ減り著しく、現況は組身である。

遺物観察表編

6 刀子	棟 0.56~0.43 基部 1.41~0.44 茎上厚 0.52~0.18	東壁直下床直上 刃部先側欠く	刃部の錆化すすみ、不明瞭だが、研ぎ減っても刃部は直線的形状を保っている。	①茎基部で研ぎ込み、刃区不明瞭。
---------	--	-------------------	--------------------------------------	------------------

IV区 6号住居跡(第340図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付皿 (K)	台( 6.2)	埋土 図示部残	右回転ロクロ→ロクロ使用の高台取付で切廻し痕は削りに近いナデで消される。軸は横掛け。	①素地緻密。黒色鉱物係かを含む。②還元焰、硬調。③灰白10YR/1。軸は透明で濃い部分で灰緑色を呈す。

IV区 8号住居跡(第342図 PL.84)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(12.2)	南東壁直下床直上 図示部残	口縁外面のナデは上半のみで下半無調整だが平滑。外底周りは鋭い。内面ナデは強く平滑に仕上げる。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③におい煙5YR7/4。断面は黄色味強い。
2 罐(H)	口(19.0) 頸(17.2) 胴(19.4) 底 5.2	東壁寄床直上 上半瓦底部付近 ほぼ完存。	輪積みか。口縁不整で断面形状は一定でない。外面削りは息長く鋭い。内面ナデやや強く平滑さ欠く。	①素地普通。輝石まじりの砂粒多い。②酸化焰、やや軟調。③におい煙5YR7/4。黒色部分広い。④強い二次火熱受け下半は内面も剝落。外面中位付近は広くスス付着。

IV区 9号住居跡(第344図 PL.84)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗(S)	台( 8.6)	埋土 図示部残	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台取付。高台端部は平坦。ロクロ底弱く砂粒の動きも少ない。	①素地普通だが、片岩質の中礫まじりの砂粒多く粗い。②還元焰、やや硬調。③青灰5BG6/1でほぼ一様。
2 碗(S)	口(17.8)	埋土2片 図示部残	右回転ロクロ。ロクロ直は外面のみやや強く、内面は平滑。	①赤地やや粗く、細礫まじりの砂粒多い。②還元焰、普通。③灰7.5Y6/1。一部青色味をおびる。一様でない。
3 土釜	口 25.8~25.3 腹 23.6 胴 26.7 底 10.3~ 9.5 高 29.8	上半欠く	輪積みか。口縁部のみ丁寧な横位のナデ。外面やや強い削りで上半無調整。内面指頭状の強いナデで表面は不整。底面凹凸多い。器形全体に歪みあり。	①やや粗い素地に、細礫・土粒・赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや軟調。③におい赤褐5YR5/4。外面すすけていて黒褐色部分が大半。④二次火熱受けが、表面の黒褐色化少ない。

IV区 10号住居跡(第346図 PL.84)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(13.8)	埋土 口縁部破片	右回転ロクロ。ロクロ底弱く、内面は平滑。小破片からの復元で口縁不安。	①素地は軽量でやや粗い。混入物少ない。②還元焰、普通。③灰白10YR/1。④外面に黒書。黒灰薄く不明瞭だが「方」か。二次火熱受け外面一部にスス付着。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

2 椀	台 6.6~6.4	カマド前面右寄 床上16cm 図示部ほぼ完存	右回転クロー→回赤。高台取付種でク クロ不使用の可能性。内外面ともク ロ痕きわめて弱い。	①赤地粗い。輝石・細礫まじりの砂粒含む。②還元 不充分でやや軟調。③オリーブ黒5Y3/1。一部灰白 色。断面は黒色。
3 甕 (H)	口 21.1~20.7 胴 18.9	南壁下床直3片 口縁列 肩部片	頸部内外面に巻上げ状の接合痕残る。 外面雨り、内面ナデとも丁寧。平面は 楕円形に歪む。	①混入物少なく、赤地も緻密で良好。②酸化焰、や や硬調。③におい橙7.5YR7/3。内面やや暗い。
4 小型甕 (H)	口(12.0) 胴(11.4)	東壁側床直5片 図示部片	口縁外面の接合痕は巻上げ状。内面肩 部に押圧に近い強い指頭跡のナデ。外面 雨りは弱い。	①赤地やや緻密。輝石まじりの砂粒少量含む。②酸 化焰、普通。③におい橙7.5YR7/4。黒色味強いムラ 広い。④二次火焼を受ける。外面スス付着。
5 釘		南壁寄 両端部欠く	折頭式。身部の残存は良好で、直角に 近い側面が観察できる。	①鉄地金やや悪いが、錆化の影響はやや少ない。両 端の欠失は古いものである。頂部はつぶれる。

## IV区 11号住居跡 (第347図 PL.84)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(11.0) 底(5.8) 高 3.0	南壁寄床上5cm 口縁片 底部片	右回転クロー→回赤無調整。底部著し く薄い。ククロ底は外面のみやや強く 内面も平滑さ欠く。	①赤地やや粗い。赤褐色藍物・土粒・輝石等種多 な夾雑物混入。②中性焰か、普通。③におい黄緑10 YR7/4。断面黒色味強い。④外面に墨書あり。墨痕 薄く判読できず。
2 杯	口(11.0) 底(4.4) 高 3.9	西壁中央寄床上 12cm 図示部片	右回転クロー→回赤無調整。ククロ痕 やや弱い。全体に厚手で製さ欠く。	①赤地普通。輝石まじりの砂粒含む。②中性焰か、 普通。③におい橙5YR6/4。黄色味・灰色味の強いム ラあり。
3 椀 (K)	台(6.6)	埋土 底台部片 口縁下半片	右回転クロー→ククロ使用丁寧な高台 取付で切離し痕ナデ消す。ククロ痕外 面やや強い。軸は横掛け。	①赤地緻密。黒色藍物僅かに含む。②還元焰、硬調。 ③灰白10Y7/1。軸は透明で、内面の厚い部分は灰緑 色。
4 甕	口(20.0) 胴(18.4)	カマド内 図示部片	外面雨り種で弱い。口縁のナデは弱い 布状具の擦痕が走る。内面弱いが丁寧 なナデでやや平滑。	①赤地やや粗い。バミスまじりの砂粒を含む。②酸 化焰、やや硬調。③におい橙5YR6/4。黒色味の強い 小さなムラあり。
5 羽釜	口(26.0) 胴(27.0)	貯蔵穴内とカマ ド内の7片	輪積み。ククロ不使用。口縁・肩とも 歪み強い。外面雨りやや弱い。内面ナ デやや丁寧だが接合痕残る。	①赤地やや粗い。輝石・バミスまじりの砂粒を含む。 ②酸化焰か、やや軟調。③におい橙7.5YR6/3。暗い ムラ多く内面は灰色味をおびる。
6 甕	底(17.6)	貯蔵穴内とカマ ド内の4片 図示部の約片	輪積みか。底部は粗い擦痕の強いナデ でやや歪む。外面の雨りやや粗い。内 面ナデもやや滑。	①赤地やや粗く、細礫・赤褐色藍物まじりの砂粒含 む。②中性焰か、普通。③灰黄2.5Y7/2。黒色味をお びるムラあり。

## IV区 12号住居跡 (第349図 PL.84)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 11.5 底 8.1~ 7.7	南壁直下床土7 cmの3片 片断体	外底の雨りは弱い丁寧。口縁外部の ナデは上半のみで下半に指頭圧痕が顕 著に残る。内面ナデは丁寧。	①赤地やや緻密。輝石まじりの砂粒を少量含む。② 酸化焰、やや軟調。③におい橙5YR6/4ではぼ一様。 ④内面中心に広くスス付着。燈明皿として使用と見 られ、割口にもスス付着している。

遺物観察表編

IV区 13号住居跡 (第349図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	台(7.4)	カマド脇住居外床直上 口縁下半片 底台部欠	外底砂底で形造りか。内面ナデは方向不定だが丁寧。外面は下半に息長いへら削りの後、やや粗い高台取付。	①素地が粗い。金雲母・長石等種多な夾雑物やや多い。外底の砂粒にも金雲母を含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄褐色10YR5/3。明度低いムラ広い。④高台端部厚縁通む。
2 甕	口(20.6) 頸(18.4) 胴(22.2)	東壁中央寄床直上 8~11cm 10片 図示部欠	胴部下半に強い接合の跡ができる。口縁は歪み、端部の形状は様でない。外面幅広のやや鋭い削り。内面のナデもやや平滑に仕上げられる。	①素地やや粗い。赤褐色胎物・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③明赤褐色2.5YR5/6。外面の大半は黒色。④外面径大径部分にやや厚くスス付着する。
3 甕	口(21.8) 頸(21.0) 胴(24.0)	カマド内床直上12cm 4片 図示部欠	輪積みか。口縁のナデやや粗で外面に接合痕明瞭。外面の削りは強く器面に凹凸できる。	①素地やや粗い。赤褐色胎物・細礫まじりの砂粒がやや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐色2.5YR5/4でほぼ一様。④内面下半やや摩滅する。

IV区 14号住居跡 (第350図 PL.84)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿(S)	口12.7 底 5.9~5.7 高 7.6	南西壁直下床直上 口縁欠く	右回転クロー回糸無調整。ロクロ底強い。口縁端部外反するが器形に誤さ欠ける。	①素地普通。やや重厚。やや六枚の長石・チャート等を含む。②還元焰、硬調。③暗青灰5B4/1。内面やや明度高い。
2 椀(S)	口(13.6) 台(7.4) 高 5.3	南西端床直上10cm 口縁上半片 下半片	右回転クロー回糸→ロクロ使用難な高台取付。雑な横ナデだが内面はやや平滑。口縁端部は尖り気味に外反。	①土粒まじりの粗い素地だが混入物少ない。②還元焰、普通。③灰白10Y7/1でほぼ一様。
3 甕(H)	口(20.0) 頸(18.2)	南西壁直下床直上 5片 図示部欠	口縁外端にやや鋭い沈線が巡る。コの字状口縁の屈曲は上側で明確。頸部外面ナデの下に指痕あり。	①やや緻密な素地。赤褐色胎物まじりの砂粒を少量含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/3。黒色味をおびるムラあり。

IV区 15号住居跡 (第352図 PL.84)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(11.2) 底 6.2 高 4.1	南壁中央寄床直上 3片 片断体	外底は砂粒多く形薄状。外面はやや強い指痕正気が並び、口縁端部のみ強いナデ。内面上半は粗い擦痕残るナデで下半は指痕痕が残る。	①素地やや粗い砂粒以外の混入物少ない。②酸化焰か。普通。③にぶい橙7.5YR6/4。内面中心に黒色味の強いムラ広い。
2 椀	口(13.8)	カマド前床直上 口縁上半片 下半片	右回転クロー。回転利用の高台取付。ロクロ肌内面強く、器面不整。	①素地普通。細礫やや多い砂粒を含む。②中性焰か、やや軟調。③にぶい黄褐色10YR5/3。内面影度低い。
3 甕(H)	口(18.8) 頸(17.6)	カマド内床直上 図示部欠	頸部外面にやや太い沈線巡る。口縁外端にも強い凹みがあるが、形状一定しない。外面削りやや鋭く、内面ナデは丁寧。	①素地普通。赤褐色胎物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③外面にぶい赤褐色5YR5/4。内面径5YR6/6。

## IV区 18号住居跡 (第349図 PL.85)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (K)	口(16.0) 台(7.0) 高 5.3	東壁中央寄床土上 10cm 上半片 下半片	右回転ロクロ→ロクロ使用高台取付と 口縁下半の回転ヘラ削り。内底縁辺に 重焼き時の高台痕の凹みあり。軸は遺 損け。	①素地緻密。黒色鉱物を僅かに含む。②還元焰、硬 調。③灰白10Y8/1。軸は黄色味をおび、厚い部分で は灰緑色を呈す。
2 椀	口 14.2~13.9 台(6.8) 高 5.4	東壁中央寄床土上 8cm 瓦個体	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台 取付。ロクロ痕細かい。内底では粗い 布状具の鋭い擦痕が渦巻き状に巡る。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂含む。② 中性焰か、やや軟調。③灰褐5YR4/2。黒色味をおび るムラあり一様でない。
3 椀	口 14.0~13.2	東壁直下床直上 顯示部ほぼ充存	右回転ロクロ→ロクロ使用高台取付で 切離し痕ナゲ消す。ロクロ痕は外面と 内底でやや強い。厚手で重量。	①素地やや緻密。細砂のやや多い砂粒含む。②還元 焰、不充分。燻を加えるか。③黒褐7.5YR3/1。断面 は明るい。④高台頸口は準減し平滑。外面に焼成後 の線刻「×」あり。

## V区 1号住居跡 (第356図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 鉢 (H)	口(22.4)	南壁際 5片 顯示部欠	長く引き伸ばす接合痕が、断面より観 察できる。口縁ナゲは布状具の擦痕残 る。外面削りやや粗く、内面下半のナ ゲはヘラ状の工具痕残る。	①素地普通。砂粒やや多いが、他の混入物まれ。② 酸化焰、普通。③焼7.5YR5/6。外面に黒斑あり一様 でない。④口縁中位内面に細かな割落多い。

## VI区 3号住居跡 (第359図 PL.85)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(14.0) 高 3.4	埋土 口縁僅か 底部欠	外底の削りは粗く弱い。底部縁辺は 丁寧。内底に附れたラセン状の強く 擦る暗文。口縁にも斜放射状の暗文が 巡ると思われる。器面には細かな凹凸 多く、平滑欠く。	①素地やや緻密。混入物少なく良好。②酸化焰、や や軟調。③明赤褐5YR5/6。外面に明度の低いムラあ るがほぼ一様。

## VII区 4号住居跡 (第359図 PL.85)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 盤 (H)	口(16.0)	埋土 顯示部小片	内面丁寧に鋭い斜放射状の暗文巡る。 外底は弱く丁寧な削り。外面横位ナゲ は上端のみで、中位以下は無調整部分 広い。小片からの復元で口径不安。	①素地普通。砂粒以外の混入物少なく良好。②酸化 焰、やや硬調。③によい赤褐5YR5/4。黒色味おび る小さなムラあり。断面明度高く、一部で灰色味をお びる。
2 土盤	径 0.7 重 1.5g	埋土 瓦個体	表面平滑で、外面に整形痕見えない。	①素地やや緻密。混入物少ない。②酸化焰、やや硬 調。③によい褐7.5YR5/3でほぼ一様。

## 遺物観察表編

## VII区 5号住居跡 (第360図 PL.85)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	口(18.4)	カマド付近 図示部写	右回転クロロー天井部回転ヘラ削り。 クロロ痕弱い。	①素地普通。黒色鉱物まじりの粗砂やや多い。②還元焰、普通。③灰白N7/0。内外面に火ダスキ状の黒色ムラあり。
2 高台付杯 (S)	口 16.1	中央床下 6cm 図示部写	右回転クロロー底部全面と口縁下側に 回転ヘラ削り→クロロ使用高台取付。 クロロ痕弱く細かい。高台割落後、ナ リ潰して再使用する。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物の目立つ砂粒やや多く 含む。②還元焰、やや軟調で不充分。③灰白10Y7/L。 暗いムラあり一様でない。④内底は研ぎ込んだよう に平滑。二次火熱受ける。
3 杯 (H)	口 14.1~13.7 高 4.1	中央床下 6cm 口縁写欠く	右回転クロロー底部全面と体部下側に 回転ヘラ削り。内面平滑でクロロ痕不 明瞭。内底も広く平坦。	①素地普通。バミス・輝石まじりの砂粒含む。②還 元焰、やや軟調。③灰白5Y7/2。外面は黒色部分広い。 ④外底に墨書2文字。「大」ともう一字は判読できず。
4 砥石	中厚 3.5×1.4 端厚 4.1×3.6 重 136.6g	中央床下 7cm 半欠品か	長軸断面赤色き状となるか。4面を主 な使用面とし、正面・裏面が強い凹面 になる。小口にも僅かに使用面残る。	①砥石石。混入物・鉄分やや多い。④使用痕は方向 不定で、側面が整痕強い。小口に一方の強い傷が 並ぶ。

## VII区 7号住居跡 (第364図 PL.85)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(13.6)	埋土6片 口縁写 底部写	外底やや粗で削り。口縁外面は上 半のみ雑なナデで下半無調整。器形の 歪みや強く、口縁形状一様でない。	①素地普通。輝石・バミスまじりの砂粒を含む。② 還元焰、やや軟調。③にぶい標5YR6/4。ほぼ一様。 ④口縁上端やや厚残る。
2 砥石	中厚 3.9×3.6 端厚 3.7×3.6 重 177.8g	南壁直下 一端を欠く	長軸断面三角形。小口・割口を除く全 面使用。裏面の使用が顕著で強い凹面 になる。	①砥石石。混入物やや多い。④強く息長い傷が各面 に見られる。擦痕も息長く鋭い。

## VII区 8号住居跡 (第366図 PL.85)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(14.0) 底 7.9 高 3.9	カマド前 2片 写個体	右回転クロロー回糸無調整。厚手で端 部のみやや粗る。クロロ痕弱く側面平 滑。	①素地やや粗い。口縁の少量まじり砂粒を含む。② 還元焰、やや硬調。③灰白7.5Y7/L。外面一部暗い。 ④口縁上端やや厚残る。
2 壺 (H)	口(20.8) 頸(18.0)	南壁直下 3片 図示部写	口縁端部外方に僅かに肥厚するが形状 は一様でない。外面は丁寧にやや削り 削り。内面ナデも丁寧に、口縁に粗い 布状具の擦痕、胴部に工具痕が残る。	①素地やや粗く、粗砂を少量含む。②還元焰、普通。 ③にぶい赤褐2.5YR5/4。内面一部黒色味が強い。④ 外面カマド粘土付着する。二次火熱の影響は少ない。
3 壺 (H)	口(21.0) 頸(17.8)	北壁直下床直上 8片 口縁写 肩部写	2にはほぼ同巧。口縁内面のナデは擦痕 不明瞭。内面ナデの工具はやや粗狭。	①②2にはほぼ同じ。③にぶい標5YR6/4。赤色味おび えるムラあり。④内面一部に染みて来ている。



## I 竪穴住居跡出土遺物

## VII区 10号住居跡 (第369図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口12.6	中央床直上 図示部残	口縁部内側に肥厚。外底はやや粗い 削り。口縁外面下半はナダが及ばず、 皿膚状の不整面が残る。	①赤地やや粗い。砂粒含む。②酸化焰、普通。③に ぶい橙7.5YR6/4。断面は彩度低い。
2 台付壺 (H)	台上 4.1~3.8 台下 8.5~8.3	北東隅床直上5cm 図示部完存	台部内面に布による幅の広いナダ。外 面に接合痕あり。	①赤地普通。輝石まじりの細砂や多い。②酸化焰、 やや軟調。③明赤褐2.5YR5/6。暗いムラあり一様で ない。④器面に凍てハゼ状の割割多。
3 壺 (H)	口23.6 頸20.8	カマド前面床直 上17片 口縁残 胴部上半片	口縁部やや外方へ肥厚する部分ある が、形状は一様でない。口縁部内外面 に接合痕が残る。外面削りはやや鋭く 丁寧。内面ナダは工具痕残る。	①赤地普通。細砂・輝石の僅かにまじる砂粒を含む。 ②酸化焰、やや軟調。③明赤褐5YR5/6。内面やや明 るい。④外面にカマド粘土少量含む。

## VII区 12号住居跡 (第371図 PL.85)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 14.6~14.4 底 8.8 高 3.7	カマド内8片 口縁欠く	右回転ロクロ底部全面に幅広い回転 ヘラ削り。ロクロ痕弱い。	①赤地普通。細砂・黒色鉱物等のやや多い砂粒含む。 ②還元焰、普通。③灰白10Y7/1。外面に明度低いム ラ広い。
2 杯 (H)	口 13.3~13.0 高 3.4	カマド前面床直上 3片 ほぼ完形	外底は鋭いがやや弱い削りで、縁辺に は削り残りあり。口縁外面ナダは上半 のみで布状具の粗い擦痕が残る。内面 ナダはやや丁寧。	①赤地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒少量含む。② 酸化焰、普通。③橙5YR6/6。内面やや彩度が低い。 ④内底に薄いススタの付着物あり。
3 杯 (H)	口 12.9~12.7 高 3.4	北東隅床直上 3片 ほぼ完形	2に近い。口縁部一部で内側へ肥厚 するが形状一様でない。	①②③にほぼ同じ。
4 杯 (H)	口 13.9 高 3.7	北東隅床直上 5片 ほぼ完形。	外底の削りやや弱く縁で、削りの下に 形膚状のヒビ残る。口縁外面のナダは 上半のみで下半無調整部分広い。内面 ナダ強く丁寧だが、器面不整。薄手。	①赤地普通。細砂以外の混入物少なく良好。②酸化 焰、普通。③にぶい黄橙10YR6/4。口縁に黒痕あり。
5 杯 (H)	口 14.4~14.2 高 4.7	壺土 口縁上半欠く	外底は幅広くやや粗い削りで、 無調整部分は少ない。内面ナダは丁寧で、 布状具の粗い擦痕が同心円状に延 る。	①赤地普通。バミス・輝石まじりの砂粒含む。② 酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。赤色味・黒 色味のムラ多く一様でない。④割口も含めてススタ の付着物あり。
6 杯 (H)	口 13.5~13.2 高 3.7	カマド内8片 口縁上半欠く	外底の削りはやや鋭いが雑。また、中 央部分のみで無調整部分広く、縁辺に 指痕圧痕残り器面不整。内面ナダは丁 家だが凹凸多い。	①赤地普通。バミス・輝石等のまじる砂粒や多い。② 酸化焰、普通。③明赤褐2.5YR5/6。外面黒斑広い。 ④二次火燃受け、器面全体や脆弱化。
7 杯 (H)	口 14.0 高 4.0	北東隅床直上 口縁欠く	4に近い。外底の削りはやや丁寧。	①②④にほぼ同じ。③橙5YR6/6でほぼ一様。
8 壺 (H)	口 22.2~21.9 頸 18.0 胴 21.4	カマド内42片 上半ほぼ完形 下半片	輪積みか。外面は幅広い丁寧な削り。 内面も痕跡をあまり残さない丁寧なナ ダで丁寧に仕上げ。全体に薄手で胴 部下半の接合痕も目立たない。	①赤地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒や多い。② 酸化焰、普通。③明赤褐2.5YR5/6。外面黒斑広い。 ④二次火燃受け、器面全体や脆弱化。
9 壺 (H)	口 22.6~22.2 頸 18.1	カマド内30片 口縁完存 胴上半片	8にほぼ同形。	①②③に同じ。③橙5YR6/6。外面黒斑広い。④カ マド粘土の付着はない。

遺物観察表編

10 壺 (H)	口 22.1~21.9 頸 18.5	カマド内26片 口縁完存 胴上半片	口縁端部は外方へ小さく肥厚する。口縁のナゲ強く、粗い彫痕残る。内面ナゲも8・9に比べ強い。	①②8にほぼ同じ。③橙5YR6/6。外面に黒色味をおびるムラ多い。④カマド粘土の付着ない。
-------------	-----------------------	-------------------------	---	---

VI区 15号住居跡 (第375図 PL. 85)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(14.0) 高 3.6	埋土4片 胴示部欠	右回転ロクロで残存する底部全面と口縁下端に手持ちへつ削り。ロクロ振きあめで削い。外底に刻書の可能性。	①素地やや粗い。黒色鉱物・バミスまじりの砂粒を含む。②還元焰、普通。③灰白10Y7/1。口縁外面は明度低い。
2 杯 (H)	口(14.0) 高 3.5	カマド内2片 口縁写 底部写	外底は幅広く鋭く丁寧な削り。口縁外面ナゲは上半のみだが下半の凹凸少ない。内面鋭く丁寧な放射状の硝文。	①素地普通。大粒の赤褐色鉱物を僅かに含む砂粒やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。内面赤色味をおびる。
3 杯 (H)	口 12.9~12.7 高 3.8	南壁中央寄床直上7片 写個体	外底はやや鋭い丁寧な削り。外面口縁ナゲは上半のみ。内面右状具の彫痕の残る丁寧なナゲで、平常に仕上げられる。	①素地やや緻密。バミス・輝石まじりの砂粒を含む。②酸化焰、やや硬調。③橙7.5YR6/6でほぼ一様。④外底に黒書あり、判読できず。
4 壺 (H)	口(22.2) 頸(18.4) 胴(22.0)	南東隅床直上5片 胴示部写	外面削りは鋭く、息の長い彫痕多い。内面ナゲは丁寧だが、中に明瞭な接合痕残る。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石・粗砂等の混入やや多い。酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。彩度の低いムラ広い。

VI区 1号住居跡 (第379図 PL. 86)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(11.8) 底( 9.7) 高 2.7	埋土3片 口縁写 底部写	内底緩やかな凹凸あり。丁寧なナゲ。外底は緩やかな削り。口縁外面のナゲは上半のみだが、下半の凹凸少ない。	①素地普通。粗砂・バミス・輝石を含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR5/4を基調に口縁部黒ずむ。断面明るい。④底部外面中心にハゼ多い。
2 杯 (H)	口(12.8)	埋土 写個体	剥落すすみ外底の観察難しい。内面は丁寧なナゲ。	①素地はダスト状。バミス・輝石少量含む。②酸化焰で普通。③にぶい橙5YR7/4。外面やや赤色味をおびる。④外底の削落著しい。
3 杯 (H)		埋土 底部破片	外底は緩やかな削りで平滑。内面は同心内状ナゲの後、立ち上がり繊かな硝文が見られる。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②酸化焰、やや硬調。③橙2.5YR6/6で一様。
4 短頸壺か (S)	底( 7.0)	埋土 底部写破片	右回転ロクロで底部全面と体部下端に回転へつ削り。内底の横ナゲは工具痕状の凹凸が残る。内面一部に降灰軸がかかる。	①白色夾雑物・砂粒多いが緻密。②還元焰で硬調に焼練まる。③灰白N7/0で断面まで一様。釉は白色味が強い。
5 杯 (H)		埋土 小破片	小破片で細部不明。内面のナゲ丁寧で平常。外面2方向からのやや強い磨かな削り。	①輝石やバミス散見し、やや粗い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4で一様。④外底深い黒書。なめらかな筆道である。
6 磁石		埋土 小破片	長軸断面赤巻状もしくは三角形で側面が主な使用面。正面も使用面だった可能性あり。他の面は割口で無使用。	①磁石、鉄分少ない。②使用度は固く不明瞭。

## I 竪穴住居跡出土遺物

## VII区 2号住居跡(第380図 PL.86)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	底 6.9~6.6	東壁直下床直上 図示部残存	右回転クロー→回糸→外底縁辺と体部下端に弱い手持ちへう削り。底部やや平坦。厚手で重畳。	①素地やや粗い。黒色鉱物層かに含む。②還元焰、普通。③灰白5Y7/1。黒色味をおびるムラあり。④外底面に黒書「甲」
2 杯(H)	口(13.2) 高 2.8	南壁障床直上4片 口縁部残 底部残	外底は弱い削りて器面に光沢。外面口縁上平はナデ。下半無調整だが凹凸少ない。内面同心円状の丁寧なナデだが器面の凹凸やや多い。	①素地緻密。砂粒等やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙2.5YR6/4。断面黄色味をおびる。底部内面に黒痕あり。④外底に黒書あり。黒痕厚く、黒痕にかなり不鮮明だが「土」か。内面にハゼ。
3 杯(H)	口(12.8)	カマド内 図示部残	2にほぼ同巧。外底の削りやや粗く、口縁外面のナデは船状である。内底立ち上がり部分に弱い絞線が高るようだ。	①礫石まじりの砂粒若干含む。緻密。②酸化焰、普通。③にぶい橙2.5YR6/4。外面・断面は黄色味が強い。④口縁内面に縦状のスス付着。
4 壺(H)	口(23.0) 頸(19.2)	カマド内の断片 17片 図示部残	全体に薄手。口縁部外面のナデが顯著。外面は船状状態での細かな削り。蓋みやや揺不安。	①素地普通。粗砂の混入やや多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。濃淡の差あり。内面は明るい。

## VII区 3号住居跡(第382図 PL.86)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口 14.5~14.1 高 4.0	南壁直下床直上 ほぼ完形	外底は強い削りて凹凸できる。内面は幅広く布状具の擦痕残るナデ。口縁外面下半は無調整で船状。	①素地やや緻密。砂粒を若干含む。②酸化焰、普通。③明赤陶2.5YR6/6。一部黒色味をおびる。
2 杯(H)	口(13.8) 高 3.3	南壁直下床直上 5片 口縁残 底部残	外底削りは弱く丁寧で中央で一方。内底と口縁部も丁寧なナデ。口縁外面下半は無調整部分残るが比較的平滑。底部のみやや厚いが形状様でない。	①素地普通。パミス含む粗砂やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。断面は黄色味をおびる。④内面全体に縦溝状のスス付着。
3 杯(H)	口(13.8) 高 3.6	中央南寄り床直上 16cm 口縁残 底部残	外底はやや強い削り。内面ナデは布状具の擦痕が残る。口縁下半無調整だが比較的平滑。	①素地やや緻密。夾雑物少ない。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6基調。赤色味・暗い部分などあり様でない。④内底中央に焼成後の擦痕あり。
4 小型壺 (H)	口 13.3 頸 12.1~11.9 腹 15.0	8号井戸上層 図示部中割部 欠く	輪積みか。外面削りはやや鋭く丁寧。内面ナデも丁寧で、器面平滑に仕上げ。薄手。	①素地普通。輝石・パミスまじりの粗砂含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。赤色味・黒色味をおびるムラ外面に多い。

## VII区 4号住居跡(第383図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(S)	口(13.2) 底(6.6) 高 3.6	埋土 口縁若干 底部残	右回転クロー→回糸→底部縁辺幅広いの手持ちへう削り。内面立ち上りの屈曲強い。内底は平滑。	①素地緻密。2mm大のチャート等夾雑する。②還元焰、普通。③灰白7.5Y7/1。口縁外面は直焼き痕がセピア色をおびる。

遺物観察表編

Ⅶ区 5号住居跡 (第384図 PL.86)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	底 7.7	東南壁下 底部完存	右回転ロクロ一回糸→周辺を幅狭の回転へラ削り。内底は平滑。円盤状を呈すが、割口に加工痕なし。	①素地やや粗い。細砂・粗砂・バミス等の夾雑多い。 ②やや不十分な還元焰。③外底灰白10Y7/1。他は橙色味をおびる。
2 杯 (H)	口(14.2)	東南壁下床土上5 cm 3片 図示部写	外面乾燥状態での丁寧な削り。内面も同心円状のナゲで平滑。口縁端部は内側に小さく肥厚する。	①素地やや密着。バミスまじりの細砂含む。②還元焰、硬調。③橙5YR6/6。外面黒斑あり。灰色味をおびる部分が多い。④不規則にヘゼあり。
3 杯 (S)	口(15.0)	カマド内3片 口縁写	右回転ロクロ。内面にコナ状工具痕が沈積状に残る。外面不明瞭。	①素地やや密着。夾雑物少ない。②還元焰、やや硬調。外面は火オモテとなり降伏輪かかる。③青灰5PB5/1。外面黒色味強く、胎は黄色味おびる。
4 短頸甕 (S)	胴(10.8)	埋土 図示部写	右回転ロクロ。砂粒の動きは少ない。内面下半は指頭の不規則な撫痕あり。外面は平滑。	①素地やや密着。長石・バミス等の夾雑物やや多い。 ②還元焰、普通。③灰7.5Y6/1。黄色味おびる部分あり一様でない。
5 磁石	中厚 4.5×3.5 端厚 3.8×2.7 重 130g	周調上 平欠品	長軸断面垂直状で小口を含む5面使用。割口は無使用。使用痕は不明瞭。割口の角が落ちており、完形に近い可能性もある。	①砥沢石。湿入物は少ない。②表面は焼硬化している。

Ⅶ区 6号住居跡 (第386図 PL.86)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	径 4.6	埋土 図示部完存	右回転ロクロ→外面回転へラ削り→ロクロ使用丁寧な取付け。内面平滑。	①素地やや粗くザラザラ。細砂の混入やや多い。②還元焰で硬調。③灰白5Y7/1で一様。④内面に薄く霜降状にスス付着。
2 高台付杯 (S)	口(17.0) 台(10.8) 高 7.0	埋土 図示部写	左回転ロクロ→切離し不明→回転利用の高台取付。口縁端部尖り、外方へ小さく肥厚する。ロクロ痕強い。外底肥厚。	①素地やや粗い。赤褐色底物まじりの粗砂やや多い。 ②還元焰不十分で軟調。内面赤褐色で外面は糠状。③外面黒5Y2/1。内面は赤褐色5YR5/4。④外底に明顯な黒着があるが判読できず。
3 杯 (H)	口(13.2)	埋土2片 口縁写 底部写	外底やや鋭い削り。口縁外面は端部のみ強いナゲ。内面ナゲは丁寧。底部中央著しく薄くなる。	①素地普通。輝石・バミスまじりの砂粒含む。②還元焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。外面やや暗い。④器面に凍てハゼ多い。
4 杯 (H)	口(17.2)	埋土4片 図示部写	右回転ロクロか。外面に横ナゲ状の擦痕残る。内面はやや幅太で強い弧状の磨き。内面黒色処理。	①素地やや密着。赤褐色底物の目立つ砂粒を少量含む。②還元焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。内面黒色で強い光沢。
5 甕 (H)	口(17.4) 胴(15.6)	埋土2片 図示部写	外面の削り強く鋭い。口縁のナゲやや粗く、外面平滑き欠き接合痕残る。	①素地普通。輝石・バミスまじりの砂粒含む。②還元焰、やや硬調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。断面は黄色味強い。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

VII区 7号住居跡 (第387図 PL.86)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	紐 5.2	埋土下層 図示部完存	右回転クロコによる紐部取付。	①素地やや硬密。粗砂多い。②還元焰、硬調。③明オリブ灰2.5GY7/1。内面やや暗い。
2 高台付杯 (S)	口(16.4)	埋土2片 口縁上半円 底部欠	右回転クロコ→底部全面と体部下端に 回転ヘラ削り。底部外縁は高台接合の ための凹みを通らす。	①素地やや粗い。組織やや目立ち、黒色鉱物まじる 砂粒含む。②還元焰、普通。③灰白7.5Y7/1。口縁外 面明度低い。
3 杯 (H)	口(13.4) 高 3.1	埋土5片 片断体	外底の削りやや弱い。口縁外面ナデは 上半のみだが、下半の凹凸少ない。内 面丁寧なナデで平滑。	①素地やや粗い。組織・輝石等鉱物多量混入物を少量 含む。②還元焰、普通。③にぶれ7.5YR5/4。外面 やや暗いムラあり。
4 杯 (H)	口(13.0)	埋土2片 図示部欠	外底の削りは弱いが丁寧。口縁ナデは 上端のみだが、無調整部分も平滑。内 面丁寧なナデで平滑。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミス等の混入物は少量 で良好。②還元焰、普通。③にぶれ7.5YR7/4で断 面まで一様。
5 壺 (H)	口(22.8) 頸(20.0)	埋土下層4片 図示部欠	外面削りは鈍いがやや弱い。口縁外面 ナデはやや雑で、肩部小さく肥厚。内 面ナデは丁寧。薄手。	①素地やや粗く、輝石まじりの粗砂含む。②還元焰、 やや軟調。③にぶれ2.5YR6/4でほぼ一様。
6 磁石	重 250g	床面直上 平欠品	長軸断面は糸巻き状で、小口と割口を 除く4面使用。上・下面とも中央が 凹む。	①磁石石。混入物少なく、良好。④上面と一側面に 意の長いやや鋭い傷が多い。

VII区 8号住居跡 (第388図 PL.86)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)		削り方 図示部欠	右回転クロコ→天井部回転ヘラ削り。 クロコ痕弱く、内底平坦。	①素地やや粗い。輝石・砂粒等の混入物少ない。② 還元焰、やや軟調。③灰白5Y7/1。ほぼ一様。
2 杯 (S)	高 3.6	南壁際床土9cm 口縁欠 底部欠	右回転クロコ→回糸→底部縁辺削り手 持ちヘラ削り。クロコ痕弱い。口縁端 部やや尖り外方へ小さく肥厚する。	①素地普通。組織の少量まじる白色砂粒含む。②還 元焰、やや硬調。③灰白10Y7/1。外面に黒色味をお びるムラあり。断面赤色味をおびる。
3 杯 (S)		埋土 図示部欠	左回転クロコ→底部と体部下端に回転 ヘラ削り。クロコ痕弱い。底部著しく 厚い。内底平滑。口径不安。	①素地粗く、砂粒の混入やや少ない。②還元焰、普 通。③灰7.5Y4/1。外面紫色味をおびるムラ。
4 杯 (H)	口(14.0)	埋土 片断体	外底削り弱く雑。無調整部分広い。内 面ナデはやや丁寧で、口縁部には布状 具の擦痕残る。口縁に波状の歪み。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒含む。②還 元焰、やや軟調。③にぶれ5YR6/4。断面黄色味を おびる。
5 杯 (H)	口(16.0)	南壁際床土10cm 3片 図示部欠	外底削りやや弱いが丁寧。口縁外面の ナデはやや粗く、不揃いの擦痕が残る。 口縁に歪みあり口径不安。	①素地普通。パミスまじりの砂粒を少量含む。良好。 ②還元焰、やや軟調。③にぶれ5YR6/6で断面までほぼ一 様。
6 壺 (H)	口 21.3~20.6 頸 18.3~17.8 胴 21.0	カマド内14片 図示部中割部欠 欠	輪積みか。口縁外面に接合痕が走る。 内面は幅広い工具で、削りに近い強いナ デ。	①素地普通。大粒の赤褐色鉱物まじる粗砂含む。② 還元焰、普通。③明赤帯2.5YR5/6。外面一様でない。
7 壺 (H)	口(22.8) 頸(20.8)	カマド内 口縁欠 胴部欠	外面やや強く雑な削り。内面は口縁で 布状具の擦痕残る丁寧なナデ。胴部で 工具使用のやや強いナデ。	①素地やや粗く、赤褐色鉱物・輝石等の粗い粗砂を 含む。②還元焰、やや硬調。③にぶれ5YR5/4。

遺物観察表編

Ⅶ区 10号住居跡 (第390図 PL. 86)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口12.6 底 7.0 高 3.5	南壁跡床直上 口縁欠 底部完存	右回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕やや弱い。底部のみやや厚い。	①素地普通。細網目立つ砂粒含み粗悪となる。②還元焰、やや軟調。③灰白N8/6。内面やや黄色味をおびる。④口縁内面の割落すずむ。
2 杯 (S)	口 13.8 底 8.1 高 3.6	カマド南側床直上7片 口縁欠	右回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕弱い。内底は広く平坦。厚手で重量。	①素地やや粗い。黒色鉱物・チャートまじりの砂粒含む。②還元焰、普通。③灰白5Y7/1。口縁外面上半は黒色味やや強い。
3 甕 (H)	口20.0 頸17.6	カマド前面床直上 口縁欠 肩部欠	口縁内端に沈線状の凹み通るが、形状一律でない。外面削りは幅広くやや強い。内面ナゲ丁寧。	①素地普通。パミス・細砂等の少量まじる砂粒含む。②還元焰、やや軟調。③にぶい焼7.5YR6/4。細かなムラあり一様でない。
4 甕 (H)	口21.8 頸20.0 胴23.6	カマド左袖上14片 図示部欠	口縁ナゲは粗い磨痕が残る。頸部内面には沈線状の凹みできる。外面削り鋭い。内面ナゲは幅広い工具痕残る。	①素地普通。パミス・パミスまじりの砂粒含む。②還元焰、普通。③焼5YR6/6。外面に灰色味・黄色味をおびるムラあり。

Ⅶ区 11号住居跡 (第392図 PL. 86)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗 (R)		埋土 細片	いわゆる硬陶。外面に僅かに研磨の痕残る。縁部は厚く、内面中心に殆ど割落している。	①素地緻密。砂粒の夾雑やや多い。②やや硬調の還元焰。③釉調は濃緑色。胎土は灰白色で、須恵器に近い。
2 杯 (H)	口12.2 高 3.4	北壁直下床直上10cm7片 5個体	外底削りは弱く丁寧。口縁外面ナゲは上半のみで、下半は一部で型腐状。内面ナゲ丁寧。口縁に小さな凹み。	①素地やや緻密。パミスまじりの砂粒含む。②還元焰、普通。③にぶい焼5YR6/4。断面までほぼ一様。
3 杯 (H)	口17.6	南壁跡床上7cm 口縁欠 底部欠	外底の削りやや強い。外面口縁下半も幅広い削り。内面ナゲ丁寧だが細かな凹凸あり。口縁の歪み強く、怪不安。	①素地普通。輝石・パミス少量まじる砂粒含む。②還元焰、普通。③にぶい焼7.5YR5/4。赤色味・黒色味強いムラあり一様でない。
4 甕 (H)	口19.8 頸17.0	南壁跡床上25cm 2片 図示部欠	輪積みか。口縁のナゲやや粗い。外面削りやや強で鋭い。内面ナゲはやや粗い磨痕が残る。	①素地普通。大粒赤褐色鉱物・輝石等のまじる砂粒やや多く、粗い。②還元焰、やや軟調。③にぶい赤焼2.5YR5/4。④器面脆弱化する。

Ⅶ区 12号住居跡 (第395～397図 PL. 86・87)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 14.0 底 7.9～7.2 高 4.1	東壁直下床直上 口縁欠	右回転ロクロー回糸→縁辺を緩な回転ヘタ削り。ロクロ痕弱く不明瞭。内底は平坦。薄手で全体に歪み強い。	①素地やや粗いが、砂粒以外の混入物少ない。②還元焰不十分で焼し状態。③黒2.5Y2/1。内面は黄色味やや強い。
2 杯 (S)	口12.4 底 7.2 高 4.0	中央床上6cm 口縁欠	右回転ロクロー回糸→縁辺回転ヘタ削り。ロクロ痕やや強いが内底は平坦。口縁に大きな凹みあるか。	①素地普通。細網の少量まじる砂粒含む。②還元焰、普通。③灰白10Y7/1。内面はやや黄色味をおびる。
3 高台付杯 (S)	口14.4	埋土3片 図示部欠	右回転ロクロー回転利用高台取付。ロクロ痕は内面でやや強いが底部平坦。	①素地やや粗く、細網まじりの砂粒の混入多い。②還元焰、普通。③灰白5Y7/1。④口縁と高台端部の摩滅すずむ。

## 1 竪穴住居跡出土遺物

4 杯 (H)	□(13.4)	中央床上9cm 2片 別部残	口縁部のナデやや強く、端部は小さく 内折れする。外面下半無調整。外面削 りはやや粗い。	①素地普通。輝石・バミスマじりの粗砂やや多く 磁面ザラザラ。②酸化焙、普通。③におい橙5YR6/4、 黒色味をおびるムラあり。
5 杯 (H)	□(13.6)	南東隅床下7cm 口縁残 底部残	口縁外面にやや強い凹み通る。外底は 丁寧な削りだが不明瞭。内面同心円状 の丁寧なナデで平滑に仕上げる。	①素地やや緻密。輝石・バミスマじりの粗砂を少量含む。② 酸化焙、やや軟調。③におい赤褐5YR5/4。④凍てハ ゼ状の割高全面に多い。
6 杯 (H)	□(11.8)	カマド内及び埋 土7片 図示部残	口縁端部は内折れし、外面に強い沈線 が部分的に通る。外底の削りはやや強 い。歪み強く、径不安。	①素地普通。輝石・バミスマじりの粗砂、やや多い。 ②酸化焙、普通。③におい橙7.5YR6/4。内面やや明 度高い。
7 壺 (H)	□ 22.2~21.4 頸 18.8~18.1 胴 20.8 底 4.3 高 27.3	カマド内床上5 cm 38片 胴部一部欠く	輪痕み。内面胴下半に強い接合の段残 る。外面幅広くやや鋭い削り。口縁部 やや強いが緩なナデ。	①素地普通。バミスマ・赤褐色磁物まじりの粗砂を含む。 ②酸化焙、普通。③におい赤褐2.5YR5/4。下半は明 度低い。
8 壺 (H)	□ 21.1~20.4 頸 18.0~17.6 胴 22.0~21.0 底(4.9)	カマド内36片 胴部一部と底部 欠く	内面接合の段は不明瞭。口縁ナデはや や鋭い。外面削りは鋭いが丁寧。内面 へう状工具のナデで、圧痕が明瞭に残 る。全体に薄手。	①素地普通。赤褐色磁物・輝石まじりの粗砂を含む。 ②酸化焙、普通。③橙5YR6/6。外面下半は明度低い ムラ。内面は赤色味やや強い。④外面にカマド粘土 付着。
9 壺 (H)	□ 21.8~21.5 頸 18.7 胴 22.0 底 4.6 高 31.1	カマド内67片 下半半欠く カマド架構材	高い位置に内面の合わせ痕がある。外 面へう削りやや強く、頸部外面のナデ も強い。口縁端部は一部で内側へ肥厚。	①素地やや粗い。輝石・バミスマ等のまじる粗砂含む。 ②酸化焙、普通。③橙5YR6/6~黒褐色。内面と断面 赤色味をおびる。④外面胴中位の器面の剥落すずむ。
10 壺 (H)	□ 21.2~20.7 頸 17.9 胴 21.0 底 5.0 高 27.6	カマド内74片 胴一部欠く カマド架構材	胴下半の合わせ痕は、あまり目立たな い。外面へう削りは強い。内面丁寧な ナデを施すが、底部付近に凹凸残っ ている。	①粗砂の混入やや多い。普通。②普通。③におい褐 色~黒褐色で一様でない。断面・内面赤色味が強い。
11 壺 (H)	□ 21.5~21.3 頸 18.2 胴 21.1 底(4.8)	カマド内81片 胴下半半と底部 欠く カマド架構材	外面削りは上半のみ強い。下位で方向 が変わる。上面ナデ丁寧だが胴部接合 段は明瞭に残る。	①輝石散見するが粗砂含む。やや粗い。②普通。③ におい赤褐2.5YR5/4基調。黒斑広い。内面黄色味を おびる。④外面中位置面欠れ、内面ハゼ多い。
12 壺 (H)	□ 20.7 頸 17.1~16.5 胴 21.1~20.6	カマド内26片 口縁残と体部中 位以下欠く	内面に輪痕み状の接合痕残る。口縁の ナデ強く、波状の歪み生ず。外面削り やや強い。内面のナデは不明瞭。	①素地普通。白色粗砂やや目立つ。②酸化焙、普通。 ③におい橙7.5YR7/4。赤色味をおびるムラあり。④ カマド粘土付着する。
13 壺 (H)	□(21.8) 頸(18.2) 胴(21.6)	カマド内 上半半 下半半	内面の接合の段やや強い。外面削りや や鋭い。内面ナデは幅広いの工具痕が正 度状に残る。歪み強く、径不安。	①素地普通。輝石・赤褐色磁物まじりの粗砂やや多 い。②酸化焙、普通。③におい赤褐2.5YR5/4。外面 下半は彩度低い。
14 壺 (H)	□ 21.7~21.1 頸 18.8~18.6	カマド南付近 図示部は欠存	頸部外面に接合痕やや明瞭。口縁端部 は小さく外折れする。外面の削りやや 鋭い。	①素地普通。輝石・赤褐色磁物の少量まじる粗砂を 含む。②酸化焙、普通。③におい橙5YR7/4。明度の 低いムラあり。
15 壺 (H)	□(22.0) 頸(20.0)	南壁層床上6cm 図示部残	口縁のナデは丁寧で、外面上端でやや 強く、頸部のナデ残しもない。胴部は 内面で幅狭の強いナデ。外面削りはや や鋭い。	①素地普通。輝石・バミスマじりの粗砂含む。②酸化 焙、やや軟調。③におい赤褐2.5YR5/4。ほぼ一様。
16 壺 (S)	頸(29.4)	埋土2片 図示部残	肩部は外面に横位の平行叩き。内面に 指部のアテあり。頸部外面は2条の沈 線の内側に細かな帯状波状文。	①素地普通。黒色磁物・輝石等を含むが、大型品とし ては良好。②還元焙、やや硬調。③灰N6/0。口縁内 外面は明度低い。

遺物観察表編

Ⅶ区 13号住居跡 (第398回 PL. 87)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(12.4) 底 3.7 高 4.3	埋土4片 口縁片 底部片	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ底きわめて鋭い。体部下端に生じた焼成前の亀裂を、内面から粘土塊を当てて雑に補修している。	①素地やや粗く、バミスまじりの白色砂粒やや多い。②還元焰、普通。③オリープR2.5GY6/1。口縁外面やや黒色味をおびる。
2 杯 (H)	口(11.8) 底(4.0) 高 4.5	埋土 口縁片 底部片	外面は幅広く鋭い削りで、口縁上端のみナデ。直下に沈線が走る。内面はやや雑な磨き。	①素地やや粗い。細糠・バミス等夾雑物やや多い砂粒含む。②酸化焰、普通。③におい黄褐色10YR6/4。薄い黒斑あり。内面黒色処理だが光沢弱い。
3 椀 (S)	台(6.8)	埋土 図示部片	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用高台取付。高台内側の基部に深い凹みが走る。ロクロ底外面のみやや鋭い。	①素地やや緻密。細糠まじりの砂粒少量含む。②還元焰、やや硬調。③におい赤褐色5YR5/3。断面中央は灰色。火ダズキ状のムラあり。
4 椀 (S)	台(6.6)	埋土 図示部片	右回転ロクロ→回糸。高台付近の摩滅込み、取付にロクロ使用の有無不明。ロクロ底内面で鋭い。	①素地やや粗い。細糠含むが色の混入物少ない。②還元焰か、軟調。③灰黄2.5Y7/2、および黒色。
5 広口壺 (S)	口(20.0)	埋土3片 図示部片	右回転ロクロ。ロクロ底は幅広くやや鋭い。	①素地普通。細糠・土粒のまじる砂粒含む。②還元焰、普通。③外面におい黄褐色10YR7/2。内面灰白5Y8/1。
6 甕 (H)	口(20.0) 頸(17.6)	埋土 図示部片	口縁外端に鋭い沈線走る。口縁ナデ丁寧だが、頸部外面の接合痕顕著。外面削りは鋭い。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色磁物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③焼7.5YR6/6。内面形成低く、断面中央黒色味強い。
7 甕 (H)	口(16.0) 頸(14.6)	埋土 図示部片	外面削りやや鋭い。内面ナデやや雑。外面口縁のナデもやや雑で、頸部上方に指頭成状の凹みあり。	①素地やや粗い。輝石・赤褐色磁物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③におい黄褐色10YR7/3。黒色味の強いムラ広い。
8 刀子	刃渡 10.02 棟 0.48~0.22 茎 0.68×0.43	埋土 茎端部と身部の一部欠く	研ぎ減りは少なく、茎と刃の残存は良好。剥落のため、厚みは不安。	①錆化するが、残存状態は悪い。刀子としては、鉄地金やや落ちる。茎部の欠失は古いものである。
9 釘か		埋土 図示部破片	材質より釘と判断した。2カ所で不自然に屈曲している。	①鉄地金やや悪い。錆化する。

Ⅶ区 14号住居跡 (第399回 PL. 87)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口(12.0) 台 6.4~6.2 高 4.5	埋土5片 口縁欠く	全面に雑な研磨を施し、ロクロ底不明だが、高台は右回転ロクロ上で取付けられる。内外面黒色処理。	①素地はやや緻密で頸部に近い。砂粒以外の混入物まれ。②酸化焰か、やや硬調。③断面におい赤褐色5YR5/4。器面は黒褐色で光沢やや弱い。④内面一部で割落する。
2 杯 (H)	口(13.8)	埋土3片 図示部片	口縁内端小さく肥厚するが形状一様でない。口縁のナデやや雑で雑かな凹凸あり。下半は無調整。外底削りもやや雑で鋭い。内面ナデは丁寧。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③におい橙5YR6/4。黒色味をおびるムラあり一様でない。④凍て付状のやや大きな割落多い。
3 深鉢 (S)	口(12.0) 底 9.2	中央 上半片と底部中央欠く	右回転ロクロ。外面に断面V字状の2条沈線走る。ロクロ底鋭い。口縁上端は平直でやや内傾する。	①素地やや緻密。細糠まじりの白色砂粒含む。②還元焰、やや硬調。③青灰5BG6/1。黄色味をおびるムラあり。④内側の帯状は少ない。底部は内側から強く突いたような割れ方である。



## 1 竪穴住居跡出土遺物

4 葉 (H)	口(23.5) 頸(20.2) 胴(28.2)	北東胴床上7cm 6片 口縁片 胴上半片	口縁のナゲ丁寧だが、外面に接合痕残る。外面削りは丁寧でやや強い。内面ナゲも丁寧で、平滑に仕上げる。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・バミス等のまじる砂粒やや多い。②酸化焰、やや軟調。③明赤褐2.5YR6/6。外面に彩度の低いムラあり。
------------	-------------------------------	-------------------------------	---	---

## VII区 15号住居跡 (第402図 PL. 87)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 13.4 底 8.4 高 4.1	南東胴床上10cm 4片 口縁片欠く	右回転クロー→回糸→底部縁辺に強い回転へテ削り。内底に同心円状のクロー痕やや強い。	①素地普通。輝石・バミス少量まじる砂粒含む。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y7/2。黄色味をおびるムラあり。④外底にうすい墨書あり。「方」か。
2 葉 (H)	口(21.8) 頸(18.4)	埋土 図示部片	口縁部ナゲ丁寧で、頸部外面にも無調整部分を残さない。口縁外端は凹みが深る。外面削りはやや強い。	①素地普通。輝石・バミスまじりの砂粒の混入やや多い。②還元焰、普通。③において7.5YR6/4。ほぼ一様。

## 2 掘立柱建物跡出土遺物

### 2号掘立柱建物跡(第405図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(S)	径 4.9	P7埋土 図示部ほぼ完存	左回転クロー→天井部回転へら削り→クロー使用丁寧な鋸取付。残存部分では平坦な器形。	①赤地やや粗く、黒色藍物・細砂等の混入物もやや多い。②還元焰、やや硬調。③灰白5Y7/1でほぼ一様。④外面にカマド粘土付着。

### 4号掘立柱建物跡(第409図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺(H)	口(21.0) 頸(18.0)	P6埋土4片 図示部欠	接合痕より輪轆み。外面頸部には粗い磨痕の残るナゲが回り、無調整部分を残さない。内面やや平滑。	①赤地やや粗い。輝石・パミス等の雑多な混入物多い。②酸化焰、やや軟調。③におい赤褐2.5YR5/4。一様でない。④外面にカマド粘土付着。

### 7号掘立柱建物跡(第412図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 磁石	重 106.7g	埋土 小口片	長軸断面糸巻き状、短軸断面方形となるもので、大きさより置紙と思われる。小口は傷が多いが調整面である。	①磁沢石。鉄分やや多い。④向側面は横位の磨痕で、やや不整な面ができる。正面は方向不定の磨痕。削口も一部で研ぎ減っている。
2 釘か	厚 0.62×0.57	埋土 端部片	材質より釘か。先端に欠損があるかは不明。	①鉄地金はあまり良くないが、錆化の影響はやや少ない。

### 8号掘立柱建物跡(第413図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋(S)	口(19.0)	P3埋土 図示部欠	右回転クロー。外面天井部に回転へら削りがあるが、表面摩滅し不明。	①赤地普通。パミスまじりの砂粒少量含む。②還元焰、普通。③灰白5Y7/1で一様。④削口も含め摩滅すすむ。

### 9号掘立柱建物跡(第414図)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯(H)	口(13.0) 高 3.1	口縁写 底面写	外底削りは鋭いがやや粗。口縁外面のナゲも粗い。内面は平滑に仕上げた。	①赤地普通。パミス・輝石等混入する砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③におい赤5YR7/4。外底は彩度高い。
2 鉢(S)	口(28.0)	P9埋土 図示部小片	外面に平行引きだが、上からナゲを加え、やや不明瞭。胴部外面の比喩は鋭い。内面は磨面によるアテか。	①赤地普通。輝石まじりの砂粒含む。②還元焰、普通。③灰白5Y7/1。内面やや明度低い。
3 台付壺(H)	台上 4.7 台下 8.4	P7埋土 図示部中腹部 欠欠く。	外面ナゲは丁寧で、頸部は下方へやや強く肥厚する。粗い布状具の磨痕残る。外底は平坦だが、内底は不整。	①赤地やや緻密。細砂以外の混入物少なく、硬調としては良好。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。下端で一部黒色味をおびる。

## 2 掘立柱建物跡出土遺物

## 10号掘立柱建物跡（第418図）

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(13.4)	P1埋土 図示部写	外面削りやや長く息長い。口縁ナデは 丁寧で、内面平滑。	①素地普通。輝石・バミスまじりの砂粒がやや多い。 ②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3で断面 までほぼ一様。
2 甕 (H)	口(19.4) 頸(17.8)	P1埋土 図示部写	口縁のナデやや強く、内外面に布状具 の痕が残る。外面のナデも丁寧で、頸 部にナデ残し見られない。外面の削り 強い。	①素地普通だが、赤褐色鉱物まじりの粗砂やや多く ザラザラ。②還元焰、やや硬調。③外面にぶい黄橙 10YR7/4。内面赤色味強い。

## 3 古墳出土遺物と埴輪

## 1号古墳 (第425・427回 PL.88)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①粘土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 埴輪 (S)	口 14.8	図示部片	内面右回転の横ナデ。外面斜位の粗いハケ目状 (18mmに8本) 施文後、中に回転利用と思われる竹管状の工具による2条沈線を残す。	①素地普通。黄白色の砂粒やや多い。②酸化焙、やや硬調。③暗青灰5B4/1。一部で黄色味をおびる。④内面の口縁上半および底部とその周辺が摩滅している。
No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①粘土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
2 円筒埴輪	口(22.1)		3段構成。タガは断面M字形の発達したもの。口縁部もやや鋭く仕上げられている。透孔は第2段に半円形のもの。外側ハケ。内面口縁寄りには外面と同種ハケによる横ハケ。それより下寄りには縦方向の指調整で粘土組織を上げ直が明瞭に残る。粘土紐の幅は1~2cmと区々であり、高さ約10cmの粘土板による基部の上に、積み上げる。	①緻密で、白色微粒を含む。②硬調の酸化焙。③赤味をおびた暗褐色。④外面第2段にヘラ描きが見られたことが、かろうじてわかるが、形状は不明。
3 円筒埴輪	口(20.3) 底 14.0 高 39.6		2にほぼ同じ。内面の粘土組織を上げ直は2程明瞭でない。粘土紐の幅は約2cmである。	①②③2に同じ。④2と同一箇所にヘラ描きあり。
4 円筒埴輪	口(20.4)		3段構成の丁寧でしっかりしたつくり。タガは2樓の山形でやや発達している。透孔は丸味をおびた半円形。外面は縦ハケで、第3段はやや斜ハケの上から二次的な縦ハケ。内面は口縁部が横ナデ。他は縦方向の指調整、底部をヘラ調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焙でやや硬調。③暗灰黄褐色。④本墳の円筒埴輪全体の中では、一辺の破片であるので、本来的に樹立されていたものかどうかの判定はわずかしい。
5 円筒埴輪	口(17.5)		外面の縦ハケはきわめて浅く、ハケ目が明瞭には認められない。内面のやや右下がりの横ハケはそれほどではない。口縁部はやや鋭く、丸みをおびる。	①緻密で白色微粒が認められる。②酸化焙でやや軟調。③茶褐色。
6 円筒埴輪	口(24.2)		3にほぼ同じ。	①②とも3に共通。③やや赤味をおびた暗褐色。
7 円筒埴輪			タガは端部がやや鋭いM字形。透孔は明瞭な半円形をなす。外面は、第2段は縦方向の板状具による整形で、第3段はやや深い縦ハケ。内面口縁寄りはやや右下がりの横ハケ。それより下は指調整で粘土組織を上げ直が明瞭に残る。粘土紐の幅は約4cm。	①砂粒を含む。②酸化焙でやや軟調。③明赤褐色。④内面口縁部寄りに焼きヒビがやや目立つ。
8 円筒埴輪			3にほぼ同じ。	①②とも3に同じ。③赤味をおびた暗褐色。④3と同一箇所に、同一形状のヘラ描きあり。
9 円筒埴輪	底(13.6)		タガは幅1.2cm、高0.9cmとやや未発達で、外面の整形は縦方向のヘラ削りに近いものでハケ目は認められない。外面は指調整によるが、粘土組織を上げ直が明瞭に残る。やや粗雑なつくりである。	①緻密で砂粒を混入する。②酸化焙でやや硬調である。③明赤褐色。
10 円筒埴輪	底(14.0)		高さ約8cmの基部の上に幅1cmあまりの粘土紐を積み上げる。外面は縦ハケ、内面は指調整で、粘土紐積み上げ直をよく残す。タガはやや未発達で、端部は鋭く丸い。	①緻密で、砂粒の混入が目立つ。②酸化焙、やや硬調。③明赤褐色。
11 円筒埴輪			タガは横の鋭い台形でやや発達している。外面縦ハケで内面は縦方向の指調整により、粘土組織を上げ直を完全に消している。	①非常に緻密で白色微粒が認められる。②酸化焙で硬調である。③によい棕色。④外面にヘラ描きあり。

## 3 古墳出土遺物と埴輪

12 (形象埴輪)			内厚で外面ナデ。内面指調整。	①緻密。②良好。③明赤褐色。④外面へラ書きあり。
13 (形象埴輪)			外面不定方向のナデ整形。内面指調整。器厚は2cmと厚い。	①緻密。②酸化焰でやや硬調。③浅黄褐色。④外面にへラ書きあり。
14 円盤埴輪			3に同じ。	①②とも3に同じ。③赤褐色。④外面第2段に3にほぼ同一のへラ書きあり。

## 2号古墳 (第430図 PL.88)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 円筒埴輪			口縁端部破片。内外面とも横ナデ。	①緻密で細砂がまじる。②良好。③明褐色。④内面へラ書きあり。
2 円筒埴輪			外面縦ハケ。内面ナデ。	①緻密。細砂がまじる。②普通。③明褐色。④外面赤色顔料塗布。へラ書きあり。
No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
3 脚台 (H)	脚上 3.2	図示部のうち 割部欠く	脚上位に3孔を穿ち、内側に多量の粘土はみ出す。器面厚減で不明瞭だが、外面丁寧な磨き、内面ハケ目状ナデ。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・石英等のまじる粗砂やや多い。②酸化焰・普通。③灰5YR6/6。外面に黄色味強いムラあり。
4 埴瓶 (S)	頸(7.2)	埋土 肩部破片	外面に降灰粘厚く器面観察しにくい。カキ目は強く、髷揃状文は弱い。内面ロクロ痕弱い。紐はへラで整形か。	①素地やや粗く、細砂・黒色鉱物等混入物多い。②還元焰・硬調で焼締まる。③灰白N7/1。軸は濃緑色・黄褐色。
5 壺 (H)	口 20.2~19.6 腹 15.6 胴 23.9 高 32.4	胴下半欠く	輪積み。外面細かく弱いハケ目で、下半はやや鋭い削り。内面は逆で下半にハケ目で、接合痕を消しきれない。	①素地普通。細砂の混入多く器面ゴツゴツする。②酸化焰・普通。③によい粗5YR7/4。内面彩度低い。④外面最大径付近、帯状に薄くスス付着。
6 大甕 (S)	口 23.3~23.0 頸 17.2 胴(48.4)	口縁はほぼ存 胴中位欠	外面平行印きの上に不規則なカキ目。内面青褐色のツブ状を指環でナデ消し、肩部のみ残る。内面平滑。口縁は棒先状の工具で丁寧。	①素地やや粗い。細砂・白色鉱物・石英等夾雑物多い。②還元焰・普通。③青灰5B5/1。内面明度高く、断面一部赤色味をおびる。④内面胴部付近の剥落著しい。

遺物観察表編

3号古墳 (第432～434図 PL.88・89)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 円筒埴輪	口22.2～23.0 底16.4～15.9 高 40.5		3段構成で、口縁部が直立気味である。器厚が1.6cmと厚く、きわめて重いどっしりしたものである。タガは断面M字形の発達したもので、透孔は明瞭な半円形を呈する。口縁部はやや丸味をもつ。外面は、第1段および第3段に一次調整の縦ハケを、その後全体に右下がり斜めのハケが施される。内面は第1段がB種横ハケで、他はきわめて丹念な指調整により仕上げられている。	①緻密で、砂粒の混入が目立つ。②酸化焙でやや硬調。③白味をおびた明灰赤褐色。④第3段から第2段の途中にかけての外面を赤色顔料による塗彩。
2 円筒埴輪	口(26.0) 底(14.5) 高 38.6		3段構成で、タガは下部の縁が低いコの字形で、あまり発達していない。口縁部は丸味をもつ。透孔は明瞭な半円形を呈する。外面は縦ハケを基調とし、口縁部寄りのみ二次的な斜めハケを施す。内面は、口縁部寄り、タガ付近を横ナゲとし、他は斜めを主とするナゲおよび指調整により全体丁寧に面調整している。最下部に高さ5.5cmの基部をつくり、その上に幅2.5cm前後の粘土紐を積み上げている。	①1にほぼ同じ。②酸化焙でやや硬調。③淡灰褐色。④第3段から第2段の途中にかけての外面を赤色顔料による塗彩。
3 円筒埴輪			全体としては1に同じであるが、外面が縦ハケを基調とする点のみ異なる。1より手慣れたつくりである。	①②③④とも1に同一。
4 円筒埴輪			口縁部が断面M字形を呈する以外は、2にほぼ同じ。	①2に同じ。②酸化焙で普通。③淡黄褐色。④内面第3段にヘラ掻き、外面第3段から第2段にかけて赤色顔料塗彩。
5 円筒埴輪			最上段のみの破片で、口縁部が断面コの字形をなす。外面は斜めハケで、内面は斜め横方向の指調整。	①1に同じ。②酸化焙で普通。③淡黄褐色。④外面赤色顔料塗彩。内面ヘラ掻きあり。
6 円筒埴輪	口23.0～21.8 底(13.5) 高 33.2		3段構成で小よりのつくり。口縁部は角張る。タガは明瞭なコの字形で、透孔は一方が大きく明瞭な半円形で、他方は小さく甚んでいる。外面は縦ハケであり、口縁部寄りは、斜めハケの上に二次的に縦ハケを施す。内面は第3段が不定方向の乱雑なハケを施し、他は縦方向の指調整。	①砂粒の混入が目立つ。②酸化焙で普通。③淡黄褐色。④第3段外面に赤色顔料塗彩。同じく第3段外面に幅広く深いヘラ掻きあり。
7 円筒埴輪	底(15.7)		3に同一。	①②③④とも1に同じ。
8 円筒埴輪			第1段のみで、6に共通する点が多い。外面縦ハケで、内面は斜め方向の指調整。	①②③とも6に同じ。
9 朝顔型埴輪			口縁部寄りの破片で、外面は縦ハケ、内面はB種横ハケである。丁寧なつくり。タガは縁の鋭い発達したM字形。	①砂粒の混入が目立つ。②酸化焙で硬調。③ぶい褐色。④外面に赤色顔料塗彩。
10 朝顔型埴輪			仕上げが丁寧にシャープなつくりである。タガは縁が鋭く発達したM字形で、透孔は半円形である。外面は縦ハケ後、縦状に横ナゲを施す。内面は丹念な指調整である。	①緻密で砂粒の混入が目立つ。②酸化焙で、硬調には顕著に近しい。③ぶい褐色。④くびれ部タガより上部外面に赤色顔料塗彩。
11 円筒埴輪			口縁部は強く反折し、口縁部はやや丸味をもつ。外面やや斜めの縦ハケで内面は指調整。	①緻密で砂粒を多く含む。②酸化焙で普通。③淡黄褐色。④外面赤色顔料塗彩。内面にヘラ記号あり。
12 円筒埴輪			口縁部やや丸味のあるコの字形。外面やや斜めの縦ハケ。	①緻密。②酸化焙、普通。③淡黄褐色。④外面赤色顔料塗彩。内面ヘラ掻きあり。

## 3 古墳出土遺物と輪軸

13	円筒埴輪		口縁端部が角張り、口縁部は直線的に外反する。外面は斜め縦ハケを縦ハケで再調整し、内面は縦の指調整。	①砂粒を混入する。②酸化焙で普通。③浅黄褐色。④外面赤色顔料塗彩。内面へラ描きあり。
14	円筒埴輪		口縁端部が角張り。直線的に外反する。外面はやや斜めの縦ハケの上に縦ハケで再調整。内面は指調整。	①緻密で砂粒の混入が目立つ。②酸化焙で硬調。③におい橙色。④外面に赤色顔料を塗彩し、へラ描きあり。
15	円筒埴輪		口縁端は丸く仕上げた後、内側に面取り。外面はやや斜めの縦ハケ、内面はB種横ハケ。	①緻密、砂粒を混入。②酸化焙で普通。③浅黄褐色。④外面赤色顔料塗彩。内面へラ描きあり。
16	円筒埴輪		口縁端丸味をもったコの字形。外面斜めの縦ハケ。	①緻密、砂粒を混入。②酸化焙、やや硬調。③浅黄褐色。④内面にへラ描きあり。
17	円筒埴輪		最上段の破片。外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密、砂粒がまじる。②普通。③淡褐色。④外面赤色顔料塗彩。へラ描きあり。
18	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面斜め横ハケと下部指調整。	①緻密で砂粒がまじる。②酸化焙で普通。③におい橙色。④外面に三日月形のへラ描きあり。
19	円筒埴輪		口縁部寄りの破片で、外面は縦ハケ後に口縁部寄りの斜めハケ。内面、口縁部寄り横ハケ。それより下は横方向の指調整。	①1に同じ。②酸化焙で普通。③浅黄褐色。④外面赤色顔料を塗彩。内面へラ描きあり。
20	円筒埴輪		最上段の破片。厚手で外面縦ハケ。内面は口縁部寄りがB種横ハケ。それより下ナゲ調整。	①②③とも1に同じ。④外面を赤色顔料で塗彩し、また三日月形に近いへラ描きあり。
21	形象埴輪		形象の破片（種類は不明）。内面は不定方向のナゲ。	①緻密。②酸化焙、普通。③浅黄褐色。④外面へラ描きあり。
22	円筒埴輪		薄手で、外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密。②酸化焙、普通。③浅黄褐色。④外面へラ描きあり。
23	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密、砂粒がまじる。②普通。③淡褐色。④内面へラ描き、外面赤色顔料塗彩。
24	円筒埴輪		口縁部付近の破片。外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③淡褐色。④外面赤色顔料塗彩。へラ描きあり。
25	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密で砂粒がまじる。②やややまい。③淡褐色。④外面赤色顔料塗彩。内面へラ描きあり。

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①粘土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
26 大甕 (S)	□ 28.6~28.0 頸 20.0 胴(42.2)	口縁欠 胴部欠	輪軸み。外面は頸部を含め斜位の平行叩き後、不規則なへラ状工具使用横位ナゲを加える。内面アテ具痕不明瞭。口縁~胴部内面のみ丁寧な横位ナゲ。	①赤地普通。黒色鉱物まじりの砂粒含む。②還元焙、普通。③灰N5/0。明度の異なる部分があるが、ムラは少ない。
27 平甕 (S)	□(11.2)	図示部中口縁上 半欠く	巻上げ後、右回転クロコ整形。内面下平ではクロコ痕不明で中位はへラ状の工具痕が通る。頸部接合部の傾きより大型の平甕となろう。	①赤地普通。片岩質や白色の細礫まじりの砂粒含む。②還元焙、硬調で焼締る。③灰白N7/0。内面全体と口縁外面縦半分が暗青灰SPB3/1で黄色味の降灰粘が現状にかかると推定される。

遺物観察表編

28 用(H)	頸 8.3	胴示部内口縁欠く	底部いびつ。外面弱い削りで不明瞭。内面鋭いナデで砂粒の移動大きい。	①赤地普通。赤褐色鉱物・石英等のまじる粗砂多い。②酸化焰、普通。③にふい黄粒10YR7/3。内外面とも薄い黒斑あり。断面黒褐色。
29 用(H)	口( 9.6) 頸( 6.8) 胴 14.7	口縁欠 胴部欠	器面の割落す不明瞭だが、胴部外面には幅広く削りに近い横位の磨き、下半でやや粗い削り。口縁中位で屈曲し、外面は部分的に弱い比楕が返る。	①やや粗い赤地に細顆・パミス・石英まじりの砂粒含む。②酸化焰、軟調。③にふい赤褐5YR5/4。黄色味ムラや黒斑強い。④二次火熱受けた可能性あり。器面やや陥凹。
30 高杯(H)	口(13.6) 脚上 3.0 脚下(8.2) 高 7.9	口縁欠と脚端欠欠く	脚部成形後、杯部を接合。脚外面と杯部に磨き施すが、杯部は不明瞭。脚内面は削りに近い強いナデ。	①赤地普通。輝石やや目立ち。パミス・赤褐色鉱物のまじる粗砂やや多い。②酸化焰、やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。断面黒色味強い部分あり。
31 器台(H)	脚上 2.6 脚下(11.4)	周縁内2片 器示部内側部欠く	脚部成形後、身部接合。柱部は上下両方向から穿孔。器は脚中位で、3孔穿つ。外面に強く息の長い磨き。	①赤地やや粗顆。細顆まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③明赤褐2.5YR5/6。黄色味・灰色味のムラあり。様でない。
32 杯(H)	口(12.8) 高 4.4	周縁内2片 口縁欠 底部欠	外面は雑なナデで口縁下端から底部は無調整。内面丁寧な磨きで平滑。口縁に小さな波状の歪みあり。	①赤地普通。砂粒やや多いが他の夾雑物まれ。②酸化焰、普通。③外周黒褐5YR2/1。内面にふい橙7.5YR7/3。④内面に赤色顔料の痕跡あり。

4号古墳(第436～438区 PL. 89・90)

Na・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①粘土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 円筒埴輪	口(22.3) 底(14.4) 高 32.0		3段構成の丁寧でしっかりしたつくり。タガは2段の山形でやや発達している。透孔は丸味をおびた半円形。外面は縦ハケで、第3段はやや斜ハケの上から二次的な縦ハケ。内面は口縁部の横ナデ。他はタテ方向の指調整、底部をヘラ調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰でやや硬調。③淡灰黄褐色。④外面第3段に赤色顔料の塗布が認められる。第2段にはヘラ磨きあり。
2 円筒埴輪	口(18.2) 底14.0～13.1 高 32.7		3段構成で丁寧なつくり。タガはM字形でやや低い。透孔は明瞭な半円形。外面は縦ハケで何度も重ねて整形。最下段は格子状に交差している。内面は口縁部の横ナデ以外は、縦方向のやや粗い指調整で粘土積み上げ痕を完全に消す。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰でやや硬調。③淡褐色。④外面の第2～3段に赤色顔料を塗布。
3 円筒埴輪	口(19.8) 底( 9.9) 高 33.0		3段構成の丁寧なつくり。タガは低いM字形でややシャープである。透孔は明瞭な半円形。外面は縦ハケで、斜めに交差する部分が目立つ。内面は口縁部が横ナデで、その他は縦方向の指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰でやや硬調。③淡灰褐色。④第3段に部分的に赤色顔料の塗布が認められる。
4 円筒埴輪	口(18.0) 底(13.0) 高 35.6		3段構成でやや粗雑なつくり。ぎこちなさが目立つ。タガはコノ字形で歪みがあり、下部の接合が粗。透孔は半円形でかなりいびつ。外面は縦ハケで、タガ周辺の横ナデが不用意に広がる部分いくつかもある。内面は口縁部が横ナデ。他は縦の指調整で、口縁の横ハケの上に無造作にのびる。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰。③にふい橙色。
5 円筒埴輪	口(22.4)		内薄でしっかりしたつくり。外面は最上段やや斜ハケの上から二次的に縦ハケ。内面は口縁部横ナデ。それより下は縦方向の指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焰、やや硬調。③淡灰褐色。④外面最上段に赤色顔料の塗布が認められる。



## 3 古墳出土遺物と埴輪

6	円筒埴輪		やや薄手で丁寧なつくり。タガは2稜山形でややシャープ。透孔は明瞭な半円形。外面縦ハケで、内面縦方向のやや丁寧な指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焙でやや硬調。③淡褐色。④外面の第3～2段に赤色顔料を塗布。
7	円筒埴輪		タガはやや幅広く低く、縁は鈍いつくり。外面縦ハケ。内面縦の指調整、一部粘土組織み上げ痕を残す。	①緻密。細砂がまじる。②良好。③淡灰褐色。
8	円筒埴輪		タガは低いM字形でややシャープ。透孔は明瞭な半円形である。外面は縦ハケで、やや斜めに交差する部分が目立つ。内面は縦方向の指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焙でやや硬調。③淡褐色。④第3～2段中途まで赤色顔料を塗布。
9	円筒埴輪	底(14.0)	タガは断面M字形～2稜山形の丁寧なもの。透孔は半円形をなす。外面は縦ハケで、最下段はやや斜めのものが格子状に交差している。内面はやや粗い縦方向の指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焙、やや硬調。③淡灰褐色。④第3～2段に赤色顔料の塗布が僅かに認められる。
10	円筒埴輪	底(12.6)	肉厚で大振り。タガは発達したM字形を呈する。外面は縦ハケ、内面はなめらかな縦方向の指調整である。	①やや粗く砂粒が目立つ。②酸化焙、あまい。③淡黄褐色。
11	円筒埴輪	底(10.5)	タガは低いM字形でやや丁寧。透孔は半円形。外面は縦ハケで、第1段では斜めの交差が目立つ。内面はやや粗な縦方向の指調整。底部をへら調整している。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焙、やや硬調。③淡灰褐色。④第3～2段に部分的に赤色顔料の塗布。
12	円筒埴輪	底(13.8)	タガはやや幅広いM字形で低い。外面縦ハケ、内面縦方向の指調整。	①10に同じ。②酸化焙、ややあまい。③淡黄褐色。
13	円筒埴輪	底13.3～12.6	しっかりしたつくりで、タガはやや細いが発達したつりの字形。内外面とも丁寧な仕上げで、外面は縦ハケ、内面は丁寧な指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焙でやや硬調。③淡灰褐色。
14	円筒埴輪	底(18.5)	肉厚で大振り。タガは2稜の山形で、歪んでいる。外面縦ハケ、内面はややなめらかな縦方向の指調整。	①②10に同じ。③淡灰黄褐色。
15	円筒埴輪	底(11.8)	丁寧なつくり。タガは2稜山形でややシャープ。外面は縦ハケを繰り返す。内面は縦方向のやや粗い指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焙でやや硬調。③褐色。1・3より若干赤味をおおる。
16	円筒埴輪		丁寧なつくり。タガはシャープなつくりで、やや幅広く低いハの字形。外面縦ハケ、内面は縦方向の丹念な指調整。	①緻密。細砂がまじる。②固く焼き締まっている。③淡灰褐色。④外面へら焼きあり。
17	円筒埴輪		比較的丁寧なつくり。タガはやや細く、明瞭な縁をもつハの字形を呈する。透孔は半円形。外面縦ハケ、内面縦方向の指調整で丹念に仕上げる。	①緻密で砂粒・赤色粒を含む。②普通。③褐色。④透孔の右脇にへら焼きあり。
18	円筒埴輪		比較的丁寧なつくり。タガは明瞭な縁をもつハの字形。外面縦ハケ、内面は縦方向の指調整により丹念に仕上げている。	①緻密で細砂を含む。②非常に良い。③淡褐色。④外面上から2段目にへら焼きあり。
19	形象埴輪		頸状の本体からひれ状の張り出し部分である。表面とも横ハケ整形で、本体と張り出し部の境に縦方向の貼付帯がある。盾の破片か。	①砂塵・赤色粒の混入が目立ち、ザラザラしている。②普通。③淡赤褐色。
20	形象埴輪		外面斜め縦ハケ、内面横ナデ。底部を内側に折り返している。	①緻密。細砂がまじる。②良好。③淡褐色。
21	形象埴輪		やや内湾する板状の本体の外面の長軸にそって、断面コの字形の貼付帯がある。外面ナデ、内面粗い指調整。2か所の小円形透孔がある。	①緻密。細砂がまじる。②良好。③淡褐色。

遺物観察表編

22	形象埴輪			径10cmほどで、先がすばまり気味の筒状をなすと思われる破片。外面は縦ハケ、内面は不定方向の指調整で粘土積み上げ痕を残す。筒状をなす底面は円形に傾きしており、動物の口部の表現とも考えられる。	①緻密。砂粒・赤色粒を含む。②良好である。③淡黄褐色。
No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②地色 ③色調 ④その他	
23	杯 (H)	口(11.8) 高 3.8	口縁写 底面写	外底削りは息長く強い。ナデは丁寧で口縁は内外面とも粗い擦痕が残る。外面立ち上がり部の稜鋭い。	①素地やや緻密。砂粒多いが他の夾雑物まれ。②酸化焰、硬調。③にぶい橙7.5YR7/4、外面赤色味の強いムラあり。
24	杯 (H)	口(10.8) 高 3.1	写個体	外底の削りはやや鋭く丁寧で、凹凸少なく仕上げる。内面ナデは強く、同心円状に粗い布状具の擦痕残る。	①素地普通。輝石・バミスマジリの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6、外面は明度低い部分広い。一様でない。
25	杯 (H)	口(11.6)	墳丘上4片 図示部写	外底は細かくやや強い削り。内面丁寧なナデで平塗。口縁部ナデに布状具の擦痕残る。大きく波状に至む。	①素地普通。バミス・赤褐色動物まじりの砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6で、断面までほぼ一様。
26	高杯 (H)	口(18.8) 台(8.8) 高 7.4	脚部写 他は写	脚部に強く規則的な削り。身部は弱く雑な削り。脚内面不整。身内面は不規則な同心円状ナデ。平面形やや歪む。	①緻密な素地に、細礫・輝石等若干まじる。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR6/6で、断面までほぼ一様。
27	鉢 (H)	口(15.6)	図示部写	外面やや強い削り。内面のナデはやや粗い布状具の擦痕。胎部外方へ肥厚するが形状は一定でない。	①ダスト状のつまった素地。粗砂等散見する以外器入物まれ。内面化粧粘土使用。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR7/4、内面明度低い。
28	皿 (10.0)	周縁内4片 割部写底面付近 ほぼ存在		割部開口に円窓の一部がかかるが形状は不明。外底は布でぬぐうようにナデる。擦痕波状文は弱い。内面不整。	①緻密で夾雑物も若干の粗砂以外はまれ。②還元焰、硬調。③青灰5B5/1。内面明度高く、断面セピア色。内底と胎部に黄白色の障灰軸。
29	甕 (S)	台(19.2)	図示部写	右回転クロコ。クロコ痕は内面のみ強い。高台はがっしりとしている。底面はかなり薄かった可能性あり。	①素地やや緻密。砂粒以外の器入物まれ。②還元焰、硬調。③外面灰白N7/0。内面・断面灰白10Y7/1。
30	壺 (H)	頸(21.2) 胴 40.0 底 7.9	図示部写	輪積み。胴下半に接合の大きな段がある。外面やや粗いハケ目の上に、下半のみ雑な削り。内面接合の段部分に削り。	①素地普通。細礫・赤褐色動物まじりの砂粒多くセラダクしている。②還元焰、普通。③にぶい橙7.5Y7/4。赤色味のムラあり。外面黒黒。
31	甕 (S)	頸(14.0) 胴(21.4)	図示部写	中位以下に外面叩き目・内面青海苔状アケ痕があり、その上を横ナデの強い擦痕がある。	①素地やや緻密。黒色動物微粒・細礫まじりの砂粒やや多い。②還元焰、硬調。③青灰5B5/1。断面セピア色。内外面に灰黄色の障灰軸厚い。

## 5号古墳 (第439図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②地色 ③色調 ④その他
1	円筒埴輪		発達したM字形のケガ。外面ナデ、内面粗い指調整。	①緻密。砂粒を混入する。②普通。③赤褐色。④外面へう突きあり。
2	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密。細砂がまじる。②良好。③赤褐色。④外面へう突きあり。

6号古墳(第441・443図 PL.91)

No.・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 鉢(H)	口 19.0~18.5 底 3.9 高 8.2	ほぼ完形	外面下半のみやや面い削り。内面及び口縁外面のナデやや雑だが、器面はやや平滑。口縁大きく歪み平面形不整。	①素地普通。細線多く、赤褐色胎土・ハミスのまじる砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③燈2.5YR6/6、黄色味おびるムラあり。外底に黒斑。
2 壺(S)	口(22.0) 頸(19.2)	図示部欠	割面内面にややワロク痕強い。小破片からの復元で、径・傾きとも不安。口縁はかなり傾いている。	①素地普通。黒色胎土・細線・粗砂等の夾雑物や多い。②還元焰、硬調。③青灰5B6/1。外面と口縁内面に灰黄色や灰緑色の降灰跡あり。

No.・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
3 円筒埴輪	底18.2~16.6		3段構成で、タガは発達したM字形でシャープである。透孔はやや丸味をもった半円形。外面は縦ハケ、内面は明確な横のナデで、粘土積み上げ痕を全体に残し、下部のみ内外とも横ハケを施す。	①緻密でかなり大粒の礫(5mm大)がまじる。②酸化焰で硬調。器面に焼きヒビがある。③暗茶褐色。
4 円筒埴輪			タガはやや発達したコの字形。外面は縦ハケ、内面は斜横の指調整を施すが、粘土積み上げ痕を明顯に残す。	①大粒の礫の混入が目立つ。②酸化焰、ややあまい。③灰褐色。
5 円筒埴輪	口(22.8) 底(16.8) 高(40.3)		3段構成で比較的丁寧な作り。タガは2種の山形をなし、歪みあり。透孔はいびつで小型の半円形の外面は縦ハケ、内面は横方向への調整。	①緻密で大粒の礫がまじる。②酸化焰、硬調で焼きヒビが目立つ。③灰褐色。④第2段中途~第3段の外面に赤色顔料を塗布。
6 円筒埴輪	底18.3~16.5		外面の調整・胎土・形状等は5と同じで、内面調整が口縁部横ハケ、それより下は斜横方向の指調整による点が異なる。粘土積み上げ痕を残す。	①緻密で大粒の礫がまじる。②酸化焰、やや硬調。③茶褐色。
7 円筒埴輪			タガは2種の山形でやや発達。外面縦ハケ、内面は縦・斜横方向の指調整。粘土積み上げ痕を残す。	①緻密、大粒の礫混入。②酸化焰、硬調。極端に焼きヒビが目立つ。③暗赤褐色。
8 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密で白色礫まじる。②酸化焰、やや硬調。③茶褐色。④外面へ横書き。
9 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密、白色小礫を含む。②酸化焰、やや硬調。③茶褐色。④外面へ横書き。
10 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密。②酸化焰、やや硬調。③暗赤褐色。④外面へ横書きあり。
11 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密、白色粒を含む。②酸化焰、硬調で須恵質に近い。③褐色。④外面赤色顔料および横書き。
12 円筒埴輪			タガ直上の破片で、外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密、白色粒を含む。②酸化焰、硬調で須恵質に近い。③暗赤褐色。④外面へ横書き。
13 朝顔型埴輪			朝顔の受部の破片。外面上部は横ハケ、下部縦ハケ。内面横方向ナデ。	①砂礫が少量まじる。②固く焼き締まっている。③赤褐色。

## 遺物観察表編

## 7号古墳 (第445図 PL.91)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯蓋 (S)	口 12.2～12.0 天 12.2～12.1 高 4.2	ほぼ完形	右回転ロクロ→天井部同回転ロクロ上のへら削り(内から外へ)。口縁端部平坦は中央やや凹み、僅かに内傾。縁は鋭い。天井部内側はロクロ痕強い。	①素地やや緻密。細線散見する以外に目立った混入物ない。②還元焰、やや硬調。受部上面にのみ降灰釉がかり密着してある。③暗青灰2BG6/1。内面やや明度低い。
2 杯身 (S)	口 10.8～10.3 受 12.6～12.3 高 4.9	ほぼ完形	左回転ロクロ→天井部同回転ロクロ上へら削り(内から外へ)。口縁端部平坦で、僅かに凹み内傾。受部に弱い丸み。天井内側ロクロ底同心円状でやや強い。	①1に類似するが、長石・黒色鉱物粒等の混入物やや多い。②還元焰、やや硬調。受部上面にのみ降灰釉がかり密着してある。③暗青灰10BG4/1。外底部はやや暗く弱い光沢。
3 杯 (H)	口 11.9	口縁片 底部欠	全体に薄手で均整のとれた器形。口縁端部僅かに内傾し、中央凹む。口縁内面丁寧なナデで、口縁に細かな磨痕あり。外底削りやや粗く、範囲も狭い。	①素地緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂少量含む。細線散見。②還元焰、やや硬調。③外面橙7.5YR6/6。内面橙2.5YR6/6。外面に小さな黒斑あり。
4 杯 (H)	口 12.6～12.4 高 5.4	口縁上半欠く	3にほぼ同巧。外底は磨きに近い弱い削り。	①③に類似する。②橙2.5YR6/6。黄色味の強いムラ広い。外面に小さな黒斑あり。
5 皿 (H)	口 10.4～10.1 淵 6.3 淵 15.9 底 4.9～4.4 高 15.0	完形	外面は削りに近い幅広い丁寧なナデを施すが、中位でやや弱く、下半では鋭い。肩部付近無調整だが平滑。口縁は布状具の磨痕残る幅広いナデ。	①素地普通。赤褐色鉱物目立つ。輝石・バミスまじりの砂粒含む。②還元焰、やや硬調。③橙2.5YR6/6。外面下半は黄色味おびる。

## 8号古墳 (第451・453図 PL.91)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 刀子	長 12.0 幅 0.29 柄径 1.6×1.1	主体部内 完形	柄の木質残存。柄の基部には鋸の痕が残る。身部は中程で強く研ぎ減っている。	①鉄地金は良好。錆化の影響はやや少ない。④刃は約10mm。木質は基部で残り良く、端部へ向かって尖っている。
2 壺 (H)	口(24.0) 高 49.6	口縁の大部分と 胴約欠く	約2cm幅の粘土帯を単位として下から積み上げ成形。口縁は幅3mmの沈線を通らす。胴全体にナデと斜へら削り。内面は剥落が激しく、整形不明。	①素地やや粗く、チャート・長石等の小角塵を多く含む。②還元焰、やや硬調。③にぶい橙色。④胴下半の一部に黒斑。

## 9号古墳 (第455図 PL.91・92)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 円筒埴輪	口(24.8)		3段構成で、ぎこちないつくりが目立つ。口縁端部断面は丸味をおびたコの字形。外面の第1・3段は縦ハケ、第2段は横ハケ。内面は口縁部横ハケ、それ以下は縦・横の指調整。	①緻密、白色粒を含む。②還元焰、あまい。③明赤褐色。④第3段外面にへら掻きあり。
2 円筒埴輪	口(22.2)		タガは断面コの字形に近く発達している。外面縦ハケ、内面不定方向ハケ。	①緻密、砂粒を含む。②還元焰、普通。③橙色を呈す。
3 円筒埴輪			タガは2段の山形で発達している。透孔は鈍い半円形である。外面は縦の弱いへら削りで、ハケ目が認められない。内面は縦・横の指調整で、粘土組織み上げ痕を残す。	①緻密、砂粒がまじる。②還元焰、普通。③明赤褐色。

## 3 古墳出土遺物と埴輪

4	円筒埴輪	口(25.2)	3段構成の第2～3段の破片。タガはやや歪んで著しく発達。外面ハケ整形を施さず、縦方向のナデ。内面第3段横ナデ、第2段縦方向の指調整で、粘土組織の上げ筋を残す。	③赤褐色。
5	円筒埴輪		タガは2稜の山形でやや発達し、透孔は鈍い半円形。外面縦の割いへら削り。内面不定方向の指調整で、粘土組織の上げ筋を残す。	③褐色。
6	円筒埴輪	底20.7～19.0	粗雑なつくりであり、タガが全体に剥離している。外面縦の割いへら削り。内面不定方向の指調整で、粘土組織の上げ筋を残している。指の押しにより、面の凹凸が著しい。	①緻密で砂粒がまじる。②酸化焙、ややあまい。③褐色。
7	円筒埴輪	底(18.8)	外面縦ハケ、内面不定方向ハケ。	①緻密、砂粒がまじる。②酸化焙、普通。③明赤褐色。
8	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面不明。	①緻密で砂粒を少量含む。②酸化焙、普通。③明赤褐色。④タガ寄り外面にへら掻きあり。
9	円筒埴輪		外面縦ハケ。内面斜横方向の指調整、粘土層の積み上げ取を明瞭に残す。	①白色小粒を含む。②酸化焙、須恵質に近い統調である。③にぶい褐色。④外面へら掻き。
10	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面斜横方向の指調整。	①緻密で砂粒を少量含む。②酸化焙、普通。③明赤褐色。④外面にへら掻き。
11	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面横ハケ。	①砂粒を混入する。②酸化焙、あまい。③明赤褐色。④外面赤色顔料及びへら掻き。
12	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面斜横方向の指調整。	①緻密で砂粒を少量含む。②酸化焙、普通。③明赤褐色。④タガに近い上部外面にへら掻き。
13	円筒埴輪		口縁部寄りの破片で、外面やや斜めの縦ハケ、内面横ハケ。	①白色小粒の混入が目立つ。②酸化焙、ややあまい。③明赤褐色。④外面赤色顔料及びへら掻き。
14	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面横方向の指調整。	①緻密、砂粒を少量含む。②酸化焙、やや硬調。③明赤褐色。④外面へら掻き。
15	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密で砂粒を少量含む。②酸化焙、普通。③明赤褐色。④外面へら掻き。
16	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面斜縦の指調整。	①緻密で砂粒を含む。②酸化焙、やや硬調。③明赤褐色。④外面へら掻き。

遺物観察表編

10号古墳 (第459図 PL. 92)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 円筒埴輪	□25.3～24.8		3段構成で、第2段の中央に一对の円形透孔があり、第3段の下端寄りに第2段のものと直交し、これより一回り小さい円形透孔がある。タガは2枚の山形でしっかりしている。外面縦ハケ。内面第3段はやや斜め横ハケ。第2段以下、指調整により丹念に粘土組織み上げ直を置す。	①緻密で砂粒がまじる。②酸化焰、やや硬調。③あざき色に近い赤褐色。④外面全体と内面の口縁部寄りに赤色顔料塗彩。
2 円筒埴輪			タガは船状のM字形で、未発達。最上段に小型の円形透孔あり。外面縦ハケ。内面、口縁部上半が横ハケ後のナデ、口縁部下半横ハケ、それ以下は斜めハケ後細い縦ハケ。	①緻密で細砂がまじる。②良好。③赤褐色。④外面赤色顔料塗彩。
3 円筒埴輪			最上段に小型の円形透孔を施す。タガは細いM字形で、しっかりしている。外面縦ハケ、内面やや斜めの横ハケ。	①緻密で砂粒の混入が目立つ。②酸化焰、やや硬調である。③赤褐色。④外面赤色顔料塗彩。
4 朝顔型埴輪			外面頸部は縦ハケ、肩部は縦・斜横ハケを乱雑に施す。内面B型横ハケ。	①緻密。砂粒がまじる。②酸化焰、普通。③明赤褐色。④外面赤色顔料塗彩。
5 朝顔型埴輪			外面頸部は縦ハケ、肩部は乱雑な横ハケ。内面横ハケ。	①緻密。砂粒の混入が目立つ。②酸化焰、普通。③明赤褐色。④頸部外面に赤色顔料塗彩。
6 朝顔型埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密で細砂を含む。②良好。③赤褐色。④外面全体に赤色顔料塗彩。
7 円筒埴輪			口縁部は横ナデ後、指調整。外面やや斜め方向の縦ハケ、内面不定方向のハケ。	①緻密、やや大きめの粒を含む。②酸化焰、普通。③にぶい棕色。④内面ヘラ置き。
8 円筒埴輪			口縁部は断面コの字形を呈す。外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密。砂粒を含む。②酸化焰、普通。③赤褐色。④外面に沈線があるが、他のヘラ置きに比べ美しい。
9 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密。砂粒を含む。②酸化焰、普通。③明赤褐色。④外面赤色顔料塗彩及びヘラ置き。
10 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①砂粒多く含む。②酸化焰、普通。③赤褐色。④外面棒状具による沈線。
11 円筒埴輪			外面縦ハケ、内面横ハケ。	①緻密。砂粒がまじる。②酸化焰、普通。③明赤褐色。④外面赤色顔料塗彩及びヘラ置き。
12 形象埴輪			極めて緩やかなカーブで、板状に近い。ヘラ置きによる交差する直線の交点に、棒状具による円形刺突を施す。外面縦ハケ、内面横ハケ。	①小砂粒の混入が目立つ。②酸化焰、普通。③にぶい棕色。
13 形象埴輪			三角板車羅あるいは銅留式の甲冑形埴輪の破片である。大きさ・形状からすると衝角付背を模している可能性がある。三角形をヘラ置きし、車羅あるいは銅留部分を棒状具の円形刺突であらわす。外面は丹念なナデ仕上げ、内面は横方向の指調整。	①緻密。②酸化焰、やや硬調である。③赤褐色。④外面赤色顔料塗彩。

11号古墳 (第456図 PL.92)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 12.9 高 5.3	ほぼ完成	外面強く細かい削り。内面ナデは上半で横位の鋭い断面、下半不明瞭で一部放射状の擦痕残る。厚手で重量。	①素地普通。細礫・赤褐色土物・チャート等の混入物多。②酸化焙、普通。③にぶい橙SYR7/4。一部に赤色味おびるムラあり。

遺構外出土埴輪 (第463～467図 PL.92～94)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 円筒埴輪			タガはややくずれたM字形の断面で、丁寧なつくり。透孔は小さな円形と思われる。外面は目の整った縦ハケ目。内面は口縁下に斜めハケ目。他はナデ。	①緻密で粗砂を多く含む。②酸化焙。③橙～暗褐色。
2 円筒埴輪			タガは断面三角形で、つくりはやや粗雑。口縁はやや外反し、口唇は弱い凹面。最上段に横2本の刻線。透孔は小円形。外面と内面上位に縦ハケ目。	①やや粗く、粗砂が多い。②やや還元気味。硬調。③暗灰色。
3 円筒埴輪			タガは断面台形で、つくりは丁寧。外面は縦ハケ目。内面は縦ナデとハケ目。口縁下内面は斜めハケ目。	①やや粗く、粗砂が目立つ。②酸化焙、均質。③褐色。
4 円筒埴輪			タガはM字形のくずれた三角形断面で接合は粗雑。外面はヘラ状工具による縦ナデ。内面は縦・斜の断面によるナデ。透孔は比較的確調な楕円形。	①緻密で粗砂の混入が目立つ。②酸化焙、比較的確調。③淡褐色。
5 円筒埴輪			タガは2種を有し、幅狭で低い。透孔は円形。外面縦ハケ、内面縦方向の指調整。	①緻密で粗砂がまじる。②かマ下に再利用されているため不明。③灰黄褐色。
6 円筒埴輪			断面三角形のタガ。透孔は円形か。外面縦ハケ目、内面斜めハケ目。	①やや粗く、粗砂を含む。②酸化焙。③にぶい褐色。
7 円筒埴輪			タガは断面三角形で、つくりはやや粗雑。透孔は角のある円形。外面は粗い縦ハケ目。内面は上半に斜めハケ目、下半はナデ。	①やや緻密で細礫や粗砂を含む。②酸化焙、均質。③褐色。
8 円筒埴輪			タガは低いM字形の断面で、つくりはやや粗。透孔はやや大きめで第2段目に穿つ。外面は整った縦ハケ目。内面は下位階ナデ。上位が鋭い縦ハケ目。	①やや緻密で、細礫～粗砂を含む。②やや還元焙。③黄褐色～靑灰色。
9 円筒埴輪			タガはややくずれた台形状の断面。透孔は不整形で、第2段に穿つ。外面縦ハケ目。内面縦ナデ。	①緻密で粗砂が目立つ。②酸化焙、ムラが多く、全体に硬調。③暗褐色。
10 円筒埴輪			外面は鋭い縦ハケ目。内面は縦ナデ。	①やや緻密で、細礫・粗砂を含む。②酸化焙、均質。③褐色。
11 円筒埴輪			外面はヘラ状工具による縦ナデ。内面は指頭とヘラ状工具による縦ナデ。	①やや粗く、細礫・粗砂が多い。②酸化焙。③淡褐色。
12 円筒埴輪			外面に粗い縦ハケ目。内面は指頭によるナデ。1段目外面に長さ5cmの横位刻線。	①混入した白色粘土が横位に残る。やや粗く、粗砂が多い。②酸化焙、やや軟調。③淡褐色。
13 円筒埴輪			外面に目の粗い縦ハケ目。内面縦ナデ、基部内面に粘土縱積み上げ痕を残す。	①やや緻密で粗砂を含む。②酸化焙。③灰褐色～淡褐色。

遺物観察表編

14	形象埴輪 (人物)		器底部に大きめの円形透孔を穿ち、縦ハケ目。裳裾はやや張出し、斜めハケ目。一部に斜沈線がみられる。	①やや緻密で、粗砂を多く含む。②酸化焙、均質。③淡褐色。
15	円筒埴輪		タガは整った台形断面で、成形は丁寧。外面は目の整った縦ハケ目。内面斜めナデ。基部内面に粗砂の多い粘土を加えてナデつける。	①やや粗く、粗砂を含む。②酸化焙、均質。③褐色。
16	円筒埴輪		タガはM字形のくずれた断面形で、接合は粗雑。透孔は小さな円形で、2段目、3段目に互日に穿つ。外面は浅い縦ハケ目。内面斜めナデ。	①緻密で粗砂を含む。②酸化焙、ムラ多い。③灰褐色～褐色。
17	円筒埴輪		タガはややくずれた台形状の断面でつくりはやや粗雑。外面縦ハケ目、底付近横ナデ。内面は縦ナデで、底付近は粘土を付加して斜めナデ。	①緻密で粗～細砂を含む。②酸化焙、半分ほど黒度。③にぶい橙～灰黒色。
18	円筒埴輪		外面に目の細かい縦ハケ目。内面は指調による縦ナデ。基部内面は横ハケ目。	①やや粗く、粗砂が目立つ。②酸化焙、均質。③灰黄褐色。④外面に部分的に赤彩痕が残る。
19	瓶腹型 埴輪		全体に粗雑なつくり。タガ貧弱な山形。外面縦ハケ、内面平滑にナデ仕上げ。	①緻密、細砂がまじる。②ややあまい。③淡褐色。④外面へラ描きあり。
20	円筒埴輪		口縁部付近の破片。外面縦ハケ、内面斜め横ハケ。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③淡褐色。④外面へラ描きあり。
21	円筒埴輪		口縁部付近の破片である。外面縦ハケ、内面縦方向の指調整。外面赤色顔料塗彩。	①緻密で細砂がまじる。②普通。③淡黄褐色。④内面へラ描きあり。
22	円筒埴輪		タガは断面M字形でやや低い。透孔は半円形が推定される。外面縦ハケ、内面縦の指調整。	①細砂・赤色粒の混入が目立つ。②ややあまい。③褐色。④外面へラ描きあり。
23	円筒埴輪		厚手のしっかりしたつくり。タガはやや発達したコの字形。透孔は半円形が推定される。外面縦ハケ、内面円念の指調整。外面赤色顔料塗彩。	①緻密で砂線がまじる。②良好。③淡黄褐色。④最上段外面にへラ描き。
24	円筒埴輪		口縁部の破片。外面縦ハケ、内面横ハケが口縁部までおよぶ。内面へラ描きあり。	①砂線の混入が目立つ。②良好。③淡赤褐色。
25	円筒埴輪		つくりの粗雑なもの。タガは2種の山形で低い。外面縦ハケ、内面斜めハケ。	①細砂がまじり、ザラザラしている。②二次火熱を受けている可能性あり。③淡灰褐色。④外面へラ描きあり。
26	円筒埴輪		外面縦ハケ。内面粘土紐の横み上げ痕を残す、粗い指調整。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③明赤褐色。④外面にへラ描き様の線あり。
27	円筒埴輪		タガは発達したコの字形。透孔は半円形が推定される。外面縦ハケ、内面斜め横ハケ。	①緻密で細砂がまじる。②良好。③淡褐色。④外面にへラ描き、赤色顔料の塗彩あり。
28	円筒埴輪		基部の破片。タガはM字形。外面縦ハケ、内面縦の指調整。	①緻密、細砂の混入が目立つ。②良好。③淡褐色。
29	円筒埴輪		基部の破片である。タガはM字形でやや低い。外面縦ハケ、内面縦の指調整を丹念に施す。	①緻密、細砂の混入が目立つ。②普通。③淡褐色。
30	瓶腹型 埴輪		タガはくびれ部は貧弱な山形で、それ以外はコの字形のやや発達したもの。透孔は円形。外面縦ハケ、内面横方向の指調整。	①細砂を多量に含みザラザラしている。②普通。③淡灰黄褐色。④外面へラ削りあり。



## 3 古墳出土遺物と埴輪

31	朝顔型 埴輪		受部付近の破片。丸味を持った胴頭形を呈する。タガは幅広く断面M字形。外面縦ハケ、内面横ハケ。外面に赤色顔料を塗彩。	①緻密、砂礫が混入する。②良好。③赤褐色。
32	朝顔型 埴輪		受部付近の破片。31にくらべ直線的で丸味に欠ける。タガは幅広いM字形。タガより上の外面は斜めハケ、下は縦ハケ。内面は横ハケ。外面に赤色顔料塗彩。	①緻密で砂礫が混入する。②良好。③赤褐色。
33	円筒埴輪		口縁部破片。口縁部内外面、口縁部に横ハケ。それ以外の外面やや斜めの縦ハケ、内面指調整。	①緻密、細砂が少量まじる。②ややあまい。③褐色。④外面赤色顔料塗彩、内面ヘラ掻き。
34	円筒埴輪		口縁部破片。内外面とも横ナダ。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③淡褐色。④内外面とも赤色顔料塗彩、内面ヘラ掻きあり。
35	円筒埴輪		口縁部寄りの破片。外面縦ハケ、内面横ハケで、外面に赤色顔料塗彩。	①緻密で細砂がまじる。②良好。③淡黄褐色。④外面ヘラ削りあり。
36	円筒埴輪		口縁部付近の破片。外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密、細砂が少量まじる。②普通。③淡褐色。④外面赤色顔料塗彩、内面ヘラ掻きあり。
37	円筒埴輪		タガはM字形でやや低い。外面縦ハケ、内面指調整により平滑に仕上げられる。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③淡褐色。④外面ヘラ掻きあり。
38	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面きわめて粗雑な指調整。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③明赤褐色。④外面ヘラ掻きあり。
39	円筒埴輪		タガは縁が明瞭でやや発達したコの字形。透孔は明瞭な半円が想定される。外面縦ハケ、内面縦方向の指調整。	①緻密で細砂がまじる。②良好。③明黄褐色。④腹上段外面にヘラ掻きあり。
40	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密で細砂がまじる。②普通。③淡褐色。④外面赤色顔料塗彩、ヘラ掻き。
41	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面不定方向のハケ後ナダ。	①砂礫の混入が巨立つ。②ややあまい。③明赤褐色。④外面ヘラ掻き様の縁あり。
42	円筒埴輪		タガは断面コの字形で発達している。外面縦ハケ、内面縦の指調整。	①緻密、砂礫がまじる。②固く焼き締まっている。③明灰褐色。④外面ヘラ掻きあり。
43	円筒埴輪		外面縦ハケ、内面粗雑な指調整。	①細砂が少量まじる。②固く焼き締まっている。③灰赤褐色。④外面ヘラ掻き。
44	円筒埴輪		タガ付近の破片。外面横ナダ。	①緻密、砂礫がまじる。②良好。③淡赤褐色。④外面ヘラ掻きあり。
45	形象埴輪		人物埴輪の衣服の裾部付近の破片と思われる。円筒形の本体に外側に同く裾部が取り付く。外面縦ハケ、内面斜縦ハケ。	①細砂を多量に混入し、ザラザラしている。②良好。③住居のカマド材として再利用されているため、暗灰褐色を呈する。
46	形象埴輪 (靴)		小ぶりの靴形埴輪の上半部分。筒形の矢筒部分に矢を貼付した板状の部分が、ソケット状に差し込まれている。両側はひれ状の突出部が剥落している。筒部は外面縦ハケ。ひれ部は外面横ハケ。	①多量の細砂を混入し、ザラザラしている。②良好。③住居のカマド材として再利用されているため、二次火熱で暗灰褐色を呈する。

遺物観察表編

47 形象埴輪			円筒形の本体からひれ状の張り出しがつく。表面はひれ状部分が横ハケ。本体が縦ハケ。裏面は指調整。筒形埴輪と思われる。	①砂礫がまじる。②カマドへの再利用のため二次火熱を受ける。③暗灰褐色。
48 形象埴輪			46(斬)の下半部の破片と思われる。筒状の本体にひれ状の突出部が取り付け、両者の境界は比較的区画される。中心寄りから斜めに結び紐を表現した、幅1.5cmの帯状の貼付がある。本体部分は外面縦ハケ。ひれ状部外面横ハケ。	①細砂・赤色粒を混入し、器面がザラザラしている。②良好。③淡赤褐色。
49 形象埴輪			筒形の本体の側面に貼付帯の刻痕痕が認められる。また上端全体にも刻痕痕あり。大刀形埴輪の把部が推定される。外面縦ハケ。	①砂礫を多量に混入し、ザラザラしている。②カマドへの再利用のため二次火熱を受ける。③灰褐色。
50 形象埴輪 (馬)			馬形埴輪の胴上部付近の破片と思われる。草帯を表現した帯状の貼付が粗線し、鞍の後輪の刻痕痕に取り付いている。外面は不定方向のハケ、内面は不定方向のハケ整形後、粗雑な指調整。	①緻密で砂礫がまじる。②普通。③カマドの構造物として再利用したため灰褐色を呈する。
51 形象埴輪			円筒状の本体に結び紐を表現した貼付が施され、その上には綾形の刻線がヘラ描きされている。外面縦ハケ、内面縦のナデ。	①緻密で細砂の混入が目立つ。②カマドに使用されていたため二次火熱を受ける。③灰褐色。
52 形象埴輪			下ぶくれの円筒状を呈する。外面の長軸方向に平行する2条の貼付帯がある。	①砂礫を多量に混入し、ザラザラしている。②良好。③明赤褐色。
53 形象埴輪			半円筒状をなす本体の下端側部に、長軸と平行するコの字形の貼付帯がある。外面縦ハケ、内面指調整。	①緻密、細砂がまじる。②良好。③淡褐色。
54 形象埴輪			断面が長円形の筒形の側部から張り出す、ひれ部分がある。表面は刻線・貼付帯があり、裏面は粗い指調整のままである。盾形埴輪の破片が推定される。	①緻密、砂礫・赤色粒の混入が目立つ。②良好。③明赤褐色。
55 形象埴輪			人物のミズラ。径2.8cm。断面がやや長円形の筒形で、上端に接着痕あり。	①緻密で細砂がまじる。②良好。③赤褐色。
56 形象埴輪			本体から剝落したもの。細長い三角形の板状をなし、端部が折れまがる。表面は細かいハケ整形の上に赤色顔料の塗彩の三角文が並ぶ。	①緻密で細砂がまじる。②良好。③淡褐色。

## 4 土器集積跡出土遺物

1号土器集積跡(第477~479図 PL.95)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口12.6 底 4.1	口縁片 底部片	断面の摩滅著しく、整形痕の観察は困難。	①ダスト状の素地に、やや大粒の赤褐色鉱物を含む。②酸化焰、普通。③焼5YR7/6でほぼ一様。
2 杯 (H)	口(12.8) 高 3.2	埋土 瓦個体	外底削りやや強い。内底には指頭圧痕状の細かな凹凸あり。歪みあり傾き不安。	①ダスト状の極細土を素地とし、バミス・細磨まじりの砂粒多い。②酸化焰、硬調。③にぶい焼5YR7/4。赤色味の強い部分も広く、一様でない。
3 杯 (H)	口(15.0)	埋土7片 瓦個体	外底削り強くやや歪。口縁内周は強く折り返すが、形状は一定でない。内面平滑に仕上げるがナデの痕跡不明瞭。	①素地普通。バミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③焼5YR6/6でほぼ一様。
4 杯 (S)	口(12.6) 底 7.1 高 3.6	口縁片欠く	右回転ロクロ一回へ無調整。内面のロクロ痕はコナテ状工具の痕で、やや深い凹みになる。口縁薄く、端部尖る。	①素地普通。細磨まじりの細砂少量含むが良好。②還元焰、硬調。③灰N5/0。口縁外周のみ黒色強い。
5 高台付杯 (S)	口(13.2) 台(9.2) 高 3.7	埋土4片 口縁片 底台部片	右回転ロクロ一切離し不明一底部全面雑な回転へろ削り後、ロクロ使用高台取付。高台内側と内底縁辺に鋭い工具痕残る。	①素地普通。砂粒以外の混入物少なく良好。②還元焰、普通。③灰白7.5Y7/1でほぼ一様。④口縁内側や摩滅する。
6 杯	口(11.0) 底(6.8) 高 4.1	口縁片 底部片	外底は砂底で縁辺と体部下端を鍍な手持ちへろ削り。煎造りか。外面は端部付近のナデの後、指頭圧痕を加えている。内面やや丁寧な横位ナデ。	①素地やや粗い。バミス・石灰まじりの砂粒やや多い。外底の砂粒にはバミス目立つ。②還元焰か。軟調。③灰7.5Y5/1。ほぼ一様。
7 杯	口(13.2) 底(6.8) 高 4.2	瓦個体	外面指頭圧痕上を鋭い削り、口縁端部のみ強いナデ。内面横位ナデで下半のみ削りに近い縦位痕。外底砂底で縁辺を削る。底部薄いため歪み強い。	①素地粗くボソソク。赤褐色鉱物やや多い砂粒含む。外底はチャート・石灰まじりの粗砂。②酸化焰、普通。③暗赤褐5YR2/3。内面下半赤色味をおびる。④内面にタール状にスス付着。
8 杯	口(11.8) 底(6.0) 高 3.8	口縁片 底部片	右回転ロクロ一回無調整。外面上半のみロクロ痕やや強く、端部で小さく外反する。内底は平滑。	①素地やや粗い。輝石・石英等雑多な混入物含む粗砂やや多い。②還元焰か、普通。③灰7.5Y6/1。内外面に赤色味の強いムラあり。
9 椀	口 13.1 底 5.5~5.2 高 4.9	口縁上半欠く	右回転ロクロ一回無調整。ロクロ痕は外面で細かく、内面不明瞭で平滑。薄手で軽量。	①素地普通。砂粒以外の混入物少なく良好。②還元焰か、普通。③にぶい黄橙10YR6/3。赤色味おびるムラあり。内底は重焼き痕が灰白色に残る。
10 椀	口 13.6 底 6.6 高 4.3	口縁上半欠く	右回転ロクロ一回無調整。内面に接合痕明瞭。ロクロ痕極めて弱い。厚手でやや重量である。	①やや粗くボソソクしているが、砂粒以外の混入物は少ない。②還元焰か、やや軟調。③灰白5Y7/1で赤色味の強い部分あり。④外底摩滅する。
11 杯 (S)	台 6.3~5.9	口縁上半欠く	右回転ロクロ一回へロクロ使用やや雑な高台取付。内底と外面でロクロ痕強い。高台ややいびつ。	①素地普通。細磨まじりの細砂やや多い。②還元焰、やや硬調。③灰白10Y7/1。底部内外面明度低い。④外面に濃い黒色帯があるが判読できず。
12 椀	口(15.6)	口縁片欠く	右回転ロクロ一回へロクロ使用高台取付。ロクロ痕外面でやや強く、内面平滑。	①素地粗い。細磨のやや目立つ砂粒の混入多い。②中性焰か、やや軟調。③灰黄2.5Y7/2。煎焼状の薄い小さなムラあり。④細かな割落多い。
13 椀	口(14.0) 台 6.4~6.1 高 5.1	口縁片と高台片 欠く	右回転ロクロ一回へロクロ不使用高台取付で高台不整。内底以外はロクロ痕極めて弱い。	①素地やや粗い。細磨散見の砂粒多く、気泡も含む。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3~黒褐10YR2/2。一様でない。

遺物観察表編

14	口(15.2) 台(6.4) 高 6.0	3片 36個体	右回転ロクロ→切離し不明→ロクロ使用高台取付。ロクロ直は細かく傷く、下半では不明瞭。全体に平滑。	①やや粗く、細線や土粒まじりの砂粒多い。②酸化焙か、普通。③にぶい赤褐色2.5YR5/3。黄色味・黒色味のムラあり一様でない。④高台摩滅。
15	口(10.0) 頸 5.1	図示部中上半片 欠く	内面の接合痕より巻上げか。上半のみ横ナゲやや強い。下位の辻線は1条を意図したもののだが、極めて細。	①素地褐色。砂粒以外混入物少ない。②還元焙、硬調。内面に偏って降灰輪あり、室内で転倒状態の焼成。③暗青灰5B3/1。輪は灰白色。
16	口 17.1 孔 2.7~ 2.2 高 9.8	体部欠片欠く	口縁内面に弱い辻線通る。底部の孔はいびつ。外面削りは幅広く鋭い。内面ナゲはへら状工具の圧痕残る。	①素地やや粗い。輝石・パミスまじりの細線の混入多い。②酸化焙、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。赤色味・黒色味の強いムラあり一様でない。
17	口 11.1~10.9 頸 10.6	9片 図示部ほぼ完存	外面の削りやや強い。口縁と内面のナゲ丁寧。	①ダスト状の素地で、赤褐色鉱物・輝石等を少量含む。②酸化焙、やや硬調。③橙5YR6/6。一部灰色味をおびるムラあり。
18	口(18.6) 頸(15.0) 底 3.5~ 3.2	上半片 下半片	外面削りは幅広く、強く鋭い。内面ナゲはやや丁寧だが、底部付近に指頭圧痕状の凹凸多い。	①素地普通だが、細線の混入やや多く粗い。②酸化焙、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に黒色味をおびるムラあり一様でない。
19	口(24.0) 頸(19.2)	図示部6片	接合痕より輪痕みか。割下半内面にやや強い接合の段残る。外面削りは幅広くで意長い。内面にやや強いへら状工具のナゲの痕が残る。	①素地普通。パミス・赤褐色鉱物・細線等のやや大粒夾雑物多い。②酸化焙、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に黒色味をおびるムラ広い。④外面中位以下にススやカマド粘土付着。
20	口(13.8)	図示部6片	口縁内面の端部と中位に辻線通る。口縁のナゲは強いが、外面下半に接合痕残る。外面削りは強くやや細。	①素地普通。細線・輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焙、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。明度の低いムラあり。一様でない。
21	口(19.2) 頸(15.6)	3片 図示部6片	頸部外面の屈曲やや強い。外面削りは粗く鋭い。内面ナゲは丁寧で、器面は平滑。	①素地普通だが、長石・チャートまじりの細線多く粗い。②酸化焙、やや軟調。③橙5YR6/6。断面の一部で灰色味をおびる。
22	口(18.8) 頸(15.6)	図示部6片	口縁外面は強く鋭かなナゲ。肩部の削りはやや弱い。内面のナゲは丁寧でやや強く、平滑に仕上げる。	①素地普通だが、細線・赤褐色鉱物まじりの砂粒多く、ザラザラ。②酸化焙、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/4。内面は灰色味をおびる。
23	口(23.0) 頸(19.4) 胴(22.2)	埋土15片 図示部6片	外面鋭く息長い削り。内面丁寧なナゲで幅広い工具使用か。	①壁面としては細密な素地だが、粗砂の混入多く器面ザラザラ。②酸化焙、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。内面黄色味をおびる。
24	口(16.6) 頸(13.6)	埋土8片 図示部6片	外面削りは息長く丁寧。口縁部のナゲやや強く、端部は外反する。内面のナゲも丁寧で平滑に仕上げる。	①やや粗い素地にパミス・輝石まじりの砂粒を含む。②酸化焙、やや軟調。③灰10Y6/1。自然釉はオリーブ灰色で大部分は風化により白く藍色。④内面下半は液体を貯蔵した痕が、やや黒色味をおびる色調の変化に現われる。
25	口 19.7 頸 18.8	11片 図示部7片	頸部は上側のみ屈曲強く、下半は接合痕を確にナゲ消す。外面削り細で強く一部に無調整部分残る。内面幅広い工具のナゲでやや平滑。	①素地やや粗く、白色鉱物・輝石等種多量混入物含む。②酸化焙、やや軟調。③橙7.5YR4/3。ムラ多く一様でない。④口縁内面凍てハゼ状の剥落あり。
26	胴 82.6	肩部以上を欠く が他はほぼ完存	粗く横位にナゲした後、外面に残り正格子印目を残す。内面には弱い痕を遺りてて具痕を残す。体の一部と肩全体に自然釉がかかる。	①素地やや粗く、長石の細線~粗砂多く含む。②還元焙、普通。③灰10Y6/1。自然釉はオリーブ灰色で大部分は風化により白く藍色。④内面下半は液体を貯蔵した痕が、やや黒色味をおびる色調の変化に現われる。
27	重 7.0g 土質	埋土 4個体	粗くナゲる以外、目立った変形は見られない。中央孔内面には軸方向の浅い条痕が見られる。	①素地普通。輝石・長石等の粗砂を多く含む。②酸化焙、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。④先端部に偏摩耗痕が見られる。

2号土器集積跡(第480・482~485図 PL.96・97)

No・器種	計 画 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (Y)		胴部小片	外面へラ磨きの後、鋭利な工具で直弧文を磨く。内面はハク目後へラ磨き。	①きめやや粗く、赤色粘土粒、赤褐色粒、チャート等の細粒・粗砂を含む。②やや硬調。③橙2.5YR6/6。
2 器台 (Y)		胴部小片	1に同じ。	①きめやや粗く、赤色粘土粒、赤褐色・黒色の粗砂を含む。②普通。③にぶい橙5YR7/3。④1と同一個体か。
3 杯(H)	口11.2 高 4.5	7片 口縁欠く	口縁のナゲやや粗く、内端は小さく凹む。外底削りはやや強。内底はへラ状の工具痕が旺盛状に残る。	①素地やや弱い。パミス・輝石の少量まじる砂粒を含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐5YR5/3。赤色味の強いムラあり。
4 杯(H)	口11.7 高 3.9	7片 片断体	外底削りやや強く、縁刃に削り残りあり。内面は平滑。	①ややダスト状。パミスまじりの少量の砂粒以外は混入物まれ。②酸化焰、普通。③橙7.5YR6/6。ほぼ一様。
5 鉢(H)	口(16.4) 高 7.5	9片 片断体	口縁と内面のナゲは丁寧。外面の削りも丁寧でやや弱い。	①素地やや硬調。砂粒以外の混入物少なく良好。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。彩度の高い部分あり。
6 鉢(H)	口(17.0) 高 6.6	6片 口縁列 底部欠	口縁のナゲ強く、外面に粗い磨痕が広がる。外底削りやや弱い。内面ナゲ丁寧だが、内底には凹凸多い。	①②5にほぼ同じ。③橙5YR6/6で断面までほぼ一様。
7 長胴壺 (H)	口21.1~20.2 頸14.7~14.1 胴17.2~17.0	下半片欠く	口縁外面に強い接合痕あり。胴部内面下半にやや強い接合の段残る。頸部削りは息長くやや弱い。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石等のまじる砂粒や多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。外面胴部は黒色味、内面は灰色味をおびる。
8 長胴壺 (H)	口21.7~21.4 頸17.3 胴18.0 底 5.2 高 34.3	54片 片断体	接合痕より輪積みか。外面の削りは薄でやや強い。口縁のナゲも強く雑で、細かな歪みを生じている。内面幅広い工具のナゲで平滑に仕上げた。	①素地普通。パミス・細磨まじりの砂粒を含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。外面に黒色味・赤色味をおびるムラあり。④二次火熱を受け外面付近やや鈍化する。
9 長胴壺 (H)	口21.8~21.2 頸17.1~16.4 胴17.8~17.1	胴示部上半片欠く	口縁のナゲ強い。外面削りは息長く、やや強い。内面ナゲはやや粗く平滑さ欠く。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石まじりの粗砂・細磨多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。細かなムラ多い。④強い二次火熱受け外面弱化する。
10 長胴壺 (H)	口22.5~22.1 頸17.1~16.6 胴19.7~18.6	胴示部欠	口縁外面の屈曲やや強い。外面不明瞭だが、かなり息の長い削りか。内面やや平滑で、幅広いへラ状工具痕残る。	①素地普通。輝石まじり粗砂の混入極めて多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR6/4。内面灰色味強い。④外面下半にカマダ粘土の付着多い。
11 長胴壺 (H)	口22.0~21.4 頸16.9~16.3 胴18.5	胴部片と底部欠	外面削りは息長く、やや弱い。口縁外面の横位ナゲは強く、工具痕が2条の段を形成。口縁の歪みや大きい。	①素地普通。細磨・輝石・赤褐色鉱物等の豊富な混入物多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。内面赤色味をおび、外面は明度低いムラ多い。
12 丸胴壺 (H)	口22.2~21.6 頸19.5~18.9 胴29.1~28.3 高 32.7	胴部欠く	接合痕より輪積み。頸部外面にごく弱い沈線が広がる。口縁内端も弱く凹む。外面削り弱い。内面ナゲ丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの粗砂多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。外面下半に黒斑広い。内面灰色味をおびる。
13 丸胴壺 (H)	口(21.4) 頸(17.6) 胴(29.0)	38片 同示部欠	口縁内端に幅広い凹み、外面に弱い沈線高。外面削りやや弱い。内面はへラ状工具のやや丁寧なナゲ。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの粗砂多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR6/3。内面灰色味強い。外面黒斑あり。

遺物観察表編

14 丸胴壺 (H)	□(21.8) 頸(18.2) 胴(27.4)	図示部ほぼ写	口縁両端に弱い凹み、外面に弱い沈線 巡る。外面削りはやや鋭く丁寧。内面 もやや平滑。	①素地普通。輝石・細塵等まじる粗砂多い。②酸化 焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面下半は黒色味 強い。④二次火熱受けるか。内面頸部と胴下半に細 かな刻痕多い。
15 丸胴壺 (H)	□ 19.8~19.2 頸 18.4~17.2 胴(26.0) 底 6.0	胴部上半欠く	口縁外面に接合痕、胴部内面下半に接 合の段状線。外面削りは幅広くやや鋭 い。内面やや丁寧なナデで、工具痕を 殆ど残さない。	①素地普通。パミスや目立ち、赤褐色鉱物・細塵 まじりの粗砂多い。②酸化焰、やや軟調。③黄7.5 YR4/3。黒色味をおびるムラ広い。④二次火熱により 全体が軟弱化している。
16 丸胴壺 (H)	□ 22.3~21.4 頸 18.8~18.4 胴 27.8	胴部胴と底部欠 く	口縁やや厚手で、外面に小さな段がで きる。外面削りはやや細かく丁寧。内 面ヘラ状工具使用のナデも丁寧。	①素地普通。パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。 ②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。外面に形成の 低いムラあり。④二次火熱受け、外面下半にスズ状 の薄い付着物あり。
17 壺(H)	□ 14.4~14.2 頸 13.3~13.0	8片 口縁写 胴部写	器面荒れて不明瞭。外面削りはやや弱 いか。	①素地普通。輝石・パミスまじりの粗砂多い。②酸 化焰、普通。③にぶい黄7.5YR5/3。黒色味・赤色味 をおびるムラあり。④二次火熱受けるか。
18 壺(H)	□ 16.7~16.1 頸 13.6	5片 図示部欠存	口縁部のナデ丁寧。外面削りはやや弱 い。内面ナデはやや鋭く、ヘラ状工具 痕僅かに残る。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒がやや多い。 ②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR7/4。内面は灰色味 をおびる。
19 丸胴壺 (H)	□ 20.5 頸 17.3	13片 口縁写 胴部写	口縁外面に弱い沈線巡る。口縁内端も 僅かに凹む。外面削りやや鋭い。内面 ナデは丁寧で平滑に仕上げる。	①素地やや粗い。細塵や目立ち。輝石・パミスの まじる粗砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10 YR6/3。赤色味・黒色味強いムラ多い。
20 壺(H)	□(17.0) 頸(13.2)	7片 図示部写	口縁外端強く凹む。横位ナデは丁寧。 外面削りやや鋭い。内面ナデも丁寧で やや平滑に仕上げる。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミス・輝石まじりの粗 砂多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/4。 内面灰色味強い。
21 壺(H)	□ 17.9~17.1 頸 15.2~14.6	7片 図示部ほぼ完存	口縁のナデやや粗く、外面に接合痕残 る。外面削りは幅広く強い。内面ヘラ 状工具使用のナデはやや鋭く。口縁に波 状の歪みあり。	①素地普通。細塵・輝石等まじる砂粒がやや多い。② 酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。黒色味をおび るムラあり。
22 長胴壺 (H)	□ 26.4~25.5 頸 20.7~20.0	11片 口縁ほぼ完存 胴上半写	口縁外面に弱い沈線巡る。外面の削り はやや丁寧で細かい。	①素地普通。パミス・赤褐色鉱物・輝石まじりの粗 砂多い。②酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/3。赤 色味・黒色味の強いムラあり。
23 壺(H)	□ 13.0~12.8 頸 12.3~12.0 胴(15.6)	口縁写 胴部写	口縁内端に沈線巡る。外面削りは細で 強い。内面ナデも板状工具の強い凹み 残る。	①素地やや粗い。輝石・パミスまじり粗砂多い。② 酸化焰、やや軟調。③にぶい黄橙10YR6/4。下半は 内外面とも黒色味強い。
24 丸胴壺 (H)	□ 20.9~20.3 頸 18.8~18.4 胴 28.8	図示部ほぼ完存	口縁外面に弱い2条の沈線が巡る。外 面の削りは細でやや鋭い。内面ナデは 丁寧で、平滑に仕上げる。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミス・細塵等の雑多な 夾雑物多い。②酸化焰、普通。③橙5YR6/6。外面黒 色味の強いムラ多い。④二次火熱受けるか。外面下 半やや軟弱化し、スズ状付着物あり。
25 丸胴壺 (H)	□ 20.6~20.2 頸 18.3~17.8	口縁完存 胴部写	口縁内端に凹み巡る。外面はやや細で 細かな削り。内面ナデは細狭の工具使 用。	①素地普通。輝石・パミスまじりの粗砂多い。②酸 化焰、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に黒灰広い。
26 甌(H)	□(26.6) 頸(21.2) 底( 8.6)	27片 口縁写 体部写	接合痕より輪痕のみ。底部内端に鋭い ヘラ削り。外面削り下半でやや強い。 内面ナデやや丁寧。	①素地やや粗い。パミス・輝石まじる砂粒含む。② 酸化焰、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。内面下半黒 褐色。外面下半も灰色味をおびる。
27 大鉢 (H)	□27.0~26.1	33片 図示部ほぼ完存	接合痕より輪痕のみ。器面荒れて整形 痕不明瞭。内面は凹み多く、平滑さ欠 く。外面削り強い。	①素地普通。パミス目立つ、輝石まじりの砂粒多い。 ②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4。赤色味・ 黒色味強いムラあり一様でない。④二次火熱を受け る。

## 4 土器集積跡出土遺物

28 平甕 (S)	口 6.7 肩 (18.0)	3片 口縁ほぼ完存 他は欠	右回転ロクロ。外面下半に回転へう削りか。胴部と肩部の接合痕は観察できない。外面口縁中位と肩部端にやや扁平の沈線通る。	①素地普通。細砂の混入やや多い。②還元焰、やや硬調。③灰N6/0。外面黒色味おびるムラあり。内面やや明度高い。
29 手づくね	口(4.8) 底 2.9～2.7	口縁上半欠く	内面は指面の強いナデ。外面は平滑に仕上げられるが、細かなヒビが残る。	①素地やや緻密。石英まじりの砂粒を少量含む。②還元焰、やや硬調。③におい燈7.5YR7/3。外面灰色味をおびるムラあり。
30 長胴甕 (H)	口(25.5) 高 39.7	口縁5/6 体部写欠く	体部全体に縦へう削り、体部中位に斜へう削り。口縁ナデ。内面は幅広い工具によるナデ。	①素地粗く、チャート・長石・赤褐色粒の細砂を含む。②還元焰、普通。③橙色～灰黄褐色。
31 長胴甕 (H)	口(22.0) 高 39.2	38片 口縁5/6 体上半一部欠く	体部上半は縦、下半は斜へう削り。内面は幅広い工具による横位ナデ。口縁は二段のナデ。外蓋に木葉痕あり。	①素地普通。長石・チャート等の角張った細砂が多い。②還元焰。③におい燈色～灰褐色。

## 5 中世館跡出土遺物

VI区 1号溝(第489~494図 PL.98・99)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(7.6) 底 4.8 高 2.1	口縁欠 底部欠	左回転クロー→回糸無調整。口縁外端は有段状になり、上端尖る。内底に指頭のナデか。	①赤地やや密着。赤褐色紅物を含むが、夾雑物は少ない。②酸化焙、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。一様。
2 小皿	口 7.9 底 4.3 高 2.3	口縁欠欠く	右回転クロー→回糸無調整。内面のロクロ痕強い。内底に一方の強い指頭のナデ。外底に板状圧痕。	①赤地密着。輝石まじりの細砂を若干含む。②中性焙か、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。一様。④口縁上面全面にスス付着。外面口縁に壊てハゼ。
3 小皿	口(9.0) 底 5.4 高 1.6	口縁欠欠く	左回転クロー→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。口縁は外反気味。薄手。	①赤地やや密着。バミスまじりの細砂を含む。②酸化焙か、普通。③明赤褐5YR5/6。内面は黒色味強い。
4 小皿	口 8.2 底 5.2 高 2.1	口縁欠欠く	左回転クロー→回糸無調整。薄手。	①赤地やや密着。輝石・金雲母・バミスを含む。②酸化焙か、普通。③にぶい赤褐5YR5/4。口縁内外面に燈芯痕状のスス付着。
5 小皿	口 8.4 底 5.0 高 2.7	口縁欠欠く	左回転クローか(砂粒の動き少なく不明瞭)→回糸か。口縁外端は直立気味で弱く凹む。外底に細かい板状圧痕。内底にやや弱い指頭のナデ。厚手。	①赤地普通。バミスまじりの細砂を含む。②酸化焙か、やや軟調。③黒N2/0。断面まで一様。④内面にタール状の付着物があるが、破損後に強い二次火熱を受け不明瞭。内底割落多い。
6 小皿	口 11.0 底 6.6 高 3.0	口縁欠と底部一部欠く	右回転クロー→回糸無調整。内面のロクロ痕やや強い。外底に細かな圧痕僅かに残る。内底に指頭のナデ。	①赤地やや密着。輝石やや多くバミスを含む。②酸化焙、やや軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。一様。
7 小皿	口(11.0) 底 5.5 高 3.2	口縁欠欠く	右回転クロー→回糸無調整。内底のナデ、外底の板状圧痕は不明瞭。	①赤地普通。輝石・バミスまじり細砂を含む。②中性焙か、普通。③にぶい橙5YR7/4。一様。
8 小皿	口(11.0) 底(5.6) 高 2.6	残断体	左回転クロー→回糸無調整。ロクロ痕弱く内面平滑。	①赤地やや粗くザラザラ。輝石・バミス等のまじり細砂多い。②酸化焙か、やや軟調。③橙7.5YR6/6。ほぼ一様。
9 小皿	口(10.0) 底(6.6) 高 2.3	図示部欠	左回転クロー→回糸無調整。口縁端部は直立気味で、内側へ弱く肥厚する。	①赤地普通。赤褐色紅物・バミスまじりの細砂を含む。②酸化焙、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。断面まで一様。
10 小皿	口(12.0) 底(6.2) 高 3.2	口縁欠 底部欠	左回転クロー→回糸無調整。ロクロ痕は弱く不明瞭。口縁上端は比線上の細い凹みがある。口縁は小さく波状に歪む。厚手。	①赤地普通。赤褐色紅物・バミス等まじり細砂を含む。②中性焙か、やや硬調。③淡黄2.5Y8/3。内外面とも黒色味をおびるムラあり。
11 小皿	底(6.8)	図示部欠	左回転クロー→回糸無調整。内底に弱い指頭のナデ。底部は厚い。	①赤地やや密着。バミス・輝石まじりの細砂を含む。②酸化焙か、普通。③にぶい橙5YR6/4。断面は明度低い。
12 小皿	口 12.2~11.9 底 5.7 高 3.4	ほぼ完形	左回転クロー→回糸無調整。口縁小さく歪む。外底に板状圧痕僅かに残る。内底に弱い指頭圧痕のナデ。口縁内端は弱く凹む。厚手で重量。	①赤地普通。輝石やや多く、バミスまじり細砂を含む。②中性焙か、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。ほぼ一様。
13 小皿	口(11.6) 底 5.7 高 3.7	口縁欠欠く	10にはほぼ同巧。口縁端部の沈線状の凹みは見られない。切離しの糸が外縁に深い凹みを作る。	①②10にほぼ同じ。③にぶい橙7.5YR7/3。口縁外面に黒色のムラあり。



14 小皿	口 12.0~11.7 底 6.5 高 3.1	ほぼ完成	左回転ロクロ→回糸無調整。外面のロクロ痕やや強い。外底に細かな板状圧痕僅かに残る。内底弱い指痕のナデ。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物の目立つ砂粒含む。②酸化焙か、普通。③標5YR6/6。ほぼ一様。④口縁上端を研ぎ込み水平に調整している。
15 小皿	底 5.3	図示部ほぼ完成	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ直はコテ状工具痕が残り、細かくやや強い。内底に指痕の弱いナデあり。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂含む。②酸化焙か、やや硬調。③標7.5YR7/6。内面は明度低い。
16 小皿	口(11.6) 底(5.4) 高 3.3	口縁欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ直は弱い。内底に弱い指痕のナデ。	①素地やや緻密。パミス・やや大粒の赤褐色鉱物含む。②酸化焙か、やや軟調。③明赤梅2.5YR5/6。一様。
17 小皿	口(11.6) 底(7.8) 高 2.8		左回転ロクロか(砂粒の動き少なく不明瞭)一回糸か。ロクロ直は弱く不明瞭。口縁は大きく肥厚する。内底に指痕のナデ。外底に強い板状圧痕。	①素地普通。輝石まじりの砂粒や多い。②酸化焙か、やや硬調。③外面は黄褐色10YR8/4。内面はほぼ白標7.5YR7/3。
18 花生 (陶器)	頸 4.3 胴 6.9 台(7.6)	北側埋土 図示部ほぼ完成	右回転ロクロ→回糸無調整。内面のロクロ痕やや粗い。鉄軸を施し、裾部付近は軸厚い。	①素地やや緻密。混入物は少ないが、気泡やや目立つ。③軸調は光沢欠くが胎軸に近い。胎土は灰白色。④瀬戸・美濃系。破損後に火熱を受けたと思われる。断面一部すずける。
19 鉄絵皿 (陶器)	口(13.0) 台(6.6) 高(2.7)	口縁写 底部写	口縁部は口折れ状。鉄絵は唐草意匠か。長石軸を施すが、外底の一部には掛かっている。外底に2カ所、円錐ビンの痕跡あり。	①素地普通。②胎土は黒色を呈す。鉄絵は暗褐色に、長石軸は灰色に発色する。やや粗い質が見られる。③口縁端部・高台端部の剥落すずむ。瀬戸・美濃系。鼠志野。
20 碗 (陶器)	台(5.0)	図示部写	内面鉄軸。外面鉄軸と思われる灰緑色の薄い輪で、掛け分けの碗となろう。接地面は軸へずか。	①素地やや緻密。混入物少ない。③外面鉄軸は黒褐色。胎土灰白色。④瀬戸・美濃系。
21 おとし蓋	口(12.6)	写個体	円盤状の粘土貼り合わせか。器面は平滑で磨きを加えた可能性。	①素地普通。輝石・パミス・赤褐色鉱物を含む。②中性焙か、硬調。③にぶい黄緑10YR6/4。黒色のムラあり。
22 内耳	口(35.8) 底(33.2) 高 6.0	図示部写	口縁上端は平坦。体部外端に細かな指痕の凹み巡る。内面段はやや弱い。内耳に強いスレあり。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂含む。②中性焙か、やや軟調。③口縁部は内外ともに黒色。内底は標7.5YR6/6。④口縁外端にスス付着。
23 内耳	口 36.0 底 31.0 高 5.8	写個体	口縁上端は平坦。口縁内面の段やや強く凹線状になる。外面に指痕状の細かな凹み多い。外底に板状の圧痕あり。	①素地やや緻密。輝石の多い砂粒を含む。②中性焙か、やや硬調。③標7.5YR6/6。口縁外面黒色味強い。
24 内耳	口(27.0) 底 16.8 高 13.3	写個体	体部外面下半にやや粗な削り。内面は丁寧な布状具の擦痕だが、体部に指痕圧痕残る。内耳は細長く、口縁の凹み小さい。外底に靴状の圧痕あり。	①素地緻密。金雲母・パミスを含む。②中性焙か、やや軟調。③外面は黒色。内面はにぶい黄梅10YR5/3。④外面下半に薄いススの付着多い。内底縁辺にも付着物あり。
25 内耳	底(20.0)	図示部写	内耳は小さく、取り付けは雑で、口縁の凹みも小さい。外面下端に弱い削りの跡が残る。	①素地やや緻密。輝石まじりの細砂を含む。②中性焙か、普通。③内面黄灰2.5Y6/1。外面黒色。断面中央黒色。
26 内耳	口(32.4) 底(21.4)	口縁写 体部写	口縁端部は外方へ強く突出する。内面段やや強い。体部外面下半の削りやや強く、上半には指痕残る。	①素地普通。パミスまじりの細砂を含む。②中性焙か、③灰5Y5/1。④外面下半に薄くスス付着。
27 内耳	口(33.0) 底(25.0) 高 20.0	写個体	口縁は内凹気味で上端は平坦。体部外面上半に指痕残る。	①素地普通。金雲母まじりの灰色砂粒や多い。②酸化焙か、普通。③外面灰黄2.5Y6/2。内面標7.5YR6/6。

遺物観察表編

28 火鉢	底(42.0)	脚部破片	輪轆みか。体部下端の尖部は丁寧に貼り付け。脚部は貼り付け後、ヘラ状工具で調整。外面のみ雑なヘラ磨き。内面は平滑さ欠く。	①素地粗くザックリしている。バミス・赤褐色鉱物・細塵を含む。②中性焰、やや硬調。③外面黒色でイブシカ。内面灰5Y5/1。断面は黄色味強い。
29 摺鉢	口(26.0) 底 13.5 高 9.4	口縁瓦 底部瓦	輪轆みか。口縁上端に凹み巡る。鉚し目は11.4cmに5本で、細く浅い。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物まじりの細砂を含む。②中性焰か、普通。③灰白10YR7/1。断面は黒色。④内面の厚膜すずむ。
30 摺鉢	口(33.6)	図示部瓦	口縁端部は外傾し、内外両側へ突出する。外面下端に鋭い削り、内面鉚し目は2.6cmに7本で、断面は逆台形。	①素地普通。金質母まじりの細砂を含む。細塵も散見。②酸化焰、硬調。③焼5YR6/6。彩度の低いムラ・黒底あり。④残存部では厚膜少ない。
31 摺鉢	底(13.0)	図示部瓦	左回転ロクロか一回糸、ロクロ直観製でない。内面平滑。内底に鉚し目と思われる不明瞭な凹みあり。	①素地やや緻密。バミスまじりの細砂を含む。②中性焰、やや硬調。③外面黒色。内面灰黄2.5Y6/2。④内面残存部分は研磨したように平滑。
32 茶臼 (下臼)		図示部瓦	磨面とはんざり部欠く。接地面分やや平組。	①粗粒安山岩。②ピンク色味をおびる。③火熱を受け、一部すずけている。
33 石臼 (上臼)	径(30.4) 上縁部下幅 4.7 芯穴上径 4.1 芯穴下径 (5.0) 供給口上径 4.1	瓦個体	芯穴を調整して貫通させており、中段に段ができています。供給口は上縁部に近い。目は切縁主調型で6分画。磨溝数は7〜8本。溝間隔16〜14mm。下面縁辺を一部砥石として再利用。	①粗粒安山岩。石質やや細かい。②白色味をおびている。③上面中心に、破損前に火熱を受けている。
34 石臼 (上臼)	径(34.0) 供給口径 3.7 ふくみ 1.5	瓦個体	芯穴・供給口は円形。挽き手穴は小さく、四角形と思われる。挽き手穴付近には磨面から上面に貫通する円孔がある。6分画と思われるが、一部目をたて直しているため、不明確。溝数は本来7本のようなのである。	①粗粒安山岩。④上面は被熱。
35 石臼 (上臼)	径(26.0) 上縁部下幅 3.4 挽き手穴幅 2.7 供給口上径 3.7 芯穴径4.3 深さ2.1	図示部瓦	上縁部は打ち欠いている。目は振り直しによって放射状となる。溝幅は3mm前後で、溝内に敲打底が残る。ものくぼりの痕跡僅かに残存。	①粗粒安山岩。
36 石臼 (上臼)	径(30.0) 高 7.9 上縁高 2.7 上縁上端幅 2.4 上縁下端幅 3.4	図示部瓦	磨面の周縁は一部を残し欠損。溝間隔は1.7〜2.7cm。幅は3cm。溝はV字形に磨まれ、深さは2mm。	①粗粒安山岩。石質は粗い。
37 石臼 (上臼)	高 11.4 上縁高 3.2 上縁上端幅 2.6 上縁下端幅 3.7 芯穴深 1.8	瓦個体	溝は切縁主調型で、1.4cm間隔、2mm幅である。目は不明瞭。上縁は一部のみ遺存。	①粗粒安山岩。
38 石臼 (上臼)	径(31.0) 上縁高 2.2 上縁幅 3.3	図示部瓦	高さは6.5〜8.0cmで片減りが著しい。ものくぼりの一部残存。溝は不明。左回り。	①粗粒安山岩。石質は粗い。
39 石臼 (上臼)		図示部瓦	目は切縁主調型で左回り。溝間隔は2.5cm。幅は3mm。深さ1mm。磨面接触は平滑。上縁は欠損。上縁下部に貫通する小円孔がある。	①粗粒安山岩。石質は細かい。

40 石臼 (上臼)	径(30.0)	図示部写	上縁は欠損。溝は5本以上、分溝数は不明。芯穴は半分残存。他に周縁寄りに貫通しない不明円孔がある。また側面にも円形凹みの凹みがあり、擦り合わせ面は非常に粗い。上縁下端に貫通する不明孔の一部が認められる。	①粗粒安山岩。
41 石臼 (上臼)	径(31.8) 上縁部上幅 3.9 上縁部高 3.6	写个体	上縁部下端から外側へ抜ける二つの補助孔あり。芯穴の一部残存。目不明。上縁部は高く、整っている。	①粗粒安山岩。④外周縁辺、及び内面がすすけている。
42 石臼 (上臼)	径(30.0) 上縁部下幅幅 5.2	図示部小片	供給口一部残存。上縁部上端はアーチ状か。小片からの復元で怪不安。大型品の可能性あり。	①粗粒安山岩。
43 石臼 (上臼)	上縁部下幅幅 4.6 供給口径 (4.1)	図示部写	供給口一部残存。補助孔がかかっている可能性あり。磨面やや不整で目は不明。ふくみ大きい。	①粗粒安山岩。
44 石臼 (上臼)		図示部写	目は切縁主溝型。分溝数不明。溝間隔1.9~1.7cm。溝幅3mm、深さ1mm。	①粗粒安山岩。比較的石英は細かい。③灰白色。
45 石臼 (下臼)	芯穴径 3.1	写个体	目は不明瞭だが、切縁主溝の6分溝。副溝数は確認できないが、幅1.8cm程度と思われる。	①牛伏砂岩。石英は細かい。④破損後に火熱を受けている。
46 石臼 (下臼)	径(26.4) 芯穴径 (3.6)	写个体	目は切縁主溝型。8分溝。副溝4本で溝間隔2.2cm。溝幅は5~2mmだが、いづれも浅い。片減り少ない。	①粗粒安山岩。ピンク色味をおびている。④底面を中心に、破損前に火熱を受けている。
47 石臼 (下臼)	径(34.0)	写个体	高さは9.0~10.2cmで片減り著しい。周縁は良く磨かれている。溝間隔1.7cm、幅は2mm。芯穴は僅かに遺存。溝は不明瞭。	①粗粒安山岩。
48 石臼 (下臼)	径(29.0)	図示部写	成形・調整ともに能。溝間隔は2.3cm、溝幅は7mm。溝は不明瞭。	①粗粒安山岩。④欠損後に被熱。
49 石臼 (下臼)		図示部写	ふくみや大きい。磨面に擦痕多い。目は切縁主溝型。溝間隔2.0~1.7cm、幅2mm、深さ1mm。	①粗粒安山岩。③白色味をおびる。④破損前に火熱を受け、磨面のみすすけている。
50 石臼 (下臼)	径(29.0)	図示部写	周縁部の小片。溝間隔2.1cm、溝幅4mm。溝方向から右回転かと思われる。磨面は比較的平滑。	①粗粒安山岩。
51 石臼 (下臼)	径(28.0)	図示部写	磨面は欠損。高さ13.0cm以上と直径のわりには厚い白である。	①粗粒安山岩。
52 石臼 (下臼)	径(28.0)	図示部写	ふくみや大きい。目は不明瞭だが、残存部分の溝幅2mm、深さ1mm、下面は不整。	①粗粒安山岩。石英やや粗い。
53 石鉢	口(27.5)	図示部写	外面は加工痕と思われる細かな凹凸が全面に見られる。	①粗粒安山岩。大粒の混入物は少ない。④上端と内面は摩滅し、極めて平滑。

## 遺物観察表編

54 板碑	厚 2.2	主尊部破片	主尊は阿弥陀種子、種子キリクはイがアク点間を抜ける書体。種子・蓮座ともに浅い素研形。線刻の二条線の一部残る。	①緑色片岩。長石を多く含む。④碑面はやや摩滅がすすむ。裏面に横方向のノミ痕を数条残す。ノミ巾は1.0~1.1cm。
55 板碑	幅 18.5 厚 2.0	中部破片 (上下欠)	主尊は欠損し不明。紀年銘は「嘉元□年」か。紀年銘の左右に華蓋あり、一茎。左右の華蓋は大きき不均一。	①緑色片岩。微粒の長石を若干含む。④碑面はやや摩滅する。
56 板碑	厚 2.7	基(根)部破片	両面に斜方向のノミ痕を残すことから板碑の基部(地中埋没部)と考えられる。ノミ巾は1.2~1.3cm。	①緑色片岩。小粒の長石を少量、石英を微量含む。
57 五輪塔 (火輪)	納穴 7.0 屋根 13.2~12.6 幅 20.3 厚 29.7 高 14.1	完形	納穴内は皿底状に凹む。底面も丸味あり。工具痕は観察できない。	①粗粒安山岩。多孔質でやや軽量。④納穴底面摩滅し、内面に焼土付着する。
58 五輪塔 (火輪)	高 13.0	図示部破片	縁に鋭き欠く。孔内にやや強い工具痕残る。下方より丁寧な磨り込みみがおこなっており、石跡として再利用か。	①粗粒安山岩。
59 不明磁石 製品	長 15.5 幅 12.4	瓦形体	上面はやや丸味を持ち、4側面はいずれも平坦。下面のみ不平整だが、割口部分の可能性あり。	①磁石(二ツ岳)。④破損前に火熱を受け、すすけている部分広い。
60 不明磁石 製品		図示部破片	一端だけ、緩な平坦面が作り出している。厚さより五輪塔などを想定している。	①磁石(二ツ岳)。④二次火熱を受けていて、表面は脆弱化している。
61 砥石	長 15.5 中厚 7.4×3.6 端厚 8.5×4.2 重 823.7g	完形	短軸断面長方形。使用痕は両側面のみ顕著。正面は幅13mmの工具痕が明確。裏面は大きな割落面で使用痕なし。	①砥石。④全面強い火熱を受け、表面にスス付着。一側面のみ研ぎ減ってススが落ちている。磨痕細かい。
62 砥石	長 10.1 中厚 2.6×2.5 端厚 2.0×1.5 重 99.1g	埋土	短軸断面三角形だが、おじれた研ぎ減りのため形状は一律でない。小口面は未使用。	①砥石。きめ細かい。④使用痕は磨痕が主体となる。
63 小刀か	柄 0.32以下	上層 身部破片	錆化著しく不明瞭。柄のあることや材質から、刀柄と考えられる。	①鉄地金は良好。きたえは劣る。
64 古銭	径 2.39 孔幅 0.69 外輪部幅 0.27	ほぼ完形	元書通寶。文字は不明瞭。背は無文。初鋳1078年。	①銅銭。錆化する。④外輪部は内外面とも剥落し、他の銭と重ねてあったものと思われる。

## VI区 2号溝(第496図 PL.99)

No・番種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 硯	幅 8.1 高 2.6	埋土 下半欠く	外面側面に細かな、内面縁部に鋭い整形痕がある。他の面は平滑。	①泥岩。④火熱を受け、赤色味をおびる部分幅広い。表面に降灰物のような斑状の付着物あり。使用痕は明確でない。
2 小皿	口(11.2) 底(6.0) 高 3.0	北側埋土2片 口縁欠 底部欠	右回転クロー回永無調整。内底はレンズ状に太る。外縁幅狭な板状凹底。内底に鋭いナゲあり。	①黄地青透。赤褐色紅物のまじる砂粒を含む。②中性焙か、やや硬調。③橙7.5YR6/6。内面赤色のようあり。断面稜度低い。

3 小皿	口(11.0) 底(4.8) 高 3.1	北側埋土2片 口縁片 底部片	左回転ロクロー回糸無調整。口縁端部は直立する。外底に細かな板状圧痕。内面に弱い指痕のナデ。	①素地やや緻密。赤褐色灰物・輝石を含む。②中性焰か、やや軟調。③脱。外面5YR6/6、内面7.5YR7/6。④内面細かな割落すずむ。
4 小皿	口 11.0 底 6.1 高 3.0	北側埋土2片 口縁片 底部片	右回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕弱い。外底に板状圧痕僅かに残る。内底に弱い指痕のナデ。	①素地やや緻密。輝石の多くまじる砂粒を含む。②中性焰か、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。内外底に黒色のムラあり。④内底やや割落する。
5 小皿	口(12.8) 底 6.2 高 3.1	北側埋土 口縁欠く	左回転ロクロー回糸無調整。口縁外端は弱く肥厚する。外底に幅狭な板状圧痕。内底に弱い指痕のナデ。	①素地普通。輝石まじりの細砂を含む。②中性焰か、やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/4。内面は彩度低い。
6 小皿	口(11.1) 底(5.6) 高 2.6	北側埋土 片個体	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。底部著しく薄い。	①素地やや緻密。輝石・バミス・赤褐色灰物を含む。②中性焰か、普通。③明赤褐2.5YR5/6。断面まで一様。
7 皿 (青磁)	台(5.2)	埋土 図示部片	全面施釉後、接地面釉ハズ。青磁釉はやや厚い。貫入は見られないが、細かな気泡が顕著。	①緻密。②釉調はややくすんだ淡青色。内外面に鉄足が表れる。胎土は灰白色。③眼泉窓系。
8 板磚	厚 2.3	主尊部破片	主尊は阿彌陀種子。キリークのイーがアク点間を抜ける書体で、薬研形。種子の規模より小型板磚か。	①緑色片岩。細粒の長石を少量含む。④磚面はやや厚減する。

## VII区 3号溝 (第497・498図 PL.100)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(8.0) 底(6.6) 高 1.9	片個体	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕弱い。	①素地やや緻密。輝石まじりの細砂を含む。②中性焰か、やや硬調。③黒褐10YR3/1。一様。④口縁内外面に厚くスス付着。破損後に二次火焼を受ける。
2 石鉢	口(29.2) 底(16.0) 高 10.7	口縁片 底部片	口縁上端は平滑で、内面も丁寧に仕上げられる。外面下端に幅広く深い工具痕残る。	①粗粒安山岩。やや白色味をおびる。
3 石鉢	口(11.8) 底(14.0) 高 11.9	埋土	口縁は上方へ尖る。内面には長く鋭い窟位の磨痕あり。底面はやや平坦で安定性あり。	①緑石(二ツ岳)。④細かな傷が、外面下半に多い。
4 石鉢か		図示部片	ハツリ痕は見られず、内外面とも調整が丁寧。内面は特に目が整う。	①粗粒安山岩。④石臼の可能性あり。
5 石臼 (上臼)	径(32.6)	図示部片	上縁欠損。溝間隔は2.1cm、幅は2~4mm。左回り。	①粗粒安山岩。
6 石臼 (上臼)	径(32.7) 高 13.0~8.1 上縁厚上幅 4.0 上縁厚高 3.7 補助孔外径2.9~2.4	図示部片	形状の異なる補助孔2個あり。磨面やや不整で目は不明だが、ものくぼりの痕跡が残る。よくみやや大きい。片減り著しい。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。
7 石臼 (下臼)	高 8.5 周縁厚 6.8~5.5	片個体	片減りが著しい。目は切縁上溝型。7分画か4溝式である。左回転。溝間隔は3.3~2.2cm、幅4mm、深さ2.3mm。	①角閃石安山岩。

遺物観察表編

8 石臼 (下臼)	径(28.4) 高 10.8~ 8.5	瓦筒体	溝は僅かに遺存するのみで、数・分面数は不明。片減りが著しく、比高差は2.3cmである。ふくみは1.2cm。	①粗粒安山岩。
9 石臼 (下臼)	高 6.0	瓦筒体	溝は切縁主溝型。溝間隔は1.7~2.3cmを基本とするが、一部に古い溝が残っているため、8mm前後となっている部分がある。周縁の岩面は磨き減って光沢を持つ。	①粗粒安山岩。④焼後破損。

VI区 4号溝 (第499回 PL.100)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(10.0) 底( 5.6)	顯示部瓦	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。外底にゴザ状の圧痕僅かに残る。内底に弱い指痕のナダ。	①素地普通。パミス・輝石・赤褐色鉱物の少量まじり砂粒を含む。②酸化焰か、やや硬調。③明赤焼2.5YR5/8。一様。
2 椀 (陶器)	底(18.2)	顯示部瓦	外底に粗砂やや多く付着。内面は平滑で階降状の跡残あり。	①素地やや緻密。白色砂粒含む。②還元焰、硬調。焼結。③黄灰2.5Y4/1。内面は明度高く、断面中央は灰色。④常滑の可能性。
3 鉢	口(35.0)	口縁部小破片	右回転ロクロか。口縁外面のナダやや強く、上端は僅かに外方へ反る。外面のナダは丁寧だが、接合痕を残す。内面ナダは布状具の擦痕顯著。	①素地やや緻密。黒色鉱物・白色砂粒少量含む。②還元焰、硬調。③灰白7.5Y7/1。断面まで一様。
4 石臼 (下臼)	径(30.0) 芯穴径 2.9	瓦筒体	目はやや不明瞭。切縁主溝型の6分面と思われる。溝間隔は14mm前後か。ふくみや大きい。芯穴は平面方形に近い形状に残存している。	①粗粒安山岩。④裏面中心に破損後に火熱を受けるか。
5 石鉢	口 29.5 高 20.2	埋土 2片 瓦筒体	外面下半に強い削りの痕跡残るが、他は能かな突きのような凹凸見られ、上面は部分的に研磨したように平滑。	①角閃石安山岩。④口縁部内面に帯状に黒色の付着物が見られる。内底中央にも同様の淡い付着物あり。
6 砥石	長 9.2 中厚 4.4× 2.6 端厚 2.8× 1.1 重 94.1g	埋土 ほぼ完形	長軸断面三角形で、両側面を除く3面使用。1側面に加工痕がやや明瞭に残り、他の側面は無調整。	①砥沢石。やや緻密。鉄分少ない。③擦痕弱いが横方向のものがやや目立つ。
7 砥石	中厚 3.6× 1.7 重 62.1g	両端欠く	長軸断面三角形と思われる。溝面は不整部分広く、側面も平滑さ欠く。使用面は平坦。割口は無使用。	①砥沢石。きめ細かい。④使用痕は不明瞭。側面溝面に断面U字状の鋭い傷あり。
8 古銭	径 2.39 孔幅 0.70 外輪部幅 2.8	ほぼ完形	元豊通貨。背は無文。初鋳1111年。	①銅銭。やや錆化する。④外輪端部に細かい割落多い。
9 古銭	径 2.28 孔幅 0.68 外輪部幅 2.1	完形	寛永通貨。享保期の江戸鑄江銭か。背は無文で孔部太い。	①銅銭。錆化の影響少ない。
10 土罐	径( 2.4)	瓦筒体	外面に成形痕見えない。内面一部に較り目状のヒビあり。	①素地緻密。パミス・輝石まじりの細砂を含む。②酸化焰、普通。③焼7.5YR5/6。一様。

## VI区 5号溝 (第501~507図 PL.100・101)

No・器種	計測値 (cm)	出土・現状状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(10.6) 底(6.0) 高 2.5	口縁写 底部写	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ直はやや強い。外底にゴザ状の細かな圧痕僅かに残る。内底に指頭跡のナデ。	①素地普通。輝石・バミスマじりの細砂を含む。②酸化焰か、普通。③にぶい橙5YR6/4。ほぼ一様。
2 小皿	口(11.6) 底 6.3 高 3.6	口縁写欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。横ナデ弱く砂粒の動き少ない。切離しの糸が外底に鋭い傷を付ける。厚手。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂を含む。③酸化焰か、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。一様。
3 小皿	口 11.3 底 6.4 高 2.5	口縁写欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。口縁は肥厚する。外底に幅広い板状圧痕。内底にやや強い指頭圧痕のナデ。厚手。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物の多いバミスマじりの砂粒を含む。②中性焰か、普通。③明黄褐色10YR7/6。一様。④口縁端部に割口も含めて凹凸状の薄いスス付着。
4 碗 (陶器)	台(6.4)	図示部写	体部外面に、細かく丁寧な回転へう削りの痕が走る。全面に鉄軸を施す。	①素地緻密。白色砂粒をまばらに含む。③胎土は灰白色。軸は褐色で、鉛軸に近い黄色。④瀬戸・美濃系。
5 皿 (陶器)	口(6.4) 台(7.2) 高 2.5	口縁写 底部写欠く	内底に3か所、円錐ビンの痕あり。軸は志野軸で、外底は無軸となる。	①緻密。いわゆるモグサ土。③胎土は黄白色。軸は厚く、ガサガサしている。軸は光沢のない白色。④瀬戸・美濃系。口縁外端に凹凸状のスス付着。
6 香炉	口(11.4) 底 9.2	写像体	三足。口縁上端は平皿。内面のナデやや粗く、体部に細かな指頭痕残る。内底に強い指頭跡のナデ。外面幅広い丁寧な削きの後に、顔取による施文。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・バミスマを含む。②酸化焰、やや硬調。③明赤褐色2.5YR5/6。黒色・黄色味をおびるムラ広い。④軟質陶器。
7 香炉	口(17.2) 底(15.6) 高 6.0	図示部写	口縁上端平皿。口縁外面のナデは粗く上平に接合痕残す。脚部に指頭痕が走る。内底は丁寧な横ナデ状の擦痕が残る。	①素地やや緻密。バミスマ・輝石まじりの細砂を含む。②酸化焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/4。黒色のムラあり。④軟質陶器。
8 大鉢 (陶器)	中層埋土 図示部小片	大型品としては薄手。口縁上端の凹み強い。外面のロクロ痕やや強い。残存部全面に長石軸を施している。	①モグサ土。砂粒を少量含む。③軸調は透明。胎土は黄白色。④瀬戸・美濃系。	
9 釜 (陶器)	胴部小破片	外面に花卉意匠と思われるスタンプ施文あり。内面は削いたナデ。	①粗砂の混入多い。②酸化焰か、硬調。焼締。③外面は褐7.5YR4/3。内面は暗灰黄2.5Y5/2。④常滑系か。	
10 大皿 (陶器)	図示部写	左回転ロクロ→体部下端やや強い回転へう削り。外面でロクロ痕強く、内底は平皿。植物意匠の鉄軸の上に、長石軸を施す。	①粗砂の混入やや多い。③鉄軸は黒褐色。軸は灰色味をおびた黄色。素地は赤色味やや強い。④常滑系。	
11 楕鉢	底(13.0)	図示部写	左回転ロクロの回糸と思われる。外面体部は細かな指頭痕が残り、ロクロ痕は不明瞭。残存部分に削目なし。	①素地やや粗い。白色砂粒やや多い。②還元焰、やや硬調。③黄灰2.5Y5/1。断面灰色。④内面は使用痕顯著で平滑。在地系。
12 楕鉢 (陶器)	口(34.0) 底(14.6) 高(15.6)	埋土21片 一部接合せず 図示部写	口縁内端に幅広くやや浅い沈線走る。削目はいわゆる一本焼きで、断面U字状でやや深い。外面体部下端に回転へう削りか。ロクロ成形成は不明。	①素地緻密。細網サイズの内礫の混入多く、やや粗い。③断面浅黄褐色7.5YR8/3。断面赤色味強い。④内面下半は使用痕顯著で平滑。口縁内端も摩滅する。丹波系。
13 楕鉢	底 10.0	図示部写	左回転ロクロ→回糸無調整。外面は細かな指頭痕状の凹み多く、ロクロ痕不明瞭。削目は5~6単位で2.7cmに7本。	①素地緻密。バミスマじりの少量の砂粒以外、夾雜物は少ない。②還元焰、やや硬調。③灰3Y5/1。一様。④使用痕は底部縁辺で著しく斜落すすむ。在地系。

遺物観察表編

14 標鉢 (陶器)	底(9.4)	埋土 図示部写	右回転クローリ糸蓋調整。卸し目はやや細かく、1.7cm幅で10本。全面に鉄軸を施す。	①素地密着。夾雑物は希。②還元焰、硬調。③断面は灰黄2.5Y7/2。軸は紫色味をおびる褐色でややテリがある。④瀬戸・美濃系。
15 内耳	口(36.0) 底(33.6) 高 6.1	口縁写 底部写	口縁上縁は平坦。外面下半は強い型腐状で細かな凹凸多い。口縁内面の段は弱く、沈線状になる。	①素地普通。赤褐色鉱物・バミス・輝石を含む。②中性焰、軟調。③外底は橙7.5YR6/6。内底はふい黄橙10YR6/4。口縁は内外面とも黒色。
16 内耳	口(36.0) 底(33.8) 高 6.3	小破片	15に同巧。同一個体の可能性あり。内耳にスレあり。	①②③④15に同じ。
17 内耳	口(38.6) 底(36.4) 高 6.7	図示部写	口縁上縁はやや丸い。口縁外面中央に接合痕残る。内耳にスレあり。外面下半は型腐状。やや厚手。	①素地普通。バミス・輝石を含む。②中性焰、普通。③外底はふい橙7.5YR6/4。口縁は内外面とも黒色。
18 茶白 (上白)	上縁部下幅 3.5	V区6井戸出土片と接合 上半写 下半写	上縁部の残存僅か。目は切縁主溝型。溝は8分画。溝間5～3mmでやや不整。	①粗粒安山岩。③紫色味をおびる。④芯穴不明瞭だが、径は3.0cmほどになりそうである。
19 茶白 (上白)	上縁部上縁径 2.1 供給口上径 2.9 挽き手穴高 2.2 挽き手穴幅 2.0 挽き手穴深 3.3	埋土 写個体	挽き手穴周辺に、幅広く厚みのある円形装飾あり。底面外縁は打ち欠失。目は掘り直され、切縁主溝型の痕跡の一部に残す。溝間幅4～2mm。	①粗粒安山岩。④火熱を受けている。
20 茶白 (下白)	芯穴上径 (2.6)	写個体	はんざり部先端は、上方へ反る。磨面摩滅し目は不明だが、芯穴周辺に高まりが残る。外面は工具痕顕著。	①粗粒安山岩。④火熱を受けている。
21 石白 (上白)		図示部写	径が小さく、茶白型となる可能性。磨面摩滅し、目は不明。	①粗粒安山岩。茶白型であれば、石質きわめて粗い。
22 石白 (上白)		写個体	挽き手穴は方形。深さは7.1cm。上縁欠損。上縁下端から斜め下に向かう穿孔がある。摩滅により溝不明瞭。	①粗粒安山岩。
23 石白 (上白)	芯穴径 4.0 芯穴深 1.8		周縁と上縁は欠損。上縁下端には周縁に貫通する小円孔がある。磨面の溝は不明瞭。上面には凹みがあるが、中心が芯孔とずれていることから、転用時のものと推定される。	①粗粒安山岩。
24 石白 (上白)	高 13.0～12.4 上縁高 2.7 上縁幅 3.0	図示部写	供給口の一部残存。周縁は縦方向にノミで削られている。石質は細かく、磨面は平滑。溝は不明瞭。	①粗粒安山岩。③片減りが著しい。
25 石白 (上白)	供給口径 4.7	図示部写	武蔵型の上白。供給口が上縁部に接するようにならされている。ものくぼり一部残存か。目は確認できない。	①牛伏砂岩。石質粗い。③片減り著しい。
26 石白 (上白)		写個体。	供給口は4.0×4.5cmと大きい。片減りが著しく、比高は2.0cm。ものくぼりは摩滅し、回転方向は不明。溝は3本確認できるのみであり分画等は不明。	①粗粒安山岩。③摩滅は著しい。
27 石白 (上白)		図示部写	高さ12.3～10.8cmと片減りが著しい。上縁幅は4.0cmと広いが、高さは2.1cmである。供給口は大きい。よみみは非常に大きい。溝間幅は2.4～2.0cmと広いが、幅は1～2mmと細い。	①粗粒安山岩。



28 石臼 (上臼)	高 9.9~6.8 芯穴深 2.0 上縁高 2.0 上縁上端幅 2.2 上縁下端幅 4.0	瓦筒体	目は不明瞭。2カ所抜き手穴が認められるが、使用による摩滅により、磨面に露出している。	①粗粒安山岩。石質は粗い。④片減りが著しい。
29 石臼 (上臼)		図示部瓦	武蔵型石臼と思われる。上縁欠損。溝間隔2.2cm、溝幅5mm。	①中伏砂岩。石質は非常に粗い。
30 石臼 (上臼)		図示部瓦	上縁欠損。溝は切縁主溝型。周縁は比較的平滑で光沢がある。	①粗粒安山岩。
31 石臼 (上臼)		瓦筒体	上縁欠損。溝間隔は3.4~2.6cm、溝幅は6mmと非常に粗い。ものくぼりの一部は遺存。左回り。割れ口の一方は磨かれており、転用されている。	①粗粒安山岩。
32 石臼 (上臼)		瓦筒体	芯穴一部残存。上縁欠損。供給口は外側に斜めに穿っている。磨面にはものくぼりが浅く残存している。溝間隔は2.2~1.7cm、溝幅は3mmと粗い。左回り。	①粗粒安山岩。
33 石臼 (上臼)	高 13.3 上縁下端幅 3.5 上縁高 1.9	図示部瓦	上縁の断面形状や高さは場所によって異なる。磨面はごく一部残存。	①粗粒安山岩。
34 石臼 (上臼)	上縁高 3.1 上縁幅 3.2	図示部瓦	下面は欠損。	①粗粒安山岩。
35 石臼 (上臼)		図示部小片	上縁と外面の一部残存。上縁は僅かに形状がわかる程度で遺存が悪い。抜き手穴は整った方形で一辺1.1cm、深さは不明。	①粗粒安山岩。
36 石臼 (上臼)	径(28.0) 芯穴径 3.5 芯穴深 1.7	図示部小片	芯穴周辺破片。上面中央にも径7mm、深き3mmの小孔残存。磨面平滑だが目は不明。	①粗粒安山岩。④破損後に火熱を受け、すずけている部分広い。
37 石臼 (上臼)	上縁下幅 2.7	図示部小片	供給口一部残存。上縁部は幅の薄いもの。ふくみ大きい。目は不明。	①粗粒安山岩。重量。
38 石臼 (上臼)	上縁上端幅 3.5 上縁高 4.2	図示部瓦	図示部の下端は平滑で、抜き手の可能性強い。平面形状方形か。上縁部上端はやや平坦。	①粗粒安山岩。やや多孔質。
39 石臼 (上臼)	芯穴径 (4.2) 芯穴深 (2.1)	図示部小片	芯穴一部残存。切縁主溝型の目があるようだが、不明瞭。	①粗粒安山岩。
40 石臼 (下臼)	径 29.0 高 9.5 ふくみ 1.0	周縁の角を欠損	芯穴は円形。6分面で溝数は4本で、1カ所のみ5本。溝は太く、間隔も広い。芯穴下面はノミ痕明確に残る。	①粗粒安山岩。側面僅かに被熱。

遺物観察表編

41 石臼 (下臼)	芯穴中径(3.3)	写个体	ふくみ小さい。切縁主溝型で8分溝。溝深は8本、溝間隔1.4~1.2cm。溝は幅3~2mm。裏面は大きく凹み、幅太の敲打痕が多い。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。③黒色味をおびている。
42 石臼 (下臼)	高 10.9~ 7.6 芯穴径(3.7)	写个体	ふくみ小さい。磨面不整で目は不明。裏面はやや平坦。片減りする。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。
43 石臼 (下臼)	高 9.8 ふくみ 5.2	写个体	芯穴一部残存。溝は切縁主溝型。白は左回り。溝間隔は3.1~2.1cm、幅は2.1mm、深さ1mm。溝の一部はノミで壊されている。	①粗粒安山岩。
44 石臼 (下臼)		写个体	目は観察できない。側面も細かな剥落多く、平滑さ欠く。	①牛伏砂岩。石質は粗い。④破損前に火熱を受けて、一部すすけている。
45 石臼 (下臼)		図示部片	磨面の形状から下臼と判断した。目は残存しない。径40cmほどの大型品か。ふくみは小さい。	①牛伏砂岩。④破損前に火熱を受けている。
46 石臼 (下臼)		図示部小片	側面は遺存しない。溝間隔は遺存部外側で2.6cm、溝幅は6~5mm、深さ2mmである。	①粗粒安山岩。
47 石臼 (下臼)		写个体	芯穴の下半一部残存。磨面は摩滅して目は不明。片減り著しい。底面はやや平坦。	①粗粒安山岩。④破損後に火熱を受けている。下半縁部の大きな剥落多い。
48 石臼 (下臼)		写个体	芯穴・目は残存していない。ふくみや大きい。接地面の摩滅もすすみ、砥石等の転用の可能性あり。	①牛伏砂岩。④強い火熱を受けている。
49 石臼 (下臼)		写个体	口は残存しない。ふくみや大きい。底面の磨面すすみ平滑で、砥石の転用の可能性あり。	①牛伏砂岩。④強い火熱を受けている。
50 石臼 (下臼)			ふくみの状態から下臼と推定したが、目や芯穴等残存せず、縁部も欠失していて明瞭でない。	①牛伏砂岩。石質細かい。
51 宝篋印塔 屋蓋部			屋蓋部下面に径1.8cm、深さ3cmの方形の穿孔あり。碑面はノミによる削り出し後に広い磨き。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。③黒色味が強い。
52 宝篋印塔 屋蓋隅飾部			小型の屋蓋部破片。隅飾はやや開き立ち上がる。下部には3段の段を有す。碑面はノミによる削り出し後に、広い磨き。	①粗粒安山岩。石質は51に同一。
53 宝篋印塔 屋蓋部			屋蓋部より隅飾部にかかる部位片。碑面はノミによる削り出し後に、広い磨き。	①粗粒安山岩。石質は51に同一。
54 宝篋印塔 屋蓋部			屋蓋部下面、3段までの段が認められる。碑面はノミによる削り出し後に、広い磨き。	①粗粒安山岩。石質は51に同一。

55 不明石遺物			外形は立方体形を呈し、内部を上下に円筒状にくりぬき、正面に方形の通し穴をもつ。表面は丁寧な磨き。石髄もしくは石殻の一部か。	①粗粒安山岩。
56 五輪塔 (水輪)	中径 29.5 下径 22.5 高 16.3	完形	上面に小さく深い、下面に広く浅い凹みあり。上面の凹みに幅広い工具痕が残る。正面がやや扁平。	①角閃石安山岩。②強い火熱を受けて、一部黒色を呈す。また表面の剥落も多い。
57 五輪塔 (水輪)		図示部小片	天地不明。側面に工具痕と思われる細かな凹凸残る。	①粗粒安山岩。④破損前に側面に火熱を受け、一部すすけたように黒色味をおびている。
58 五輪塔 (地輪)		上面隅破片	天地不明だが、調整の丁寧さより上面と推定する。側面には磨いた跡あり。	①粗粒安山岩。④破損前に火熱を受け、一部赤変している。
59 五輪塔 (地輪)		図示部破片	天地不明。風化すすみ、加工痕は観察できない。	①粗粒安山岩。やや多孔質。
60 五輪塔 (地輪)	高 14.5	図示部破片	上面・側面は平坦に仕上げているが、底面は細かな凹凸多い。	①粗粒安山岩。④破損前に火熱を受けており、上面の一部がすすけている。
61 板碑	厚 2.5	下部破片	下部伸縁の一部が残る。幹線上に文字の一部あれど判読不可。	①緑色片岩。小粒の長石を少量含む。③碑面の厚減は少ない。裏面に横方向のノミ痕が残る。ノミ巾1.3cm。
62 板碑	厚 3.0	主尊部破片	主尊は阿勢陀種子。葉研形。縁刻の二条線あり。	①緑色片岩。小粒の長石を少量含む。④碑面は剥離はあるが、厚減は少ない。
63 板碑	厚 2.2	紀年銘部破片	紀年銘は「月廿四」と記す。年号不明。	①緑色片岩。小粒の長石を若干含む。
64 板碑	厚 2.6	破片	碑面には文字・種子等の痕跡なし。裏面に横方向のノミ痕を数条残す。ノミ巾1.4cm。	①緑色片岩。大粒の長石と雲母を少量含む。
65 板碑	厚 2.1	主尊部破片	主尊は阿勢陀三尊種子。キリークは欠損、サ(般若)・サク(勢至)の脇侍のみ残る。葉研形。蓮座はなし。	①緑色片岩。小粒の長石を多く含む。③碑面は風化し赤味をおびる。
66 石鉢	口(25.0)	図示部小片	小破片からの復元で、縁不安。内面に強い工具痕残り、器面に平滑さ欠く。	①粗粒安山岩。④破損後に二次火熱を受け、内面中心にすすけている。
67 石鉢	口(7.0) 高 5.6	坯体	器面は石質に比べて極めて平滑に仕上げられており、整形痕は認められない。平面形は楕円形になるようだ。	①粗粒安山岩。やや多孔質。④外底はすすけていて、破損前に火熱を受けた可能性。
68 不明石製品		坯体	楕円状の自然石の側面を、丁寧に凹みを掘り込んだ用途不明品。裏側にも小さな凹みあり。	①軽石(二ツ岳)。
69 砥石	長 9.9 中厚 3.8×2.8 端厚 2.8×1.1 重 127.1g	ほぼ完形	長軸断面美形の手持ち砥で、4面全面使用。使用面には凸面・凹面の両者あり。	①砥沢石。鉄分多く表面は褐色味強い。④磨痕は短く方向も不定。削り込むような鋭い傷がある。

遺物観察表編

70 砥石	長 9.4 中厚 3.7×2.6 端厚 3.4×0.5 重 101.0g	ほぼ方形	長軸断面菱形の4面全面使用。側面の み平組である。	①砥石。鉄分多い。④磨痕は両側面と縦位、他は 方向不定である。割口も一部研ぎ減って平組になっ ている。
----------	---	------	------------------------------	---

VI区 6号溝 (第508図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 石臼 (上臼)	高 7.5	瓦削体	芯穴一部残存。挽き手穴は方形を呈する が、一辺は2cm前後と小さい。目は 不明瞭。上縁は欠損後に調整されてい るためか、高さは4mmと非常に低い。	①粗粒安山岩。

VI区 7号溝 (第510図 PL.102)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(11.8) 底 5.4 高 3.2	口縁欠 底部欠	左回転クローロー回糸無調整。外底に幅 狭の板状圧痕。内底に一方の強い指 頭のナデ。	①素地普通。輝石・赤褐色鉱物を含む。②酸化焰か、 やや軟調。③におい橙7.5YR6/4。内面彩度低い。④ 内底に薄いスス状の付着物あり。
2 小皿	口 11.7 底 6.5 高 2.5	口縁欠欠	左回転クローロー回糸無調整。内面指頭 の弱いナデ。外底の一端に板状圧痕。 厚手。	①素地やや粗い。輝石・バミス・赤褐色鉱物を含む。 ②酸化焰か、やや軟調。③橙5YR6/6。断面まで一様。
3 小皿	口(12.0) 底 5.8 高 3.1	埋土3片 瓦削体	左回転クローロー回糸無調整。クロー痕 弱い。外底に幅狭な板状圧痕。内底に 指頭のナデ。	①素地普通。輝石やや多く、赤褐色鉱物を含む。② 酸化焰か、やや軟調。③橙7.5YR6/6。内面は彩度低 い。
4 襷鉢	底(14.0)	図示部欠	外面下端に弱い指頭圧痕ある。内面に 放射と斜格子を組み合わせた押し目あ り。底部薄い。	①素地やや粗い。バミス・赤褐色鉱物・輝石を含む。 ②中性焰、やや軟調。③内面下端はにおい黄緑10 YR6/3。外面・断面・内面一部黒色。④内面は全体 に使用痕顯著で平滑。
5 茶臼 (上臼)	高 10.7 上縁上端幅 2.4 挽き手穴一辺 2.0 挽き手穴深 3.8	図示部欠	菱形で幅の厚い挽き手穴周辺装飾を持 つ。磨面は摩滅すすり、目は不明。	①粗粒安山岩。茶臼型としてはやや粗い。④破損後 に火熱を受ける。
6 石臼 (上臼)	上縁幅 3.4	図示部欠	上縁部は平組。	①粗粒安山岩。④内面中心に、破損前に火熱を受け、 すなけている。

VI区 8号溝 (第511図 PL.102)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕		西側埋土 胴部小破片	組造り。外面に正格子の押し目。内面 に接合痕顯著。	①素地やや緻密。白色粗砂の混入多い。気泡まじる。 ②還元焰・硬調。焼締に近い。③暗灰黄2.5Y5/2。内 面は灰5Y5/1。④在地系か。

## 5 中世館跡出土遺物

2 石臼 (上臼)		図示部写	正面形状方形の挽き手が残存。円形の挽き手も隣接して配置か。全体に剥落多い。磨面は平滑だが目は不明。	①粗粒安山岩。石質粗い。④強い火熱を受けている。
3 茶臼 (下臼)	④芯穴上径 2.7	図示部写	はんざり部欠く。目は8分画と思われるが規則的でない。副溝数7～8本、溝間隔は4mm前後である。	①粗粒安山岩。2mm程度の鉱物多く、茶臼としては極めて石質粗い。
4 石臼 (下臼)	芯穴上径 3.2 下径 3.0	写個体	目は切線主溝型。6分画。副溝は7本以上か。溝間隔は1.8～1.5cm。芯穴は中端で深い段ができる。	①粗粒安山岩。④破損前に強い火熱を受け、剥落多い。

## VII 9号溝 (第512図 PL.102)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 板碑	厚 2.1	上左部破片	主尊は阿弥陀種子、キリクのエーがアク点間を抜ける書体。裏研形。二条線及び左右端の切り込みあり。側端部の面取りあり。	①緑色片岩。混入物は少なく微粒の長石・石英・雲母をごく少量含む。④碑面の磨減は少ない。

## VIII 11号溝 (第514～519図 PL.102・103)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(9.8) 底(5.6) 高 2.4	写個体	左回転ロクロ→回糸無調整。外面のロクロ痕やや強い。外底端に板状圧痕僅かに残る。内底に弱い指痕のナデ。	①素地やや粗い。輝石やや多く、赤褐色鉱物まじる。②中性焙か、やや硬調。③橙7.5YR7/6。ほぼ一様。
2 小皿	口(8.2) 底(5.2) 高 2.2	埋土 図示部写	右回転ロクロ→回糸無調整。口縁端部は直立気味。	①②1にほぼ同じ。③に比べ橙7.5YR7/4。断面まで一様。
3 小皿	口 9.4 底 5.5 高 2.9	ほぼ完成形	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。口縁は波状に大きく歪む。やや厚手。	①素地やや粗い。パミス・赤褐色鉱物・輝石を含む。②中性焙か、やや硬調。③に比べ橙7.5YR6/4。断面まで一様。
4 小皿	口 10.0～9.8 底 6.4 高 2.2	完成形	左回転ロクロ→回糸無調整。口縁内外に緩い凹み巡る。内底に渦巻き状の整ったロクロ痕残る。	①素地やや粗い。輝石多く含む。赤褐色鉱物・パミスまじる。②中性焙か、普通。③に比べ橙7.5YR6/4。外面一部黒色味をおびる。
5 小皿	口(10.0) 底(5.4) 高 2.5	西側中層埋土 図示部写	左回転ロクロ→回糸。ロクロ痕弱い。口縁外端小さく凹む。3に類似する。	①②1にほぼ同じ。③に比べ黄橙10YR6/3。
6 小皿	口(9.8) 底(5.0) 高 2.8	埋土 図示部写	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。内底に弱いナデ。	①素地粗くボソボソ。輝石・パミス等のまじる砂粒含む。②中性焙か、やや硬調。③浅黄橙10YR8/3。断面まで一様。
7 鉄鉢皿 (陶器)	口(11.2) 台(6.0) 高 2.6	埋土 写個体	鉄鉢は口縁上端と見込に圈線。体部に唐草風の植物意匠。長石軸を全面に施す。外底に円錐ビンの破片が接着している。	①やや緻密。②鉄鉢は淡い褐色に発色。長石軸はやや灰色味をおびる。大粒の気泡が多く、貫入は少ない。④瀬戸・美濃系。

遺物観察表編

8 鉄地皿 (陶器)	□(11.4) 台(6.2) 高 2.9	埋土 片断体	鉄地は口縁内端と見込に太い黒線、体部に植物意匠を加える。内底に円盤ビンの痕跡あり。全面に長石釉を施す。	①素地やや緻密だが、細塵まじる。②鉄地は暗褐色に黄色。長石釉はやや灰色味をおびる。買入は細かい。③瀬戸・美濃系。
9 皿 (陶器)	□ 11.6 台 6.4 高 2.6	完形	厚手で重量である。高台は低い。志野釉は全面に施され、灰色味が強く、鼠志野風である。組買入顯著。3カ所の円盤ビン痕あり。	①モグサ土。粗砂の混入やや多い。②釉調は灰色で一部白色。③瀬戸・美濃系。口縁端部に細かな剥落多く、一部で痣状のステッピング。
10 天目茶碗 (陶器)	□ 10.6 台 4.6 高 6.6	口縁欠穴	やや厚手で、重量である。高台の削り出しはやや少ない。鉄釉をやや薄く施している。	①素地やや緻密。気泡含み、ブクを生じている。②釉調は胎釉に近い。一部黒色味をおびている。胎土は灰白色。③瀬戸・美濃系。
11 皿 (陶器)	□(14.6) 台(7.8) 高 2.9	片断体	口縁端部は小さく外へ折れる。高台端部と外底を除いて厚く長石釉を施す。見込に円盤ビンの痕跡あり。	①モグサ土。混入物少ない。②長石釉は乳白色。無釉部分は赤色味をおびる。やや粗い買入が見られる。③瀬戸・美濃系。
12 香炉 (陶器)	□(10.4)	図示部写	ロクロ成りや強い。釉は長石釉か。内面下半は無釉。下面下端は軸ハズカ。組買入あり。	①モグサ土に近い。②釉調は透明で、やや灰緑色味をおびる。胎土は灰白色。③瀬戸・美濃系。口縁端部の剥落すすむ。
13 天目茶碗 (陶器)	台 5.4	図示部中高台欠穴	高台は細くやや高い。外底中央は突出気味。鉄釉を施す。	①モグサ土。粗砂少量まじる。②鉄地は黒色で光沢は弱い。③瀬戸・美濃系。接地部は摩滅がすすむ。内底ややカサしている。
14 瓶子 (陶器)		図示部写	外面割縁部に3条の辻線巡る。内面より粘土地を貼付し、器壁の薄くなった部分を補強している。釉は長石釉か。	①素地やや緻密で、細砂混入する。②胎土は灰色味が強い。釉はオリーブ色で透明。③瀬戸・美濃系。
15 徳利か (陶器)	台(11.0)	中層埋土2片	底部細糸無調整。内面ロクロ成り粗く、無釉であることから袋物。外面鉄釉と思われる。明瞭な組買入あり。	①緻密で混入物少ない。②素地は灰白色。釉は透明で灰緑色味をおびる。③瀬戸・美濃系。
16 陶瓶		中層埋土 図示部小片	上端はすべて欠失し、底面も剥落すすみ、形状の観察難しい。内面にはやや粗い磨痕が残る。	①素地やや緻密。夾雑物少なく良好。②還元焰、普通。京志野より軟質陶器に近い。③灰7.5Y6/1。ほぼ一律。
17 大甕 (陶器)		体部小片	接合痕より、体部下半の破片。内面に指頭状の小さな凹み多い。外面にスタンプの施文あり。	①素地緻密。白色細塵の夾雑やや多い。②還元焰、焼締。③外面に白赤褐5YR4/4、内面黄灰2.5Y4/1。④常滑系。
18 大鉢	直径50cmほどか	口縁部小片	右回転ロクロか。外面に半球と14葉のスタンプ施文を施し、直下に辻線が巡る。上面は平滑。	①素地普通。パミス・輝石まじりの細砂多い。②還元焰、普通。③に白灰7.5YR5/4、断面中央黒色。④在地系。
19 擦鉢	□(28.4)	図示部写	ロクロ使用の痕跡認められない。内面に弧状の跡が目僅かに残る。	①素地普通。輝石まじりの細砂を含む。②中性焰、やや硬調。③に白灰7.5YR6/3。断面中央黒色。内面上半に剥落多い。
20 擦鉢 (陶器)		図示部写	右回転ロクロ。外面体部下半に削りあり。削り目は3.3cm幅で17本。外面下端を除く全面に鉄釉を施す。	①素地緻密。細塵を少量含む。②還元焰、硬調。③内面下端及び断面は黄灰2.5Y7/3。釉は紫色味をおびる褐色で、ややチリがある。④瀬戸・美濃系。
21 内耳	□(30.0) 底(27.0) 高 5.6	図示部写	口縁上端は平組で浅い凹み巡る。口縁外面下半に複合傾斜く残り、下側に弱い凹みあり。口縁上半は内筒気味で外端は弱く突出する。	①素地普通。細砂を少量含む。②中性焰、やや軟調。③内底は灰黄褐10YR5/2。口縁は内外面とも黒色。

22	内耳	口(34.0) 底(31.2) 高 6.0	口縁写 底部顯示部写	口縁上縁は平坦で弱い凹みあり。口縁外縁は端部に緩かな指痕状残り、上半に接合痕残り。下半に強い指痕状。内耳は扁平で取付けは細い。	①赤地やや緻密。細砂を少量含む。②中性焰、普通。③内底はにぶい貴焼10YR7/3。口縁外面・前面中央は黒色。
23	内耳	口(38.6) 底(34.2) 高 5.7	口縁写 底部写	口縁上縁は平坦。外面下縁は強い型磨状で圧直多い。内耳は扁平で取付けはやや薄。口縁内面のナガは縁で取付。内底は横ナメ状。	①赤地やや緻密。赤褐色灰物や多くまじる細砂を含む。②中性焰、普通。③内底はにぶい貴焼10YR5/3。口縁は内外面とも黒色。
24	内耳		耳部破片	口縁上縁は平坦で内傾する。内耳は細く、口縁の凹み小さい。薄手。	①赤地やや緻密。金賞母細砂の目立つ砂粒やや多い。②酸化焰、普通。③焼5YR6/8。一様。
25	茶臼 (上白)	上縁部下幅 2.5 芯穴径(2.1) 挽き手穴縦幅 2.0 挽き手穴深 3.0	瓦筒体	挽き手穴は方形で、やや上向きに穿たれる。周囲に円形の裝飾あり。目は10分画と思われる。潤滑は不明瞭だが、潤滑幅2mm以内で、極めて狭い。	①粗粒安山岩。
26	茶臼 (下白)	芯穴径(2.0)	顯示部写	はんざり部欠く。磨面やや不整で目は不明。摩滅すすみ。低い。接地面極めて平坦になっている。	①粗粒安山岩。④底面中心に、破損後に火熱を受けている。
27	石臼 (上白)	高 9.9 上縁高 4.5 上縁上幅幅 3.1 上縁下幅幅 4.5	顯示部写	挽き手穴は一片3.3cmと考えられ、遺存部に認められるものは、使用不能になっていると考えられる。挽き手穴周囲には貫通する小円孔がある。目の遺存は良好である。	①粗粒安山岩。石質は粗い。
28	石臼 (上白)	上縁下幅 3.7	顯示部写	上縁部欠失。供給口の一部ともくぼりが残存。目は観察できない。供給口の穿孔は、中ごろに段差を生じる。	①粗粒安山岩。④一部火熱を受けている。
29	石臼 (上白)	供給口上径 4.6	瓦筒体	上縁部欠失し、痕跡を残さない。目は不明で磨面も不整。	①粗粒安山岩。石質極めて粗い。
30	石臼 (上白)		顯示部写	挽き手穴の縁辺が残存。径2.5cmほどの小さな穴のようだ。上縁部は欠失部分広い。ふくみ大きい。目は不明。	①粗粒安山岩。④火熱を受け、上面と底面がすすけている。
31	石臼 (上白)	高 11.1 上縁高 3.1 上縁上幅 2.6	顯示部小片	上縁部は高く整っている。目は不明瞭だが、幅3mmほど。ふくみ大きい。	①粗粒安山岩。やや軽量。
32	石臼 (上白)	高 7.4~6.4 上縁幅 2.8 供給口上径(4.8)	顯示部写	上縁部は外方へ弱く傾斜している。磨面不整で目は不明。片減り著しい。	①粗粒安山岩。石質粗い。
33	石臼 (上白)		顯示部写	供給口ともくぼり一部残存。磨面は不整だが使用痕顕著。目は不明。	①粗粒安山岩。④破損後に強い火熱を受け、すすけている部分広い。全面に剝落すすみ。
34	石臼 (上白)	高 12.6 上縁高 2.5 下幅幅 3.6 上幅幅 3.0		潤は2.5cm間隔3mm幅で明瞭に残る。磨面の周縁から3cm程内側は、0.6cm潤滑状に凹んでいる。	①粗粒安山岩。
35	石臼 (上白)	上縁下幅(3.9)	顯示部写	正面形状方形の挽き手穴半分残存。上縁部欠失。裏面やや不整で目も不明。ふくみ大きい。	①粗粒安山岩。

遺物観察表編

36 石臼 (上臼)	高 7.7~ 6.9 上縁部下幅 3.9	図示部小片	武蔵型石臼。上縁部は外傾突味。磨面不整で、目は不明。片減りが著しいものと思われる。	①牛伏砂岩。④破損後に、下面中心に強い火熱を受けている。
37 石臼 (上臼)	上縁上幅 3.6 補助孔外径 2.9 最狭部径 (0.9)	図示部小片	上縁部片で、補助孔が一つ穿たれている。補助孔は外側で広く、中央で細くなる。上縁部内側の削りも強い。	①粗粒安山岩。③ピンク色味をおびる。④破損前に火熱を受けている。
38 石臼 (上臼)	上縁上幅 3.3 補助孔外径 (2.4)	図示部片	上縁部上面は平坦。磨面の残存は僅かで目は不明。ふくみのかなり大きなものと思われる。補助孔一部残存。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。
39 石臼 (下臼)	芯穴上径 5.0 芯穴中径 3.4	片断体	磨面不整で目は不明。底面にはノミ状の工具痕が、放射状に息長く残る。芯穴は中程で段ができる。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。
40 石臼 (下臼)	高 8.4~ 7.5	片断体	芯穴部分不明瞭。磨面は平滑。目は溝間隔2.5cm、幅1mm。分画数不明。下面に息長い工具痕残る。片減りする。	①粗粒安山岩。石質はやや細かい。④火熱を受けている。
41 石臼 (下臼)		片断体	ふくみは小さい。目は溝間隔3.0cm、幅3mm、深さ1mm。下面は平滑で、砥石に転用している可能性あり。	①粗粒安山岩。④火熱を受けている。側面の剥落すずむ。
42 石臼 (下臼)	高 6.0~ 5.3	片断体	片減りが認められる。磨面中央(芯穴と周縁の中央)は、1mm程凹んでおり変形している。目は不明瞭。接触部のみ平滑。	①粗粒安山岩。
43 石臼 (下臼)	高 7.0~ 5.9	図示部片	片減り著しい。ふくみはあまり大きくないようだ。目は不明。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。④火熱を受けている。
44 石鉢	口(32.6)	図示部片	石材の細かな凹凸が表面に残り、調整痕は観察できない。内面やや平滑。	①粗粒安山岩。やや多孔質。④外面一部に、破損前の火熱を受けた痕跡あり。
45 石鉢	口(21.2)	図示部片	傾き不安。径30cmを超える大型品の可能性あり。内面に細かな突きの痕跡が顕著。	①粗粒安山岩。③黒色味強い。④上端がやや摩滅するが、他に使用痕は観察できない。
46 石鉢	口(13.8) 高 5.5	片断体	内面に幅広く顕著な工具痕が放射状に並ぶ。外周もハツリ状の工具痕が、不明瞭だが観察できる。	①粗粒安山岩。④内面やや摩滅する。破損前に火熱を受け、外面中心に黒色味をおびる。
47 石鉢	底(15.1)	図示部片	表面は細かな凹凸多いが加工痕は観察できない。外底は僅かに上げ底状か。	①粗粒安山岩。④内面はやや摩滅する。
48 石鉢	高 8.7	片断体	4足の付く方形の容器である。内底は皿底状で、外底も丸味がある。底部中心付近まで残存すると思われる。大型品にはならないようだ。	①輝石(ニツ岳)。④破損前に火熱を受け、内外面とも一部すけています。脚の接地部分はやや摩滅している。口縁部内側の細かな剥落が多い。
49 板碑	厚 2.1	主尊~紀年銘部 破片	主尊は何弥陀尊種子。キリクの一部が残る。種子・蓮座は薬研形り。紀年銘は「文和三(1354)年」	①緑色片岩。細粒の長石を少量含む。④碑面の磨滅は少ない。裏面に横方向のノミ痕を残す。ノミ巾は0.9~1.0cm。
50 板碑	厚 3.4	中部破片	3~4cmの厚さより大型の板碑か。碑面は磨滅。脇侍の蓮座らしきものが残る。裏面にはノミ痕は残らず。	①緑色片岩。



## 5 中世館跡出土遺物

51 板碑	厚 2.7	中部破片	蓮座のみ残る。葉研形で、厚さとの関係から三尊聯符の蓮座か。	①緑色片岩。小粒の長石を多く含む。④破面は磨減が著しい。
52 板碑	厚 2.2	中部破片か	主尊不明。「十」の文字が残るが、紀年銘ではなく、十方世界の一部か。	①緑色片岩。粗〜小粒の長石を多く含む。④破面はやや磨減する。
53 五輪塔 (空風輪)	空径 17.5×16.0 中径 13.6×12.7 風径 15.8×14.8 下径 11.6×10.3 高 18.5	完形か	物のない形態か、欠失したものは不明。表面平滑さ欠くが、工具痕観察できない。ややいびつ。	①粗粒安山岩。多孔質。④側面に火熱を受けていると思われ、一部黒色味をおびる。
54 五輪塔 (火輪)	枘穴(5.4)	3 隅欠く	屋根高く、稜の鋭い整った形態。底面に細かな工具痕が残るが、屋根や軒部は平滑に仕上げている。	①粗粒安山岩。黒色鉱物やや目立つ。④破損後に火熱を受け、部分的に黒色味をおびたり、薄く赤変している。
55 五輪塔 (火輪)	軒高 4.5	指示部破片	屋根部・軒部に不明瞭な工具痕残る。底部に息長く、強い工具痕残る。	①粗粒安山岩。黒色鉱物やや目立つ。
56 五輪塔 (火輪)		指示部小片	表面不整だが加工痕は観察できない。底面は平坦。	①粗粒安山岩。やや多孔質。
57 五輪塔 (火輪)		指示部破片	屋根が高く、反りの弱いものと思われる。底部は僅かに凹む。表面は平滑さにやや欠く。	①粗粒安山岩。③灰色で割口は一部でピンク色味がある。
58 五輪塔 (火輪)		指示部破片	屋根が低く扁平である。枘穴の下半が残存し、かなり径の大きなものになると思われる。器面不整で底面の凹凸が大きい。	①粗粒安山岩。多孔質。④枘穴内部がやや摩滅するか。破損前に火熱を受け、一部ですすけたように黒色味をおびる。
59 五輪塔 (水輪)		指示部破片	表面細かな凹凸で平滑さ欠くが、調整痕は観察できない。	①粗粒安山岩。③白色味が強い。④破損前に火熱を受け、一部すすけたように黒色味おびている。
60 五輪塔 (地輪)	幅 26.9~26.1 厚 25.1~24.4 高 21.1	ほぼ完形	上面4隅は圓取り状に角を落とす。上面は大きく凹み、強い工具痕残る。底面は器の底のような、直線的で深い溝が多い。	①粗粒安山岩。やや大粒の混入物含む。④側面に火熱を受け、黒色味をおびる部分あり。
61 五輪塔 (地輪)	幅 24.5 厚 24.4 高 20.6	ほぼ完形	幅と厚みが等しく、稜の鋭い整った形態。上面は大きく凹み、幅広い工具痕が僅かに残る。	①粗粒安山岩。多孔質。④全面に強い火熱を受けており、黒色味をおびた部分あり。一部に焼土付着する。
62 五輪塔 (地輪)	高 14.6	3 隅欠く	表面の平滑な面を上面とした。底部は凹凸多いが、隅は圓取り状に角を落とし平坦になる。	①粗粒安山岩。白色味が強い。黒色鉱物やや目立つ。
63 砥石	中厚 3.1×2.5 重 114.6g	両端欠く	長軸断面菱形で、主な使用面は正面と裏面。両側面は調整の工具痕残り、使用面は狭い。割口は無使用。	①砥沢石。鉄分やや多い。④横方向の使用痕やや目立つ。
64 砥石	長 11.7 中厚 4.4×3.7 端厚 1.8×0.7 重 206.8g	埋土 完形	長軸断面菱形の手持ち砥の4面全面使用である。使用面には凸面と凹面の両者あり。	①砥沢石。混入物少なく良質。鉄分も少ない。④磨痕は短く、方向不定。正面のみやや鋭い。

遺物観察表編

65 砥石	中厚 3.8×3.0 重 155.0g	埋土 両端欠く	長軸断面菱形で裏面の一部を除く全面使用。使用面は平坦、もしくは凹面。割口は無使用。	①砥沢石。鉄分多く赤褐色を呈す。④使用直は正面のみ縦位で他は横位、または斜位中心。正面のみ長い擦痕が残る。
66 砥石	長 10.1 中厚 3.7×3.4 端厚 2.8×1.2 重 133.6g	ほぼ完形	長軸断面三角形の手持ち砥で、3面使用。不使用面は不整形だが、原石面ではない。使用面は凸面と凹面の両者あり。	①砥沢石。鉄分は少ない。④擦痕は短く、方向もやや不定。
67 砥石	長 11.4 中厚 3.5×2.9 端厚 2.6×0.6 重 126.0g	ほぼ完形	長軸断面菱形で、両側面に幅1cmの調整痕あり。全面使用だが、側面の使用は僅かである。	①砥沢石。鉄分多く表面の褐色味強い。④擦痕は方向不定で、短く不明瞭である。
68 砥石	長 16.2 中厚 8.0×3.8 端厚 9.4×4.0 重 747.3g	完形	下白の転用品。砥石としての使用が明瞭なのは一面のみ。上面は長い凹みが重なった状態。	①粗粒安山岩。④強い火熱を受けている。ススの付着多い。側面の擦痕は不明瞭。
69 砥石	長 14.8 中厚 4.6×3.8 端厚 2.9×1.0 重 222.4g	中層埋土 端部欠く	長軸断面三角形の手持ち砥で、4面全面使用。両側面平滑さ欠く。正面一部丸く凹む。背面は中央から陥へ凹面。	①砥沢石。鉄分多く表面は褐色。④擦痕は不規則だが、両側面やや平直。
70 砥石 (寛砥)	長 11.7 中厚 7.6×7.3 端厚 6.0×5.3 重 501.8g	半欠品	短軸断面五角形で、小口側を除き全面使用。長軸断面は糸巻き状となる。使用面は凹面になる。	①粗粒安山岩。1cm大の角礫を含有する。④細かな擦痕は不明瞭。短い鋭い傷がある。ベンガラ状の付着物あり。
71 古銭	径 2.34 孔径 0.68	完形	至和元寶か。文字不明瞭。背は無文。初銭1054年。	①銅銭。④外輪部幅表1.9mm、背4.6mm。

VIX 12号溝 (第520図)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①土土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 内耳	口30.6	図示部欠	内面胴部に輪模み状の凹凸あり。口縁上端は平坦。口縁ナデは粗い擦痕が残る。外面下半にナデに近い弱い削り。	①赤地やや粗い。バミスの多い細砂を含む。②中性焙。敷調。③内面はよい黄褐色10YR5/3。外面は黒色。④外面全体にスス付着。
2 石臼 (上臼)	高 8.6~6.2 上縁上幅 3.6	図示部欠	上縁部内側下端は丸味が強い。磨面やや不整で目は不明。片減り著しい。よくみまきわめて大きい。	①粗粒安山岩。多孔質で軽量。③黒色味強い。

## VII区 4号溝 (第521・523図 PL.103)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 碗 (磁器)	台(3.6)	図示部写	印版。高台の外側2条、内側1条の圈線を加える。高台端部軸刺ぎ取り。	③呉須はベロ藍。白磁軸は透明。
2 小杯 (磁器)	口(8.0)	図示部写	いわゆるクロム青磁。外面に縦位の不規則な削りの後、全面に厚く施軸。軸には不揃いの気泡を多量に含む。	①素地緻密。③軸は淡く鮮やかな青緑色。胎土は白色。④大正期以後。
3 皿 (磁器)	口11.2 台6.0 高2.7	口縁写欠く	内面は銅版型摺りの上に、手描きの呉須で水を書き加える。外面は体部下縁に呉須の2条圈線。高台端部軸刺ぎ。	③型摺り部分は黒色。呉須はベロ藍で鮮やかな亮色。軸は透明。
4 火鉢	口(24.0)	図示部小破片	外面は磨きの後に横物意匠のレリーフあり。花は同型の刻印、他は緑調である。内面は平滑き欠く。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい値7.5YR5/4、外面黒色のムラ広い。
5 鉢	口(30.0)	口縁小破片	右回転クロコカ。口縁は丸く、横ナデは丁寧。	①素地緻密。パミスを含むが夾雑物少ない。②還元焰、硬調。③灰N6/0。断面中央は暗赤灰色。④内面平滑。在地系軟質陶器。
6 火鉢	口(38.0)	口縁写	口縁上端はやや内傾している。内端は幅広い凹み走る。外面のナデやや雑。口縁より穿孔している。	①素地やや緻密。細砂を含むが夾雑物は少ない。②還元焰、硬調。③灰10Y4/1。一様。④在地系軟質陶器。
7 石臼 (上臼)	上縁下径4.3 上縁高3.4	図示部写	上縁部上端はアーチ状。内側に片口状の凹みあり。ふくみはやや小さい。書面やや不整で目は不明。	①粗粒安山岩。
8 板碑	厚2.0	主尊付近破片	主尊は阿弥陀三尊種子。脇侍(観音)のサのみ残る。蒸研形。脇侍にも蓮座あり。右側に枠線あり。文字は「光明園開十方世界」の一部。	①緑色片岩。長石は殆ど含まず、雲母を含む。③碑面の磨滅は少ない。
9 板碑	厚4.2	右上部破片	主尊は阿弥陀種子。キリクの一部残る。二条線及び左右端の切り込みが残る。枠線あり。大型板碑。	①緑色片岩。混入物少なく、細粒の長石を僅かに含む。

## VII区 5号溝 (第524図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 鉢 (陶器)	口(32.8)	図示部写	口縁のナデはやや雑。内面のナデは工具使用で、強く丁寧。内面に霜降り状の降灰軸。	①素地普通。黒色鉱物まじりの砂粒を含む、やや大粒の長石散見。②中性焰、硬調、焼締。③にぶい赤褐色2.5YR5/3。内面は褐色味強い。④常滑か。
2 内耳		耳部小片	口縁は平直で内傾している。耳の取り付けも丁寧で、口縁部の凹み大きい。	①素地普通。②酸化焰、やや硬調。③浅黄2.5Y7/3。内面はにぶい黄褐色10YR7/3。

## 6 道路跡出土遺物

## I 区 1号溝 (第527図 PL. 104)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	口(11.4)	図示部残	右回転ロクロか、天井部は左回転ロクロ上でヘラ削り、口縁端部はやや平形。カエリ直下に沈線が通る。	①素地やや粗い。石英・パミスまじりの粗砂や多い。②還元焰、普通。③灰7.5Y6/1。一様。④口縁端部やや摩滅。
2 杯 (S)	口 13.1 底 6.3 高 3.9	埋土5片 口縁上半片欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。口縁僅かに外反する。ロクロ痕は弱く、内面は平滑。口縁に重みあり。	①素地普通。パミス・長石まじりの砂粒を含む。②還元焰、やや軟調。③暗緑灰10GY4/1。底部は内外面とも重焼き状に褐色味強い。
3 壺か (S)	底(4.8)	埋土 図示部残	手づくぬか。内面は強いナデ。器面に平滑さ欠く。外面全面火表となっており輪付着。窯道具の可能性もあり。	①素地極めて緻密で器器に近い。砂粒の混入まれ。②還元焰、硬調に焼き締まる。③緑黒5G17/1。光沢あり。内面は灰白10Y7/1。断面はセピア色。
4 皿 (陶器)	口(11.2) 台(5.8) 高 2.6	埋土 図示部残	右回転ロクロ→高台削り出し。外面下半に2段の鋭い回転ヘラ削り。施釉は灰釉を外面上半と内面全面。内底は重焼きの高台部分で釉が割られる。	①素地緻密。黄白色の粗砂まじる。②釉は緑色味をおびた灰色。素地は灰黄色。③瀬戸・美濃系。
5 磁石	塊厚 4.2×2.0	埋土 半欠品	長軸断面赤巻き状。短軸断面長方形で割口を除く5面使用。小口以外の各使用面は割い凹面となる。	①砥沢石。混入物あり。鉄分やや多い。②磨直は長軸方向が主体。

## I 区 2号溝 (第527図)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	底(6.6)	埋土2片 口縁下半片 底部残	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内外面ともやや強い。	①素地やや緻密で夾雑物は少ない。②中性焰か、軟調。③黒7.5YR2/1。割口まで一様。④破損後強い二次火熱を受ける。

## III区 4号溝 (第528図 PL. 104)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土罐	幅 2.6 長 4.7	埋土 完形	指面の押圧痕僅かに観察できる。内面に棒状の圧痕残る。	①素地普通。煤石含む砂粒やや多い。②還元焰、普通。③によい黄緑10YR7/3。一様。

## III区 5号溝 (第528図)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (陶器)		肩部破片	外面上半には、強いナデによる縦位の圧痕あり。内面は平滑さ欠く。外面に降灰釉多い。	①細砂等を含むが、大型品としては混入物は少ない。②表面褐色。自然釉は黄緑色。胎土暗灰色。③常滑系。

## 7 溝出土遺物

I区 3号溝 (第530図 PL.104)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 蓋 (S)	口(13.4)	埋土 図示部残	右回転ロクロ→天井部回転へラ削り。 ロクロ痕弱い。小破片からの復元で蓋 みも著しく、口径・傾きとも不安。蓋 杯の蓋である。	①素地普通。バミスマじりの砂粒多い。②還元焰、 やや軟調。③暗青灰5YR3/1。断面明成高い。
2 杯 (H)	口(13.6) 高 3.0	埋土5片 写側体	口縁のナデ粗い。口縁上端内側に肥厚 するが、厚み一様でない。外面の削り は厚減し不明瞭。内面のナゲ丁寧。蓋 な造りで器面の凹凸大きい。	①素地はやや緻密で、少量の砂粒以外に夾雑物少な い。②酸化焰、やや軟調。③褐7.5YR4/6。一様。
3 杯 (H)	口(13.2)	埋土3片 図示部残	口縁は丁寧でやや強いナデ。端部は内 側へ小さく肥厚。外面の削り厚減し不 明瞭。内底は僅かな凹凸あり。	①素地やや緻密。輝石・バミスマじりの砂粒を少量 含む。②酸化焰、軟調。③橙7.5YR6/6。断面まで一 様。

II区 1号溝 (第532図 PL.104)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿 (S)	口(13.6) 底(7.0) 高 2.8	埋土 写側体	右回転ロクロ→回糸か→ロクロ使用の 丁寧な高台取付。ロクロ痕は外面にし か残らない。口縁端部は小さく外反。	①素地普通。砂粒含む。気泡が若干まじる。②還元 焰、硬調。③灰10Y5/1。断面は白色味が強い。
2 碗 (S)	口(14.0)	埋土 図示部残	右回転ロクロ→回糸→ロクロ使用の高 台取付。ロクロ痕は内外面とも強く細 かい。底部は薄く、歪んでいる。	①素地は緻密で細砂以外の夾雑物は少ない。②還元 焰、やや軟調。③灰7.5Y6/1。ほぼ一様。
3 壺 (S)	口(42.0)	埋土 図示部残	右回転ロクロ。ロクロ痕は内外面とも 弱く、外面では巻状具の擦痕残る。口 縁端部は外折れし、下方へ突る。	①素地普通。白色砂粒・長石等を含む。②還元焰、 硬調。③灰10Y4/1。断面暗赤灰色。④口縁上端に細 かな新落多い。
4 壺 (S)	口(40.0)	埋土 図示部小片	右回転ロクロ。ロクロ痕は内面ではや や強い。口縁端部の尖りは弱い。内面 は降灰粘着層。小破片からの復元で、 傾き・径とも不安。	①素地普通。輝石まじりの砂粒を含む。②還元焰、 硬調。③黒10Y2/1。内面の釉は白色味強い。④口縁 端部は上面・下面とも厚減している。
5 土罐	長 5.2 径(3.1)	埋土 写側体	外面の成形痕は見えない。内面に粗い ナゲ状の整形痕あり、小口面は削る。	①素地普通。輝石まじりの砂粒や粘層や多い。② 酸化焰、普通。③にぶい橙7.5YR6/4。内外面とも黒 色のムラあり。
6 短段蓋	直径0.65~0.31 間 0.92	埋土 図示部片	錆化と欠失のため、形状は不明瞭。筒 は方形のものが隅が落ちて、厚状では 丸に近くなったものと思われる。	①素地としては鉄地金はやや劣る。基部破片が同一個 体の破片であるかは確定できない。
7 刀子	横 0.33 縦 1.50	埋土 図示部小片	細身の刀子の基部破片。研ぎ減りは少 ないようである。	①鉄地金は良好で、錆化すむが、ふくれは少ない。 ④基部側の欠失は調査時のものである。

道物観察表編

II区 2号溝 (第534図 PL.104)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 11.5 底 5.3 高 3.3	ほぼ完形	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内外面とも強く強い。口縁僅かに歪む。底部厚く重畳。	①素地普通。輝石・金雲母・バミス等のまじる細砂を含む。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい橙7.5YR/4で一律。
2 皿(S)	口(14.0) 底 7.4 高 2.8	口縁写 底台部写	1調-2に同巧。糸切り痕が明瞭に残る。口縁端部の外反は弱い。	①②1調-2にほぼ同じ。組織の混入多く、胎土はやや悪い。③灰10Y6/L。内面は明度高い。
3 罐(S)	口(28.0)	図示部写	頸部・肩部にカネ目に近いやや粗いナデを施す。内面肩部に細かな圧痕が帯状に残る。	①素地普通。黒色鉱物・バミス以外の夾雑物は少ない。②還元焰。硬調。③灰N4/L。口縁と内面は明度高い。
4 壺(S)	口(29.0)	図示部写	右回転ロクロ。ロクロ痕は内外面ともやや強い。口縁は外折れし、内面上端のナデは強い。	①素地緻密。バミス以外の夾雑物は少ない。②還元焰。硬調。③灰10Y4/L。内面は降灰輪で白色味をおびる。
5 鉢	口(30.8)	埋土 図示部写	口縁内外面とも丁寧でやや強いナデ。外面のナデの下に、不明瞭なへら状の圧痕残る。内面は平滑。	①素地普通。バミスまじりの砂粒以外の夾雑物は少ない。②還元焰か。軟質陶器としては極めて後調。③灰褐5YR4/2。断面は赤色味をおびる。内外面ともムラあり一様でない。
6 土罐	長 6.0 径 3.4	一箇の片欠く	罐な造りで、外面は剝落すむ。幅状の圧痕あり。小口面は平坦に閉る。内面は竹管状のやや面んだ圧痕あり。	①素地普通。輝石・バミスまじりの砂粒がやや多い。②酸化焰。普通。③にぶい黄橙10YR6/4。小皿底あるが、ほぼ一様。

IV区 1号溝 (第536図 PL.104)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口( 7.3) 底 4.9 高 2.1	埋土 口縁上半欠く	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。	①素地やや粗い。バミス・赤褐色鉱物・輝石等夾雑物多い。②酸化焰。やや軟調。③橙5YR6/6。④残存する口縁上端の全面にスス付着。
2 小皿	口 7.8 底 3.7 高 2.5	完形	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕は内外面とも細かく強い。内底に弱い指痕のナデ。	①素地緻密。金雲母の目立つ細砂やが多い。②酸化焰。やや軟調。③橙5YR6/6。④口縁上端3カ所に橙褐色のスス付着。
3 小皿	口( 9.6) 底( 5.2) 高 2.6	埋土 口縁写 底部写	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕弱い。外底に細かな板状圧痕、内底に強い指痕のナデあり。	①素地普通。バミス・輝石含む砂粒やや多い。②酸化焰。やや軟調。③橙7.5YR6/6。一様。
4 青磁碗	台( 5.8)	埋土 図示部写	左回転ロクロ上での高台削り出し。接地部は輪ハズ。輪はやや薄く、貫入・気泡ともやや粗い。	①精緻な素地で、裏面用も殆ど含まない。②輪はくすんだ青緑色。素地は灰白色。③煎薬系系か。
5 長頸壺か	台( 9.0)	図示部写	右回転ロクロ→回回転利用の高台取付けと底部のナデで切り離し痕不明。内外面とも降灰輪多い。	①素地やや緻密。黒色鉱物等散見するが、夾雑物少ない。②還元焰。普通。③表面灰赤2.5YR4/2。断面は灰黄色。④輪は灰緑色。
6 内耳	口 27.0 底 16.6 高 15.1		口縁は平端で上端に浅い溝が巡る。内面口縁下端の段強い。外面の裾り息長く丁寧。内面体部下端に工具状の強いナデ残る。	①素地普通。バミス・黒色鉱物・金雲母等夾雑物多い。②中性焰。やや軟調。③灰黄2.5Y6/2。④体部全面と口縁一部にスス付着。

## 7 溝出土遺物

7 砥石	長 12.1 中厚3.7×2.4 端厚1.9×1.4 重116.4g	一端欠く	長軸断面三角形の手持ち砥。正面の使用が顕著。両側面は調整痕が残る。裏面同様一部だけの使用となる。	①砥沢石。鉄分やや多く、平ら面ほど褐色味が強い。 ④使用痕は不明だが方向不定のようだ。両側面に鋭い傷が並ぶ。
8 石臼 (上臼)	径(29.2)		上縁欠損。供給口ものくぼり一部遺存。溝は使用により、殆ど摩滅。左回転。欠損後被熱。	①粗粒安山岩。
9 板碑	長 35.7 幅 13.5 厚 1.7	完形	主尊は阿外陀一尊種子、キリークのイーがアク点間を抜ける書体。蓮座・種子ともに浅い竹彫り。縦刻二条線ありか。紀年銘は判読不可。小型板碑。	①緑色片岩。小粒の長石を多く含む。④碑面はやや摩滅する。裏面のほぼ全面に横方向のノミ痕を残す。ノミ巾は20.6~0.7cm。

## IV区 2号溝 (第537~540図 PL.104・105)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(8.6) 底(5.8) 高 1.7	図示部写	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ直は弱く不明瞭。小破片からの復元で口径不安。	①素地普通。パミス・輝石やや多い。②還元焰か、やや硬質。③焼7.5YR5/6。口縁上端に燈芯痕状にスス付着。
2 小皿	口(10.0) 底(5.0) 高 2.7	写個体	左回転ロクロー回糸無調整。口縁の歪みや強い。ロクロ直は内外面とも弱く不明瞭。底部のみ薄い。	①素地普通。輝石まじりの砂粒やや多い。②中性焰か、やや硬質。④にぶい黄緑10YR7/3。外面黒色味強い。
3 椀		体部小片	右回転ロクロー。外面にのみ強く細かなロクロ直残る。	①素地普通。パミス・石英等やや大粒の夾雑物目立ち粗い。②還元焰か、普通。③灰白5Y7/2。断面形度低い。④外面に横置き墨書あり。「形井」か。内面に浅てハゼ状の刻落あり。
4 青磁碗		埋土 図示部小片	内面にへら描き施文が見られる。軸は薄く、透明。気泡は少ないが、継ぎ目が見られる。	①緻密。②素地灰白色。軸は灰緑色味をおびている。 ④瀬京窯系。
5: 染付碗 (磁器)	台(3.8)	埋土 図示部写	染め付けは外面高台に2条、体部下面に1条の濃線と、植物意匠の組合せ。高台端部以外全面に白磁軸を施す。	①緻密で夾雑物を殆ど含まない。③呉須はやや淡い黄色。白磁軸は乳白色で気泡は細かい。④伊万里系。
6 碗 (陶器)	台(4.4)	埋土 図示部写	外面下半に呉須による二重濃線を施した後、全周透明軸を施す。接地部のみ粉ハゼ。気泡・貫入とも粗い。	①モグサ土か。やや粗い。③素地は灰黄色。呉須はやや淡い藍色。透明軸は厚い部分で緑色味をおびている。④瀬戸・美濃系。
7: 素燵 (陶器)	底 5.4	図示部ほぼ完存	右回転ロクロー回糸無調整。ロクロ直極めて弱い。外底を除く全面に長石軸をやや厚く施す。	①素地やや緻密で混入物を殆ど含まない。③長石軸は透明。外底は赤色味をおびる。④瀬戸・美濃系。
8 鉢 (陶器)	台(11.0)	図示部写	内面白土のハケ目上に透明軸。外面は高台中位以上で薄い透明軸を施す。高台は厚手でどっしりしている。	①素地普通。白色鉱物を少量含む。③素地はレンジ色を呈す。軸は内面で乳濁、外面でやや黒色味をおびる。④瀬津系。
9 皿 (磁器)	口(10.8) 台(6.6) 高 2.0	埋土 写個体	いわゆるクロム青磁。軸はやや厚い。内面に太鼓の意匠の刷版プリントか。外底は白磁軸。接地部のみ粉ハゼ。	①素地緻密で混入物を含まない。③胎土は白色。クロム軸は淡い緑色。文様は緑色を呈している。④大正期以降。

遺物観察表編

10 鉢 (陶器)	口(13.2)	図示部写	口縁は外方へ大きく肥厚する。ロクロ痕強い。灰石粒を全面に施す。	①モグサ土。混入物少ないが、気泡まじる。②釉は淡い褐色で透明。一部乳白色。③瀬戸・美濃系か。
11 皿 (陶器)	口(13.0) 台(7.0) 高 3.0	埋土 図示部写	菊皿。口縁端部の刻みは鋭い。内底は段皿状。目跡あり。外底以外に灰粒を施す。	①赤地やや密着。混入物少ない。気泡が僅かにまじる。③灰粒は緑黄色を呈し、厚い部分では緑色味が濃い。④瀬戸・美濃系。
12 内耳	口(33.6) 底 33.0 高 6.1	口縁写 底部写	口縁は平坦で内傾している。内底の同心円状ナダやや強く、小さな凹凸ができる。	①赤地普通。輝石の目立つ砂粒を含む。②中性釉か、やや軟調。③淡黄地10YR8/3。④口縁部は大きく剥落しているが残存部にはスス付着。
13 内耳	口(32.2) 底(21.4)	口縁写 体部写	口縁は平坦で上端はやや外傾する。外面体部上半に布状具の痕跡あり。下端に鋭い削り。内面のナダ丁寧。	①赤地普通。バミス・輝石を含む砂粒やや多い。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐2.5YR5/4。
14 茶白 (上白)	④上縁上幅 2.7	図示部写	磨面の残存僅かでは不明瞭だが、溝間幅6～3mmと狭い。	①粗粒安山岩。
15 茶白 (下白)		図示部写	はんざり部の削口は、やや平滑。接地面も平滑になっている。供給口が僅かに残存。	①粗粒安山岩。
16 石白 (上白)	径(23.4) 高 15.0	写側体	分面数は不明であるが、溝数は7～8本。すり合わせ部は粗い。側面から上面に貫通する円孔あり。左回転。	①粗粒安山岩。④側面被熱痕。
17 石白 (上白)	高 24.0 上端高 4.0 上端幅 3.1 下端幅 4.0	写側体	目は切線主溝型。分面と副溝数不明。溝間幅は2.6cm、幅3mm、深1mm。磨面は薄く、使いべりとも考えられる。	①粗粒安山岩。石質は粗い。
18 石白 (上白)	径(26.0) 上縁上幅 3.6	図示部小片	補助孔部分の破片である。上端は平坦で、内側に細かな整形痕残る。	①粗粒安山岩。
19 石白 (上白)	径(33.0) 高13.2～12.3 上縁下端幅 4.8 上端幅 3.7	写側体	片減りが認められる。上縁高2.3cm、挽き手穴一辺2.5cm、深3.7cm。供給口一部残存。溝の分面や副溝数は不明。右回転であり、希少型である。	①粗粒安山岩。④火熱を受けている。
20 石白 (上白)	高 9.7 上縁下端幅 4.3 上端幅 3.4 高 3.4 挽き手穴は一辺 3.1 の方形。深 5.5	写側体	溝間幅は2.1cm×幅2mm。目は不明瞭。	①粗粒安山岩。
21 石白 (上白)	径(28.6) 高 9.7～8.8 上縁高 4.1 上縁幅 3.1	図示部写	片減りが著しい。上縁高に比して中央は薄い。溝間幅は10mm、幅は3～2mm。上縁下端から外面に貫通する小孔あり。挽き手穴の深さは4.6cm。奥部上面は上縁下端と貫通する。	①粗粒安山岩。
22 石白 (上白)		図示部写	武蔵型白と思われる。上縁部欠失。磨面の割着すみ、目は不明。供給口が一部残存。	①牛伏砂岩。④火熱を受けている。
23 石白 (上白)	径(32.0)	写残存	芯穴・挽き手穴は残存せず。供給口の一部ともくぼりは遺存し、形状から左回転。溝は遺存しない。	①粗粒安山岩。④摩滅は著しくない。



## 7 溝出土遺物

24 石臼 (上臼)	挽き手穴径(2.8) 上縁上幅 4.1	図示部片	武蔵型臼。挽き手穴周辺破片。挽き手穴はやや歪んで穿たれている。	①牛伏砂岩。石質細かい。③片減りややすすむ。
25 石臼 (上臼)	上縁上幅 3.5	図示部小片	武蔵型石臼。目・供給口等は残存しない。	①牛伏砂岩。④下面に火熱を受けている。
26 (石鉢)	上縁上幅 4.7	図示部片	形状は上臼に類似するが、軽量であり石鉢となろう。縁部は平滑さ欠く。	①アイサイト質凝灰岩金山石。
27 石臼 (上臼)	高 11.8 上縁高 3.0 上幅幅 5.6~3.7		供給口一部遺存。溝は刻まれているが不明瞭。	①粗粒安山岩。
28 石臼 (上臼)	径(28.0)		上縁欠損。供給口一部遺存。溝は観察できない。	①粗粒安山岩。石質は粗い。
29 石臼 (下臼)	径(35.0) 芯穴径(3.2)	残個体	よくみやや大きい。磨面不整だが、切縁上溝型の目の痕跡が僅かに残る。	①粗粒安山岩。
30 (石鉢)		図示部片	自然石に難な孔を穿ったような用途不明品。底面やや平滑。	①軽石(二ツ岳)。④外面側面の剥落すすむ。
31 板磚	厚 3.0	上左部破片	主尊は阿弥陀種子か、キリクの上一部残る。葉研形。二条線と左側部の切り込み、脊線を残す。	①緑色片岩。大粒の長石含み、雲母も微量含む。④磚面はやや摩滅する。
32 宝篋印塔 塔身部			18×18cm程度の方形を呈する小型の塔身部。種子は摩滅のため判読不可。塔磚面は丁寧な磨き。	①粗粒安山岩。
33 不明軽石 製品	高 15.6	図示部片	上・横・底の3面が平坦に加工されており、地輪の可能性はある。	①軽石(二ツ岳)。④側面上部に細かな剥落が多い。
34 五輪塔 (地輪)		上面隅破片	上面に小さな凹みがあり、不明瞭な工具痕残る。他の面はやや平滑で、最も鋭い。	①軽石(二ツ岳)。④火熱を受け上面のみすすけている。割口には墨のような付着物あり。下縁と側面の割口はやや平坦。
35 碓石	中厚3.0×2.5 重 86.5g	両端欠く	長軸断面三角形で本来の使用面は正面のみ。裏面と両側面は縦位の長い凹みで覆われ表面は不整。割口無使用。	①砥状石。混入物やや多い。③表面は斜位の磨痕中心。他の面の凹みは断面U字状で、丸ノミ様の工具痕状。
36 碓石	端厚 2.7×1.9 重 73.1g	埋土 半欠品	長軸断面長方形。小口を含めた5面使用で、主な使用面は両側面。正面は剥落すすみ不明。裏面に調整工具痕残る。	①砥状石。混入物やや多い。③磨痕は不明瞭だが使用面は縦位が中心になる。
37 碓石	重 92.3g	埋土 半欠品	長軸断面糸巻き状の半欠品。主な使用面は正面と側面、小口も難な使用痕。他は剥落多く不明。	①砥状石。鉄分多く表面は褐色。④短いやや粗い磨痕が残る。
38 古銭	径 2.29 孔幅0.69	完形	寛永通寶。文字不明瞭で製造年代等は不詳。	①銅鉄。やや脆弱化すすむ。④外輪部幅2.1mm、外輪部に細かな剥落多い。

遺物観察表編

IV区 3号溝 (第542図 PL.105)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(13.0) 底( 6.6) 高 3.7	埋土2片 図示部写	右回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ痕強い。内底は平皿。薄手。	①素地普通。細塵まじりの細砂含む。②還元焰。普通。③灰10Y5/1。断面は白色味強い。④接地面摩滅する。
2 紡輪車	径 4.6 厚 1.1	完形	器面に指面のナデ、縁部に弱い削りの痕跡残る。	①素地やや緻密。麻石・パミス含む。②還元焰。硬調。③にぶい増7.5YR6/4。黒色のムラあり。④孔の縁部に細かな割落あり。

IV区 4号溝 (第541図 PL.105)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 青磁碗		上層 体部小片	外面に蓮弁を刻んだ龍泉窯系青磁。釉はやや薄い。気色はやや細かい。外面に縦方向の長い貫入あり。	①緻密な素地で、微細な黒色鉱物を僅かに含む。②釉調は灰い青色で粘土に近い。胎土は灰白色。③龍泉窯系。
2 小刀	長 17.0 厚 4.4	完形	切り出し型の片刃の小刀で、目釘穴の痕跡ない。研ぎ減りも少ない。	①鉄地金はやや良好。錆化の影響も少ない。
3 五輪塔 (地輪)		一隅のみ残存	天地不明。稜はやや鋭く整っている。側面は磨滑を加えたと思われ、平滑で工具痕残らない。	①粗粒安山岩。③灰白色。
4 石臼 (下臼)	径(28.8) 高 6.4 厚縁厚 5.7~4.8 芯穴径 3.8	瓦個体	片減りが認められる。目は6分画5溝式切線主調型。片減り部分の溝は不明瞭。溝間隔は2.3~2.0cm、幅1.5cm、深さ0.25mm。	①粗粒安山岩。③火熱を受ける。

IV区 5号溝 (第544図 PL.105)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 天目茶碗 (陶器)	口(12.2)	西側埋土 図示部写	口縁端部で小さく屈曲する。ロクロ痕は強く細かい。残存部分全面に鉄釉を施す。	①モグサ土状。気色少ない。③胎土は灰白色。釉はやや褐色味をおび、棒軸と鉄釉の中間的な発色。④瀬戸・美濃系。
2 磁石	長 10.2 中厚3.5×3.5 端厚2.1×1.1 重158.0g	埋土 一端を欠く	長軸断面菱形の4面使用だが、1側面の使用少なく、僅かに調整痕が残る。小口は原石面。	①砥沢石。鉄分やや多い。④使用痕は短く、方向も不定。
3 茶臼 (下臼)	磨面径(18.0) 芯穴径(2.4)	図示部写	はんざり端部欠く。目は切線主調。溝は8分画。溝調数は9本前後か。副溝は不整で溝間隔は8~5mm。底面には強いノミ痕が放射状に息長く残る。	①粗粒安山岩。③明るい灰白色を呈している。

## 7 溝出土遺物

V区 3号溝 (第548図 PL.105)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 石臼 (上臼)	径 31.2 ふくみ 2.0 振り合わせとの供給 口径 4.8	瓦割体	6分面で溝数は8本。側面には円形と方形の挽き手穴がある。方形の方は厚減により、振り合わせ面に表れているため、当初のものと考えられる。またこの対角線にも小円孔がある。	①粗粒安山岩。④焼熱。上面と供給口・振り合わせ面の一部にスス付着。
2 石臼 (上臼)	径(28.1)	写残存 上縁は一部のみ 残存	芯穴と挽き手穴は残存し、挽き手穴は四角形と考えられる。溝間隔は粗いが遺存が良好でないので、分面・溝数は不明。	①粗粒安山岩。④摩滅は著しい。
3 五輪塔 (火輪)		図示部破片	上縁は残存面か、割口が明確でない。底部は僅かに凹む。表面に調整痕と思われる不明瞭な凹みあり。	①粗粒安山岩。③ピンク色味がかる。④正面に鋭い傷あり。
4 砥石	中厚3.3×1.3 端厚2.6×0.5 重 81.6g	一端を欠く	短軸断面長方形で4面使用。使用面は側面で平削、他は弱い凹面になる。小口は不使用。	①砥沢石。③黒色味が強い。④側面に横位中心の粗い擦痕が多い。他の面では不明瞭。
5 砥石 (荒砥)	中厚6.4×6.0 重245.4g	両端欠く	短軸断面五角形の5面使用で、各面は平削。両端の割口に使用痕なし。	①粗粒安山岩。④使用痕は不明瞭。正面のみやや不整である。割口も含めベンガラ状の褐色付着物あり。
6 砥石 (荒砥)	中厚7.8×7.6 重440.4g	両端欠く	短軸断面五角形の5面使用。各使用面は平削。両端は割口で不使用。	①粗粒安山岩。きめやや粗い。④1側面に溝状の凹みがあるが、内部に擦痕なし。全体に擦痕傷状に深く、裏面は磨面不整になる。

V区 4号溝 (第549～556図 PL.106～108)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(6.8) 底(3.8) 高 2.5	口縁写 底部写	右回転クロコ→回糸無調整。ログロ砥弱く不明瞭。口縁上縁は尖り、僅かに直立気味となる。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物・バミスを含む。②中性焙か、やや硬調。③浅黄緑7.5YR8/4。内面彩度低い。
2 小皿	口(7.7) 底 4.7 高 1.9	埋土 口縁上半欠く	右回転クロコ→回糸無調整。ログロ砥は内外面とも弱く、内面では不明瞭。外底にやや幅広い板状圧痕。内底の指類のナデは強い。	①素地普通。バミスマじりの砂粒やや多い。②酸化焙か、普通。③橙5YR6/6。一様。
3 小皿	口(7.3) 底 4.5 高(2.1)	口縁写欠く	左回転クロコ→回糸無調整。内底にやや強いナデ、外底に弱い板状圧痕。口縁部割口を研ぎ込んで再利用する。	①素地やや緻密。夾雑物少ない。②中性焙か、普通。③黄5Y2/1。一様。④強い二次火熱を破損後に受け、全面すすけている。内外面とも剝落部分あり。
4 小皿	口(9.8) 底 4.7 高 2.0	埋土4片 口縁写欠く	左回転クロコ→回糸無調整。ログロ砥弱く。外底に切り離しの糸と思われる圧痕状の凹みあり。	①素地緻密。金雲母多く、バミスマじりの細砂を含む。②酸化焙か、やや硬調。③明赤褐5YR5/8。一様。
5 小皿	口 7.6 底 4.2 高 1.9	口縁写欠く	右回転クロコ→回糸無調整。ログロ砥は内外面とも弱い。薄手。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・バミスマじりの砂粒多い。②酸化焙か、軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。外面に黄色のムラ広い。

遺物観察表編

6 小皿	口( 3.7) 底( 4.7) 高 2.1	埋土 口縁尾 底部%	左回転クロー一回糸無調整。口縁上端はやや平坦。内底に弱い指頭の名デ。	①素地褐色。パミス・輝石等を少量含むが他の夾雑物少ない。②酸化焰か、やや硬調。③橙5YR6/6で断面まで一様。
7 小皿	口 7.3 底 3.3 高 2.4	ほぼ完形	右回転クロー一回糸無調整。ロクロ痕やや強い。外底は極めて難な切離しのため歪む。板状圧痕が僅かに残る。内底に強い指頭の名デ。	①素地普通。輝石多く、パミスを若干含む。②中性焰か、硬調。③浅黄橙10YR8/4。彩度の低いムラあり。
8 小皿	口 8.1 底 5.7 高 1.8	口縁上半分欠く	左回転クロー一回糸無調整。ロクロ痕弱い。外底片側にゴザ状の細かい圧痕あり。内底に強い指頭の名デ。	①素地普通。輝石やや多くパミス・赤褐色鉱物・金雲母を含む。②酸化焰か、普通。③他5YR6/6。一様。
9 小皿	口 7.9~7.6 底 4.4 高 2.0	完形	左回転クロー一回糸無調整。ロクロ痕弱い。外底に幅広い弱い板状圧痕。内底に弱い名デ。	①素地粗く、ザラザラ。輝石多く、赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③橙7.5YR7/6。一様。
10 小皿	口( 8.4) 底 5.5~5.2 高 2.5	ほぼ完形	左回転クロー一回糸無調整。ロクロ痕弱いが横ナデは強い。切離し痕が重なっており、切り直しを行っている。	①素地普通。パミス・輝石・赤褐色鉱物等混入。②酸化焰か、普通。③明赤褐2.5YR5/8。外面一部彩度低い。④口縁内面一カ所焼変痕状スス付着。
11 小皿	口( 8.3) 底( 4.4) 高 2.0	図示部欠	右回転クロー一回糸無調整。口縁は弱く外反する。ロクロ痕やや強い。外底に板状圧痕、内底に強い指頭の名デあり。薄手。	①素地やや粗い。パミスを含む細砂や多い。②酸化焰か、やや硬調。③にふい貴橙10YR7/4。④口縁内外面に焼変痕状のスス付着。
12 小皿	口( 7.9) 底 3.9 高 2.2	瓦個体	右回転クロー一回糸無調整。ロクロ痕内外面ともやや強い。外底は細い板状圧痕。内底に弱い指頭の名デ。	①素地普通。パミスまじりの細砂を含む。②酸化焰か、やや軟調。③橙7.5YR6/6。一様。
13 小皿	口 7.6 底 5.0 高 2.3	口縁尾 底部欠く	左回転クロー一回糸無調整。口縁上端やや尖る。ロクロ痕弱く厚手で器形に凝さ欠く。	①素地やや粗く、チャート質粗砂の混入多い。②酸化焰か、普通。③橙7.5YR6/8。断面彩度低い。
14 小皿	口 7.8 底 4.7 高 2.2	ほぼ完形	左回転クロー一回糸無調整。ロクロ痕は弱い。外底に幅広い板状圧痕が僅かに残る。内底にやや強い指頭の名デあり。	①13に同じ。②酸化焰か、やや硬調。③橙7.5YR6/8。内底に黄色と赤色のムラあり。
15 小皿	口( 8.8) 底 5.4 高 2.4	下層内7片 口縁尾欠く	左回転クロー一回糸無調整。ロクロ痕は弱い。口縁端部は直立気味で上方へ尖る。口縁は小さく歪む。外底は僅かに上げ底。内底は平坦。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの細砂を含む。②酸化焰か、軟調。③明赤褐5YR5/8。断面までほぼ一様。
16 小皿	口( 8.8) 底 4.9 高 2.0	口縁尾 底部%	左回転クロー一回糸無調整。口縁の波状の歪み強く、一部で片口状を呈す。	①素地普通。輝石・パミスを多く含む。②酸化焰か、普通。③明赤褐2.5YR5/6。一様。
17 小皿	口( 9.2) 底( 4.8) 高 2.5	東側埋土2片 口縁尾 底部%	左回転クロー一回糸無調整。内面口縁上半に工具痕が沈線状の歪みとなって巡る。口縁部は内湾気味。	①素地普通。輝石の多い砂粒含む。②酸化焰か、普通。③橙7.5YR6/6。一様。
18 小皿	口( 9.6) 底( 6.5) 高 1.7	埋土上層 口縁尾 底部%	左回転クロー一回糸無調整。ロクロ痕はやや強い。口縁上端は外方へ肥厚する。	①素地普通。パミスまじりの細砂がやや多い。②酸化焰か、普通。③にふい橙7.5YR7/4。④内底にタール状の不明確な付着物あり。
19 小皿	口 8.4 底 5.3 高 2.0	口縁尾欠く	15に同巧。口縁端部のつまみ上げはやや弱い。内底縁部に沈線状の凹みがある。	①②③15に同じ。

## 7 溝出土遺物

20 小皿	口 8.6 底 5.2 高 2.1	ほぼ完形	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。口縁は波状に小さく歪み底部肥厚する。外底に幅広い板状圧痕、内底に指頭のアダが僅かに残る。	①9に近い。混入物やや少ない。②中性焰か、硬調。③浅黄緑7.5YR8/6。一様。
21 小皿	口 10.0 底 5.3 高 2.7	ほぼ完形	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。外底に幅広い板状圧痕に僅かに残る。内底に指頭の弱いアダ。	①黒地粗くザラザラ。輝石・赤褐色鉱物等のまじる粗砂多い。②中性焰か、普通。③浅黄緑10YR8/4で、外面一部赤色味をおびる。
22 小皿	口 11.0 底 6.0 高 2.8	口縁上半欠く	左回転ロクロー回糸無調整。内面のロクロ痕やや強く、内底縁辺の凹みは弱い。内底は平坦。口縁内側に強く広い凹み返る。	①赤地普通。混入物少なく、胎土はさらに良好。②酸化焰か、普通。③焼5YR6/6。ほぼ一様。
23 小皿	口(8.7) 底 5.7 高 2.1	埋土 口縁欠く	15にほぼ同巧。口縁内側の凹み弱い。	①②③15にほぼ同じ。
24 小皿	口(9.8) 底 4.8 高 3.3	埋土3片 口縁欠く	右回転ロクロー回糸無調整。口縁は外方へ肥厚する。外底に幅広い板状圧痕が僅かに残る。内底に強い指頭のアダで布状具の痕が残る。	①赤地やや粗い。輝石・赤褐色鉱物多い。②中性焰か、普通。③浅黄緑10YR8/4。外底に黒色、内面に赤色のムラあり。④二次火熱を受けるか。
25 小皿	口(9.8) 底 5.4 高 2.5	口縁欠く	右回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕は弱く不明瞭。厚手だが口縁端部やや尖る。	①赤地普通。赤褐色鉱物・輝石等のまじる細砂やや多い。②酸化焰か、やや軟調。③におい貴橙10YR7/4。内外面とも暗色のムラ広い。④二次火熱を受けるか。
26 小皿	口 10.9 底 6.0 高 3.0	口縁上半欠く	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕は弱く、内面では不明瞭。口縁に大きな歪みあり。内底は平坦。	①赤地粗く、赤褐色鉱物・バミスマじりの砂粒の夾雑多い。②酸化焰か、やや軟調。③明赤焼5YR5/8。一様。
27 小皿	口(10.6) 底 6.8 高 2.9	東側埋土3片 口縁欠 底部欠	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕強い。底部は指頭による押しで不整。口縁にも歪みあり。薄手。	①赤地普通。バミス・輝石まじりの砂粒やや多い。②酸化焰か、やや軟調。③焼7.5YR6/6。内面は赤色味強い。
28 小皿	口(10.0) 底 5.4 高 2.6	口縁上半欠く	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕はやや弱く不明瞭。外底に幅広い板状圧痕僅かに残る。内底アダや強い。	①赤地やや粗い。バミスマじりの砂粒含む。②中性焰か、普通。③灰白5YR/2。内外面とも黒色味おびるムラ広い。④破損後に強い二次火熱を受ける。内面上半にスズ状の付着あり。
29 小皿	口 11.6~11.4 底 6.6 高 2.4	瓦個体	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。口縁は弱く外反する。内底は広いが平滑さやや欠く。薄手。	①赤地やや軟密。金雲母・やや大粒のバミス少量含むが混入物少ない。②酸化焰か、軟調。③焼5YR6/6。断面まで一様。
30 小皿	底 6.5~6.1	口縁上半欠く	右回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕は弱く不明瞭だが、内面には工具使用の横ナダによる鋭い擦痕が波線状に残る。内底に指頭の弱いアダ。	①赤地普通。バミスマじりの砂粒を含む。②酸化焰か、やや硬調。③焼7.5YR7/6。一様。④内面に小さな割落多い。
31 小皿	口 11.3~10.9 底 6.6 高 2.7	完形	左回転ロクロー回糸無調整。横ナダは外面に鋭い波線状の傷をつくる。内底縁辺は凹む。外底に幅広い板状圧痕僅かに残る。	①赤地普通。バミス・輝石まじりの細砂を少量含む、やや良好。②酸化焰か、普通。③焼5YR6/6。ほぼ一様。
32 小皿	口(11.3) 底 6.9 高 2.7	口縁欠く	左回転ロクロー回糸無調整。横ナダは鋭い布状具の擦痕残る。内底は広く平坦。薄手。	①赤地緻密。金雲母・細粒まじりの細砂を含む。②中性焰か、やや硬調。③におい焼7.5YR5/4。④両面に不均等に薄いスズ状の付着物あり。
33 小皿	口 11.0 底 7.0 高 2.6	口縁欠く	32に同巧。外面上半に緩い屈曲。底部に歪みあり。器間やや不整。	①②③32に同じ。外面に黒煎あり。④内底やや摩滅する。

遺物観察表編

34 小皿	口(12.0) 底(6.8) 高 2.8	口縁欠く	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ底は外面でやや強い。口縁外面下縁の屈曲強い。内底は広く平坦。やや薄手。	①素地緻密。細砂以外の夾雑物少ない。②中性焙か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR6/4。内外面とも黒色部分多い。④破損後、強い二次火熱を受ける。内底にタール状のスス付着。
35 小皿	口(11.6) 底 6.2 高 3.0	口縁上半欠く	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ底弱く不明瞭。内底やや強い指頭のナゲあり。口縁端部やや平坦。歪み強い。やや薄手。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②酸化焙か、やや軟調。③橙5YR6/6。断面までほぼ一様。
36 小皿	口 11.9 底 6.7 高 2.8	口縁欠く	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ底は弱い。口縁外側に凹みが通る。内底は平滑で広い。	①素地普通。パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焙か、やや軟調。③橙5YR6/8。内外面とも黄色味をおびるムラあり。
37 小皿	口 12.3 底 9.7 高 3.4	埋土5片 口縁欠く	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ底弱く不明瞭。外底に僅かに板状圧痕残る。内底は指頭の強いナゲ。厚手。	①素地普通。赤褐色鉱物のやや多い砂粒含む。②中性焙か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。外面赤色味をおびる。
38 小皿	口(10.8) 底 5.8 高 3.6	口縁欠く	右回転ロクロー回糸無調整。ロクロ底内面やや強く細かい。口縁端部は尖る。内底に強い一方方向の指頭のナゲあり。	①素地普通。赤褐色鉱物のやや多い砂粒含む。②中性焙か、やや硬調。③黄2.5Y8/3。一部赤色味をおびるムラあり。
39 小皿	口 11.5 底 5.4 高 3.3	口縁欠く	左回転ロクロー回糸無調整。口縁内側に深くやや広い凹み通る。内底にやや弱い指頭のナゲ。厚手で重量。	①素地普通。赤褐色鉱物・輝石・パミスを含む砂粒多い。②中性焙か、普通。③にぶい橙7.5YR7/4。外底やや明度低い。
40 小皿	口 10.9 底 4.9 高 3.1	完形	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ底は内面でやや強い。口縁上端はやや外傾し平坦気味。内底にやや強いナゲ。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・パミス等夾雑物多い。②酸化焙か、硬調。③橙5YR6/6。内外面とも赤色のムラ強い。
41 小皿	口(10.8) 底 5.5 高 3.5	埋土4片 口縁欠く	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ底は内面でやや強く、外面不明瞭。外底に板状圧痕あり。内底に強い指頭のナゲあり。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物多く、細砂を若干含む。②中性焙か、やや硬調。④黄2.5Y8/4。ほぼ一様。
42 小皿	口(11.2) 底(4.6) 高 2.9	口縁欠 底部欠	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ底弱い。内底縁部の凹みやや強い。平面楕円形に歪み、口縁不安。	①素地普通。輝石多く、パミス・赤褐色鉱物を含む。②中性焙か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。一様。④内面は剥落し、荒れている。
43 小皿	口(11.0) 底(5.0) 高 2.7	3/8割体	右回転ロクロー回糸無調整。ロクロ底は強く細かい。口縁は弱く外反する。内底に指頭のナゲの痕跡残る。	①素地やや緻密。パミス・輝石まじりの砂粒を含む。②中性焙か、普通。③にぶい黄橙10YR6/4。一様。④内底剥落多い。
44 小皿	口(10.5) 底(6.0) 高 3.4	口縁欠 底部欠	左回転ロクロー回糸無調整。外底に弱い板状圧痕。内底縁部は幅広く凹む。やや厚手。	①素地やや粗い。輝石・パミス・赤褐色鉱物を含む砂粒やや多い。②酸化焙か、普通。③橙7.5YR6/6。内面黄色味強い。
45 小皿	口 11.6 底 7.0 高 2.6	口縁欠く	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ底は外面でやや強く細かい。口縁内端は小さく凹む。内底は広い。	①素地緻密。金屑多く、パミスまじりの細砂を含む。②酸化焙か、普通。③橙7.5YR6/6。一様。
46 小皿	口(11.7) 底(5.7) 高 3.2	口縁欠 底部欠	39に同巧。	①②39にほぼ同じ。③39に近い。外底の黒色味強い。
47 小皿	口(12.3) 底 7.7 高 3.0	口縁欠 底部欠	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ底弱い。底面広く平坦。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・パミス・輝石多く混入し、石英・細砂少量含む。②酸化焙か、軟調。③明赤褐5YR5/8。一様。④内面下半に細かい剥落著しい。

## 7 溝出土遺物

48 小皿	□(12.0) 底 5.2 高 3.6	東側埋土3片 口縁欠く	左回転ロクロー回糸無調整。外底にゴザ状の細かい圧痕が僅かに残る。内底に指頭の弱いナデ。	①赤地やや密着。輝石・赤褐色鉱物等のまじる砂粒を含む。②酸化焙か、硬調。③橙5YR6/6。ほぼ一様。
49 小皿	□ 11.8 底 6.2 高 3.2	口縁欠く	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕内面やや強い。口縁は大きく歪む。外底に幅狭の板状圧痕顯著。内底に一方の強い指頭圧痕のナデ。	①赤地やや粗い。輝石まじりの砂粒を含む。②酸化焙か、やや硬調。③橙5YR6/6。一様。
50 小皿	□ 11.3 底 6.3 高 2.8	口縁上半欠く	右回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕は内外面とも強く細かい。口縁端部は平坦。外底はゴザ状の細かい圧痕。内底中央は指頭のナデ。	①赤地普通。パミス・輝石まじりの細砂がやや多い。②酸化焙か、普通。③橙5YR6/6。断面まで一様。
51 小皿	□ 11.2 底 6.7 高 2.5	口縁欠く	31にほぼ同巧。外底に板状圧痕は観察できない。	①②③31に同じ。
52 小皿	□(11.3) 底 4.8 高 3.5	口縁欠く	左回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。口縁端部は直立気味。外底にゴザ状の細かい圧痕。内底に強い指頭のナデ。薄手。	①赤地やや密着。赤褐色鉱物の多い砂粒を含む。②酸化焙か、やや軟調。③橙7.5YR7/6。内外面・断面に黄色のムラあり。
53 小皿	□ 11.3 底 4.9 高 3.9	口縁欠く	右回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕は強い。切離しがやや斜めになったため、底部歪む。内底にやや強い指頭のナデ。	①赤地やや密着。赤褐色鉱物・輝石等のまじる細砂を含む。②酸化焙か、普通。③橙7.5YR6/6。一様。
54 小皿	□(12.0) 底 5.8 高 2.8	口縁上半欠く	右回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕やや強く、外面では不明瞭。外底はゴザ状の圧痕あり。内底に一方で強い指頭のナデあり。	①赤地やや粗い。赤褐色鉱物・輝石まじりの砂粒を含む。②酸化焙か、やや軟調。③橙黄橙10YR8/4。④外底に二次火熱を受け黒色味をおびる。外底の摩滅すずむ。
55 小皿	□ 12.4 底 5.6 高 3.2	ほぼ定形	52に近い。口縁上端の屈曲強く、横ナデも強い。52に比べやや厚手。器形のみ歪みも大きい。	①赤地やや粗くザラザラ。チャート質の砂粒を含み夾雑物多い。②酸化焙か、やや硬調。③52に同じ。
56 小皿	□(12.0) 底(6.3) 高 2.8	口縁欠 底面欠	右回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕は内面でやや強く細かい。口縁端部やや平坦で外傾する。外底に幅広の板状圧痕。内底は指頭の強いナデ。	①赤地やや粗い。輝石・パミスまじりの砂粒が多い。②中性焙か、やや硬調。③にぶい黄橙10YR7/4。内面は赤色味をおびる。
57 小皿	□(11.7) 底(5.6) 高 3.5	口縁欠 底面欠	39にほぼ同巧。ロクロ痕やや強い。	①②③39にほぼ同じ。外底も色ムラなく、ほぼ一様。
58 高台付 小皿	□(10.0) 底(6.0) 高 2.2	片側体	左回転ロクロー回糸一回転利用の丁寧な高台取付。口縁は大きく外反する。内底は指頭の鋭いナデあり。	①赤地緻密。金質の目立つ細砂含む。②中性焙か、やや硬調。③黄灰2.5Y6/2。④口縁上端2か所にスス付着。
59 小皿	□(10.2) 底(5.2) 高 2.7	上層 片側体	右回転ロクロー回糸無調整。ロクロ痕は外面で強く細かい。口縁端部はやや平直。	①赤地やや粗い。赤褐色鉱物多く、輝石まじりの砂粒を含む。②中性焙か、軟調。③橙黄橙10YR8/4。④口縁部は割口を含め、惣形板状のスス付着。
60 皿 (陶器)	台 7.4	上層埋土 器底面欠	削り出し高台だが、高台の形状は一様でない。外底を除く全面に長石輪を施す。志野釉に近いが貫入は少ない。円蓋ピン使用。	①モグナ土。黒色の粗砂含む。②乳は乳白色で、赤地の軟分より褐色の斑を生じている。胎土は黄白色。③瀬戸・美濃系。
61 皿 (陶器)	□(11.7) 台(7.3) 高 2.3	埋土上層 口縁欠 底面欠	高台端部は焼成時に割れているが、内底に高台の痕跡なし。外底にリング状のトンネル着。全面に灰輪を施す。	①モグナ土。細粒まじる。②軟調は乳濁した黄緑色で、厚い部分で緑色味強い。③瀬戸・美濃系。

遺物観察表編

62 皿 (陶器)	台(6.0)	埋土 図示部写	薄手で歪みや大きい。体部外面には丁寧な削り。内面に鉄粒を施すが、濃淡が断著。	①素地普通。黄色味をおびる細砂や多い。③釉は暗褐色。胎土は淡赤褐色。④製作地不詳。
63 猪口 (磁器)		埋土上層 図示部写	染付で外面やや鮮やかに発色しているが、山肌須であろう。白磁釉は薄い。口縁端部平坦。	①磁器だが細砂まじりか。③具柄は藍色で内面はくすんでいる。釉調は白。④伊万里系。
64 土罐	径 2.5~2.3	ほぼ完形	外面、製作痕は不明瞭。孔は断面形状ややびつづ。	①素地普通。輝石まじりの砂粒含み。セラセラ。②酸化焰、やや硬調。③にぶい黄緑5YR6/4。黄色味の強いムラあり。
65 火鉢		埋土 輝破片	底径40cm程の大型品と思われるが、底部は薄手である。外面より、内面・側面の方が平滑に仕上げてある。	①素地普通。細砂の混入多い。②中性焰か、やや硬調。③にぶい黄緑10YR7/3。外面黒度あり。断面一部黒色味強い。
66 内耳	口(44.2) 底(40.0) 高 5.8	図示部写	口縁は内側に折り返し、上端は丸い。底部外端と体部下端に鋭い削り。内面丁寧な横ナデ状の磨痕。	①素地普通。輝石・金雲母まじりの細砂・赤褐色鉱物含む。②中性焰か、やや軟調。③口縁外面は灰褐5YR4/2。外底と内面はにぶい黄緑10YR6/4。
67 内耳	口(38.6) 底(36.0) 高 5.5		口縁上端は平坦で内側に内側にやや尖っている。外面口縁下端に細かな指頭圧痕による凹みが二段になって返る。内面口縁のナデは工具使用で鋭い。	①素地やや緻密。輝石の多い細砂を含む。②中性焰、普通。③外面口縁は黒色、底部はにぶい橙7.5YR6/4。内面はにぶい黄緑10YR8/4。
68 内耳	口(40.0) 底(32.6) 高 6.7	図示部写	口縁上端は平坦で内傾気味。口縁全体に布状具の丁寧なナデあり。外底にやや鋭い削り。内面口縁のナデは丁寧で弱い段ができる。	①素地やや緻密。輝石・バミスマじりの細砂を多く含む。②酸化焰、普通。③口縁外面は黒色、外底はにぶい黄緑10YR6/4。内面はにぶい黄緑10YR6/4。④口縁外面にスス付着。内底摩滅する。
69 内耳	口(41.6) 底(35.0) 高 5.7	図示部写	口縁のナデはやや雑で、外面下半に無調整部分あり。口縁内面のナデやや強く、工具痕残る。内耳は小さく傾いて取付けられる。	①素地普通。輝石・バミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②中性焰か、普通。③外面はにぶい黄緑10YR7/4で黄色味をおびる。内面は灰黄2.5Y7/2。
70 内耳	口(38.0) 底(32.0) 高 5.9		口縁上端は丸く内傾気味。内耳は小さく断面は丸に近い。傾いて取付けられる。	①素地やや緻密。輝石まじりの砂粒を含むが、夾雑物は少ない。石末散見。②中性焰、軟調。③口縁外面は黒色、外底はにぶい橙5YR7/4。内面はにぶい黄2.5Y6/3。
71 内耳	口(33.4) 底(32.4) 高 6.0		口縁上端は平坦で中央に弱い凹みがある。外面口縁は丁寧な布状具の磨痕が返り、上半に強い接合痕あり。内面口縁上半にナデによる凹み返る。	①素地やや緻密。輝石・バミスマじりの細砂を含む。②中性焰、やや硬調。③口縁は黒色、外底と内面はにぶい橙7.5YR7/4。④口縁上端に亀裂生ずる。
72 内耳	口(39.0) 底(33.6) 高 5.9	写個体	口縁上端は平坦で寄く内傾する。外面口縁上半のナデやや粗く、細かな指頭圧痕の凹み返る。内底に強いナデの跡あり。	①素地やや粗い。輝石・バミスマじりの砂粒が多い。②中性焰、軟調。③外面は黄褐10YR5/6。内面は灰黄2.5Y7/2で、内外面とも口縁は黒色味をおびる。④内耳右側上部にやや強いスレの跡あり。
73 内耳	口(43.0) 底(39.0) 高 5.9	図示部写	口縁上端は平坦で内側に尖っている。外面口縁下半に指頭圧痕残る。内面口縁のナデ強い。	①素地やや粗い。輝石・バミスマじりの砂粒が多い。②中性焰、普通。③外面と断面は黒色味をおび、外底と内底はにぶい黄緑10YR6/4。
74 内耳	口 36.6 底 31.0 高 5.5	ほぼ完形	口縁上端は平坦で内側に僅かに尖り、内傾気味。口縁内面中位の段はやや強い。内耳の中央に強い指頭圧痕あり。口縁歪む。底部の反りきつい。	①素地普通。バミスの多い細砂含む。②中性焰、やや軟調。③黄灰2.5Y5/1。内面は砂度高い。④口縁外面にスス付着。



## 7 湧出土遺物

75 内耳	口 28.6~27.0 底 18.4 高 14.5	体部一部と底部 中央を欠く	耳は2個で小さく傾く。口縁は内湾気味で上端は平坦。口縁外面のナデやや粗い。体部内面は接合痕が残り、布状具の擦痕あり。口縁の歪みや大きい。	①黄地やや微密。パミス目立ち、金雲母まじりの砂粒を含む。②中性焰、やや軟調。③外底はにぶい褐色。④内面はオリブ黒5Y3/2。⑤外底を除く外面全体にスス付着。外面体部下端の剥落著しい。
76 内耳	口(36.4)	図示部片	口縁端部は平坦で内傾する。口縁のナデは内外面とも丁寧。口縁外端は弱く突き出し、直下に弱い沈線が高い。内耳は小さく、耳下の凹みも弱い。	①黄地やや微密。金雲母まじりの細砂を含む。②中性焰、普通。③灰黄2.5Y6/2。内面明度低い。④割部内外面にスス付着。
77 内耳	口(33.6) 底(24.2) 高 17.3	図示部片	口縁上端は弱く凹む。内面の段はやや強い。外面体部下半と底部縁部に強い削り。体部内面はやや強い指頭による斜位のナデ。補修孔あり。	①黄地普通。輝石・赤褐色鉱物まじりの細砂やや多い。②中性焰、普通。③にぶい黄褐10YR7/2。黒色味の強いムラ広い。
78 内耳	口(36.0)	図示部片	口縁上端は平坦で、外方へ強く突出する。口縁外面のナデ丁寧。内面は丁寧な布状具の擦痕あり。内耳は小さく断面は丸に近い。	①黄地微密。金雲母・パミスまじりの細砂含む。②還元焰か、やや硬調。③外面は灰黄2.5Y6/2。内面は灰5Y6/1。④外面にスス付着あり。
79 内耳	口 33.0	図示部片	口縁端部は平坦。口縁のナデはやや粗い。内外面とも布状具の擦痕あり。内耳は弱く傾いて取り付けられる。	①黄地普通。赤褐色鉱物・金雲母・輝石まじりの砂粒含む。②中性焰、やや軟調。③外面は黒褐10YR3/1。内面はにぶい黄褐10YR5/4。④外面割部にスス付着。
80 片口	口 (28.0)	片口部破片	口縁上端は幅広い凹みが通り、内側に突出する。片口部は内側より指頭の強い押圧。	①黄地やや微密。輝石・パミスまじりの細砂やや多い。②還元焰、硬調。③灰黄2.5Y6/2。口縁部・内面・断面は灰10Y4/1。
81 石白 (上白)	芯穴径(3.7)	図示部片	茶白雲の上白。芯穴には矢の直のような痕の深い刻みがある。目は磨面の縁辺のみに残存し、間隔2.2~2.0cm。	①粗粒安山岩。石質は細かい。⑤やや黒色味をおびる。
82 茶白 (下白)		図示部小片	磨面上部にははんざりをつけるが、欠損。茶白雲の白と思われ。石質は粉挽き白より細かいが、茶白にしてはやや粗い。	①粗粒安山岩。
83 石白 (上白)		図示部小片	径26cmほどの小型品か。ふくみは小さい。磨面やや不整。目は間隔1.7cm。	①粗粒安山岩。⑤ややピンク色味をおびる。
84 石白 (上白)	上縁上端幅 3.4 上縁高 1.9	図示部片	上縁部の極めて低い、特異な形状。上縁は平坦である。	①粗粒安山岩。④破損後に火熱を受け、すすけている部分多い。
85 石白 (上白)	径(33.0) 上縁上幅 4.0 上縁高 4.7	図示部小片	上縁部が高く、上縁は平坦。やや丁寧な作りである。小片からの復元で不安。	①粗粒安山岩。③白色味強い。
86 石白 (上白)	上縁上端幅 2.8 上縁高 3.8	図示部片	上縁部はやや尖り気味で、端部は内傾している。補防孔の痕跡が2カ所で観察できる。	①粗粒安山岩。
87 石白 (下白)	径(30.4)	各個体	磨面薄く、ふくみや大きい。目は5分のみ。間隔間は2.4~1.7cmと不規則。幅1~2mm。	①粗粒安山岩。ややピンク色味をおびている。④芯穴推定径3.5cm。上側はさらに細かい。
88 石白 (下白)	径(30.0)	西側埋土 各個体	破損後、磨面にタガネを入れている。転用しようとしたと考えられる。調整も丁寧である。	①粗粒安山岩。石質は比較的細かい。

遺物観察表編

89 石臼 (下臼)		図示部片	高さ5.6~4.2cmと片減り著しい。溝は確認できない。	①粗粒安山岩。石質は比較的細かい。
90 石臼 (下臼)		図示部片	潤滑幅2.4cmの粗い目が、僅かに観察できる。細かな割落多い。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。④破損後に火熱を受けている。
91 石鉢		図示部片	茶白色焼き白のはんざり部に類似している。粗い造りで平滑さ欠く。	①粗粒安山岩。やや多孔質。④破損前に火熱を受けた可能性あり。
92 石鉢	口(27.4) 底(18.0)	図示部片	外面はハツリの痕跡と思われる凹凸あり。上面・内面やや平滑。	①粗粒安山岩。④外面に破損前に火熱を受けた痕跡あり。底面やや摩滅している。
93 石鉢	口(30.8)	埋土 図示部片	小破片からの復元で、径・傾きとも不安。表面はやや平滑に仕上げてある。	①粗粒安山岩。気泡は少ない。④表面に摩滅の痕跡等、認められない。
94 石鉢		図示部小片	内面やや平滑。外面は細かな凹凸多いが、整形痕は認められない。	①粗粒安山岩。大粒の混入物は含まない。③黒色味強い。
95 板碑	厚 1.0	中右部割片	主尊は阿弥陀三尊種子か。脇侍のサの一部と蓮座のみ残る。葉研形り。蓮座の下に光明・真言の一部残る。杵線あり。碑面の割離片。	①緑色片岩。大粒の長石を多く含む。④碑面はやや摩滅する。
96 板碑	厚 1.0	主尊部破片	主尊は阿弥陀三尊種子。脇侍のサ(観音)のみ残る。脇侍に蓮座なし。碑面の割離片。	①緑色片岩。混入物は少なく、小粒の長石を若干含むのみ。
97 板碑	厚 1.5	主尊部破片	主尊は阿弥陀種子。キリクはイーがアク点閃を放ける書体で葉研形り。蓮座は欠損。	①緑色片岩。小粒の長石を多く含む。黒色の雲母を少量含む。
98 板碑	厚 2.6	主尊部破片	主尊は阿弥陀種子か。キリクの一部と蓮座の一部を残すのみ。葉研形り。蓮座の規模より大型板碑と思われる。	①緑色片岩。細~大粒の長石、雲母を含む。
99 板碑	厚 1.5	左上半部破片	主尊は欠損のため不明。蓮座の一部僅かに残る。線刻の二条線、杵線あり。	①緑色片岩。細粒の長石・石英・雲母多く含む。④碑面はやや摩滅する。
100 五輪塔 (火輪)	孔径 6.3 屋根厚11.6×11.3 屋根幅11.3×10.8 幅 21.4 厚 23.2×20.8 高 13.1 軒高 6.4	完形	天井部は内部へ向く傾斜している。納穴は大きくて平坦。蓋面も平坦。加工痕と思われる細かな凹凸が納穴内や側面に残る。	①粗粒安山岩。白色味をおびる。④納穴の底部中央と、側面の上半が摩滅している。
101 砥石	重 126.6g	埋土	短軸断面方形になると思われる。正面のみ使用顯著で、側面と小口面には調整の工具痕残る。裏面やや不整。	①砥沢石。④正面は縦位主体の使用痕あり。裏面は強い横位の磨痕があり、面もやや被打つ。二次火熱を全体に受ける。
102 砥石	短軸 2.9×1.8 重 69.5g	半欠品	長軸・短軸とも整った長方形で、小口を含む5面使用。各使用面は平坦。割口は割使用。	①頁岩か。砥石としては硬い。④表面は細かな磨痕多い。両側面は深く長い磨痕が全面を覆い、表面の平滑さ欠く。
103 砥石	中厚 4.7×2.8 重 89.2g	両端を欠く	短軸断面台形、主な使用面は正面のみで僅かに凹面となる。側面に調整痕残り、裏面は原石面。	①砥沢石。やや大粒の混入物多い。④正面は縦位の使用痕。側面の工具痕はやや幅広く最大11mm。二次火熱受け、正面と割口以外は黒色。

## 7 溝出土遺物

104 砥石	長 8.9 中厚 3.8×2.8 端厚 2.2×1.0 重 110.8g	埋土 ほぼ完成	長軸断面菱形の手持り砥で全面使用だが、両側面の使用痕は固く不整。正・背面は中央から両端へゆるく凹む。	①砥沢石。鉄分は少ない。②磨痕は短く方向も不定。
105 砥石	長 10.8 中厚 5.9×3.4 重 168.5g	ほぼ完成	屈曲の著しい変形の砥石。主な使用面は5面で、小口は無使用。各面は研ぎ減り強い凹面になる。	①砥沢石。混入物少ない。④使用痕は方向不定。二次火熱を受け、正面以外は黒色味をおびる。裏面の鋭い傷は使熱後のもの。
106 砥石 (荒砥)	中厚 5.4×4.7 重 442.3g	埋土 半欠品	断面六角形の6面使用。各面は平坦、もしくは弱い凹面になる。小口及び割口は無使用。	①中伏砂岩。④平坦面では長軸方向、やや不整面では斜位に、磨痕は明瞭に観察できる。正面縁に幅太の溝状の凹みあり。
107 砥石	中厚 4.0×3.0 重 174.9g	埋土 両端欠く	大きくよじれた形で、短軸断面長方形の4面使用。割口に磨痕は観察できない。	①砥沢石。鉄分少ない。③黒色味強い。④裏面のみ縦位の息長く鋭い磨痕が明瞭だが、他の面は方向不定。
108 砥石 (荒砥)	端厚10.8×7.9 重 567.2g	半欠品	長軸断面糸巻き状の4面使用。各使用面は凹面になる。小口部不整だが、悪かな使用痕あり。割口は無使用。	①粗粒安山岩。混入物やや粗い。④裏面は横位、他は縦位主体のやや強い磨痕が残る。
109 砥石 (荒砥)	中厚 8.0×7.0 重 624.4g	埋土	短軸断面は八角形に近く、小口部を除いて全面使用。平坦面と不整部分がある。使用面は平坦。	①粗粒安山岩。④細かい磨痕は観察できない。不整面に斜位の鋭く深い傷が並ぶ。
110 石鉢	口(8.0) 底(5.6) 高 4.1	埋土 列倒体	平面は楕円形になるものと思われる。口縁は波打ち、高さは一律でない。	①粗粒安山岩。やや多孔質で軽量。
111 副羽口	径(12.0)	埋土 先端部小片	棒状成形。先端部に溶融物、炭化物が付着。	①粗砂を多く含む。②二次還元。③灰褐色。

## V区 5号溝(第558~560回 PL.109)

No.・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 7.5~7.2 底 4.2~3.8 高 2.1	口縁上半欠く	右回転クロコ→回糸無調整。クロコ痕やや強い。内底は平坦。口縁小さく歪む。	①素地普通。バミス・赤褐色鉱物・輝石まじりの粗砂を含む。②酸化焰か、やや還元。③にぶい橙7.5 YR7/4。一様。
2 小皿	口 7.7~7.5 底 4.2~3.9 高 2.0	ほぼ完成	1にほぼ同巧。	①②1に同じ。③橙5YR5/6。一様。
3 小皿	口(10.6) 底 5.1 高 2.4	埋土 口縁欠く	左回転クロコか(砂粒の動き少なく不明瞭)→回糸。切離し痕は殆ど残らない。外底は平滑で板状圧痕が僅かに残る。内底に強い指頭のナデ。	①素地普通。バミス・輝石・赤褐色鉱物を含む。②酸化焰か、やや軟調。③明赤褐2.5YR5/8。内面黒色味をおびる。

遺物観察表編

4 小皿	口(11.6) 底 6.0 高 2.8	埋土2片 口縁上半部欠く	右回転ロクロー一回余無調整。ロクロ痕は内面上半でもやや強い。	①素地普通。輝石やや多く、パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②中性焙か、やや硬調。③にぶい橙7.5YR7/4。ほぼ一様。
5 小皿	底 5.6	埋土 図示部ほぼ完存	左回転ロクロー一回余、切離し痕は不明瞭。ロクロ痕やや強い。外底にゴザ状の圧痕残る。内底に強い指頭のナデ。	①素地緻密。輝石・赤褐色鉱物まじりの細砂を含む。②中性焙か、やや硬調。③橙5YR6/6。断面まで一様。④口縁割口の一枚所に態志状のスズ付着。
6 小皿	口(11.4) 底 6.3 高 2.8	埋土3片 口縁片 底部短欠く	右回転ロクロー一回余無調整。ロクロ痕は内面でもやや強く細かい。外底に幅狭な板状圧痕が僅かに残る。内底に弱い指頭のナデ。口縁端部やや平直。	①②③④にほぼ同じ。混入物やや多い。
7 小皿	口(11.0) 底( 6.0) 高 2.8	埋土3片 口縁片 底部短	6にほぼ同巧。外底の板状圧痕は不明瞭。	①②③④に同じ。
8 小皿	口(10.4) 底( 5.9) 高 2.6	埋土 図示部短	左回転ロクロー一回余無調整。ロクロ痕は内面でもやや強く細かい。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物まじりの砂粒を含む。②中性焙か、硬調。③橙7.5YR7/6。断面まで一様。
9 小皿	口(11.7) 底 4.9 高 3.7	完形	左回転ロクロー一回余、切離し痕は不明瞭。内面のロクロ痕やや強い。外底に細かなゴザ状の圧痕。内底に強い指頭のナデ。口縁に歪みあり。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物・輝石の多い細砂を含む。②酸化焙か、普通。③明赤褐5YR5/6。内外面とも黄色のムラあり。内底は明度低い。
10 小皿	口 12.2~12.0 底 5.4 高 3.7	完形	左回転ロクロー一回余無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。外底全面にきわめて強い幅狭の板状圧痕。内底にやや強い指頭のナデ。口縁端部は直立気味。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物まじりの細砂を含む。②酸化焙か、普通。③橙5YR6/6。外面に黄色のムラ。内面は明度低く、底部は黒色味をおびる。
11 小皿	口(11.4) 底( 5.0) 高 3.0	埋土 図示部短	10にほぼ同巧。切離し痕不明瞭。外底にゴザ状の細かい圧痕が僅かに残る。	①素地普通。輝石・パミス・赤褐色鉱物含む。②酸化焙か、普通。③橙5YR6/8。ほぼ一様。
12 小皿	口(12.2) 底 5.4 高 3.3	埋土2片 口縁片 底部短	10にほぼ同巧。口縁外端の屈曲やや強い。	①②③④に同じ。④内底やや荒れる。薄イス状の付着物あり。
13 小皿	底 6.0	埋土 図示部ほぼ完存	右回転ロクロー一回余、切離し痕は不明瞭。ロクロ痕やや強い。外底に細かな板状圧痕。内底に指頭のナデ。	①素地やや緻密。輝石・パミスまじりの粗砂やや多い。②中性焙か、普通。③にぶい橙5YR7/4。断面までほぼ一様。
14 小皿	底 5.2~4.9	埋土 図示部ほぼ完存	左回転ロクロー(砂粒の動き少なく不明瞭)一回余、切離し痕は殆ど残らない。外底にゴザ状の細かい圧痕。内底に強い指頭のナデ。	①素地やや緻密。輝石・パミスを含む。②酸化焙か、やや硬調。③橙5YR6/6。一部に黒色のムラあり。④二次火焼を受けるか。
15 小皿	口(12.0) 底 6.2 高 2.8	埋土 口縁片 底部短	6に同巧。外底の圧痕やや強い。	①②③④に同じ。
16 小皿	口(12.6) 底( 7.4) 高 3.0	埋土2片 図示部短	右回転ロクロー一回余無調整。内面のロクロ痕やや強い。	①素地やや緻密。輝石のやや多い砂粒を含む。②酸化焙か、やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。断面までほぼ一様。
17 香炉 (陶器)	台( 3.4)	埋土 図示部短	高台はやや丸く、底部極めて薄い。外面体部に長石粒を施し、他は無色。	①モグナ土に近い。黄色味をおびる砂粒を含む。②釉は透明で、やや灰色味をおびる。胎土は黄色味をおびた白色。④瀬戸・美濃系。

## 7 溝出土遺物

18 罎 (青磁)	台(4.6)	埋土 図示部分	全面に施釉後、接合部を釉ハズ。青磁釉はやや薄く、やや粗い質入が見られる。	①釉色。僅かに気泡を含む。②釉は淡い青褐色。胎土は灰白色で、高台部分はセピア色。③龍鳳雲系。
19 天目茶碗 (陶磁)	台 4.3	埋土2片 底部完存 口縁 下半片	外底の凹み小さい。外面は鉄輪で裏地部分を全面着色のもの。施釉する。	①メグサ土。混入物少ない。②釉は厚い部分で黒色、薄い部分で褐色を呈す。外面無釉部分は暗褐色。③黒戸・美濃系。
20 播鉢	底(15.6)	図示部分	外底及び底部下端は皿脚状。節し目は1.8cmに6本で、断面U字状で深い。	①素地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物まじりの細砂を含む。②酸化焰、普通。③明赤釉5YR5/8。内底は彩度低い。外面と断面に黒色のムラ。
21 播鉢	底(15.2)	埋土 図示部分	内面厚減し不明瞭だが、節し目は断面U字状で、斜格子状か。	①素地緻密。輝石・赤褐色鉱物含む。②酸化焰、やや硬調。③紺5YR6/8。断面は黒色。内外面とも黒色のムラあり。
22 火鉢か		口縁小破片	口縁は外方へ強く折り返した後、指頭による強い押圧。上端に輪太の凹み返る。内面は布状具の丁寧なナゲの後、深い割突あり。	①素地緻密。輝石まじりの細砂を含む。②中性焰、普通。③灰黄2.5Y6/2。内面彩度低い。断面中央黒色。
23 内耳	口(35.6) 底(31.8) 高 5.8	埋土 図示部分	口縁上端は平皿で内側へ僅かに尖る。外面のナゲやや粗く、口縁上半に接合痕を残し、中に指頭圧痕あり。内面口縁に工具使用の強いナゲ。	①素地緻密。赤褐色鉱物まじりの細砂を含む。②中性焰、普通。③口縁は内外面とも黒色。外底はぶい焼7.5YR5/4。内底はぶい黄焼10YR7/3。④内耳上方にスレあり。
24 内耳	口(39.2) 底(34.0) 高(6.3)	埋土 図示部分	口縁上端は平皿。外面口縁下半に強い圧痕あり、下端に鋭い削りあり。やや厚手。	①素地やや緻密。バミスの目立つ細砂を含む。②中性焰、普通。③口縁は内外面とも黒色。外底はぶい赤7.5YR4/3。④内耳に鋭いスレあり。
25 内耳	口 32.0 底 23.3	口縁端部片と底部中央を欠く	3耳で2耳を欠いている。口縁上端は平皿で内傾する。外面口縁下端に指頭圧痕による凹凸がある。内面底部下半に工具による強いナゲ。	①素地やや緻密。輝石の多い細砂を含む。②酸化焰、やや軟調。③紺5YR6/8。内面底部黒色。
26 内耳	口 33.0 底 23.0	体部写と底部中央を欠く。	3耳で1耳を欠いている。口縁は内湾気味で上端は平皿で内側へ僅かに尖っている。外面底部下端にヘラ状工具痕残る。内面口縁下端の段明瞭。	①素地やや緻密。バミスマじりの細砂を少量含むが、他の混入物まれて良好。②中性焰、軟調。③内面はぶい黄焼10YR7/3。④外面全面ス付着し、体部下端では特に厚い。
27 輪羽口	径(10.3)		窯壁の一部が附着し、上端はスラグ状。	①素地粗い。中硬等混入物極めて多く、粗部。②酸化焰。③ぶい黄焼10YR6/5。
28 輪羽口	径 8.5 孔径 3.0		棒付成形。先端部に灰、溶融物附着。	①粗砂を多く含む。②二次還元。③灰〜灰褐色。
29 輪羽口		図示部小片	内面に方向不定のナゲの痕あり。外面に縦位の鋭い比喩。上端のみガラス化している。	①素地粗く軽量。細かなスラグ状物多量。バミス・赤褐色鉱物・土粒等含む。②酸化焰。③ぶい黄焼10YR7/3。内面赤色味おびる。
30 石臼 (上臼)	上縁上幅 3.4 上縁高 2.1 供給口径 4.1 芯穴口径(5.4) 挽き手穴外径(4~)1.3 挽き手穴深 5.1	写像体	切縁主溝型。目はやや不規則だが、6分面。溝溝数3本。溝間隔2.4~1.9cm。溝は幅3~2mm、深さ1mm、ふくみ極めて大きい。片減りしている。挽き手穴は奥へ向かって尖っている。	①粗粒安山岩。
31 石臼 (上臼)	高 13.4~11.9 供給口径(3.9) 上縁高 2.7	図示部分	上縁部外面の丸味が強い。目は残存しない。やや片減りする。	①粗粒安山岩。②上縁部や供給口内面がすずけている。

遺物観察表編

32 石臼 (上臼)	径(28.0) 上縁下幅幅 3.8 高 9.8	瓦側体	芯穴一部残存。上縁は殆ど欠損。石質やや粗い。磨面に溝は確認されない。	①粗粒安山岩。
33 石臼 (上臼)	供給口上径(4.5) 供給口下径 3.2 芯穴径(4.7)	瓦側体	芯穴・供給口・ものくぼりの一部が残存。目は切欠主溝。上面中央に凹み、上縁部に接して風流状の凹みあり。	①牛伏砂岩。②割口に火熱受ける。溝間隔2.6cm、幅6mm、深さ2mm。
34 石臼 (下臼)		瓦側体	ふくみはやや大きい。丸味がない。磨面やや不整。目は不明瞭だが、残存部分で溝間隔1.8cm。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。④火熱を受けているようだ。
35 石臼 (下臼)		図示部瓦	磨面やや不整で目は不明。ふくみはごく小さい。	①粗粒安山岩。やや多孔質。石質やや粗い。
36 石鉢	底(19.8) 高 17.1	埋土2片 図示部瓦	外底も含め、表面はやや丁寧仕上げられている。	①粗粒安山岩。やや大粒の鉱物目立つ。④破損後に二次火熱を受けているようだ。
37 石鉢	口(20.6) 底(16.2) 高 17.7	口縁瓦 底部瓦	外底は平組。形状より水輪の可能性もある。内面やや平滑に仕上げている。	①砥石(二ツ岳)。
38 板碑	厚 1.9	下部破片	「主□」の文字のみ残る。	①緑色片岩。微粒の長石・雲母を多く含む。
39 砥石	長 11.4 中厚 3.8×2.9 端厚 2.3×1.0 重 111.8g	埋土 ほぼ完形	長軸断面菱形。下面は不明だが、両小口を含めた全面使用と思われる。使用面は凹面になる。	①砥石。鉄分少ない。④火熱を受け、裏面は大きく割れる。磨痕不明瞭。
40 土鏝	長 5.3 径 2.8	ほぼ完形	端部に指頭痕僅かに残る。中央にはやや強い板状の圧痕あり。	①黄地やや緻密。輝石・赤褐色鉱物を含む。②中性質。普通。③浅黄緑10YR8/3。赤色・灰色のムラあり。

## 8 方形竪穴遺構出土遺物

V区 1号竪穴 (第567図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 鉄絵皿 (陶器)	台(6.2)	埋土 反側体	鉄絵は不明瞭。同巧の他の皿と異なり 口縁部に陶線は見られない。長石軸を 全面に施す。内面にブクを生じる。	①やや雑密。気泡が僅かにまじる。③鉄絵は黒色味 をおび、長石軸はやや灰色味をおびている。④瀬戸・美濃系。
2 小皿	口(12.0) 底(4.9) 高 2.5	周辺2片 反側体	左回転ロクロー回糸。外底にやや細かな 板目残るが、内底のナデは不明瞭。 薄手で、口縁部やや平坦。	①瀬地普通。砂粒以外の夾雑物少ない。②酸化焰か、 やや硬調。③によい櫃2.5YR7/4ではば一様。
3 圓鉢	口(26.8) 底(11.5) 高 12.8	上半以下半与地 に同一個体の口 縁写あり	幅1.8cmに7本の筋目目を2方向から 弧状に引いて、斜格子を作っている。 口縁部は内側に鋭く尖り、片口のある ものと思われる。	①瀬地やや緻密。混入物少ない。②中性焰か、やや 硬調。③淡黄2.5Y7/3。反黒色味をおびる部分広い。 断面中央は黒色。④使用痕は明瞭でない。

V区 2号竪穴 (第568図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(11.2) 底(5.3) 高 3.1	埋土3片 顯示部写	右回転ロクロー回糸。幅広い板目がある ものと思われる。外面でロクロー痕や 強い。口縁部丸い。	①瀬地普通。土粒・金雲母細片等含む。②酸化焰か、 やや硬調。③によい櫃5YR7/4ではば一様。

VI区 1号竪穴 (第570図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 鉄絵皿 (陶器)	口 11.2 台 6.2 高 2.6	埋土2片 口縁写 底部写	鉄絵は見込に五弁花、体部に唐草か。 口縁部の陶線は幅太。全面に長石軸を 施す。内面に円量ビンの痕跡あり。	①やや雑密。③鉄絵は暗褐色・長石軸はやや灰色味 をおびる黄色。細かな貫入見られる。④瀬戸・美濃 系。

## 9 井戸跡出土遺物

### I区 2号井戸 (第576図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(15.4)	下層埋土3片 図示部写	外面体部の削り丁寧だが、削り残し広く、型膚状の無調整部分あり。内面ナデも丁寧で、布状具の擦痕残る。	①赤地やや緻密。パミス・輝石まじりの砂粒を含む。 ②酸化焰、普通。③にぶい黄緑10YR7/3でほぼ一様。

### IV区 4号井戸 (第585図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 石鉢		埋土 図示部写	両曲の度合と断面の厚さより、径は30cmほどの大型品と思われる。内面はやや平滑。	①粗粒安山岩。重量。④破損後に火熱を受け、内面中心に広くすすけている。

### IV区 11号井戸 (第588図 PL.110)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 石臼 (上臼)	径(36.1) 高(15.1) 上縁部上幅 4.0 上縁高 4.4 挽き手穴一辺 2.6 挽き手穴深 6.7 供給口上径 5.8 芯穴径4.4 深さ3.2		上縁部は高さに比して扁状。挽き手穴は供給口の側方。補助孔の痕跡あり。断面やや不整。目は切縁主溝。6分画部溝10本で溝間隔1.8cm前後。上面中央に径5mm、深さ7mmの凹みあり。	①粗粒安山岩。石質やや粗い。
2 石臼 (上臼)	径(32.6) 高( 8.0)		周縁厚さ6.4~7.7cmと片べりが著しい。溝間隔は1.8~2.1cm、幅は2mmで芯穴は一部遺存。目はあまり明確でない。	①粗粒安山岩。

### IV区 12号井戸 (第589図 PL.110)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 板碑	厚 3.2	中左部破片	主尊は欠損し不明。紀年銘は「弘安七(1284年) 甲申十一月日」。特長的な書体。下部に特縁あり、大型板碑。	①緑色片石。微粒の長石を含む。④碑面の摩滅は少ない。裏面に数糸のノミ痕が残る。ノミ巾は、1.2~1.3cm。

### IV区 14号井戸 (第591図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 五輪塔 (地輪)	幅 21.2 厚 22.7 高 17.8	2隅を欠く	小さな凹みのある面を上面とした。上面と底面は隅を面取り状に落とす、丸味をつけている。側面は平坦。	①粗粒安山岩。白色味おびる。黒色鉱物の混入やや目立つ。④破損前に火熱を受け、上面と側面は黒色味をおびる。



## IV区 18号井戸 (第593図 PL.110)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 白磁碗	台 4.4	埋土 図示部ほぼ完存	白磁の底部片で器内はききあて薄く、2.5mmの箇所あり。高台・内底に、部分的に裏割あり。内面に輪状刻文。	①胎土は緻密で灰白色。②釉面はやや青白磁釉がかかる。③13~14世紀代の福建周辺の産か。
2 石臼 (上臼)	径(29.3) 高 10.3		挽き手穴の断面形は円錐形で、深さ5.5cm、目は6分画であるが、副溝は10~11本と多い。供給口はあるが、ものくぼりは認められない。芯穴は貫通している。	①粗粒安山岩。

## IV区 19号井戸 (第594図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 石臼 (上臼)	径(31.0) 供給口径 3.9	底面直上 図示部写	上縁部欠失。供給口と、ものくぼりの一部残存。目は不明瞭だが、溝間隔が1.6cmほどか。	①粗粒安山岩。②破砕後に火熱を受けており、割口がすずけている。

## V区 1号井戸 (第596図 PL.110)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	底(6.0)	埋土3片 口縁写 底部写	左回転ロクロ→回糸無調整。ロクロ直は内面でやや強く、コナ状工具使用の可能性。内底平坦。薄手。	①素地普通。黒色砂粒多い。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい黄橙10YR6/3。断面黒色味強い。④全体に厚減すすむ。
2 内耳	口(36.4) 底(32.0) 高 5.6	埋土 図示部写	口縁上端は小さく凹む。耳は幅広く、がっしりしている。口縁外下手にやや強い指頭圧痕あり。	①素地やや粗い。赤褐色鉱物・白色砂粒等を少量含む。②中性焰、普通。③黒褐7.5YR3/1。底部は灰褐色。④口縁外面にスス付着。
3 板磚	幅 15.4 厚 1.9	上部破片	主尊は阿弥陀種子、浅い薬研形。二条線あり、やや右上がりで水平にあらず。小葉板磚。	①緑色片粒。微粒の長石を多く含む。②釉面はやや厚減し、裏面に横方向のノミ痕を残す。ノミ巾は21.1cm。
4 砥石	中厚 3.3×3.0 端厚 2.4×0.8 重 107.9g	埋土 一端を欠く	長軸断面菱形で主な使用面は正面と裏面。両側面は調整の工具痕を明瞭に残している。割口は無使用。	①砥沢片。混入物や多い。鉄分少ない。④使用面は不明瞭。主な使用面は凹面になる。裏面に深い傷あり。

## V区 2号井戸 (第597図 PL.110)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 6.9 底 3.5 高 2.0	埋土 ほぼ完形	左回転ロクロ→回糸無調整。口縁端部は上方へ僅かに尖る。内底に指頭による幅広い弱いナデ。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物含む砂粒やや多い。②酸化焰か、やや軟調。③にぶい橙7.5YR6/4。ほぼ一律。④口縁端部全体に厚く、炮ご状のスス付着。
2 青磁碗		埋土上層 体部小片	外面に劃花文あり。口縁端部は僅かに欠損しているが、丸く返るか。器内は厚い。釉は一般的。	①胎土は緻密で白色。③釉調は若紫色。④14世紀代の龍泉窯。

遺物観察表編

3 数磚	厚 1.3	主導部破片	主導は阿弥陀種子。キークはイーがアク点間を抜ける書体。葉研形り。端面の剝離片。	①緑色片岩。小粒の長石を多く含む。
---------	-------	-------	---	-------------------

V区 3号井戸 (第599図 PL.110)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(10.6) 底 6.8	埋土 口縁上半壊 口 縁下半～底部残	左回転ロクロ→回余無調整。ロクロ直弱い。外底に幅広い板状圧痕が僅かに残る。内底に弱い指痕のナデがあるが平坦。やや薄手。	①素地やや粗い。パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰か、普通。③にぶい赤褐5YR4/4。外面黒色味をおびるムラ広い。
2 礎石	端厚 3.0×0.8 重 36.4g	埋土 半欠品	薄い板状で、小口を含む5面使用。断面糸巻き状の可能性あり。主な使用面は正面と裏面。割口は無使用。	①砥沢石。混入物・鉄分ともやや多い。④使用痕は横位がやや目立つ。強い凹凸がない。

V区 4号井戸 (第600図 PL.110・111)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿 (陶器)	口(14.4) 台(7.8) 高 3.2	底面埋土 口縁写 底面写	全体に厚手だが、高台は細い。ロクロ直は外面で強い。志野厚は厚く全面にかかり、粗い貫入が入る。内底に円錐ビンの痕あり。	①モグサ土。混入物少ない。②釉は乳白色。貫入は赤色味が強い。素地は黄色味をおびる。④瀬戸・美濃系。
2 小皿	口(10.0) 底 4.2 高 3.3	埋土 口縁上半欠く	右回転ロクロ→回余無調整。外底に幅広い板状圧痕。内面はロクロ直細かく強い。内底の指痕のナデも強い。	①素地普通。輝石まじりの砂粒やや多い。②中性焰か、やや硬調。③灰白7.5Y8/1。外底にやや黒色味が強い。
3 五輪塔 (火輪)		図示部破片	軒反りの少ない、屋根の高いものと思われる。腰は鋭く整美であるが、平面形のコーナー部は直角にならない。	①砥石 (二ツ岳)。④割口・軒面・底面が研ぎ減っており、破損後は礎石に転用している。

V区 5号井戸 (第601図 PL.110)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 礎石	中厚 3.2×1.6 重 101.4g	埋土 半欠品	長軸断面三角形の半欠品と思われる。小口側も割口。一側面と割口を除く3面使用。	①砥沢石。鉄分やや多い。④使用後は横位・斜位が主体で全体に不均整。無使用の側面には調整痕はないが、強い凹凸が見られる。

V区 6号井戸 (第602図 PL.111)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(11.4) 底 5.2 高 3.0	埋土 写個体	左回転ロクロ→回余無調整。ロクロ直内面やや強い。内底に弱い指痕のナデ。外底に板状圧痕僅かに残る。	①素地やや粗くザラザラ。輝石・パミスまじりの砂粒多い。②中性焰か、やや硬調。③にぶい赤褐5YR6/4。内面全面灰色味強く、外面も灰色味おびるムラあり。

## V区 7号井戸 (第604図 PL.111)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 内耳	口(33.0)	埋土 口縁瓦 体部瓦	口縁端部種かに凹む。外面削りは弱いがやや強い。	①赤地やや粗い。パミス・赤褐色藍物まじりの砂粒を含む。②酸化焰か、やや軟調。③におい赤褐5YR5/4。外面に細かなムラあり。
2 小皿	口 11.0 底 4.8 高 3.6	埋土 完形	左回転ロクロ一回糸無調整。ロクロ痕は内面で強い。内底にやや強い指頭のナデ。	①赤地普通。輝石・赤褐色藍物まじりの砂粒や多い。②中性焰か、硬調。③焼5YR7/6。赤色味のやや強いムラあり。

## V区 13号井戸 (第607図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 内耳	口(30.6) 底(16.8)	埋土 図示部瓦	口縁端部は平坦で外傾する。口縁内面の段はやや強い。内面体部は指頭痕状の凹みあり、下端で強くナデつけている。外面削り弱い。	①赤地普通。輝石まじりの砂粒少量含む。②中性焰、やや軟調。③におい黄橙10YR7/3。黒色味の強い部分広い。断面中央一部黒色。④外面全面にスス付着する。

## V区 14号井戸 (第609・610図 PL.111)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 標鉢 (陶器)	口(29.6)	埋土 図示部瓦	右回転ロクロ。ロクロ痕は外側で強く器面の凹凸大きい。即し目は2.8cmで12本。残存部全面に鉄軸を施す。	①モグサ土。長石や多い。③断面はやや黄色味をおびる。灰白色。軸は紫色味がかかる褐色で弱いナリあり。④瀬戸・美濃系。
2 標鉢 (陶器)		埋土 図示部瓦	右回転ロクロ。即し目は幅2.5cmに15本。断面U字状で浅い。残存部全面に鉄軸を施す。	①モグサ土。混入物少ない。気泡まじる。③断面明るい灰白色。軸は外面褐色、内面暗灰色で、弱いナリがある。
3 砥石 (荒砥)	中厚 6.1×5.9 重 525.5g	埋土 完形か	短軸断面七角形で両小口を除く全面使用。各使用面はいずれも平坦である。小口は割口。	①粗粒安山岩。②縦位の摩痕が主体となる。ベンガラが付着あり。顔料粉砕用の砥石か。ベンガラは小口にも付着している。
4 砥石	中厚 4.5×4.0 端厚 4.2×4.0 重 267.4g	埋土 完形か	短軸断面方形の、片側小口を含む5面使用。使用面はいずれも平坦。他の小口は割口。	①牛伏砂岩。②使用痕は不明瞭だが、長軸方向の磨痕が多いようだ。
5 砥石 (荒砥)	中厚 6.8×4.5 重 260.3g	埋土 完形か	断面はほぼ長方形で両小口を除く4面使用。使用面はいずれも弱い凹面になる。小口は割口。	①粗粒安山岩。軽量である。灰白色の安山岩質藍物の混入多い。磨痕は不明瞭だが長軸方向が主体である。
6 木器 (椀)	現存長 31.0 現存幅 10.8 柄取付角 50°	周縁部と柄の遺 半を欠損	先端部は鉄刃先嵌入のため、主に裏面より削って整形。柄つばは3.4×8.5cmの長方形に穿ち、ほぼ同大の柄柄を嵌め込む。接着は「にかわ」状。	①椀口板を使用。柄は厚い板材から作出。②柄の中位が細がるが、使用による手摺か、腐食かは不明。
7 五輪塔 (空風輪)	空径 15.4~14.7 中径 13.3~12.9 柄径 4.3~3.8 高 27.4	埋土 完形	V字状の粗い網り込みで空・風部を区切った様な造りである。いびつ。	①粗粒安山岩。多孔質で大粒の混入藍物多い。

遺物観察表編

8 五輪塔 (火輪)	孔径 5.7 屋根 10.7~16.1 幅 20.5 厚 20.8 高 14.8	ほぼ完形	軒反りやや強く、高さのある整った形態を呈す。軒部と柵穴部に同位の細かな工具痕残る。底面も平滑で丁寧に仕上げらる。	①粗粒安山岩。白色味をおびる。④柵穴中央はやや摩滅する。
9 五輪塔 (地輪)		図示部破片	上面は残存部分か、顎口か判断できない。表面は不整だが、調整痕は不明。	①粗粒安山岩。④破損後に火熱を受け、すすけたように黒ずみ、その後さらに破損が加わる。
10 石臼 (上臼)	芯穴径(4.0) 供給口径(4.5) 上端部上幅 3.9	埋土 片断体	武蔵型石臼。芯穴・供給口の一部が残存するが、目は不明。よくみ大きい。片減りする。	①牛伏砂岩。石質は粗い。
11 茶臼 (下臼)	残存径(33.0) 芯穴上径(2.5) 芯穴下径(4.4)	埋土 図示部欠	はんざり端部欠失。よくみ小さい。目は掘り直して不明瞭になっているが、8分画、筋溝数7~8本、溝間隔8~6mm。底面に工具痕顕著。	①粗粒安山岩。④破損後に、強い火熱を受けている。
12 石臼 (下臼)	径(25.6) 高 14.5 よくみ 1.2	片断体	溝は摩滅が著しく、本数・分画数は不明。溝は深い。すり合わせ面はやや粗い。顎口被熱。	①粗粒安山岩。
13 茶臼 (下臼)	径(32.8)	図示部欠	はんざり部先端は、上方へ反る。磨面残存少なく、目は不明。底面はやや平坦。	①粗粒安山岩。やや軽量。④破損前に強い火熱を受ける。
14 石臼	径(32.0)	埋土	磨面の摩滅著しく平滑になっている。よくみは小さい。側面の割落多い。	①粗粒安山岩。
15 くぼみ石	径 14.7~12.9 厚 7.6	埋土 ほぼ完形	偏平な自然石の一面に2孔が穿たれている。一孔は逆円形、一孔は円柱状の形孔を呈している。	①金山石か、ゲイサイト質溶結凝灰岩。④孔のある反対側の面は火熱を受け、顎口を含めてすすけている。

V区 15号井戸 (第611図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 内耳	口(35.8) 底(31.2) 高 4.6	埋土 図示部欠	口縁上端は平坦。内耳はねじれて取付けられる。口縁内面の段はやや弱い。	①素地普通。細礫の少量まじる砂粒含む。②中性焙。普通。③灰7.5Y6/1。内底灰黄5Y8/3。④口縁外面上半にススがこびりつく。耳は若干摩滅。
2 石臼 (上臼)	径(28.0) 高 7.8		挽き手穴は隅丸方形で一辺2.5cm、深さは4.3cm。溝は粗く周縁で2.5cm間隔、幅は4mm前後である。上縁高は2.4cm、幅は3.1cm。被熱。左回転。	①粗粒安山岩。

V区 16号井戸 (第612図 PL.111・112)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(11.6) 底 6.1~6.4 高 3.1	下層埋土 口縁欠欠	左回転クワロー回糸無調整。クワロー底は内外面とも倒く不明瞭。口縁は波状に小さく凹む。	①素地普通。赤褐色黏物の目立つパミまじりの砂粒を含む。②中性焙か、やや硬調。③にぶい黄緑10YR7/4。内外面とも赤色味おびるムラあり。

## 9 井戸跡出土遺物

2 小皿	口(12.2) 底 5.2 高 3.1	埋土2片 口縁写 底部写	左回転クロー回糸無調整。ロクロ痕やや弱い。外底全面に板状圧痕強い。内底に指頭のアダあり。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰か、普通。③埋5YR6/6。断面までほぼ一様。
3 小皿	口(11.4) 底 6.8 高 2.8	埋土3片 口縁写欠く	右回転クロー回糸無調整。外底に幅の狭い強い板状圧痕。内底に弱い指頭のアダ。口縁に重みあり。	①素地普通。輝石・パミスまじりの砂粒やや多い。②酸化焰か、普通。③埋5YR6/6。断面までほぼ一様。
4 小皿	口 12.0 底 5.1~5.4 高 3.6	下層埋土5片 口縁写欠く	左回転クロー回糸無調整。口縁端部やや平坦。外底に板状圧痕が弱かに残る。内底に弱い指頭のアダ。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰、やや軟調。③埋5YR6/6。ほぼ一様。
5 小皿	口(10.2) 底 5.6 高 2.2	上層埋土5片 口縁写 底部写	右回転クロー回糸無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。内底に弱い指頭のアダ。厚手。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒、やや多い。②中性焰か、普通。③にぶい埋7.5YR6/4。断面まで一様。
6 小皿	口 10.8 底 7.2 高 2.7	埋土3片 口縁写欠く	右回転クロー回糸無調整。ロクロ痕ごく弱く不明瞭。外底に幅の狭い板状圧痕。内底に強い指頭のアダあり。やや厚手で重量。	①素地普通。パミス・輝石まじりの砂粒含む。②酸化焰か、やや軟調。③赤褐5YR4/6。ほぼ一様。
7 青磁碗		埋土下層 体部片	外面に鋸手蓮弁文あり。器内は厚く、釉は薄い。気泡やや大きい。	①胎土は緻密で灰色。②釉調は暗いオリーブ色。④13世紀代の龍泉窯系。

## VII区 1号井戸 (第613図 PL.112)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 磁石	中厚 4.5×1.6 重 93.9g	埋土 両端欠く	短軸断面長方形の4面使用。各使用面は平坦もしくは弱い凹面。両側口は無使用。	①磁石。④一側面がやや不整で、他はすべて平滑に研ぎ磨りしている。磨痕はやや強く、方向は不定。
2 石臼 (下臼)	径(32.0)		厚縁厚さ2.9cm。最大厚4.9cm。芯穴が貫通し、ふくみが凸形であることから下臼と考えられるが、非常に薄いこと、断面形状が異なることから、転用の可能性もある。	①粗粒安山岩。④溝間隔は1.1cm前後、幅は2mm程である。

## VIII区 3号井戸 (第615~616図 PL.112)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 11.2 底 6.2 高 3.4	中層埋土3片 口縁写欠く	左回転クロー回糸無調整。口縁内面に強い横ナデ。外底に幅の狭い板状圧痕に残る。内底は強い指頭のアダ。	①素地普通。赤褐色鉱物・パミスまじりの砂粒を含む。②酸化焰か、普通。③埋2.5YR6/6。断面までほぼ一様。
2 小皿	口(11.4) 底(5.2) 高 3.3	埋土 図示部写	左回転クロー回糸無調整。口縁端部は内湾気味でややゆるい。ロクロ痕内面でやや強い。	①素地やや粗い。パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③埋7.5YR7/6。赤色味おびるムラあり。
3 板碑	厚 2.4	上右部破片	漢字研りのアケ点のみ残る。	①緑色片岩。微粒の長石を含む。④碑面はやや摩滅する。

遺物観察表編

4 石鉢		中層埋土	直径20cm程の不整形の平面形状の容器と思われる。上面は平坦だが、内面に粗いノミの痕跡残る。	①凝灰(二ツ岳)。④火熱を受け、外面に赤色味をおびる部分あり。
5 石臼 (上臼)			上縁内側の厚さは5.6~5.9cmとやや片べりする。上縁は欠損。石質は細かい。溝は殆ど確認できない。周縁部はよく磨かれている。	①粗粒安山岩。
6 石臼 (下臼)	径(29.4) 高 8.4 ふくみ 1.3	中位	溝は切線主湾型から放射型に変更していると考えられる。変更後の溝間隔は4~6cm、幅5mm、深さ1.5cm。接触部は平滑。	①粗粒安山岩。
7 石臼 (下臼)	径(29.5) 芯穴径(3.2)	中層埋土 瓦割体	芯穴一部残存。中ほどで弱い段ができています。側面の剥落多い。やや片減りしている。	①粗粒安山岩。
8 石臼 (上臼)		中位	挽き手穴の一部と磨面の一部のみ残存。溝は不明瞭。	①粗粒安山岩。

VII区 4号井戸 (第618回 PL.112)

No・器種	計測値(cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 皿 (陶器)	口 11.2~11.4 台 6.9 高 2.2	埋土 口縁一部欠く	高台部倒り出しはごく僅か。外底の一部を除き、全面に薄い灰釉を施す。内外面に円錐ピンの痕跡残る。	①モグサ土。砂粒を少量含む。③釉調は透明で、濃い部分で灰緑色味をおびる。胎土は白色。④瀬戸・美濃系。口縁端部に燈芯状のスス付着。
2 砥石 (荒砥)	端厚 8.2×7.5	下層 半欠品	長軸断面長方形もしくはやや傘巻き状で欠けの部分多い。小口もやや摩滅するが使用によるか整形かは不明。	①粗粒安山岩。乳白色の混入鉱物が多い。④使用痕跡と観察できないが、面は平坦。
3 板碑	厚 2.2	上右部破片	主尊は阿弥陀種子。キリークのイーがアク点周を抜ける書体。粗い薬研形で、二条線なし。全体に粗製。	①緑色片岩。微〜小粒の長石を含む。④碑面は摩滅する。
4 五輪塔 (火輪)	柄穴径 6.6 屋根幅 9.8 幅 26.7 高 11.7	中層の2片 一端を欠く	平面形状に歪み大きく、柄穴も中心を外れる。柄穴内面にやや鋭い工具痕残る。底面は平坦で細かな凹凸多い。	①粗粒安山岩。大粒の混入物含む。底面は平坦。
5 五輪塔 (地輪)	高 18.6	中層 一隅のみ残存	弱い凹みのある面を上と推測する。幅広い工具痕が残る。他の面に工具痕ないが平巻き欠く。	①粗粒安山岩。大粒の透明な混入鉱物含む。④下面中心に破損後に火熱を受け、黒色味をおびる。
6 不明石製 品		埋土 図示破片	凸面状になる面を上と考えた。側面に細かな凹凸多いが、上面はやや平滑。	①牛伏砂岩。④側面に火熱を受け、赤色・黒色に変色している。細かな剥落も多い。
7 不明石製 品		下層	3面は表面遺存。下面は欠損。一面は欠損後に磨っている。	①粗粒安山岩。

## VI区 8号井戸 (第621図 PL.112)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 板碑	幅 28.8 厚 2.6	上部破片	主尊は阿弥陀種子。キリクはイーがアタ点を抜けない書体。葉研形。二条線は浅く、ノミ痕を残す。左右の切り込みあり。大型板碑。	①緑色片岩。細～小粒の長石を含む。④裏面は剥離し、一部に旧面を残し横方向にノミ痕が認められる。ノミ巾1.4cm。溝面はやや厚縁する。
2 板碑	厚 2.3	下左部破片	「月日」の文字と特線の残る。	①緑色片岩。小～大粒の長石を多く含む。④裏面に横方向のノミ痕 (巾1.2～1.3cm) を残す。

## VI区 14号井戸 (第622図 PL.112)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 五輪塔 (地輪)	幅 18.4 高 15.5	埋土 一辺を欠く	上面・底面とも隅は面取り状に角を落としている。上面はやや粗い工具痕が観察できる。底面は細かな凹凸多い。	①粗粒安山岩。ややピンク色味をおび、黒色鉱物もやや目立つ。④縦横前に火熱を受け、隅隅がすずけたように黒色味をおびる。

## VI区 15号井戸 (第624図 PL.112)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口(11.8) 底 5.6 高 2.6	中層埋土3片 口縁5欠く	VI区3号井戸-1にほぼ同巧。内底のナデはごく弱い。	①素地普通。赤褐色鉱物の目立つ砂粒を含む。②酸化焰か、普通。③明赤褐2.5YR5/6。内外面とも黒色のムラあり。
2 小皿	口( 9.8) 底( 5.8) 高 2.5	中層埋土 図示部欠	右回転ロクロー回赤無調整。ロクロ痕弱い。	①素地普通。輝石・バミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②中性焰か、やや硬調。③にぶい焼5YR7/4。ほぼ一様。
3 硝石	端厚 2.5×2.3 重 84.0g	埋土 半欠品	短軸断面方形。正面・裏面が主な使用面で両側面には調整の工具痕が明確に残る。小口平坦だが使用痕不明。割口は不使用。	①砥沢石。きめやや細かい。④使用痕は明瞭だが方向不定。両側面は細かな磨痕あるが使用痕かどうか不明。

## VI区 19号井戸 (第627図 PL.112)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口( 9.8) 底( 7.0) 高 2.2	中層埋土 図示部欠	右回転ロクロー回赤無調整。ロクロ痕弱く不明瞭。内面平滑。口縁上端は平坦で外傾。	①素地やや緻密。バミス・輝石まじりの砂粒少量含む。②中性焰か、硬調。③にぶい黄褐10YR6/4。黒色味をおびるムラあり。
2 内耳	口(31.0) 底(19.4)	上層埋土2片 図示部欠	口縁端部は平坦。外面下縁の削りはごく弱い。内耳は丁寧な取付で、指環状の凹みや多い。	①素地普通。黒色砂粒やや目立つ。②中性焰、やや硬調。③灰黄2.5Y8/3。内外面に赤色味の強いムラと広い黒斑あり。
3 刀子	棟 0.53～0.20 基幅 1.19～0.76 基上幅 0.38～0.14	埋土上層 切先と基端部欠 く	刃部は均等に研ぎ減りしている。茎も断面三角形を呈しているが、剥落している可能性もあり原形不明。	①鉄地金はやや良好。

遺物観察表編

4 砥石	中厚 3.3×3.1 重 120.3g	上層 ほぼ完成形	短軸断面は台形に近い。主な使用面は正面のみで、裏面は深い傷が並び面は不整。一回面に調整工具痕残る。他の側面と小口、割口は無使用。	①砥石片。数少ない。混入物は小粒。硬い。②正面の形成やや鋭い。側面の傷は断面V字状で数度にわたって刻まれる。二次火熱を受け割口を含めて黒色。無使用面に一部ベンガラ付着。
---------	------------------------	-------------	--	--

VI区 22号井戸 (第630図 PL.112・113)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 板碑	厚 2.6	右上半部破片	主尊は阿弥陀種子。キリクはイーがアク点間を抜けない書体。葉研形。二条線及び左右切り込みあり。稜線あり。	①緑色片岩。混入物は少なく僅かに微粒の長石を含むのみ。④碑面の摩滅は少ない。
2 板碑	幅 19.5 厚 3.0	上部破片	主尊は阿弥陀種子。葉研形。二条線及び左右の切り込みあり。二条線はノミ痕を残す。碑面の左右端部を面取りし平坦部を造り出す。	①緑色片岩。小粒の長石を多く含む。④碑面は平坦に磨かれ、摩滅は少ない。裏面に横方向のノミ痕を残す。ノミ痕は0.8cm。
3 板碑	幅 18.8 厚 2.0	下部破片	中型板碑の基礎部破片。裏面と表面の一部に横方向のノミ痕が数条残る。ノミ巾は1.3mm程。造立時には直接地中に埋め込む部分。	①緑色片岩。
4 板碑	幅 18.6 厚 2.2	上部破片 (頂部欠損)	主尊は阿弥陀種子。竹形。キリクの書体はイーがアク点間を抜ける。蓮座欠損。縁刻の二条線の一部残る。	①緑色片岩。大粒の長石を少量含む。④碑面はやや摩滅。

VII区 23号井戸 (第631図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 钵鉢	口(31.4)	中層埋土 図示部写	外面口縁は強い横位ナデ。下側に僅かな削り痕残る。内面即し目なく、指面の強く息長いナデが器面に凹凸作る。	①素地普通。赤褐色鉱物・土粒・細礫等の混入物多く、やや粗い。②中性焰。やや硬調。③にぶい橙10YR7/3、灰色味・赤色味おびるムラあり。

VIII区 26号井戸 (第632図 PL.112)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土罐	長 4.4 径 2.0	埋土 完成形	表面は平滑で、端部付近に小さな指痕を残すのみ。孔は細い。	①素地やや緻密。赤褐色鉱物等を少量含む。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/3。一様。

VIII区 27号井戸 (第633図・PL.112)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土罐	径 1.3~1.2	埋土 一端を欠く	平面形はいびつで不整だが、孔は通っている。	①素地普通。礫石まじりの砂粒含む。土器としてはやや粗い。②酸化焰、普通。③にぶい黄橙10YR7/4で黒色味おびるムラあり。



## VI区 32号井戸 (第636図 PL.113)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 鉢鉢	口(28.0)	埋土2片 図示部残	口縁外面の凹み広く、凹み内にクロロ痕状の深い凹みあり。加し目は幅広く幅2.8cmの残存部に5本あり、断面U字状で深い。	①赤地粗い。赤褐色鉱物・細塵・バミス等のやや大粒混入物多い。②中性焰か、やや軟調。③灰黄2.5Y7/2。外面黒色味の強いムラあり。
2 土製円盤	径 7.0×5.3	埋土 完形	内耳土器底部の再利用。側面は部分的に強い研磨が加えてある。	①赤地普通。赤褐色鉱物・輝石等の目立つ砂粒多い。②中性焰、普通。③にぶい黄緑10YR7/3。断面は赤色味をおびる。
3 磁石	中厚 4.5×3.3 重 196.7g	埋土 ほぼ完形	短軸断面三角形で、顕著な使用面は一面のみ。正面は部分的に研ぎ減っているが不整面が多い。	①磁石。鉄分多い。②磨度は縦位主体で、息長く鋭いものが多い。
4 磁石	中厚 3.2×2.6 重 127.6g	埋土 完形	裏面が大きく剥落した長軸断面菱形の手持ち磁と思われる。正面と側面を主な使用面とし、他は不明瞭。	①磁石。混入物やや多いが、きめは細かい。鉄分やや多い。④使用痕は縦位中心で、比較的息長い磨痕が観察できる。

## VI区 33号井戸 (第637図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 長頸瓶 (S)	肩(19.0)	埋土 図示部残	三段成形の痕が断面で明瞭に観察できる。右回転クロロ。外面に断面U字状の3条の沈線が走り、縁辺に列点文を配す。頸部は上方へ失る。	①赤地普通。少量の細塵まじりの白色砂粒の混入やや多い。②還元焰、やや硬調。③青灰5B6/L。外面一部明度低い。④外面の一部研ぎ減っている。

## VI区 34号井戸 (第638図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 瓶	底(15.0)	埋土 図示部残	クロロの回転方向や器面から、割付痕の底部と判断した。外面のクロロ痕は深いカキ目状となっている。	①赤地やや粗い。砂粒等の混入物を含む。②還元焰か。須恵器としては軟調。③灰白色。④瓶としての使用痕は観察できない。
2 石臼 (下臼)	高 6.1		目は不明瞭。欠損後被蝕。接触部のみ磨減して平滑。	①粗粒安山岩。
3 石鉢	口( 8.6) 底( 5.7) 高 6.5	片断体	表面風化して、整形痕不明。全体に丁寧に仕上げてある。	①軽石。混入する鉱物や、気泡は小さい。④破損前に火傷を受けている。

## VI区 38号井戸 (第641・642図 PL.113)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 小皿	口 11.4 底 5.8 高 3.6	埋土 完形	左回転クロロー回水無調整。クロロ痕内外面ともやや浅く細かい。内底弱い指痕のナデ。外底に狭い板状圧痕。	①赤地やや粗くザラザラ。赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。②中性焰か、硬調。③淡黄2.5YR8/4。内面黒色のムラ広い。

遺物観察表編

2 小皿	口 11.6 底 6.3 高 2.9	埋土 3片 口縁欠く	右回転クロロ→回糸無調整。クロロ痕は内外面とも弱く不明瞭。外底に弱い板状圧痕、内面に弱い指頭のナデ。	①黄地やや粗い。やや大粒の赤褐色鉱物まじり、夾雑物多い。②中性焰。やや硬調。③にぶい橙5YR7/4。黄色味をおびるムラあり。
3 小皿	口(11.2) 底(6.2) 高 2.7	埋土 口縁欠 底部欠	左回転クロロ→回糸無調整。クロロ痕は外面でやや弱く、内面では不明瞭。内底のナデ弱い。	①黄地やや粗い。赤褐色鉱物・パミスまじりの砂粒多い。②中性焰か、やや軟調。③明赤褐2.5YR5/8。断面まで一様。
4 罐鉢	口(30.0)	埋土 図示部欠	口縁端部は凹み内側へ高く突出する。親指の指頭大の片口あり。外面の削りはきわめて弱い。即し目は幅1.6cmに5本。	①黄地普通。輝石・パミス・赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②中性焰か、普通。③にぶい橙5YR6/4。断面中央黒色。
5 内耳	口(35.0) 底(31.6)	埋土 4片 図示部欠	口縁は中位で肥厚する。口縁内側の段は弱い。内耳取付は丁寧で、内耳下の凹みも深い。	①黄地普通。輝石・パミス等のまじる砂粒やや多い。②中性焰、やや硬調。③灰黄2.5Y7/2。口縁内外面とも黒色味強い。断面中央黒色。口縁外端のスズや厚い。
6 石臼 (上臼)	径(32.5) 高 10.7~8.7 上縁上端幅 3.0 下幅 4.7 高 2.7	埋土 欠個体	芯穴の平面形は方形を呈し、深さは2.5cm。調整は粗く上面は平坦ではない。石質も非常に粗い。目は不明瞭。	①粗粒安山岩。
7 五輪塔 (水輪)	上径22.3×22.0 中径27.8×30.3 下径22.0 高 14.8	埋土 ほぼ完形	上下両面とも中央が緩やかに凹む。製作痕は殆ど判らないが、器面に平滑さ欠く。最大径は下方にくると考え上面を推測した。	①粗粒安山岩。②弱い火熱を破損後に受け、一部で赤色味をおびている。

VII区 1号井戸 (第644図 PL.113)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 11.8~11.6 高 3.2	上層埋土 完形	薄手で、指頭痕状の凹凸が全面に見られる。口縁外面上半は粗いナデで、下半は磨滑状。内面丁寧なナデ。外底の削りは幅広く雑。	①黄地普通。磁砂以外の混入物少なく、良好。②酸化弱、普通。③にぶい橙5YR6/4で内面一様。外底は黒色味強い。
2 罐鉢	底(14.0)	埋土 図示部欠	体部外面は全面指頭状の凹凸。外底は弱いヘラ削りか。即し目不明。	①黄地普通。パミス・輝石まじりの砂粒やや多く、やや粗い。②中性焰、やや軟調。③にぶい橙5YR6/3。断面灰白色。内面全面割落著しい。
3 砥石	中厚 4.3×2.8 重 110.6g	埋土 一欠欠く	長軸断面糸巻き状と思われ、割口を除く全面使用。使用面は平坦もしくは弱い凹面。	①砥石。鉄分やや多い。②磨版粗く、断面V字状の深い溝になっている部分あり。

VII区 2号井戸 (第645図 PL.113)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 罐鉢	底(12.4)	埋土 2片 体部下半欠 底部欠	即し目不明だが、割口より斜格子状であったと推定できる。	①黄地普通。大粒赤褐色鉱物や細塵等の混入やや多く、粗い。②中性焰か、やや軟調。③橙7.5YR6/6。灰色味強いムラあり。④全面割落著しい。
2 罐鉢	底(12.0)	埋土 4片 図示部欠	クロロ痕は右回転の立ち上がりだが、外面に反対方向の磨痕残る。即し目は不明。	①黄地普通。パミスまじりの砂粒やや多い。②中性焰か、普通。③暗灰N3/0。断面は赤色味強い。④全面に覆ってハゼ状の割落多い。

3 砥石	縦厚 4.4×2.8 重 101.2g	埋土	長軸断面糸巻き状。5面使用だが、小口の使用痕は僅か、両側面平滑さ欠く。各使用面は弱い凹面。側口無使用。	①砥石。混入物及び微分やや多い。④使用痕は縦位中心。側面に弱い縦位の傷あり。
---------	------------------------	----	---	--

## Ⅶ区 4号井戸 (第646図 PL.113)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口 15.9~15.7 高 4.4	上層埋土11片 互個体	口縁外面は上半やや粗いナデ。下半は平滑状。外底の削りやや丁寧。内面ナデも丁寧。	①素地普通。バミス・輝石のやや多い砂粒含む。②酸化焰。やや軟調。③燈7.5YR6/6。外底は黒色味強い。④口縁内面一部にスズ状の薄い付着物あり。内面に薄くハゼ状の剥落あり。
2 杯 (H)	口(13.4) 底(7.4) 高 4.0	上層埋土 互個体	右回転ロクロ→回糸一縁辺幅広の回転へつ削り。ロクロ度は外面で強い。内底平坦。	①素地普通。白色砂粒の混入目立つ細砂がやや多い。②還元焰。やや軟調。③灰白7.5Y7/1。外面は黒色味の強い部分広い。④口縁内底摩滅する。

## Ⅶ区 7号井戸 (第648図 PL.113)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 13.4 底 8.7~ 8.5 高 3.7	底面2片 口縁欠く	右回転ロクロ→底部全面丁寧な回転へつ削り。ロクロ度弱い。内底に小さな凹凸あり。	①素地やや粗い。砂粒等の混入やや多い。②還元焰。普通。③灰白5Y7/1。④二次火熱受けるか。口縁上半内底摩滅。外底にやや薄い墨書「宜」。
2 杯 (S)	口 13.2 底 7.6~ 7.4	上層 口縁欠く	右回転ロクロ→切離し不明一底部全面弱い回転へつ削りか。ロクロ度弱いが内底のみ銜き状の凹凸あり。	①素地普通。磁障傷かまじる砂粒含む。②還元焰。やや軟調。③灰オリブ7.5Y6/2。内底摩滅し平滑。外底に薄い墨書あり「万」か。
3 壺 (H)	口(20.4) 腹(17.4) 胴(19.8)	底面20片 図示部欠	内面胴部下半に接合の段明瞭。口縁のナデは接合痕を消しきれないが、ナデ残しなし。外面削りはやや弱い。	①素地普通。磁障・輝石等の少量まじる砂粒を含む。②酸化焰。軟調。③燈5YR6/6。外面無垢広い。ムラ多く一様でない。

## 10 土坑出土遺物

## I区 1号土坑 (第652図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	底 7.8	埋土 底部のみ	右回転クロー→回糸無調整。底部厚く クワロ痕は弱い。	①長石・チャート等の細礫～粗粒を含む。②軟調で、 やや酸化焙じり。③灰白5Y8/1。
2 高台付杯 (S)	台(11.0)	埋土 底部残	右回転クロー→回糸→回転利用高台取 付けで、工具により周辺も削り込む。 底部歪む。	①やや粗く、石英・チャート・パミスの細砂を含む。 ②やや軟調。③褐灰10YR4/1。
3 甕 (H)		埋土 口縁約1/4破片	口縁を3～4回の横位ナデ。肩部に横 ヘタ削り。体内面ナデ。	①やや粗く、石英・チャート・輝石・パミス等の粗 砂を多く含む。②普通。③橙5YR6/6。

## I区 2号土坑 (第653図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	口(13.0) 頸(10.2) 胴(20.0)	埋土 図示部残	口縁と外面肩部に強い横位ナデ。外面 縦位ヘタ削りは不明瞭。内面にヘタ状 工具のナデ痕すが、器面は凹凸。	①輝石・長石まじりの粗石多く、粗い。②酸化焙、 普通。③灰黄2.5Y8/3。外面に暗褐色部分広い。④二 次火熱受け、外面体部器面荒れる。

## I区 3号土坑 (第654図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕 (H)	口(25.0) 頸(23.0)	埋土 図示部残	口縁部は丁寧な横位ナデで平滑。外面 の削りは弱い。内面板状工具のナデで やや平滑。	①輝石まじりの細砂多い。やや粗い。②酸化焙、や や硬調。③におい赤褐5YR5/4。明度・色相に幅あり、 一様でない。

## I区 4号土坑 (第656図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(14.7) 高 3.8	口縁～体部欠 く	口縁は弱く外折して、やや肥厚する。 右回転クロー。糸切り痕は不明瞭。	①黄地粗く、長石・輝石・黒色粒を含む。②弱い還元 元焼。ほぼ一様で軟調。③灰5Y6/1。
2 甕 (K)	口(14.6) 台 8.4 高 4.5	口縁残 底部完全	内底縁辺に重焼き痕残る。軸は剥落し 不明瞭だが、内底縁辺まで痕跡残る。 底部と体部下端まで回転ヘタ削り。	①黄白色の夾層顆粒やや目立つ。②還元焙、普通。 ③灰白5Y8/2でほぼ一様。④二次火熱を受け器面や や酸化焙、軸は剥落する。外底に磨きか。
3 甕 (H)	口(18.4) 頸(16.6) 胴(20.4)	図示部残	外面の削り強く、肩部に指頭状の圧痕 が残る。外周は棒先状工具により丁寧に 沈線を通らす。	①黄地やや緻密だが、不揃いの粗砂多く含む。②酸 化焙、やや硬調。③におい橙7.5YR7/3。暗褐色部分 外面に広い。④歪みあり。口徑不安。

## II区 1号土坑 (第657図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀 (K)	台(7.2)	口縁部下半片 底部分	体下半は弱く膨らみ、高台断面は丸味の強い形状。全体にナデ。輪は内面全体にかかる。内面には重焼きによる高台跡が残る。	①素地粗く、夾雑物は少ない。②焼調。③灰黄2.5Y7/2。輪は灰オリーブ色に発色する。
2 壺 (H)	口 22.0~21.3 頸 19.3 胴 22.8 底 5.0 高 28.0	体部欠片	口縁ナデ。口唇を更につまみナデ。体外面は鋭いヘラ削り。内面は幅広い工具による横位ナデと思われるが、工具痕は殆ど残さない。	①素地普通。大ききの均等な細砂を多く含む。②酸化焙、青濁。③にぶい橙5YR7/4。④胴中位以上はススが付着する。

## II区 7号土坑 (第660図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (H)		図示部分	円錐状の杯底部に杯立ち上り部を接合し、外面に稜をつくり出す。全体にナデ。	①素地はやや緻密で、粗～細砂を多く含む。②酸化焙、一部に黒炭。③明赤褐2.5YR5/6。

## II区 9号土坑 (第661図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甗台 (H)	口(20.9)	埋土 器受部約片	内外面とも丁寧な横位ナデ。下位で外側に強く張り出す。口唇部外側に弱い沈線を通らす。	①素地やや粗く粗～細砂を含む。②酸化焙、ややムラあり。③にぶい橙～明赤褐色。④北陸系か。
2 高杯 (H)	口(20.9)	埋土 器受部約片	内外面とも丁寧な横位ナデ。口唇は外側に鋭い沈線を通らすし、外面有段部には垂下する幅の狭い凸帯を付す。内面有段部は接合痕が残る。	①素地やや粗く、粗～細砂を含む。②酸化焙、ほぼ一律で、やや硬調。③赤味がかった橙5YR6/8。④北陸系か。

## II区 12号土坑 (第662図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺 (H)	口 13.2 頸 10.3	埋土 図示部分	接合痕より輪積みか。外面斜ハケ目→口縁ナデ。頸部→口縁内面に横ハケ目→口縁と胴内面に横位ナデ。	①素地普通。チャート・バミス・赤褐色鉱物・長石等の砂粒を多く含む。②酸化焙、やや硬調。③焼黄橙10YR8/4。断面は還元されて黒い。

## II区 13号土坑 (第664図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 椀	口 14.9~14.4 台 9.0~8.3	埋土 完形	右回転クロロカ。ナデで仕上げられるが極めて粗い。内底は不規則なクロロカにより器面不整。水をつけてナデた痕跡を明瞭に残す。	①素地やや緻密で、赤褐色鉱物・輝石・長石等の粗砂や細砂を含む。②酸化焙、内面一部に黒炭。③にぶい橙7.5YR7/4。
2 甗	口(25.4) 胴(26.8) 孔座(0.9)	埋土 口縁部小片	輪積み成形。口縁中位に内外両面から回転による穿孔。内外面ともに横位ナデ。粘土帯貼付による横の弱い跡をつくる。	①素地粗く、赤褐色鉱物・長石・チャート・バミスの粗砂が目立つ。②酸化焙、やや軟調でムラあり。③橙5YR6/6。

遺物観察表編

II区 18号土坑 (第665図 PL.114)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口 14.3 高 4.5	埋土 口縁欠く	右回転クロロー回糸一部縁辺と体部下端回転へう削り。厚手。クロロ痕強い。	①素地やや粗く、長石・緑石の粗砂を含む。②還元焰、軟調。③灰白5Y7/1。一様。④底に「足」と解説不能文字（「門がまえ」あるいは記号ともとれる。）の墨書。
2 杯 (H)		埋土 体部片	外面は横位の丁寧なへう削りとナデ。内面は丁寧な横位へう磨き。	①素地やや粗く、長石・緑石等の粗砂を含む。②やや軟調。③外面はふい橙色、器壁～内面は灰黒色。④内面黒色処理。
3 皿 (K)		埋土 図示部写	口唇部は、小さく折れて外反する。軸は潰挿けと思われるが、割落が激しい。	①素地は緻密。夾雑物少ない。②還元焰、硬調。③灰白2.5Y8/1。軸はオリーブ褐。軸刺落部分は白く変色。
4 小皿	口(10.6) 底(6.2) 高 2.6	図示部写	右回転クロロー回糸無調整。	①石英・長石・パミスの粗砂を含む。②酸化焰、普通。③明赤褐5YR5/6。ややムラあり。④口縁の一部に黒斑。
5 碗 (H)	口(8.8) 底 2.1 高 4.3	埋土 口縁欠く	外面斜位削り→縦位置磨き。内面ナデ。底面に粗い磨き。	①素地やや粗く、角張った長石・チャートの粗粒を多く含む。②酸化焰、体部の一部に黒斑。③明赤褐2.5YR5/6。
6 小皿	口(10.0) 底(5.4) 高 2.6	図示部写	右回転クロロー回糸無調整。クロロ痕は外面でやや強い。内底平坦。	①素地やや粗く、粗砂を多く含む。②酸化焰、やや軟調。③橙7.5YR6/6。一様。

II区 26号土坑 (第667図 PL.114)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 土罐	径 1.0 孔径 0.4 重 3.3g	埋土 両端欠く	手づくねによる成形。	①素地普通。細砂を含む。②還元焰、硬調。③黒褐5YR2/1。④一方の端部付近は欠損後の使用による摩滅が見られる。
2 土罐	長 4.0 径 1.1 孔径 0.3 重 4.0g	埋土 完形	手づくねによる成形で、特に整形痕は見られない。	①素地普通。パミス・赤褐色鉱物等の砂粒含む。②酸化焰、普通。③ふい橙5YR6/4。④端部が孔に直行して摩滅する。
3 土罐	長 3.4 径 1.0 孔径 0.2 重 2.4g	埋土 完形	手づくねによる成形。孔内面に植物茎状の痕が残る。	①素地普通。砂粒を含む。②やや還元気味。③暗赤褐5YR3/2。④端部の一方向が極端に摩滅。

II区 27号土坑 (第668図 PL.114)

No.・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 瓶 (H)	底 5.2 孔径 1.0~0.6	埋土 体部下半	外面は縦ハケ目後浅いへう削り。内面は斜ハケ目後斜へう削り。底の孔は粘土塊を付加して、形と大きさを調整している。	①素地普通で、赤褐色鉱物等の粗～細砂を含む。②酸化焰。器壁と内面はやや還元気味。③外面は橙色、内面は黒～褐色。

## II区 31号土坑 (第670図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (H)		埋土 図示部完存	脚住は輪積みで、内面にしほり目を残す。裾部は大きく開く。外面に放射状の粗い磨き。	①赤地やや粗く、チャートと赤褐色鉱物目立つ。②酸化焰、普通。③焼7.5YR7/6。一様。

## II区 32号土坑 (第671図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (H)	脚上 2.9 脚下 (5.8)	埋土 図示部中掘り欠く	「朝顔」形に開く脚に粘土塊を充填して、杯部と接合。全体にナデ。脚内面上位は横位削り。	①赤地細かく、チャートの細粒含む。②酸化焰、やや軟調。③焼7.5YR7/6。全体に一様。④杯外面と脚内面に二次火熱痕あり。

## II区 33号土坑 (第672図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口 10.3~9.7 底 5.1 高 3.4	底面直上 口縁上半分欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。内面に接合痕が明瞭に残る。ロクロ痕弱く、内底以外では殆ど判らない。	①粗くザラザラしている。チャートまじりの細粒やや多い。②中性焰か、やや硬調。③灰白5Y7/2。黒色味・黄色味の強いムラあり。

## II区 36号土坑 (第674図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高杯 (H)	脚下(29.0)	埋土 裾部尾	外面は丁寧な放射状の磨き。内面は横ハケ目→裾部ナデ。裾部は皿取り状の磨き。脚中に穿孔(3カ所と思われる)。	①赤地普通。赤褐色鉱物やチャート・石英の粗砂を含む。②酸化焰、やや硬質。③外面褐色、内面は赤味の強い褐色。④内面は二次火熱を受けた可能性あり。

## II区 39号土坑 (第675図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (H)		埋土 器受部 裾部欠く	外面は丁寧な放射状へつ磨き。内面は成形時の粗いナデを残す。脚部凹孔は3カ所。	①赤地普通で、輝石等の粗砂を含む。②酸化焰、やや硬調。③により黄褐色10YR6/3。

## II区 44号土坑 (第677図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯	口(11.8) 底 5.6 高 3.6	口縁上半分欠く	右回転ロクロ→回糸無調整。内底と口縁外面でロクロ痕強い。薄手でシャープな作り。	①赤地粗く、パミス・細粒まじりの砂粒がやや多い。②中性焰か、やや硬調。③暗灰緑2.5Y5/2。口縁付近は明度・彩度とも高い。

遺物観察表編

2 椀	口(14.0)	埋土 図示部残	輪横みか、ロクロ不使用。外面粗い横位ナデ後、下半削いへう削りて下端に横位ナデの痕跡あり、高台の付く可能性あり。	①赤地やや粗く、土粒・パミス等混入物多。②酸化焰か、やや硬調。③にぶい地5YR7/4。赤色味・灰色味おびる不均等なムラあり。
3 椀	口(13.8)	埋土 図示部残	ロクロ痕極めて弱い。内部平滑。高台の付くものと思われる。	①赤地粗く、パミス・細織まじりの砂粒多い。②還元焰、やや軟調。③暗青灰5B3/1。内面・断面は黄色味強い。

II区 64号土坑 (第684図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(12.0) 高 3.3	埋土 口縁～底部残	口縁弱いナデ。外底はほぼ一方のへう削り、縁辺は無調整。内面ナデ。底内面は押圧による凹凸が残る。口縁がやや重む。	①赤地普通。細砂を含む。②酸化焰、一様。③地5YR6/6。一様。
2 杯 (H)	口(13.0)	埋土 口縁～底部残	口縁ナデ。底は鋭いへう削り。内面ナデ。底内面は押圧による凹凸が残る。	①赤地やや緻密で、細砂を含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい地7.5YR5/3。
3 杯 (H)	口(13.0)	図示部残	底外面削り、口縁ナデ。内面ナデ。底内面には押圧による凹凸が残る。	①赤地やや緻密で、細砂を多く含む。②酸化焰、外面黒斑。③地5YR6/6。
4 杯 (S)	底(7.8)	埋土 図示部残	右回転ロクロ→回転へう切り→底部縁辺回転へう削り。	①赤地普通。パミス等砂粒を含む。②還元焰、やや軟調。③灰白5Y8/1。一様。
5 壺 (H)	口(21.0)	埋土 口縁～胴上部残	口唇と胴部に横位のナデ。胴上半は横位の強いへう削り。胴内面は幅広工具による横位のナデ。	①赤地普通で、細砂を多く含む。②酸化焰、均一でやや硬調。③地5YR6/6。

II区 65号土坑 (第685図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 高台付杯 (S)	口(13.0) 台(9.2) 高 4.3	埋土 %胴体	右回転ロクロ→回糸→周縁部回転へう削り後、ロクロ使用高台取付。	①赤地やや粗く、パミス・長石の粗砂多く含む。②還元焰、硬調。③灰N6/0。器面に比べ、断面はやや明るい。
2 杯 (S)	口(13.6) 底 8.5 高 4.3	埋土4片 口縁残 底部残	右回転ロクロ→回糸→底部縁辺に横で削い回転へう削り。	①赤地やや粗く、パミス・長石等の砂粒目立ち、底部には1cm大の黒色鉱物(還元鉄を含む)が見られる。②還元焰、やや不充分。③灰オリープ7.5Y6/2。一様。
3 杯 (H)	口(15.8)	埋土 図示部残	底外面削い削り。口縁と内面はナデ。口縁と底の境は丸味をもつ。	①赤地普通で、粗～細砂を多く含む。②酸化焰、普通。③やや暗い地5YR6/6。④口縁の一部は弱く赤変しており、二次火熱を受けた可能性がある。
4 杯 (H)	口(13.4) 高 3.5	口縁残 底部残	口縁は内削し、外面に削い沈線が巡る。底外面は削りて、口縁と内面は丁寧なナデ。内面に凹凸を残す。	①赤地やや緻密で、赤褐色鉱物・長石・輝石等の粗～細砂を含む。②酸化焰、やや硬調。③地5YR6/6。全体に一様。



5 杯 (H)	口 14.4	図示部写	底と体部外側に削り。口縁と内面丁寧なナデ。口縁と体の境は丸味をもって屈曲し、外面に底位の細かい「しわ」が残る。	①赤地やや緻密で、細砂を多く含む。②酸化焰。③焼5YR7/6。
6 杯 (H)	口(13.0)	埋土3片 口縁写 底部写	底外面は削り、口縁と内面はナデ。底内面に僅かな凹凸を残す。	①赤地やや緻密で、細砂を多く含む。②酸化焰、やや軟調。③焼5YR6/6。
7 杯 (H)	口(13.6)	口縁写 底部写	底外面削り。口縁と内面はナデ。口縁と底の境部外面に未調整部分を残す。底内面に削り凹凸を残す。	①赤地普通で、粗～細砂を含む。②酸化焰、やや軟調。③ややよい焼5YR6/6。
8 杯	口(13.2)	埋土2片 図示部写	底外面削り。口縁と内面ナデ。体部に無調整部分を残す。	①赤地やや緻密で、粗～細砂を含む。②酸化焰、普通。③焼5YR6/6。
9 椀	口(14.8)	図示部写	右回転クロコ。クロコ痕弱。内面は丁寧な弧状の磨きの後、黒色処理を施す。	①赤地やや粗く、赤褐色鉱物・チャート等粗砂・地に細砂を含む。②酸化焰弱、やや軟調。③によい焼10YR3/7。内面黒色。
10 土罐		埋土 写個体	手づくねによる成形。孔内面は軸方向の浅い条痕が見られる。	①赤地普通。輝石・バミス・酸化鉄鉱物を含む。②酸化焰、やや軟調。③焼7.5YR6/6。ややムラあり。

## II区 67号土坑 (第686図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (S)	口(12.0)	埋土下層 ほぼ完形	右回転クロコロ～底部全面回転ヘラ削り。	①赤地やや粗く、長石・バミス等細砂を含む。②還元焰で、やや軟調。③灰10Y6/1。断面色調は灰白色に近い。
2 杯 (H)	口(15.4)	写個体	底外面は一方への削り。口縁と内面は丁寧なナデ。	①赤地やや粗く、輝石・バミス・チャート・長石等の砂粒を多く含む。②酸化焰、やや軟調。③焼5YR6/6。
3 杯 (H)	口(13.0)	埋土 図示部写	底外面はほぼ単一方削り。口縁と内面ナデ。	①赤地やや緻密で、粗～細砂を含む。②酸化焰、硬調。③焼7.5YR7/6。ほぼ一様で縁の一部黒斑。
4 釘か	長 6.5 厚 0.48×0.35	埋土 ほぼ完形か	先端が扁平で不自然だが、頂部がやや潰れ、身も小さくねじれていることから、釘と推定した。	①鉄地金はあまり良くないが、錆化の影響は少ない。

## III区 11号土坑 (第690図 PL.114)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 杯 (H)	口(11.6) 高 3.6	写個体	外底削りやや強い。口縁部の外反やや強い。内面ナデも強く、布状具の鋭い擦痕が残る。	①赤地普通。細砂やや多いが他の混入物少ない。②酸化焰、普通。③によい焼5YR6/4。外面は赤色味・黒色味のムラ多い。④二次火焼を受ける。
2 杯 (H)	口(11.4)	写個体	1に同巧。口縁の外反は端部のみ。外底削りやや強く、無調整部分広い。内面ナデも強いが器面は不整。	①1に近い。②酸化焰、やや硬調。③によい焼5YR7/4。外底に黒斑広い。内面も暗いムラ多い。

## 遺物観察表編

3 杯 (H)	口(11.2)	図示部耳	1にはぼ同巧。口縁部やや低く、外面下半に小さな隆あり。外底削りやや強い。内面丁寧なナデ。	①素地やや粗い。輝石・バミスの少量まじる砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい赤褐色5YR/4。黒色味の強いムラ多い。
4 杯 (H)	口(12.0)	図示部耳	外底削りやや強く、無調整部分は少ない。内面ナデ丁寧で細かな布状具の磨痕を残す。	①素地普通。輝石・バミスマじりの砂粒を少量含む。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR/6。やや黒色味をおびるムラあり。
5 杯 (H)	口(10.4)	図示部耳	1とはぼ同巧だが、口縁部やや低く、外反も弱い。外底の削りはやや弱い。口縁に小さな雲みあり、口径不安。	①素地普通。混入物少なく精調。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙7.5YR/7。黒色味をおびる薄いムラあり。
6 杯 (H)	口(12.0)	図示部耳	外底削り鋭いがやや粗く、無調整部分を残す。口縁ナデもやや雑で、外面不整。内面ナデもやや粗い。	①素地普通。砂粒以外混入物少ない。②酸化焰、やや軟調。③にぶい赤褐色5YR/5～黒褐色5YR/3/1。④破片毎に色調異なり、破損後二次火熱か。
7 杯 (H)	口(12.6)	図示部耳	外底の長い鋭い削りだが、無調整部分広い。内面ナデは丁寧に平滑に仕上げられる。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒やや多い。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR/7/4ではぼ一様。
8 鉢 (H)	口(14.8)	図示部耳	器面摩滅し不明瞭。削りやや強い。口縁外面にやや粗い磨きを施す。内面ナデ丁寧で、口縁付近に磨きの可能性。	①素地やや粗く、チャートや粗砂の混入多い。②酸化焰、やや軟調。③明赤褐色2.5YR/5。内外面に黒色味をおびるムラあり。④二次火熱受けるか。
9 杯 (H)	口(12.6)	図示部耳	外底幅広いやや強い削り。口縁外面のナデやや弱く、下半無調整部分に接合痕残る。内面ナデ丁寧。	①素地普通。赤褐色鉱物まじりの砂粒含む。②酸化焰、普通。③にぶい橙5YR/6/4。断面は黄色味強い。
10 杯 (H)	口(13.2) 高 3.7	写像体	外底削りやや強く鋭い。無調整部分をほとんど残さない。内面ナデも強い。	①素地普通。細砂・バミス等のまじる砂粒含む。②酸化焰、普通。③橙5YR/6。外面に黒斑あり、内面にもシミのような暗いムラあり。
11 鉢 (H)	口(17.8)	図示部耳	外面磨で、強い削りで器面にヒビを生じている。無調整部分を残さない。内面丁寧なナデで平滑に仕上げられる。	①素地普通。輝石・バミス等まじる砂粒含む。②酸化焰、やや硬調。③にぶい橙5YR/7/4で、断面までほぼ一様。
12 鉢 (H)	口 24.5	埋土 口縁～体上半写	口縁ナデ。口唇上面はナデで浅い沈線を観る。体部は鋭いへう削り。内面は丁寧な横なナデ。	①素地粗く、長石・輝石等の大きさの均等な細砂を多く含む。②酸化焰、ムラが多い。③灰黄褐色10YR/5/2。

## Ⅲ区 19号土坑 (第692図)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 器台 (H)	脚上 3.3	図示部完存	脚内面は削りに近い鋭いナデ。他は放射状の丁寧な磨き。脚上方に3孔を穿つ。身底部は横な穿孔。	①素地やや粗く、細砂・赤褐色鉱物やや多い。②酸化焰、やや硬調。③橙5YR/6。脚内面は赤色味弱い。

## 11 遺構外出土遺物

## (1) 弥生式土器 (第705~709図 PL. 117・118)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 壺		II区 口縁と胴一部欠く	口縁付近と同部に直線文。その間の頸部に連続山形文を2段に垂ねる。施文長は6本単位の懸状I様。胴は横位の羽状縄文。原形はLRとRLを使用。底部木葉状。	①きめ粗く、無色鉱物の組織が目立つ。②普通。③にぶい橙7.5YR6/4。
2 (壺)		口縁部	口縁全体に横位縄文。内面はナデ。下部に縄文原体の押捺。原形は附加条第1種RL+2Lと思われる。	①きめ粗く、長石の組織が目立つ。②普通。器壁は還元。③にぶい橙7.5YR6/4。
3 (壺)		口縁部	口唇と口縁下部に縄文原体押捺。口縁に羽状縄成の縄文。内面ナデ原形は附加条第1種LR+2R。	①長石の組織が目立つ。②やや硬調。③にぶい橙7.5YR5/4。
4 (壺)		口縁部	口唇と口縁下部に縄文原体の押捺。下部に2個1対の瘤状浮文。内面ナデ。原形は細かいLを巻いた附加条第1種と思われる。	①きめ粗く、長石とチャートの組織が目立つ。②やや硬調。③橙7.5YR6/6。
5 壺		口縁部	横位縄文。内面ナデ。原形は附加条第1種LR+2L。	①長石・石英等の粗粒を含む。②普通③灰黄褐10YR5/2。
6 (壺)		IV区 口縁部	口縁を肥厚させ、口唇にかけて縄文。下部に爪先による押捺を認らす。内面ナデ。原形はR2条をまいた附加条第1種と思われる。	①きめ粗く、長石・軽石の組織。輝石・石英等の粗粒を多く含む。②普通。③にぶい橙7.5YR7/4。
7 壺		III区 口縁部	横羽状縄文を施し、口唇部にも縄文押捺が見られる。内面ナデ。原形は附加条第1種RL+2L、LR+2Rを用いる。	①石英・長石等白色～無色鉱物と、黒色鉱物の粗砂を含む。②普通。③橙5YR7/6。
8 壺		III区 口縁部	横位縄文の後に、山形文と思われる化粧線。下位にはヘラ状具による刺突を認らす。原形は無銘R。	①きめやや粗く、粗～細砂を含む。②普通。③にぶい赤褐5YR4/4。
9 壺		I区 胴部	胴部は無文で粗い縦位のナデ。胴部との境に直線文。胴部に横位縄文。施文長は5本単位の1種。原形LR。	①長石・石英・チャートの粗粒が多い。②普通。③にぶい黄褐10YR6/3。
10 壺			縦位直線文。横位縄文。内面ナデ。原形はLR。	①きめ粗く、粗～細砂を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR7/4。
11 壺		II区 胴部	胴と胴部の境に縦位直線文。胴部に横位の羽状縄文。原形は附加条第1種、LR+2RとRL+2L。内面ナデ。	①白色・無色鉱物の粗砂や組織が多い。②普通。③黒褐7.5YR3/1。
12 壺		I区 胴～胴部	縦位直線文。その下位に縄文原体末端の刺突。横位の縄文。内面ナデ。原形はLRと思われる。	①粗～細砂を含む。②普通。③黒褐7.5YR3/2。

遺物観察表編

13 (變)		頸部	羽状構成の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2RとRL+2Lの結節第1種。	①長石・石英の細礫～粗粒が多い。②内面還元。③橙5YR6/6。
14 (變)		I区 胴部	羽状縄文。中位に原体末端の押捺。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2RとRL+2L。	①長石・石英の粗粒が多い。②普通。③灰褐7.5YR4/2。
15 變		体上部	横位縄文の復原体末端部の押捺を返らす。原体は附加条第1種と思われる。	①きめやや細かく白色・無色の粗～細砂を含む。②やや硬調。③褐灰7.5YR4/L。
16 變		II区 胴部	横位の羽状縄文。内面はへら状具によるナデ。原体はLR+2RとRL+2Lを用いる。	①白色・無色鉱物の細礫が多い。②やや硬調。③黒褐2.5Y3/L。
17 變		III区 胴部	横位の羽状縄文。原体は附加条第1種LR+2RとRL+2Lを用いる。	①白色鉱物の細礫多い。②普通。③褐7.5YR4/3。
18 變		II区 胴部	横位の縄文。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2Lと思われる。	①白色・無色鉱物の粗砂を多く含む。②普通。③にぶい黄橙10YR7/3～褐灰10YR5/L。
19 變		II区 胴部	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2Lを用いる。	①白色・無色鉱物の粗砂を含む。②普通。③暗褐7.5YR3/3。
20 變		II区 胴部	横位の羽状縄文。原体は附加条第1種LR+2RとRL+2Lを用いる。	①長石・石英等の白色・無色鉱物の細礫を含む。②軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。
21 變		胴部	横位の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①白色・無色鉱物や岩石の粗砂、細礫を含む。②普通。③暗褐10YR3/3。
22 變		II区 胴部	横位の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2Rと思われる。	①白色・無色鉱物、岩石の細礫や粗砂を含む。②普通。③灰褐7.5YR7/2。
23 變		II区 胴部	横位の羽状縄文。原体は附加条第1種LR+2RとRL+2Lを用いる。	①白色・無色鉱物の粗砂多く含む。②やや硬調。③灰黄褐10YR6/2。
24 變		II区 胴部	羽状構成の縄文。内面ナデ。原体はLR+2R、RL+2L。	①長石・石英の細礫～粗粒多い。②内面は還元。③にぶい橙7.5YR6/4。
25 變		II区 胴部	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①白色・無色鉱物の粗砂を多く含む。②軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。
26 變		II区 胴部	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2RとRL+2Lを用いる。	①細砂を含む。②普通。③にぶい橙5YR6/4。
27 變		II区 胴部	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2Lを用いる。	①白色・無色鉱物の粗砂、細礫が多い。②普通。③黒褐10YR2/2。
28 變		II区 胴部	横位の羽状縄文。原体は附加条第2種と思われるが、不明瞭。右部と左部の2種を用いる。	①きめやや粗く、粗砂を多く含む。②やや硬調。③表面はにぶい黄橙10YR7/4。器壁は黒色。
29 變		I区 胴部	横位の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R。	①白色・無色鉱物の粗砂が多い。②やや硬調。③黒色。
30 變			横位の縄文。内面は粗いナデ。原体は附加条第1種LR+2R。	①きめやや粗く石英・長石の細礫～粗砂を含む。②普通。③灰褐5YR4/2。

## 11 遺構外出土遺物

31 裏	II区 底部付近	横位縄文。原体は附加条第1種RL+2L。底面に木葉痕あり。	①きめ細かい粘土に細砂を含む。②普通。③明褐色5YR5/6。
32 (裏)	II区 頸部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①長石・軽石の細礫～粗砂が多い。②硬調で還元気味。③灰黄褐10YR5/2。
33 裏	II区 体上位	横位縄文を施す。中央に縄文原形部と思われる回転押捺あり。原体は附加条第1種LR+2R。内面ナデ。	①白色・無色鉱物の細礫や粗砂が多い。②普通。③褐灰7.5YR4/1。
34 (裏)	II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第2種RL+2L。	①長石の細礫～粗砂を含む。②やや硬調。③浅黄橙10YR8/3。
35 (裏)	II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①長石・石英の細礫～粗粒が多い。②やや還元気味。③明褐灰7.5YR7/2。
36 (裏)	III区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①軽石・長石・石英・輝石等の粗～細粒を含む。②普通。③にぶい橙5YR6/4。
37 (裏)	II区 (胴部)	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①赤褐色粒の粗粒と石英・輝石等の粗粒を含む。②還元。③黒色。
38 (裏)	II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R。	①長石・石英の粗粒が多い。②普通。やや還元気味。③にぶい黄褐10YR5/3。
39 (裏)	II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2Rと思われる。	①長石・石英等の粗粒が多い。②やや軟調。③黒褐10YR3/1。
40 (裏)	II区 胴部	横位縄文。内面はナデ。原体は附加条第1種RL+2L。	①チャート・長石の細礫～粗粒を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR6/4。
41 裏	IV区 胴部	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2Lを用いる。	①白色・無色鉱物の細礫が多い。②硬調。③にぶい褐7.5YR5/4。
42 裏	II区 胴部	横位の縄文。原体は附加条第1種RL+2L。	①石英・赤色粒・細砂を含む。②普通。③断面は橙色、器壁は黒色。
43 裏	II区 胴部	横位の羽状縄文。内面は粗いナデ。原体はRLで0段多条と思われる。	①粗～細砂を含む。②やや軟調。③黒褐7.5YR3/1。
44 裏	I区 胴部	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は単筋LR+RL。	①粗砂が多い。②普通。③暗褐7.5YR3/3。
45 裏	III区 胴部	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2R、RL+2Lを用いる。	①5ミリ大の長石・石英が多い。②軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。
46 裏	II区 底部付近	横位の羽状縄文。内面ナデ。原体は単筋LRとRL。	①石英・長石の粗角礫を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR6/4。
47 裏	胴部	横位の羽状縄文。原体はLRとRL。	きめ粗く、粗～細砂を含む。②やや軟調。③橙5YR6/6。
48 裏	II区 頸部	横位の縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種LR+2Rと思われる。	①白色の粗砂が目立つ。②硬調。③黒色。④II区146住-7と同一か。
49 裏	II区 胴部	横位の縄文。内面ナデ。原体はRLと思われるが摩滅のため不詳。	①きめ細かく、石英・長石・赤褐色粒等の粗砂を多く含む。②普通。③にぶい黄橙10YR7/2。

遺物観察表編

50 (礎)		I区 (胴部)	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条L R + 3 Rか、L R直前段4条で1条見えないものか。	①長石・石英の粗粒が多い。②還元気味。③黒褐色YR2/2。
51 礎		II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は附加条第1種L R + 2 R。	①長石・石英の粗粒が多い。②還元気味。④褐色10 YR4/1。
52 礎		II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体はL R直前段4条。	①長石・石英等の粗粒を含む。②硬調、還元。③黒色。
53 礎		III区 胴部	縦位の縄文と思われる。内面ナデと粗い磨き。原体は無節R。	①きめ粗く、粗～細砂を多く含む。②やや硬調。③橙5YR6/6。
54 礎		II区 胴部	横位の羽状縄文。原体は附加条第2種で右側と左側の2種を用いる。	①きめ粗く、石英・長石の粗粒が多い。②普通。③淡黄2.5YR/4。
55 礎		III区 胴部	54と同じ。	①②③54と同じ。
56 査		II区 胴部	横位縄文。内面はナデ。原体は附加条第1種L R + 2 Rと思われる。中に末端部の回転痕が残る。	①チャートの細礫・長石・石英等の粗粒を含む。②器壁は還元。③にぶい黄褐色10YR7/2。④器壁に縦縞痕。
57 礎		II区 胴部	54と同じ。	①②③54と同じ。
58 礎		II区 体部	表面全体と内面の一部に縄文を施す。原体はL Lと思われるが、一部で複節状に見えるため、L L Rの可能性もある。	①きめやや粗く、チャート・赤褐色粒等の粗～細砂を含む。②普通。③表面橙2.5YR6/6、内面にぶい橙7.5YR7/3。
59 礎		II区	横位縄文。内面は粗いナデ。原体は附加条第1種R L + 2 Rと思われる。	①きめやや粗く、粗～細砂を含む。②やや硬調。③灰褐色7.5YR5/2。
60 礎		IV区 底部付近	横位の縄文。原体は附加条だが種別判困難。	①ややきめ粗く、石英・長石等の粗粒を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR7/3。
61 礎		II区 胴部	横位縄文。内面はナデ。原体はR Lと思われる。	①きめ粗く、長石の細礫・石英・チャート等の粗粒を含む。②やや軟調。③にぶい黄褐色10YR4/3。
62 礎		II区 底部	横位縄文。内面に指頭押圧痕を残す。原体は附加条第1種L R + 2 R。底面に木葉痕あり。	①長石・石英等の粗粒、細礫多い。②やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/3。
63 礎		I区 底部	外面に右磨りの縄文を施すが、原体は不明。底面に木葉痕。内面ナデ。	①きめ粗く、細礫～粗砂が多い。②軟調。③にぶい黄橙10YR6/4。
64 礎		I区 底部	横位縄文。内面ナデ。底面に木葉痕。原体はL R。	①長石・石英・軽石・礫石等の、粗～細粒を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR6/4。
65 礎		底部	横位の縄文。底面は無調整。原体は附加条第2種右磨の軸繩に、Rを付加する。	①②③54と同じ。
66 査		III区 口縁部	3段の粘土帯貼付による口縁成形。内面と頸部は横へつ磨き。口縁に縄文。原体は無節L R L。	①きめ粗く、赤褐色鉱物含む。②良好。③淡黄褐色10 YR8/3。
67 査		I区 口縁部	3段の粘土帯貼付による口縁成形。内面と頸部は横へつ磨き。口縁に縄文。原体はL R。	①きめ粗く、チャート・長石・軽石等の粗粒を含む。②二次火焼を受ける。③にぶい橙5YR7/4。

## 11 遺構外出土遺物

68 表		II区 口縁部	外面には装飾的な2段の仕上げ痕を携し、縄文を施す。頸部無文部と内面は、粗いヘラ磨き。原体はL R。	①やや粗く粗砂を含む。②普通。③燧5YR6/7。
69 表		II区 口縁部	口縁に粘土帯を貼付して成形。内面は横ヘラ磨き。口縁に縄文、原体はL R。	①きめ粗く、チャート・長石・輝石・角閃石等の粗砂を含む。②良好。③にぶい燧5YR7/4。
70 表		II区 口縁部	69と同文を入れる。	①きめ粗く、チャート・長石等の粗砂を含む。②良好。③燧5YR6/6。
71 表		口縁部	口縁に粘土帯を貼付して成形。内面は横ヘラ磨き。口縁に縄文、原体はR L。	①きめやや粗く、赤褐色鉱物を含む。②良好。③燧5YR6/6。
72 裏		II区 口縁部	内面は横ヘラ磨き。口唇と外面に縄文、原体R L。	①きめ粗く、チャート・長石・石英等の粗砂を含む。②良好。③黒燧5YR2/1。
73 表		II区 口縁部	口縁に粘土帯を貼付して成形。内面は横ヘラ磨き。口縁に縄文、原体R L。	①きめ粗く、チャート・長石等の粗砂を含む。②良好。③にぶい燧7.5YR7/3。④II区22住-1と同一個体の可能性あり。
74 表		II区 口縁部	口唇外側に面取り状のナデ。内面は横ヘラ磨き。口唇と口縁に縄文、原体はR L。	①きめ細かく、長石等の粗砂を含む。②良好。③にぶい燧7.5YR5/3。
75 表		II区 口縁部	口縁に粘土帯を貼付して成形。内面は横ヘラ磨き。口縁に縄文、原体はR L。	①きめやや粗く、長石等の小砂を含む。②普通。③にぶい黄燧10YR6/4。
76 表		II区 口縁部	内面は横ヘラ磨き。口縁に縄文、原体R L。	①きめやや細かく粗砂を含む。②やや還元気味。③灰燧5YR4/2。
77 表		II区 口縁部	3段の粘土帯を段状に付加する。内面はナデ。	①きめ粗く、赤褐色粒輝石の細塵が目立つ。②やや還元還元気味。③燧7.5YR6/1。
78 表		II区 口縁部	2段の粘土帯を段状に付加する。頸部内外面はヘラ磨き。	①チャート・赤褐色粒・輝石・長石等の細塵～粗粒を含む。②普通。③にぶい燧5YR7/3。
79 表		II区 胴部	胴部に横位縄文。頸と内面は横位ヘラ磨き。原体は複節R L R。	①長石・石英・バミス・輝石等の粗～細砂を含む。②普通。③燧5YR6/6。
80 表		II区 胴部	横位の縄文を施し、原体R L。内面はヘラ磨きと思われるが不鮮明。	①きめはやや細かく、チャート・長石等の粗砂を含む。②やや軟質。③燧7.5YR7/6。
81 表		II区 胴部	2段の横位縄文。無文部と内面は粗いナデ。原体は複節R L R。	①きめやや粗く、バミス・石英・輝石等の粗砂を含む。②普通。③燧5YR6/6。
82 表		II区 胴部	横位の縄文。無文部はナデ。内面もナデ。原体R L。	①きめ細かく、長石の細塵を含む。②普通。③にぶい燧7.5YR5/4。
83 表		II区 胴部	胴下位まで横位縄文、原体はL R。無文部は横ヘラ磨き。内面はナデ。	①きめやや細かく、赤褐色粒と粗砂を含む。②やや軟質。③にぶい黄燧10YR7/4。
84 裏		II区 胴部	横位の縄文。内面は横位のヘラ磨き。原体は節のそろうたR L。	①きめやや細かく、粗砂を含む。②普通。③燧10YR4/4。
85 (裏)		III区 (胴部)	横位縄文。内面ナデ。原体はL R L。内面は粗い磨き。	①きめやや粗く、赤褐色粒の粗砂が多い。②普通。③にぶい黄燧10YR6/3。
86 裏		II区 胴部	横位縄文。内面ヘラ磨き。原体はR Lと思われる。	①石英・バミスの粗砂多い。②普通。③にぶい燧7.5YR7/4。

遺物観察表編

87 壺		II区 胴部	肩部に横位織文。無文部と内面に粗いへう磨き。原体はR L。	①長石・チャート・石英・赤褐色鉱物の粗〜細砂を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR7/3。
88 (壺)		III区 胴部	横位の織文。内面は横位へう磨き。原体は複節L R L。	①きめやや粗く、赤褐色粒・石英・輝石等の細砂を含む。②やや還元、硬調。③にぶい黄橙10YR7/3。
89 壺		VI区 肩部	縄文帯を閉らし無文部は横へう磨き。原体はL R。	①きめ粗く、チャート・長石の細砂を多く含む。②良好。③外面黄橙10YR8/6。内面黒褐10YR3/1。
90 壺		II区 胴部	横位織文。内面は粗い磨き。原体はR L。	①赤褐色鉱物・長石・石英の細砂が多い。②普通。③明赤褐5YR5/8。
91 壺		II区 胴部	横位織文。内面へう磨き。原体R L。	①きめ粗く、軽石・長石の粗〜細粒を含む。②普通。③褐7.5YR4/4。
92 壺		II区 胴部	横位の織文を施し、原体は附加条第1種L R + 2 R と思われる。	①きめはやや粗く、チャート・長石・赤褐色鉱物の細砂を含む。②硬質。③にぶい橙7.5YR7/4。
93 壺		II区 胴部	横位織文。内面はナデ。原体は0段4条R。	①長石・石英・輝石等の細砂を含む。②普通。③にぶい黄橙10YR6/4。
94 (壺)		III区 肩部	横位織文。無文部は粗い磨き。原体はL R。下端に糸による結束部の回転狂直を残す。	①長石・石英の粗〜細砂が多い。②普通。③にぶい橙7.5YR7/4。
95 壺		肩部	横位の織文を施し、原体L R。内面調整は不明。	①きめはやや粗く、チャート・長石等の細砂を含む。②二次火熱を受ける。③にぶい橙7.5YR7/4。
96 壺			横位斜織文。原体は単節L R。内面ナデ。	①やや粗く、粗砂が多い。②やや軟調。③にぶい橙5YR7/4。
97 (壺)		III区 胴部	横位織文。内面はナデ。原体はL R。	①石英・長石・輝石・バミスの粗〜細砂を含む。②普通。③にぶい赤褐5YR5/4。
98 壺		II区 胴部	横位織文。無文部と内面はナデ。原体はL R。	①バミス・輝石・石英等の粗〜細砂とチャートの細砂を含む。②普通。③にぶい橙5YR7/4。
99 壺		II区 胴部	横位織文。内面ナデ。原体はL R。	①長石・軽石・石英の細砂を多く含む。②普通。③褐7.5YR4/4。
100 壺		II区 胴部	横位織文。内面は粗いへう磨き。原体はL R。	①きめ粗く、石英・長石・輝石・バミスの粗〜細砂を含む。②普通。③にぶい褐7.5YR5/3。
101 壺		I区 胴部	横位織文。内面は粗いへう磨き。原体は単節L Rと0段4条L Rの2種を使用。	①石英・バミスの粗砂多い。②普通。③灰黄褐10YR7/2。
102 壺			横位織文。内面ナデ。原体は複節L R L と思われる。	①きめやや粗く、細砂を多く含む。断面は繊維収あり。②やや軟調。③にぶい黄褐10YR6/4。
103 (壺)		II区 胴部	横位織文。原体はL R。	①石英・長石の粗砂が多い。②軟調。③橙7.5YR6/6。
104 壺		II区 胴部	横位織文。内面は粗いへう磨き。原体はL R。	①赤褐色鉱物・石英等の粗〜細砂を含む。②普通。③明赤褐5YR5/8。
105 壺		胴部	横位織文。内面ナデか。原体はL R。	①きめやや粗く、石英・長石・輝石等の粗〜細粒を含む。②やや軟調。③橙7.5YR5/6。
106 (壺)		II区 胴部	上下2段の横位織文。内面ナデか。原体は複節L R L。	①石英・長石・輝石等の粗〜細粒を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR7/3。



## 11 遺構外出土遺物

107 壺	II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は複筋R L R。	①石英・長石・輝石等の粗～細粒含む。②普通。③にぶい黄橙7.5YR7/3。
108 (變)	II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は複筋R L R。	①石英・長石・輝石等の粗～細粒含む。②普通。器壁は還元気味。③にぶい黄橙10YR6/4。
109 壺	II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は複筋R L Rと思われる。	①石英・長石・輝石等の粗～細粒含む。②普通。③にぶい黄橙10YR7/3。
110 (變)	II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は複筋R L R。	①石英・長石・輝石等の粗～細粒含む。②普通。③にぶい黄橙10YR6/4。
111 (變)	II区 胴部	110と同じ。	①②③110と同じ。
112 (變)	II区 胴部	110と同じ。	①②③110と同じ。
113 壺	胴部	上下3段の横位縄文。内面へう磨き。原体は前々段反筋R L R。	①石英・長石の細粒が目立つ。②やや硬調。③にぶい橙7.5YR6/4。
114 (變)	III区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は複筋L R L。	①きめ粗く、長石・石英・輝石等の細粒を含む。②普通。③暗褐10YR3/3。
115 (蓋)	II区 胴部	横位に帯状の縄文を施す。内面ナデ。原体は複雑あるいは複々筋の可能性があるので、不明瞭。	①きめやや粗く、黒色鉱物の粗～細砂が多い。②普通。③にぶい黄橙10YR7/3。
116 壺	I区 胴部	縦位に押しき状の刺突を施し、その上からR L単筋斜縄文を施す。上位はナデ。内面ナデ。	①きめ細かく、長石・石英等の細粒を少量含む。②やや軟調。③にぶい黄橙10YR7/2。
117 (壺)	II区 胴部	上下2段の横位縄文。内面は粗いへう磨き。原体はL R L R。	①きめ粗く、石英・輝石・軽石の粗粒が多い。②普通。③赤褐5YR4/6。
118 壺	II区 胴部	横位縄文。無文部はへう磨き。内面ナデ。原体は附加糸第1種R L + 2 R。	①石英・長石・輝石等の細砂含む。②普通。③橙7.5YR6/6。
119 (壺)	IV区 胴部	横位縄文。内面粗いナデ。原体は前々段反筋L R L。	①きめやや粗く、輝石・石英の粗粒が多い。②普通。③赤褐5YR4/8。
120 壺	II区 胴部	横位の浅い縄文を施す。内面横位へう磨き。原体はR L。	①きめ粗く、チャート・石英・長石等の粗砂、細粒を含む。②普通。③にぶい黄橙10YR6/3。
121 (變)	II区 胴部	横位縄文。不明瞭だが原体はL Rと思われる。	①きめ細かくチャート・長石の細砂を少量含む。②軟調。③明褐色7.5YR7/2。
122 壺	II区 胴部	横位縄文。内面へう磨き。原体はR L 。	①きめやや粗く、石英・長石・輝石等の粗～細粒を含む。②軟調。③にぶい橙7.5YR7/4。
123 (壺)	II区 胴部	横位縄文。内面はへう磨き。原体はR L 。	①きめ粗く、軽石・長石の粗～細粒を含む。②普通。③にぶい赤褐5YR5/4。
124 (壺)	II区 胴部	横位縄文。内面ナデ。原体は不明瞭。	①長石の細粒と、石英・軽石の粗粒が多い。②普通。③明赤褐5YR5/6。
125 壺	II区 胴部	上位に縄文施文、下位に赤色塗彩。原体は黒筋R。	①きめやや粗く、石英・長石の粗粒が多い。②やや軟調。④浅黄橙10YR8/3。

遺物観察表編

126 壺	II区 口縁部	幅広い粘土層を付加して二重口縁とする。口唇上面に平坦面をつくる。口唇と口縁外面に横位織文、原体はL R。内面は横へう磨き。	①きめやや粗く、チャートの細織を含む。②普通。③焼5YR6/6。
127 壺	III区 胴部	3段の羽状織文を横位に施し、原体はL RとR Lの2種を用いる。帯中に見える束が比較的正しく均質の太さ。	①きめやや粗く、チャート・赤褐色粒の細織～粗砂が多い。②普通。表面に黒斑あり。③焼7.5YR7/6。
128 壺	III区 胴部	3段の羽状織文を横位に施し、原体はL RとR Lの2種を用いる。織文の上に楕円状の赤色塗彩。	①②③127と同一。
129 壺	I区 口縁部	折り返しの口縁の外周先端に鋭い工具により2段の刺突列点文を巡らす。内面へう磨き。	①きめの粗い赤地土に長石・石英・輝石・輝石等の小砂を含む。②普通。③にぶい焼7.5YR7/3。
130 壺	II区 頸部	横線の間に2段の波状文。内面ナデ。施文具は5本単位の櫛状I種。施文順は下から上。	①きめ粗く、長石・石英・チャートの粗～細粒が多い。②普通。③焼7.5YR4/1。
131 壺	I区 口縁部	6本単位の櫛状I種で波状文を重ねて施す。施文方向は上から順に時計回りで、内面は横へう磨き。	①きめの粗い赤地に軽石・石英・長石・輝石・角閃石等の小砂を含む。②普通。③灰白2.5Y8/2。
132 壺	II区 口縁部	8本単位の櫛状I種で波状文を施す。施文方向は時計回りで、内面はナデとへう磨きを施す。	①有色鉱物（輝石・角閃石）・チャート・石英・輝石等の小砂を、多く含む。②軟質。③灰白10YR7/1。
133 壺	II区 頸部	柳指塗弧文を上下に重ねる。内面は粗いへう磨き。施文具は9本単位の櫛状I種。	①きめやや粗く、粗砂を多く含む。②普通。③焼7.5YR6/6。
134 壺	II区 頸部	4本単位の櫛状I種で等間隔の波状文を反時計回りに施す。頸部下位に柳指波状文がわずかに見られる。内面は粗いへう磨き。	①きめの粗い赤地土にチャート・長石等の細織を多く含む。②硬質。③にぶい焼7.5YR6/4。
135 壺	II区 胴部	8本単位の櫛状I種で3連止波状文と波状文を施す。施文方向は時計回り。内面は粗いへう磨き。	①チャート・長石・石英・輝石・角閃石等の小砂を含む。②普通。③にぶい黄緑10Y7/4。
136 壺	II区 体部	柳指波状文、以下に波状文を施す。施文具は8本単位の櫛状I種。内面は横へう磨き。	①赤褐色粒・白色、黒色の粗～細砂を含む。②普通。③焼7.5YR4/2。
137 壺	頸部	14本単位の櫛状I種で波状文と2連止め波状文を施す。施文方向は反時計回り。胴部にハケ目を残す。内面は斜位ハケ目。口辺付近内面はへう磨き。	①やや粗い赤地に石英・長石・輝石等の小砂を多く含む。②やや軟質。③にぶい黄緑10YR6/3。
138 壺	胴部	斜ハケ目の後、柳指波状文を施す。内面へう磨き。施文具は7本単位の櫛状I種。	①きめ粗く、チャート・長石等の細織～粗砂を含む。②普通。③にぶい焼7.5YR7/4。
139 (壺)	II区 頸部	波状文を重ねる。内面ナデ。施文具は7本単位の櫛状I種。施文順は上から下。	①きめやや細かく、長石・石英の粗粒を含む。②普通。③灰黄褐10YR4/2。
140 壺	II区 頸部	櫛状波状文を施す。内面へう磨き。施文具は櫛状I種。	①きめ粗く、粗砂を多く含む。②普通。③にぶい焼7.5YR5/3。

## 11 遺構外出土遺物

141 壘		頸部	波形の小さな波状文を重ねる。内面ナデ。施文具は7本単位の櫛状1種と思われる。	①きめ粗く長石の粗粒が多い。②普通。③濁7.5YR4/3。
142 壘		Ⅱ区 胴上部	頸部に簾状文、その後波状文を施す。内面へう磨き。施文具は8本単位の櫛状1種。	①きめ粗く、赤褐色粒・石英等の粗粒が多い。②普通。③にぶい橙5YR7/4。
143 壘		Ⅱ区 胴上部	簾状文の後波状文を施す。内面はハケ目の後へう磨き。施文具は櫛状1種。	①きめやや粗く、細砂を含む。②やや硬調。③明濁7.5YR3/3。
144 壘		Ⅱ区 体部	6本単位の櫛状1種で波長の大きい波状文を間隔をあけて施す。内面ナデ。	①ややきめの細かい素地上に軽石・チャート・石英・輝石等の小砂を含む。②普通。③明濁2.5YR5/6。
145 壘		Ⅱ区 体部	5本単位の櫛状1種で波長の大きい波状文を間隔をあけて施す。施文方向は不明。内面は横ナデ。	①きめの粗い素地上に長石・石英・輝石・角閃石・チャート等の小砂を多く含む。②良好。③暗赤濁2.5YR3/6。
146 壘		Ⅱ区 体部	5本単位の櫛状1種で波長の大きい直状文を間隔をあけて施す。施文方向は時計回りと思われる。内面横ナデ。	①粗い素地に軽石・長石・石英・輝石・角閃石等の小砂を多く含む。②普通。③明赤濁2.5YR5/6。
147 壘		体部	6本単位の櫛状1種(1種か)で波長の大きい波状文を施す。内面は粗いへう磨き。	①やや細かい素地上に長石・石英・赤色粒等の粗砂を含む。②ややあく軟質。③外面浅黄濁7.5YR8/3、内面は黄灰2.5YR5/1。
148 (壘)		Ⅱ区 頸部	波長の短い波状文。内面ナデ。施文具は櫛状1種。	①きめやや粗く、長石の細粒、粗粒が多い。②やや硬調。③にぶい橙7.5YR6/4。
149 壘		Ⅲ区 胴部	7本単位の櫛状1種でやや乱れた波状文を施す。下に浅いハケ目を残す。内面ナデ。	①ややきめの粗い素地上に石英・軽石・輝石・角閃石等の小砂を含む。②やや軟質。③濁7.5YR6/6。
150 壘		Ⅱ区	8本単位の櫛状1種で時計回りに波状文を施す。上位には直径1ミリ強の管状具を束ねた施文具で刺突を施す。内面横へう磨き。	①ややきめの粗い素地上にチャート・軽石・石英・長石等の粗砂を含む。②普通。③にぶい橙7.5YR6/4。
151 壘		Ⅱ区 胴部	櫛状波状文を施す。内面は粗いへう磨き。施文具は8本単位の櫛状1種。	①きめ粗く、赤褐色粒・長石等の粗粒が多い。②普通。③にぶい黄橙10YR6/4。
152 壘		Ⅱ区 胴部	9本単位の櫛状1種で波状文を施す。内面は丁寧なナデ。	①きめの粗い素地上に石英・長石・輝石等の粗砂を含む。②普通。③にぶい黄濁10YR5/4。
153 壘		Ⅱ区 胴上部	幅10ミリ、5本単位の櫛状1種で波状文を重ねて施す。施文方向は不明。胴中位はへう磨き。内面へう磨き。	①きめの粗い素地上に長石・石英等の小砂を多く含む。②普通。③黄92.5Y4/1。
154 壘		Ⅱ区 胴部	櫛状波状文を施し、下半はへう磨き。内面へう磨き。	①きめ粗く、チャート・長石・岩石片等の細粒を含む。②普通。③にぶい黄橙10YR6/3。
155 壘		Ⅱ区 体部	櫛状1種で大きな単位の交差文とその後に横位の波状文を施す。交差文は下から上の方向で施文。内面は軟質櫛状具の先端によるナデ。	①きめの粗い素地上に軽石・石英・輝石等の粗砂を含む。②普通。③淡橙5YR8/3。
156 壘		Ⅱ区 胴部	6本単位の櫛状1種で波状文と直線文を施す。胴部は粗いへうナデ。施文方向は反時計回り。内面はへうナデ。	①軽石・長石・石英・その他有色鉱物の小砂を含む。②普通。③橙5YR6/8。

遺物観察表編

157 莖		田区 頸部	櫛状目種による縦位スリット文。	①きめ粗く、長石・石英等白色、無色鉱物多い。②やや硬調。③灰黄褐10YR6/2。
158 莖		IV区 頸部	櫛状目種でスリット文と横位波状文を重ねる。スリット文→波状文の施文順。	①きめやや粗く、長石・石英の粗砂が多い。②普通。③にぶい・黄橙10YR6/3。
159 莖		II区 口縁部	口縁に横位波状文。施文具は5本単位の櫛状目種。内面ナデ。	①きめ粗く、長石の粗粒が多い。②やや硬調。③明褐灰7.5YR7/2。
160 (莖)		II区 頸部	縦位区画（スリットか）と横位波状文を重ねる。内面は工具によるナデ。施文具は5本単位の櫛状目種。施文順は縦区画から波状文。	①きめやや粗く、長石の細砂～粗粒を含む。②やや硬調。③灰白2.5Y8/2。

## (2) 外来系土器 (古墳時代初頭) (第710・711図 PL.119)

No・器種	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 甕		口縁部	外反する頸部端の下に幅広い粘土帯を付けて二重口縁とする。外面にナデによる弱い凹線を巡らし、4本単位の棒状浮文を貼付する。	①ややきめ粗い素地土に赤色粒・石英・有色鉱物の細砂を含む。②良好、やや軟質。③にぶい橙7.5YR7/4。
2 甕		Ⅲ区 口縁部	幅広い粘土帯による二重口縁部で、外面はナデによる弱い凹線を残し、棒状浮文を貼付する。	①ややきめ粗い素地土に赤色粒・石英・その他有色鉱物の細砂を含む。②やや軟質。③橙5YR7/6。
3 甕		I区 口縁部	外反する頸部に粘土帯を付加して、垂下する二重口縁をつくり出す。内外面ナデ。	①きめ細かく、細砂を含む。②やや軟調。③灰白5Y8/1。
4 甕		IV区 口縁部	幅広い粘土帯を付加して口縁を二重にする。横ハケ目の後、縦位の沈線3本を施す。内面はハケ目の後放射状ヘラ磨き。	①きめやや細かく、赤褐色粒・チャート・石英等の細粒、粗砂が多い。②やや軟調。③橙5YR7/6。
5 甕		Ⅱ区 口縁部	上縁に平面をつくり、柳状員の押圧を巡らす。頸部外面にハケ目、内面はナデ。	①粗砂が多い。②普通。③橙色～灰褐色。
6 甕		Ⅱ区 口縁部	口縁は1本の粘土帯を巻き、下に折り返す形状。外面に2個1列の円形貼付文を8カ所に付す。貼付文には直径5mmの管状具を押圧する。内面には17本前後の柳歯状具で細き縞いで直線文を施す。調整は内面ヘラ磨き。外面横ナデ。	①チャート・石英・軽石等を含む。②ほぼ均質で焼き締まり、良好。③器壁がにぶい橙7.5YR4/3で内面に黒斑が見られる。
7 高杯		Ⅱ区 口縁部	外方に大きく開き、口縁部で内側に弱い段をつくる。外面は部分的に縦ハケ目の後口縁付近と底部付近を横ナデ。内面は丁寧な横ヘラ磨き。文様は口縁内面に板状具木口によると思われる列点文を巡らす。羽状構成か。	①きめ細かい素地土に大粒の長石を含む。②硬質(内面は還元される)。③灰黄褐10YR6/2。内面は黒10YR2/1。
8 甕		Ⅱ区 頸部	「く」字状に屈曲する頸部に凸部を巡らし、指頭による押圧を加える。調整は、内外面ともに丁寧なナデ。	①石英・黒色鉱物・赤色の粗～細砂含む。②やや軟調。③灰黄褐10YR4/2。
9 甕		Ⅱ区 頸部	頸部に断面円形凸帯を巡らし、上下交互に先端の鋭い工具で刺突を施す。内外面は粗いヘラ磨き。	①きめやや粗く、白色・赤褐色・黒色の粗砂が多い。②やや軟調。③器面は浅黄褐10YR8/4。器壁は黒色。
10 甕		Ⅲ区 口縁部	大きく外方に開く口縁で、上面に棒状沈線文1種と刺突文を施す。柳歯文の上に横円形の赤彩文を施す。施文具は7本単位の柳歯。	①きめやや粗く、赤色粘土粒・白色、黒色鉱物の粗～細砂を含む。②やや軟調。③灰白10YR8/2。
11 (甕)		Ⅲ区 口縁部	10と同じ。	①②③10と同じ。

遺物観察表編

12 壺	Ⅱ区 口縁部	口縁は段状にくびれて、大きく外方に開き、上面に縞描波状文と縞状文を施す。楕円形の赤彩を施す。施文具は7本単位の櫛目種。	①きめやや粗く、赤色粘土・白色、黒色の粗～細砂を含む。②普通。器壁と器面一部黒黒。③灰白10YR8/2。
13 壺	Ⅱ区 口縁部	強く屈曲して外反し、口縁下位に断面三角形の凸帯を付加して、段状につくる。上面に縞描波状文を三重に施す。施文具は8本単位の櫛目種。	①石英・チャート等の細礫が多い。②普通。③にぶい橙7.5YR6/4。
14 壺	Ⅱ区 胴部	口縁を有段状に作り出し、頸部には1本の粘土縞を巻き、木片状具の木口面を上下から交互に連続して押捺する。肩には目の細かい縞縞直線文を施す。施文具は木片状具と考えられる。	①石英等の無色鉱物を多く含む。②良好。③浅黄橙10YR8/4。
15 壺	Ⅱ区 胴部	幅1.9cm大の櫛目種による横線と波状文の交互施文。上から順に時計回り施文。滑き磨きが見られる。内面ナデ。	①赤色粒・チャート・長石等の細礫を多く含む。②やや軟質。器面の一部に黒斑。③器面、器壁ともにぶい橙10YR7/3～6/4。
16 壺	Ⅳ区 胴部	幅1.5cmの櫛状施文具による横線と波状文の交互施文。施文方向は時計回り、内面ナデ。	①赤色粒子・角閃石・輝石・長石等の細砂含む。②やや軟質。③器面、器壁とも浅黄橙7.5YR8/4。
17 壺	胴部	幅1.3cmの櫛目種により波状文・直線文と刺突列を巡らす。胴部は横へう磨き。内面ナデ。	①チャート・赤色粒等の細礫～粗砂を含む。②良好堅緻。③器面がにぶい橙5YR6/4。器壁がにぶい黄橙10YR7/2。
18 壺	Ⅱ区 胴部	上から波状文、直線文、刺突列の順で施文。胴部は横へう磨き。内面ナデ。施文具は歯数14本の櫛目種を用いる。施文方向は反時計回り。	①やや緻密で、石英・チャート等の細礫を含む。②やや硬質。③橙5YR7/6。
19 壺	Ⅲ区 胴部	縞描波状文と横線の交互施文。施文具は目種、表面に丹彩らしき痕跡を残す。内面はナデ。	①赤色の細礫・チャート・長石等の小砂を含む。②やや軟質。③にぶい黄橙10YR7/3。
20 壺	Ⅱ区 胴部	櫛目種による横線と刺突列を巡らす。内面は粗いナデ。胴部は丁寧な磨へう磨き。	①長石・石英・輝石・チャート等の細礫を多く含む。②良好でやや硬質。③にぶい橙10YR7/4。
21 甕	Ⅳ区	先端の鋭い櫛状施文具による間隔の粗い波状文を横位に施す。内面ナデ。	①きめの細かい黄地に赤色粒子・チャート・輝石・角閃石等の細砂を含む。②良好堅緻。③器面、器壁とも赤褐2.5YR4/6。
22 壺	Ⅱ区 胴部	外面は横位のハケ目の後、胴部に縦へう磨き、胴部に波長の短い縞描波状文を反時計回りに施す。肩と胴の境は鋭利な工具による刺突列点文を2段に施す。内面は横位のハケ目を施すが不鮮明。	①酸化鉱物・石英・長石・バミス等を含む。②良好、内面やや還元。③外面が橙5YR7/4。内面が黄灰2.5Y6/1。
23 甕か	Ⅲ区 胴部	外面は斜位ハケ目の後、間隔の粗い櫛状具による直線文を施し、その間に植物の茎様の櫛状具による斜線文。内面は斜位のナデ。	①黄地土はきめ細かく、輝石・長石・石英・輝石・角閃石・赤色粒子を含む。②還元気味で堅緻。③器面は暗赤褐5YR3/6。器壁は黒色。
24 器台	Ⅱ区 器交部	器受部底部はやや外上方向に張り出し、器部を面取りして櫛状具による列点文を巡らす。内外面とも丁寧な磨へう磨きを施すが器内面はナデのみ。	①輝石・チャート・有色鉱物等の小砂を多く含む。②硬質。③明赤褐2.5YR5/6。

11 遺構外出土遺物

25 葉		Ⅱ区 口縁部	外反する口縁を2段の粘土紐を積み上げて成形し、口唇外面を面取り。外面に指頭押圧痕を残したまま、内面及び口唇には幅1.8cm程度の工具による目の細かいハケ目を施す。	①1mm大の赤色粘土粒・黒色鉱物等を含む。②良好。③浅黄緑7.5YR8/4。器面の一部は明赤陶7.5YR8/4。
26 葉		Ⅱ区 口縁部	外反する口縁を2段の粘土紐を積み上げて成形し、口唇外面を面取り。外面に指頭押圧痕を残し、内面に幅1.5cm程度の工具による目の細かいハケ目を施す。	①赤色粘土粒・黒色鉱物を含む。②良好。③浅黄緑7.5YR8/4。

遺物観察表編

(3) 瓦 (第712図)

No・種類	計測値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 丸瓦	縁部厚 1.3 中央厚 1.7	図示部片	玉縁付き。内面に細かく鋭い布目が残る。面取りは端部・側部とも2回で鋭い。	①細麻まじりの白色砂粒含む。赤地やや緑塗。②還元焰・硬調。③外面青灰5BG5/1、断面暗紫灰5RP4/1。④笠懸系。
2 丸瓦	縁部厚 1.3 中央厚 2.0	図示部片	玉縁付き。1にほぼ同巧。面取りやや細かい。	①②③④1に同じ。同一個体の可能性あり。
3 丸瓦	厚 1.3	VII区	凹面の布目は細かいが深い。側面平滑で、凹面側に丁寧な面取りを加えている。凸面も平滑。	①②③④1にほぼ同じ。同一個体ではない。
4 丸瓦	厚 1.5		凹面の布目は細かいが深い。側面は平滑で、凹面側に弱い面取りを加えている。凸面は不整。	①細麻・砂粒等を含む。②還元焰・硬調。③暗青灰5BG4/1で断面までほぼ一様。④笠懸系。
5 丸瓦	厚 1.1	VII区	凸面弱い削りで、腰板や目立つ。凹面は布目の上にナデを加える。	①赤地黒塗。白色粗砂まじりの砂粒含む。石灰散見。②還元焰・硬調。③青灰5BG5/1、断面灰赤7.5R4/2。
6 丸瓦	厚 1.9～1.6	VII区	凹面の布目は縁部付近以外で不明瞭。凸面平滑。縁部も平滑で、面取りは雑で2回。厚み一様でない。	①白色粗砂やや目立つ砂粒含むが、瓦としては、夾雑物少ない。②還元焰・硬調。③典灰2.5Y4/1、断面暗赤褐7.5R3/2。④笠懸系。
7 丸瓦		VII区	器面剥落多く不明瞭。側面は平滑。	①ベニス・赤褐色鉱物・夾雑物多い。②中性焰・普通。③に白い赤褐2.5YR5/4。④笠懸。太田等の東毛地区のものか。
8 丸瓦	厚 1.9		凹面布目はきわめて粗い。凸面は平滑だが、横位の弱い段が生じている。	①白色粗砂やや目立つ砂粒含む。②中性焰気味。硬調。③灰赤2.5YR5/2。断面に白い褐7.5YR6/3。
9 丸瓦	厚 0.9	VII区	5にほぼ同巧。厚み異なるが、同一個体の可能性あり。	①細麻散見するが、5にほぼ同じ。②③④3に同じ。
10 丸瓦	厚 2.6	IV区	凹面の布目粗い。側面には3回、強く丁寧な面取りを加えている。凸面は指頭状の凹凸あり。	①細麻・赤褐色鉱物等の雑多な夾雑物含む。②還元焰か、やや不充分。③褐灰7.5YR4/1、断面に白い褐7.5YR6/3。④笠懸系。
11 平瓦	幅 28.8 厚 2.6～2.3	図示部 2片	一枚造り。凹面は布目の上から細かなナデを加える。端部と側部にやや雑な面取り。凸面に正格子の印きが2カ所に見られる。	①細麻・赤褐色鉱物等、雑多な夾雑物多い。②還元焰、やや不充分。③外面灰黄褐10YR4/2。ムラ多く一様でない。断面灰褐5YR6/2。④笠懸系。
12 瓦	厚 1.7	図示部片	凹面細かな布目の上に雑なナデ。凸面明き目の上に細かなナデ。側面に面取り3回。	①細麻まじりの砂粒やや多い。②還元焰、普通。③灰白2.5Y7/1でほぼ一様。④笠懸系か。
13 平瓦	厚 1.3	VII区	一枚造り。凹面布目。凸面横位の弱い削りで平滑に仕上げ、縁部に弱い面取り加える。	①白色粗砂のやや目立つ砂粒を含む。②還元焰・硬調。③灰白10Y7/1、断面灰赤2.5YR5/2。④笠懸系。
14 平瓦	厚 1.7～1.1	図示部片	一枚造り。凹面粗い布目。凸面縦位のナデだが平滑に仕上げる。縁部2段の削り。厚み一様でない。	①白色粗砂・片貫質細麻等まじる砂粒やや多い。②還元焰、やや硬調。③灰白10Y7/1でほぼ一様。④笠懸系。
15 平瓦	厚 1.7	図示部小片	上面布目は一部で不明瞭。下面は縦位の中や鋭い磨痕が残る。	①赤地やや粗い。片貫質細麻やチャート等の混入目立つ。②還元焰、普通。③暗灰黄2.5Y5/2。下面は灰色。④笠懸系。



## 11 遺構外出土遺物

16 平瓦	厚 1.7	図示部片	凹部に細かな布目残る。凸部は敷位のやや鋭いナデ。	①片岩質細礫・赤褐色鉱物・砂粒等の夾雑物が多い。②還元相、やや不充分。③凸面暗青灰5BG4/1。凹面・断面灰黄褐10YR5/2。④古井系。
17 瓦	厚 1.8	図示部片	器面風化し、凸面は不明瞭。凹面はやや細かな布目残る。	①細砂多いが、他の混入物少ない。②還元相、普通。③灰黄2.5Y7/2。④古井・藤岡系か。

(4) 古墳時代～平安時代の遺物 (第713図 PL.120)

No・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 紡錘車	径 4.2～4.1 厚 1.2 重 28.6g	ほぼ完形	側面に、ハツリ状のやや粗い工具痕が残っている。	①滑石か。
2 管玉	長 2.2 厚 0.66	Ⅱ区 完形	側面はほぼ長方形で、断面は楕円形に整形。穿孔は両端から行ない、中央で相方からの孔がずれる。研磨は丁寧に擦痕等はほとんど見られない。	①蛇紋岩製と思われる。
3 白玉 未製品	厚 1.0 重 5.7g	Ⅱ区 完形	表面の研磨はごく重いもので、用途は不明。器面の凹凸も著しい。大きさに比して厚く、孔も太い。	①白色味の強い滑石か。
4 白玉	径 0.97 厚 0.22	Ⅱ区 ほぼ完形	側面に細かな縦位の整形痕が残るが、上下両面は不明瞭。孔は一方から穿っている。	①滑石。④孔の端は僅かに摩滅している。
5 有孔円盤	径 2.0～1.7 厚 0.5～0.3 重 2.6g	埋土 完形	完成品と思われるが、難な作りで器面の凹凸著しい。平面形も歪み大きく、丸みがない。	①滑石。
6 勾玉	厚 0.88	Ⅱ区 片側体	表面に剥落多く、不明。孔は一方から穿っている。	①石材不明。②白色及び灰白色。④上下両面の剥落著しい。
7 勾玉 未製品	長 4.0 厚 0.8～0.6	表採 完形	全面に鋭い研磨が及び、勾玉状を呈しているが、有孔円盤の再調整品である可能性もある。	①滑石。黒色味を帯びている。
8 石帯 (蓋方)	上面 3.73×3.62 下面 3.93×3.70 厚 0.62	Ⅱ区 完形	4対の紐通しの孔を持つが、配置はやや不規則になる。	①石材不明。大理石に類似した質感を持つ。④裏面の縁辺に細かな割れが多い。
9 瓶か (R)	台(9.0)	Ⅱ区 図示部小片	高台の形状より器物である。外面の磨き強い。軸は薄く均一だが、内底で露出の可能性あり。	①精選され緻密。気泡僅かにまじる。②いわゆる硬陶。③素地は灰色。軸は深緑で外面光沢あり。
10 碗(R)	口(14.4)	Ⅱ区 口縁上半片	右回転クロロ。薄手でシャープな作りである。全面にやや鋭い磨き。軸は薄く均等。	①素地精緻で混入物もまれ。②いわゆる硬陶。③素地はやや青色味を帯びた灰色。軸は深緑色で弱い光沢あり。
11 碗(R)		Ⅱ区 口縁部小片	右回転クロロ。内面立ち上がり部に弱い比喩筋。外面下端に弱い削り。内面の磨き丁寧。内面一部で無軸。	①素地やや緻密。細砂の混入多い。②いわゆる軟陶。③素地は赤色味を帯びている。軸は淡く薄い緑色。
12 碗(R)	口(19.0)	表採 口縁部小片	右回転クロロ。全面に磨きを加える。軸は薄く、外面でムラあり、一部に気泡を生じている。小片からの復元で、口径不安。	①精選され緻密な素地。②いわゆる硬陶。③素地は灰黒色。軸は深緑色。④口縁内側の摩滅している。
13 杯(S)	底 8.1	Ⅵ区 底部完存	左回転クロロ→回糸→底部縁辺と体部下端に幅広い回転ヘラ削り。内底は平皿。	①素地やや粗い。輝石・バミスまじりの細砂や多い。②還元焰、やや不十分。③灰黄2.5Y6/2。外面やや赤色味を帯びる。④外底に黒書「大」。

## (5) 中世～近世の遺物(第714～717図 PL.120～121)

No.・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①胎土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 白磁碗		II区 口縁部小片	11～12世紀代の胎磁器と思われるがそれを模倣した国産品の可能性あり。口縁外端で胎厚い。	①精緻。②やや硬調。③素地白色。胎調は乳白色で光沢やや弱い。
2 青磁碗		V区 口縁部細片	内面に刺花文あり。胎は一般的な厚さで、胎厚入が見られる。	①胎土は灰色。②胎調は淡い灰緑色。③13世紀代の龍泉窯系。
3 青磁碗		表探 口縁部片	鍋手蓮弁文碗の口縁部片で、青磁釉は厚く、内外各1mm。口縁部は紫口となる。	①胎土は緻密で純白。②胎調は淡い青色。③13世紀代の龍泉窯。
4 青磁碗		表探 口縁部片	鍋手蓮弁文碗の口縁部片。胎部に口差げあり。胎は薄い。	①胎土は緻密で淡灰色。②胎調は淡い灰色で美しい黄色。③13世紀代の龍泉窯。
5 青磁碗		表探 体部細片	外面に鍋手蓮弁文あり。器内は薄く、胎は厚い。	①胎土は緻密で淡灰色。②胎調はオリーブ色。③13世紀代の龍泉窯系。
6 青磁碗		表探 口縁部片	外面に鍋手蓮弁文あり。胎は薄い。内外面に使用時の擦痕、顕著に現れる。	①胎土は緻密で灰色。②胎調はオリーブ色。③13世紀代の龍泉窯系。
7 青磁皿	口(9.8)	VII区 図示部片	いわゆる猫掻き手になると思われる。外面下面に裏胎部分あり。胎は薄い。	①胎土は淡灰色。②胎調は薄い灰緑色。③13世紀代の同安窯系。
8 梅瓶 (陶器)		表探 図示部破片	肩部破片。内面には紐造り痕の上に指環圧痕が残る。器面に凹凸強い。外面は断面V字状の鋭い線刻で幾何文を施き、灰釉を施す。	①素地緻密。僅かな黒色鉱物粒以外の混入物は少ない。②還元焰。硬調。③灰白色。胎は淡い黄緑色で透明度高い。細かな貫入あり。④古瀬戸。
9 青磁碗		表探 体部小片	外面に鍋手蓮弁文あり。器内は厚く、胎は薄い。貫入あり。	①胎土は緻密で灰色。②胎調は暗いオリーブ色。③13世紀の龍泉窯系。
10 青磁碗		表探 体部細片	外面に鍋手蓮弁文あり。胎は薄く、気泡やや大きい。	①胎土緻密で淡灰色。②胎調は淡いオリーブ色。③13世紀代の龍泉窯系。
11 青磁碗	台(5.8)	II区 図示部片	内面に刺花文を施す。胎は薄く均一。気泡を生じる。接地部分は胎はずか。高台内側に黄白色の砂粒付着。	①精緻。②硬調。③素地は灰色で、一部暗い。胎調はくすんだ青緑色。④龍泉窯系。
12 青磁碗		VII区 体部下平片	高台部は旧時欠損(打ち欠き)。内面に刺花文、外面に鍋手あり。胎は平均的な厚さ。	①胎土は灰色。②胎調は淡青色。③13世紀代の龍泉窯系。
13 天目茶碗 (陶器)	口(11.4) 台 4.4 高 6.2	表探 口縁欠く	右回転ロクロで削り高台は幅広一外面体部中位まで回転へう削り。鉄胎は厚く、ロクロ痕不明瞭。	①素地やや硬密。混入物殆ど含まない。②鉄胎は黒色で、厚い部分は表面褐色味をおびる。③瀬戸・美濃系。
14 碗 (陶器)	口(8.0)	III区 図示部片	外面にロクロ痕の強い、上下掛け分けの薄手の小碗である。外面上半と内面は長石胎。外面下半に鉄胎を施す。	①素地普通。磁砂を混入する。②素地は灰色味が強い。鉄胎は光沢のない暗褐色。長石胎は透明で厚い部分のみ緑色味をおびる。③瀬戸・美濃系。
15 煎鉢 (陶器)	口(24.8) 底 15.8 高 11.5	III区 体部欠く	ロクロ直は観察できない。外底は砂密で凹凸多い。口縁上端は小さく凹む。片口部は四輪が外方から押圧されるようだ。即し目なく、内面降灰胎厚い。	①素地普通。磁砂まじりの白色粗砂の混入多い。②器面赤褐色。断面灰黄色。降灰胎は黄色味強く厚い部分ではオリーブ色になる。④使用痕は不明瞭。

遺物観察表編

16	把手	IV区 図示部完存	錐形土器の把手破片。外端は平坦に仕上げている。内面は細太の研磨後、黒色処理を施している。	①赤地やや褐色、細網まじりの砂粒を含む。②中性焙か、やや破調。③にふい橙7.5YR7/3、黒斑あり。内面黒色で、光沢は弱い。
17	石鉢 (口20.2) 底(17.0) 高 19.2	VII区 瓦削体	外面下半に粗い工具痕が残る以外は、丁寧な作り。	①粗粒安山岩。②白色味が強い。③内面の使用痕顯著で、底部付近を中心に平滑になっている。破損後に火熱を受けている。
18	石鉢 (口23.2) 底(16.0) 高18.5	瓦削体	器面凹凸多いが、調整痕は観察できない。口縁は尖るが、上端はやや平坦。	①粗粒安山岩。やや多孔質。②口縁外端に火熱を受けている。
19	石臼 (上白) ふくみ 1.8 芯穴径 4.5・深 1.6 供給口径 3.6 上縁高 2.3 上端幅 3.2 下端幅 4.3		「ものくばり」は殆ど摩滅。目は切線主調整6分面7調式である。調整数は部分的には異なる。左回り。挽き手穴同様に、上縁に貫通する小孔がある。上面中央には中心の目印がある。	①粗粒安山岩。
20	茶臼 (上白) 上縁上幅 2.4 芯穴上径 3.4 芯穴下径 3.3	完形	方形の挽き手穴が2個穿たれている。器面は摩滅し、目は不明。ふくみはやや小さい。	①粗粒安山岩。②挽き手穴は一片2.9cm、深き4.2cmと、一片3.5×3.2cm、深き3.1cm。
21	石臼 (上白) 径 28.6 芯穴 3.7 高 15.2	劣残存	芯穴は円形。挽き手穴は丸味を帯びた方形。上縁は一部のみ遺存。挽き手穴付近には側面から上面に貫通する小孔あり。芯穴上の上面にはノミによる浅い小孔がある。溝は7〜8本で6分面と思われる。左回転。	①粗粒安山岩。すり合わせ面はやや粗い。
22	石臼 (下白) 径(31.8)	瓦削体	切線主調整で6分面と思われる。前溝は5本。ふくみは小さい。	①粗粒安山岩。②溝は幅4mm、溝間隔2.8cm。破損後に火熱を受けている。ススの付着も多い。
23	五輪塔 (空風輪) 空径 9.7 中径 7.6 風径10.5 下径 6.1	II区 ほぼ完形	表面風化著しく、加工痕は観察できない。平面形状は楕円形に歪む。底部は小さく凹み、柄は付かない。	①凝灰岩。貝の化石を含む。脆い。
24	五輪塔 (空風輪) 空径 17.0×16.7 中径 15.0×14.3 風径 15.8 柄径 7.0× 6.6 下径13.8 高29.5	完形	表面やや平滑。空・風輪の区切り部分に傾位、風輪部に斜位の磨痕残るが、不明瞭。	①粗粒安山岩。やや多孔質。
25	五輪塔 (火輪) 柄穴 5.8 幅 23.0 厚 23.1 高 15.2	ほぼ完形	表面風化し、工具痕は残らない。底面は平坦。	①軽石（ニッ岳）④一側面に火熱を受け、黒色味をおびる。柄穴側面と底面中央が摩滅している。
26	板碑 厚 2.1	中右部破片	主尊は阿弥陀三尊種子。キリクは上半次。蓮座はキリクのみであり、種子・蓮座ともに葉研形。紀年銘は「元徳元年（1329）年十二月」	①緑色片岩。混入物は少なく、僅かに雲母・長石細粒を含む。②碑面の摩滅は少ない。
27	板碑 厚 2.7	主尊部破片	主尊は阿弥陀種子（一尊か）。キリクはイーがアク点を抜ける書体。種子・蓮座ともに葉研形。右側に枠線がある。	①緑色片岩。細粒の長石・雲母を少量含む。④碑面の摩滅は少ない。
28	板碑 厚 2.9	V区 主尊部破片	主尊は阿弥陀種子。キリクはイーがアク点の間を抜ける書体。種子・蓮座ともに葉研形。種子の規模より中大型の板碑。	①緑色片岩。大粒の長石を少量含む。④碑面はやや摩滅する。

## 11 遺構外出土遺物

29 板碑	厚 1.5	紀年銘部破片	主尊は不明。「康永□ 十一月」の紀年銘が残る。月を年号の右に、日を左に記す型式か。	①細粒の長石・雲母を含む。④元号の康永は1342～1344年。
30 硯	長 10.1 幅 4.1	Ⅵ区 上圍写を欠く	内面縁部に深い整形痕残る。他の面は平滑。	①泥岩か。軟質。④上面は摩滅し平滑。墨状の付着物が一部で認められる。
31 煙管		図示部片	一側面に合わせ目が残る。先端はラセン状の凹凸あり。薄手で軽量。	①割製で内側面とも緑青が顕著。④表面は殆ど剥落しているようだ。
32 煙首	外圍径1.2～1.1 長 5.2	Ⅵ区 完形	厚手でガッシリしている。	①割製。全面に緑青が吹いている。④割部の木質部と一部に煙草が残存している。
33 鉄砲玉	径 1.33～1.29 重 13.35 g	I 区 完形	中央に弱い合わせ痕が観察できる。片側には黒口の痕が顕著。細かな窪みがあり、形状はやや不整。	①鉛製で表面に白色の錆が見える。④一端がやや凹み、二条の圧痕が僅かに残る。発砲したものと思われる。

## (6) 古 銭 (第718図 PL.122)

No.・器種	計 測 値 (cm)	出土・復元状況	成・整形技法と器形の特徴	備考 ①出土・材質 ②焼成 ③色調 ④その他
1 古銭	径 2.21 孔幅0.53	VⅧ区 片断体	開元通寶か。径小さく、私鑄銭の可能性。又は會昌開元(初鑄845年)か。背に文字のある可能性あるが不明瞭。	①銅銭。やや錆化する。④外輪部幅2.0mm。
2 古銭	径 2.47 孔幅0.69	ⅡⅢ区 ほぼ完形	開元通寶。背に一の文字か。	①銅銭。鉄により、外輪部中心に脆弱化する。④外輪部幅2.1mm。
3 古銭	径 2.52 孔幅0.56	VⅧ区 ほぼ完形	開元通寶。背に一の文字か。	①銅銭。錆化するすみ、脆弱化している。④外輪部幅2.5mm。
4 古銭	径 2.47 孔幅0.70	ⅡⅢ区 下方一部欠く	開元通寶。背は無文。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅1.5mm。
5 古銭	径 2.43	ⅢⅣ区 完形	淳化元寶。楷書体。背は無文。初鑄は990年。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅3.0mm。
6 古銭	径 2.48 孔幅0.60	ⅡⅢ区 ほぼ完形	至道元寶。背は無文。初鑄995年。	①銅銭。錆化の影響少ない。④背面は強く研ぎ込んだように平滑になっている。外輪部幅3.1mm。
7 古銭	径 2.46 孔幅0.60	完形	至道元寶。行書体。背は無文。初鑄は995年。背は型ズレし、外輪部は一様でない。	①銅銭。やや錆化する。④外輪部幅表3.6mm、背4.5～2.6mm。
8 古銭	径 2.45 孔幅0.65	完形	景德元寶。背は無文。初鑄1005年。孔はやや変形。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅3.4mm。
9 古銭		ⅡⅢ区	祥符元寶。背は無文と思われる。初鑄1088年。	①銅銭。風化により脆弱化している。④外輪部幅3.6mm。
10 古銭	径 2.49 孔幅0.67	ⅢⅣ区 完形	天禧通寶。背は無文。初鑄1018年。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅2.2mm。表面文字部分がやや摩滅している。
11 古銭		ⅣⅤ区 ほぼ完形	皇宋通寶。篆書体。背は無文。初鑄は1029年。	①銅銭。錆化著しい。④外輪部幅7.2mm。
12 古銭	径 2.41 孔幅0.70	VⅧ区 ほぼ完形	皇宋通寶。背は無文。初鑄1039年。	①銅銭。錆化するすみ、皇の字は不明瞭。④外輪部幅1.5mm。
13 古銭	径 2.38 孔幅0.64	ⅢⅣ区 完形	皇宋通寶。背は無文。初鑄1039年。	①銅銭。錆化する。④外輪部幅2.3mm。
14 古銭	径 2.33 孔幅0.66	VⅧ区 完形	嘉祐通寶。背は無文。	①銅銭。錆化の影響は少ない。④外輪部幅表1.6mm、背4.5～2.5mm。
15 古銭	径 2.42	ほぼ完形	嘉祐通寶。背は無文か。初鑄1057年。孔幅は計測できない。	①銅銭。錆化する。④外輪部幅2.7mm。
16 古銭		ⅡⅢ区	熙寧元寶。背は無文か。初鑄1068年。	①銅銭。錆化する。背面は研ぎ込んだように平滑になる。
17 古銭	孔幅0.67	片断体	熙寧元寶。篆書体。背は無文か。初鑄1068年。	①銅銭。やや錆化する。④外輪部幅2.6mm。

18 古銭	径 2.47 孔幅0.70	Ⅵ区 完形	元祐通寶か。花の字は不明瞭。背の型 のズレ著しい。初鋳1093年。	①銅銭。やや錆化するむ。④外輪部幅2.3mm。背6. 1～0mm。
19 古銭	径 2.47 孔幅0.60	V区 完形	元祐通寶。背は無文。初鋳は1093年。 背は摩滅し平滑。	①銅銭。やや錆化するむ。④外輪部幅3.5mm。
20 古銭	径 0.51 孔幅0.61	Ⅵ区 ほぼ完形	政和通寶。背は無文。初鋳1111年。	①銅銭。やや錆化する。④外輪部幅2.8mm。背は平滑 になっている。
21 古銭	径 2.33 孔幅0.58	Ⅵ区 完形	洪武通寶。背は無文。初鋳1368年。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅2.0mm。
22 古銭	径 2.51 孔幅0.55	Ⅵ区 完形	宣徳通寶。背は無文。初鋳1433年。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅2.4mm。
23 古銭	径 2.32 孔幅0.56	Ⅵ区 完形	寛永通寶。文字やや不明瞭だが、太く 大きい特徴から、寛永13年(1636年) 以後の古寛永通寶か。背は無文。	①銅銭。やや錆化するむ。④外輪部幅2.2mm。
24 古銭	径 2.29 孔幅0.71	Ⅲ区 完形	寛永通寶。文字一部不明瞭だが、寛永 5年(1708年)江戸亀戸銭造銭と思わ れる。背は無文。	①銅銭。緑青が全面に見られる。④外輪部幅1.9mm。
25 古銭	径 2.37 孔幅0.69	Ⅲ区 完形	寛永通寶。文字は不鮮明。背は無文。	①銅銭。錆化は少ない。④外輪部幅2.5mm。
26 古銭	径 2.36 孔幅0.67	Ⅵ区 完形	寛永通寶。背は無文。元文2年(1738 年)以後の江戸亀戸銭造銭。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅2.0mm。
27 古銭	径 2.34 孔幅0.67	Ⅲ区 完形	寛永通寶。文字は不明瞭だが、永の字 の特徴より元文期(1737年～)の鑄造 か。	①銅銭。鉄錆付着する。④外輪部幅2.3mm
28 古銭	径 2.24 孔幅0.66	Ⅵ区 完形	寛永通寶。永の字の特徴から元文期 (1737年～)の鑄造。背は無文。孔郭 は背側で幅広。	①銅銭。錆化の影響少ない。④外輪部幅2.3mm。
29 古銭	径 2.68 孔幅0.66	完形	文久永寶。いわゆる草文。背は波状文 である。初鋳1863年。	①銅銭。錆化少なく、遺存状態良い。④外輪部幅2.4 mm。





群馬県埋蔵文化財調査事業団  
調査報告書 114 集

**下淵名塚越遺跡**  
(遺物観察表)

一般国道17号(上武道路)改築工事に  
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成3年3月22日 印刷

平成3年3月29日 発行

編集・発行／(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北横村大字下箱田784番地の2  
電話 (0279) 52-2511 (代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社